

507
162



始



實驗

葡萄栽培法

農學博士 恩田鐵彌 閱
內田郁太 著

東京 養賢堂發行

大正
13. 3. 18
丙交

グンリドーシ、トイワホ、ータスホの培栽室子硝



室子硝の園樂二町野中外市京東

507-162

序言

野葡萄山葡萄と稱し、葡萄屬の植物は、古來我國の山野に自生し、生育結果等に良好なりしも、而も葡萄樹を一種の果樹として栽培するに至りたるは、極めて近年の事に屬す。獨り山梨縣に於ける祝勝沼、大阪府下に於ける堅下の如きは、古來有名なるものにして、其起源甚だ古しと雖も、其他の地方に至りては、實に明治初年外國種の輸入せられたる後の事なるが如し。當時勸業寮に於ては、多數の苗木を養成して之れを全國に配布し、又兵庫縣下に葡萄試驗場を設くる等、百方手を盡したるも、中途に於て指導獎勵機關の中絶したると、未だ一般農家の知識技術共に之れを栽培して、相當の利益を獲得するまでに至らざりしを以て、葡萄栽培事業は遂に其儘となり、只だ適地に於て僅に當時輸入したる、品種の餘を殘在する底のものとなりたるなり。

日露の大戰を終り、國內産業の發達を圖らんとして、各種機關の新設せらるるもの多く、我が國藝業の如きも、漸く此當時より世人の耳目に徇伴せらるるに至り、斯道専門家の調査研究を俟ちて之れが適地を知り、亞いで獎勵する所となり、今日に

ては北に山形あり、中部に山梨、長野を有し、西に岡山、広島、香川、大阪の如き特産地あるに至れり。更に朝鮮、滿洲を得て、此方面の調査研究進むにつれ、葡萄栽培の甚だ有利なるを知ると同時に、朝鮮には特に醸造試験場を設け、之れが研究を怠らざると共に、栽培指導に意を用ひ、漸次成績の見るべきものあるに至りつつあり。

由來、葡萄樹は大氣乾燥し、高燥なる礫土に於て優品を産し、歐洲にありても之れが適地は極めて小區域に限られたるものなりしも、一度マンソン氏出でて以來、新品種の作出に努め、各種の風土に於てよく良品を産するに至りたるは、誠に斯界の一大革命と云はざるべからず。而も一面に於ては栽培技術の進歩と共に、恐るべき病蟲害の如き、之れを未前に防止する幾多の方法發見され、現在に於ては、葡萄は比較的栽培し易く、且つ利益大なる果樹の一種として、廣く栽植せられんとする傾向在るに至れり。

近時、都市附近に於ける高等栽培の發達は、遂に葡萄を以て之れが主體とするに至り、今や露地に於て栽培困難なる幾多の優良種は、硝子室内に於て、或は促成栽培となし、或は又抑制栽培として、早きは五六月より、晚きは十二月の嚴冬に互りて、自由佳果の珍品を出し、以て上流貴紳の食卓を飾るに至れり、而も本業の如きは未だ極めて初等の時代に在り、今後、年と共に益々發達せんとしつつあるものにして、誠に將來に富める事業と云はざるべからず。

葡萄は果實類中、最も高尚にして爽快なる香味を有し、生果として食卓を飾るに止らず、葡萄液、葡萄酒、ブランデー等の高等飲料、又は醫藥品としての需要極めて大なる事は、世人の眼に熟知せる所、而も尙ほ乾果、ジャム等として、各國人の消費する量亦莫大なり。斯の如くして、葡萄の栽培は、將來益々盛ならんとしつつあるも、之れが栽培的知識の不充分なる我國民にありては、偶々企業せんとするものあるも、學ぶに良師なく、参考とすべき書籍を有せざるが爲め、之れを躊躇し、或は進んで開園する者あるも、充分なる業績を擧ぐる事能はずして、中途に倒るる者無きにあらず。誠に遺憾の事と云はざるべからず。

著者元より斯學に精通せる者にあらずと雖も、斯界に於ける此缺陷を補ふ一助として、先輩學友諸君の助力を俟ちて、茲に本書を編述し、聊か國家産業の發達と、國民保健の爲めに、貢獻せんとする微意に外ならず、而も此の事たる偏に當業者並に指導者各位の奮勵に俟たずんば得べからざる、元より多言を用ひざる處なり。

大正十三年一月

著者 識

葡萄栽培の発展を期す

凡例

一、本書は余が興津園藝試験場に於て研究したるものに基き、山梨・大阪・愛知其他の主産地、並に滿洲・朝鮮に於ける實況調査の結果により著述したるものにて、専ら内地竝に滿鮮に於ける當業者の參考資料として著述したるものなり。

一、書中載する所の品種解説圖は大部分學友高橋郁郎氏の寫生になれるものなり。

一、硝子室栽培の一項は學友千原清氏が多年の經驗に基き記述したるものに依る處多し。

特に明記した右兩氏に感謝の意を表す。

實 驗 葡 萄 栽 培 法 目 次

(1) 本 目

第一章 緒論	一
第一節 葡萄栽培の現況	一
第二節 栽植本數の増減	七
第二章 來歴	一〇
第一節 歐米に於ける來歴	一〇
第二節 本邦に於ける來歴	一三
第三章 性態	一七
第一節 分類學上の位置	一七
第二節 蔓梢	一九
第三節 葉	二四
第四節 花	二七
第五節 果實	三二
第六節 根群	三七
第四章 品種	四一
第一節 分類	四一
第二節 品種選擇上の注意	四九

第三節 品種解説

アイダス	五一
アイオナ	五一
アウロンダツク	五二
アーリー、オハイオ	五二
アルンウイツク、シードリンガー	五四
イサベラ	五四
イトン	五八
カタウバ	六〇
カスターラ	六〇
カンベルス、アーリー	六〇
カナダ	六二
ガザハナー、ロツス	六四
カールマン	六四
グリーン、マウンテン	六六
グロー、コールマン	六六
甲州	七〇
ゴールドン、クキン	七二
ゴールドン、シヤスラ	七二
ゴールドン、チャンピオン	七二
コンコード	七四
シャーパー	七四
シヤスラ、フォンテンアロー	七六

○六九	龍眼、ロンエン	一三四
○四節	營利的栽培品種	一三五
第五章 氣候		一三七
○第一節	氣温	一三七
○第二節	濕量	一四一
第六章 土地		一四九
○第一節	土質	一四九
○第二節	地勢	一五六
第七章 繁殖		一五九
○第一節	砧木	一五九
○第二節	挿木法	一七二
○第三節	壓條法	一七八
○第四節	接木法	一八二
○第五節	實生法	一八八
○第六節	苗木購入上の注意	一九〇
第八章 栽植		一九四
○第一節	開園	一九四
○第二節	客土	一九九
○第三節	栽植時期	二〇〇
○第四節	栽植距離	二〇二
○第五節	栽植法	二〇五
第九章 剪定		二〇七
○第一節	剪定の必要	二〇七
○第二節	夏期剪定	二〇八
○第三節	冬期剪定	二二〇
○第四節	長短兩剪定の得失	二二四
○第五節	剪定用具	二二八
第十章 整枝		二二九
○第一節	整枝の必要	二二九
○第二節	柵造法	二三〇
○第三節	垣造法	二三四
○第四節	株造法	二三七
○第五節	コルドン整枝法	二二九
第十一章 肥培		二三〇
○第一節	葡萄の主要素	二三〇

○二三	シヤスラー、ローズ、フオンテンブロー	七八
○二四	シエツシカ	七八
○二五	スキート、ウオーター	七八
○二六	シンフハンデル	八〇
○二七	チヤンピオン	八〇
○二八	紫雲霜、ブーテンシオン	八二
○二九	テラウエア	八二
○三〇	トムソン、シードレス	八四
○三一	ナイヤガラ	八四
○三二	牛奶、ニエウナイ	八五
○三三	ハイブリット、フラン	八五
○三四	パンナー	八六
○三五	ハイランド	八六
○三六	ハートフホード、プロリフキツク	八八
○三七	ハイバート	八八
○三八	ハーベモント	九〇
○三九	バーブル、ダマスカス	九二
○四〇	バツクランド、スキート、ウオーター	九二
○四一	パレスタイン	九四
○四二	ビノー、グリ	九四
○四三	ビノー、ノアー	九六
○四四	ビノー、アラン	九六
○四五	ブライトン	一〇〇
○四六	ブラツク、ハンブルグ	一〇二
○四七	ブラツク、マスカテラ	一〇二
○四八	ブラツク、パーガンザキー	一〇四
○四九	ブラツク、アlicant	一〇四
○五〇	プリンス、オブ、ウエルス	一〇六
○五一	プレコーズ、マランゲル	一〇八
○五二	ペーロン	一〇八
○五三	ペーリー	一〇八
○五四	ホワイト、マラガ	一一〇
○五五	紅鷄心、ホンチーシン	一一四
○五六	ホルドワ、ノアー	一一六
○五七	マスカット、オブ、アレキサンドリア	一一六
○五八	アスカット、ハンブルグ	一二〇
○五九	マタロ	一二二
○六〇	マドンスフェルド、コート	一二二
○六一	マラガ、マスカテラ	一二四
○六二	マルベツク	一二四
○六三	ミルス	一二八
○六四	ムーアース、アーリー	一二八
○六五	ムーアース、ダイアモンド	一三〇
○六六	玫瑰香、メイクイシヤン	一三〇
○六七	レター、ツシントン	一三二
○六八	ローヤル、アスコット	一三二

- 第二節 肥料の種類…………… 二二三
- 第三節 施肥量…………… 二三四
- 第四節 施肥の時期及び回数…………… 二四三
- 第五節 施肥の方法…………… 二四六
- 第十二章 花穂の處理…………… 二四九
- 第一節 環狀剝皮…………… 二四九
- 第二節 間引…………… 二五六
- 第三節 袋掛…………… 二六〇
- 第十三章 管理…………… 二六三
- 第一節 除草…………… 二六三
- 第二節 中耕…………… 二六五
- 第三節 間作…………… 二六七
- 第四節 寒害…………… 二六九
- 第五節 旱害…………… 二七〇
- 第六節 外皮の剝去…………… 二七三
- 第七節 樹勢更新法…………… 二七四
- 第十四章 病害…………… 二七六
- 第一節 病因と注意…………… 二七六

第二節 病害と防除法…………… 二七八

- 一 黒痘病…………… 二七八
- 二 露菌病…………… 二八一
- 三 白洗病…………… 二八二
- 四 炭疽病…………… 二八五
- 五 黒腐病…………… 二八八
- 六 菌核病…………… 二九〇
- 七 斑點病…………… 二九二
- 八 褐點病…………… 二九三
- 九 銹病…………… 二九四
- 一〇 莖腐病…………… 二九五
- 一一 蔓枯病…………… 二九六
- 一二 白腐病…………… 二九七
- 一三 葉枯病…………… 二九七
- 一四 黒星病…………… 二九八
- 一五 藻菌病…………… 二九八
- 一六 根頭癌腫病…………… 二九九
- 一七 白紋羽病…………… 三〇〇
- 第三節 殺菌劑の製法…………… 三〇二
- 一 石灰ホルドゥ液…………… 三〇二
- 二 硫酸銅液…………… 三〇五
- 三 硫酸鐵液…………… 三〇五
- 四 硫黃華…………… 三〇六

- 五 炭酸銅アンモニヤ液…………… 三〇六
- 六 銅石鹼液…………… 三〇六
- 第十五章 害蟲…………… 三〇七
- 第一節 害蟲と驅除法…………… 三〇七
- 一 フキロキセラ…………… 三〇七
- 二 トラカミキリ…………… 三〇九
- 三 アドウスカシバ…………… 三一〇
- 四 葡萄天牛…………… 三一〇
- 五 桑介殼蟲…………… 三一三
- 六 アドウヨコバイ…………… 三一五
- 七 コミドリヨコバイ…………… 三一六
- 八 アドウスカシクロハ…………… 三一七
- 九 ビロウドスズメ…………… 三一七
- 一〇 アドウキンサルムシ…………… 三一七
- 一一 ビロウドコガネ…………… 三二二
- 一二 ヒメコガネ…………… 三二三
- 一三 ドウガネアブアン…………… 三二四
- 一四 マメコガネ…………… 三二五
- 一五 アドウメクヒソウムシ…………… 三二六
- 一六 アドウトリハガ…………… 三二七
- 一七 アケビノキノハガ…………… 三二八
- 一八 アカエグリバ…………… 三三〇
- 第二節 驅除藥劑の製法…………… 三三一

第十六章 採果…………… 三三五

- 第三節 藥劑使用上の注意…………… 三三四
- 第十六章 採果…………… 三三五
- 第一節 採收の時期…………… 三三五
- 第二節 採收法…………… 三三八
- 第十七章 荷造と販賣…………… 三三九
- 第一節 選別…………… 三三九
- 第二節 容器と荷造法…………… 三四〇
- 第三節 運搬と販賣…………… 三四二
- 第十八章 貯藏…………… 三四三
- 第一節 貯藏の得失…………… 三四三
- 第二節 貯藏庫…………… 三四五
- 第三節 貯藏法…………… 三四六
- 第十九章 收支…………… 三四九

第一節	物價の高低	三四九	第六節	栽培品種	三九四
第二節	甲州葡萄の收支	三五〇	第七節	苗木の養成	三九九
第三節	米國種葡萄の收支	三五五	第八節	栽植	四〇二
第四節	ハイランド種の收支	三五八	第九節	整枝剪定	四〇八
第五節	堅下葡萄の收支	三六〇	第十節	肥料	四一一
第二十章	硝子室栽培	三六二	第十一節	栽培管理	四一五
第一節	硝子室栽培の必要	三六二	第十二節	病虫害	四三一
第二節	葡萄室の位置	三六五	第十三節	採收と販賣	四三五
第三節	葡萄室の構造	三六七	第十四節	收支	四三八
一	片層根室	三六八	第十五節	年中行事	四四一
二	兩層根室	三七一	附錄	葡萄生育結果表	四四三
第四節	加温装置	三八一			
第五節	培養土	三九三			

目次終

實驗葡萄栽培法

農學博士 恩田 鐵 彌 閱
 内 田 郁 太 著



第一章 緒論

營利を目的として葡萄園を經營しつつある者、若しくは今後本業に従事せんとする者は、先づ現時に於ける我が國葡萄栽培の如何なる需給状態に在るかを知らんと欲する念慮大なるべし。蓋し是れ企業の根本方針樹立上に於て最も緊要の事項なればなり。

最近統計の示す所に従ひ、我が國現時に於ける葡萄栽培状況を窺ふ時は、未だ甚だ微弱なるものにして到底歐洲各地に於ける、一弱小國にだも及ばざる事遠し。今、各府縣に於ける栽培の盛否並に生産状況を知らんが爲め、大正五年及び同十年に於ける其全般を表示すれば左の如し。

愛媛	香川	徳島	和歌山	山梨	廣島	岡山	鳥取	島根	鳥取	富山	石川	福井	秋田	山形	青森	岩手	福島	宮城	長野	岐阜
媛川	川島	島山	山口	島山	根取	山取	川井	井田	形森	手島	島城	野野	早野							
一七、八一二	四五、四一七	五、五〇四	一、五〇四	三六、二六四	一九八、八六九	四四四、三〇八	一八、三〇〇	一六、五六二	一六、七八一	一八、二〇五	六、八六六	一三三、六四一	一一一、四六一	一七九、六六六	二五、二三一	一〇四、七五〇	七〇、二七六	二八一、八五二	二五、四九五	
二五、四六九	四九、一〇七	八、六七八	四、二六四	一四、九七〇	二〇四、五三八	三五四、七八七	二二、六四二	二二、八二六	一六、七五九	一九、一五六	一四、六七四	一四五、二八〇	一一〇、三〇四	一六七、一〇五	三九、二七八	二四七、八二六	一〇五、一二五	四九八、一八一	三一、二六五	
六、五八四	一六、四〇七	一、八七二	一、四五九	六、二七七	五二、〇一五	七八、四一五	七、四七一	九、〇三六	六、〇三六	六、五九一	六、六四四	四〇、五八七	三五、一〇九	二七、〇二六	九、九九七	四六、五八八	二九、四一六	九八、四四六	八、四一四	
一九、八一三	四九、〇九三	二、七三六	二、三三〇	三七、〇一一	二五六、九八一	五二七、五九〇	一四、三五八	一一、〇二二	一一、三六七	一〇、四六九	九、二七六	一三〇、四四三	七九、八四五	一八六、六八八	三〇、八九七	一一八、一一一	五〇、四七七	三一、一三二	二八、四九六	
二五、五六〇	七〇、七四〇	七、三八一	五、九六九	七、六〇〇	二六七、三六四	四九九、八三〇	二一、〇六八	一七、七九六	二一、二二四	一六、六四三	一九、六四七	二一一、四〇六	一四八、九七七	一一六、五一一	四一、五三一	二七、五二〇	八〇、九二二	五三三、九五二	三七、六〇二	
二一、五五三	三八、四三一	三、六一四	九、九一〇	八、一九八	一五四、七一〇	二八九、九五〇	二八九、九五〇	一六、二三五	一六、二三五	二二、三五四	二二、三五四	一四、八六三	一三九、五七一	一四一、五〇三	二六、二一八	一〇六、〇四三	五五、四二七	二七、八、一六二	二二、八三六	

滋賀	山梨	静岡	愛知	三重	奈良	栃木	茨城	千葉	群馬	埼玉	新潟	長野	兵衛	神奈川	大坂	京都	東京
賀梨	梨岡	岡知	重重	頁頁	木城	葉葉	馬馬	玉玉	湯湯	崎崎	庫庫	川川	阪阪	都都	京京	東東	
一六、三九七	一一二、九一二	一四、三一六	五九、四四五	二、九七四	一四、九八四	五二、三一九	一六二、三六八	五四、四八〇	九七、二四〇	八五、〇三五	一六七、九三二	八、六六八	八五、一六三	三一、一三四	九五、二一五	二七、一九五	二九、四三九
一六、六五二	七八七、九四二	一八、九二五	五九、三一九	四、〇二〇	七〇、〇四四	一一三、一七九	一一三、六六七	一一三、八二〇	九九、七二二	一三〇、三一二	三三七、四六九	二、八六六	一四六、〇二四	六五、六四八	二〇一、九五六	五九、五六九	一三一、六〇七
六、〇五七	二二六、四〇三	六、一一八	一八、七九九	一、四七〇	二二、八四八	二四、四五五	二七、三一〇	二四、九八九	一七、四三四	二二、三五四	六九、四九四	一、三〇三	五七、一三五	一三、一三〇	四一、七四〇	一九、〇四五	一九、四八七
一一、一五〇	一五八、八三三	二二、二二二	三一、一〇七	三、五二九	二五、八五六	四九、一三三	一七八、一五五	四〇、四一三	七六、六六二	五四、一二二	一七五、三七三	三、一〇三	七九、四四八	三三、三四八	九六、三三二	三七、四三五	三四、〇九七
一六、三〇一	一〇八九、一〇一	三九、三九五	四八、二七六	三、六三二	一一九、一六一	一一〇、六五五	五七六、八三四	一六二、九〇四	九三、四七九	八一、〇九五	三五二、九三一	二、三〇二	一一七、九二二	七四、一〇二	四九三、九四九	一一〇、九七四	七七、三五二
七〇九、八八〇	一一、九六六	三四、四八二	四〇、七六九	三、一六〇	六二、四六四	六〇、七七三	二四一、一八七	四七、四五八	五四、三二〇	四五、七〇七	二〇五、五六二	三、〇四九	七七、〇二四	四一、三四六	三九一、五四五	五九、四六一	四〇、二一七

高知	七、一七六	一〇、六一九	三、二〇七	三、二三七	四、六〇九	五、六一九
福岡	三〇〇、二〇〇	一二七、二九八	五〇、六五六	一八六、八九一	一二六、八七五	一二〇、九四九
大分	一二、七一四	九、一三三	六、一六五	一三、二二六	一一、六八三	一五、七二三
佐賀	一三、六八八	一四、四八三	七、四二四	一七、三七一	一二、二一五	一二、九九〇
熊本	一二、七九四	一二、二三五	五、六〇六	一〇、七四一	一〇、六一〇	一二、三六五
宮崎	一六、九八一	一五、二四三	五、七一八	一三、一三六	一三、八四九	一一、八四五
鹿児島	八、八五七	八、一九九	三、一八二	一八、三七二	一九、一二九	二一、一七一
沖縄	一三	五	一	四	四	四
北海道	一三三、九〇七	九一、六九九	二四、五七二	一二〇、四三七	九〇、五九三	一〇〇、六四一
合計	三、三八一、三二〇	四、九八四、九二三	一、二三一、五二八	三、三八三、八七七	六、二九四、一六五	三、九四五、九三八

此表によりて見る時は大正五年以來栽植本數に於ては殆んど増減なく、三百三十八萬餘本にして、今一段歩平均百五十本を栽植せるものとして其反別を見る時は、二千二百五十餘町歩となる。生産量に於ても著しき増加を見ず、獨り價額の三倍以上に達したるは明かに物價騰貴に伴ふ單價の昇騰したるが爲めにして、一段歩の平均收量は約二百八十貫價額百七十餘圓なり。歐米に在りては葡萄は果樹類中最も重要な位置を占め、其統計調査の如きも他の果樹類と分離し、特に一項を設けて是れを掲載し居るものなるも、我が國の葡萄栽培は前表の如く極めて貧弱なるものにして、是れを他の重要果樹類と比較する時は、未だ到底日を同うして語る事能はざるものなり。試みに此間の消息を明かならしめ

んが爲の數字により表示する時は左の如し。

種類名	栽植本數	果實生産量	同上	價額
梅	四、七八九、九七二	四〇五、八二三	六、八一八、四八八	六、八一八、四八八
桃	六、六九八、五四三	一一、〇六五、四八三	五、八一八、六〇六	五、八一八、六〇六
梨	九、〇九〇、六一五	二九、三七八、二五二	一四、五八九、六七〇	一四、五八九、六七〇
洋梨	四〇四、三九六	七五〇、二四九	五〇八、二八四	五〇八、二八四
枇杷	一、三六六、二二七	二、七五〇、七六三	一、六四二、二〇四	一、六四二、二〇四
栗	四、四五六、八三六	一五九、二八五	四、八一六、九八九	四、八一六、九八九
柿	一一、一六四、二九八	四九、六一五、二七八	一五、二四五、六五三	一五、二四五、六五三
乾柿	三、一六八、〇八七	二、八五七、五四〇	三、一五六、四九三	三、一五六、四九三
苹果	三、三八三、八七七	七、二五七、八五九	五、四五七、八七四	五、四五七、八七四
葡萄	一八、八三〇、一九〇	六、二九四、一六五	三、九四五、九三八	三、九四五、九三八
温州蜜柑	一、六五八、五二三	五五、六二四、七三六	一七、七二六、三六七	一七、七二六、三六七
ネーデル	三、七一一、二六七	三、四五七、三六六	一、七六二、八七五	一、七六二、八七五
夏橙	二、五六八、三四九	一三、七三二、〇五八	三、一四五、五八九	三、一四五、五八九
其他の柑橘		六、一八六、一九一	一、六六七、三七三	一、六六七、三七三

右表は大正十年の統計にして内蜜柑類は同年より統計年度改正の爲め正確の數字を知る事能はざりし

を以て特に大正九年度の分を掲載せり。

此表に依て見る時は栽植地積の特に一局部に制限されたる柑橘類が最高位にあり、柿是れに次ぎ病虫害最も多く栽培困難を以て知られたる梨其次に位す。葡萄の如きは桃・栗等の下位にあるを知るべし。果樹類中最も文化的にして、其消費量の多少は以て其國人文化の程度を計るに足るものなるべしと云はるゝ葡萄が我が國に於て斯の如く貧弱なるは、吾人の一考を要すべき點にして、是れ決して風土の適當ならざるが爲めにあらず、其生果が軟弱にして現今に於ける我が輸送機關を以てしては、到底遠地の輸送に堪へざるを以て、折角栽培するも之れが販路に困難なるが爲めと、他の果物に比し高價にて梨・蜜柑の如く民衆的需要を喚起する事能はざるが爲めなるべし。然れども遠地の輸送は生産家に於ける荷造の改良と、運搬従業者の公德心養成により大に改革し得べく、價格の高きは生産者の努力と研究により、是れを安價ならしめ得べきものなれば、今後久しからずして歐米に於けるが如く、葡萄は食卓用果物として最も重要な位置を占むるに至るべきや必然なりと云はざるべからず。而も他方に於て葡萄は高等飲料たる果實酒醸造原料として他種の遠く及ばざるところ、此方面に於ける將來の需要は國民知識の發達と共に混成着色飲料を驅逐し以て真正なる葡萄酒の需要を喚起するに至るべし。此時に及んで始めて葡萄が我が果樹界に重きをなすに至るべし。而して斯くなるべき事の早晩は偏に現時此業に關係せる當業者各位の努力に在るべき事多言を要せざるなり。

第二節 栽植本数の増減

最近數年間の統計に由り、我が國葡萄栽培の消長を見る時は、頗る興味ある數字を得べし。今、大正五年以降大正十年に至る間の増減状態を見るに、福岡縣の如きは實に十一萬餘本の減少にして、此數字が果して眞なりとせば誠に遺憾の事と云はざるべからず。而して其原因は種々あらんも、指導者の更迭、當業者の無暴なる企業等に起因せざるべからず。更に山形、埼玉兩縣の三萬餘本、群馬縣の二萬餘本、宮城縣の約二萬本、北海道の一萬二千餘本等何れも減少したるもの、著明なるものなり。如斯きは机上に於ける統計數字の誤りによつて生じたるものなりとせば夫れまでなるも、實際に於て一時熱心なる指導者を得て是れが栽培に著手し、未だ幾何ならずして縣又は郡に於ける技術者の更迭或は廢止に基き適當の指導者を得ざりし爲め當業者をして失敗に陥らしめ、折角植付けたるものを中途に於て廢園となすのやむなきに至らしめたるものなりとせば、誠に由々しき大事と云はざるべからず。今、統計の示す所に従ひ重なる府縣に於ける栽植本數並に之れが増減の状態を示す時は次の如し。

第二節 栽植本数の増減

府 縣 名	大正十年 現在 栽植本數		自大正五年 至大正十年 六年間に於ける 増減本數	
	栽植本數	府縣名	増	減
岡 山	五二七、五九〇 ^本	岡 山		八三、二八二 ^本

宮 崎 群 兵 山 大 福 北 秋 山 新 茨 青 福 廣 長	城 玉 馬 庫 形 阪 島 道 田 梨 渴 城 森 岡 島 野		
		三二二、一三二	
		二五六、九八一	
		一八六、八九一	
		一八六、六八八	
		一七八、一五五	
		一七五、三七三	
		一五八、八三三	
		一三〇、四四三	
		一二〇、四三七	
		一一八、一二一	
		九六、三三二	
		七九、八四五	
		七九、四四八	
		七六、六六二	
		五四、一二二	
		五〇、四七七	
兵 北 宮 群 崎 山 福 青 新 京 奈 福 茨 長 山 廣	庫 道 城 馬 玉 形 岡 森 渴 都 頁 島 城 野 梨 島		
		五八、一一二	
		三五、九二一	
		三〇、二八〇	
		一五、七八七	
		一三、三七一	
		一〇、六七二	
		一〇、二四〇	
		七、四四一	
		七、〇二二	
		△ 一一三、三〇九	
		△ 三一、六一六	
		△ 三〇、九一三	
		△ 二〇、五七八	
		△ 一九、七九九	
		△ 一二、四七〇	
		△ 五、七一五	

右表に依て見る時は岡山縣は栽植本數第一位に在り、增加本數も亦た第一位にして近年堅實なる發達の上に在る事を知るべし。長野縣は栽植本數第二位、增加本數は第四位にあり。廣島縣は栽植本數第

三位にして增加本數は第二位なり。山梨縣は栽植本數第八位にありと雖も、本縣は甲州葡萄を主とし一段歩八本乃至十本を栽植し以て柵造となすが故に栽培面積に於ては恐らく第一位たるべし。生産價格を見るに岡山の約二十九萬圓、長野の約二十八萬圓に比し、山梨は實に七十餘萬圓に昇り、未だ俄に他の追隨を許さざる所なり。表に示すが如く本土中央部に位する山梨・長野、瀬戸内海に於ける岡山・廣島が共に健實なる發達の道程に在りて、近年長足の進歩をなしつゝあるは、其天然要素が之れに適應せると、栽培家中の先覺者が長き經驗により、今や栽培技術の蘊蓄を極めたるが爲めなるべし。明治の晩年より大正五六年頃までは徒らに擴張の時代なりしが、其後は戦後商工業の急激なる勃興に伴ひ、農村勞力の缺乏したると、當初の設計を誤りたる等の爲め整理の緒につき、大正八九年頃までに一段落をつけ、大正十年代より再び増植の機運に向ひたる事は恐らく誤らざる觀察なりと思はる。現在殆んど見るに足らざる數字を示し居る府縣にして、風土の關係上、施設獎勵其宜しきを得ば、將來著しき發達を來し得可き地は、九州に於て熊本・佐賀、四國に於て愛媛・香川、中國に於て山口・兵庫近畿に於て大阪・奈良・京都・滋賀、東海道に於て岐阜・愛知等あり。關東東北に於ても茨城・栃木・福島・山形等何れも増植の餘地充分なるも、人口の多少、他産業との關係、獎勵指導機關の缺如等よりして、今日まで未だ見るべき發達を遂げざりしものなるべし。朝鮮及び滿洲に於ける葡萄栽培は内地に比し著しく容易にして、之れが適地到る處にあるも、販賣上

の關係よりして未だ苹果の如く目醒しき發達を見ざるは誠に遺憾千萬と云はざるべからず。關東州に於ける旅順・大連・金州附近には稍々纏りたる葡萄園ありて、優等の歐洲種及び支那種が累々たる果穂を懸吊しつゝあり、又朝鮮に於ても秋風嶺以北は到る處之れが栽培に適し優品を産しつゝあり。總督府とては亦に園藝模範場を設け、又、醸造試験場をして葡萄酒醸造の試験に従事せしめつゝあれば、是等の成績に鑑み、當業者中漸次此方面に著目するものあるに至るべく、本業の將來は最も注目し價すべきものなるべしと信ず。

朝鮮及び滿洲に於ける優良葡萄の生果が我が内地に輸入せらるゝの日は必ずしも遠き將來にあらざるべし。此時に當り最も大なる打撃を被るは九州及び關西地方に於ける栽培家なるべきも、彼地に在りては九月中旬以後ならざれば主要葡萄の成熟を見る事能はざるが故に、早中熟種を栽培せば斯かる心配なかるべし。之れ特に近畿以西の栽培家が今より一考し置かざるべからざる事なるべし。

要するに本邦に於ける葡萄業は未だ極めて幼稚の域を脱する事能はざるものにして、其大成は當業者の多大なる努力に俟たざるべからず。

第二章 來 歴

第一節 歐米に於ける來歴

ペーリー氏によれば葡萄の栽培起原は遠く四千年の昔にして、之れが原産地は歐・亞・米の三洲に涉り、各々異りたる原種を有すとせり。

歐洲の傳説なりしと云ふを聞くに、ノア Noah は大洪水の後神より葡萄を賜りて之を植ゑたりと云ひ又希臘の神學者は、葡萄はバツカス Baccus 始めて印度より携へ來れりと云ふ。上古のストラシャ人、Thracia はダイオニシユス Dionysus なる植物の神より賜ひたるものと稱へ、又埃及の口碑によれば亞弗利加にてはオーシリス Osiris 始めて葡萄を植ゑたりと云ひ、之れが種子は三千年前埃及人の古墳よりミールと共に發見されたる湖水時代の遺物なりと云ふ。又三千二百餘年前イスラエル Israel のモーゼ Moses がカナン Canaan の地を探檢せしめたる時、其使者ヘブロン Hebron (Palestine) に至りて葡萄を見、其結果せる一枝を得て携へ歸りたりとも傳ふ。葡萄酒は古代希臘のホーメル Homer 及びヘシオド Hesiod の時代に於て、既に一般に飲用されたるものなるが、是等の種子は地中海上に於けるアイオニアン海 Ionian Sea 及びヘーシアン海 Egean Sea の島嶼より傳播したるものなるべしと云ひ居れり。

現時歐洲に於ける有名なる葡萄産國は佛國を第一とし、獨逸・希臘・土耳其・伊太利・奧洪國・西班牙及び葡萄牙等漸次之れに亞げり。而して葡萄酒の醸造最も盛んなるは佛國にして、就中ボルドー Bordeaux を以て其最たるものとす。

米國に於ける葡萄栽培の起原は極めて新しきものにして、歐洲人の植民移住と共に始りたるものなる可し。千六百十六年デラウェア公 Pr. Delaware により米國も亦た歐大陸と等しく葡萄栽培の可能なる事を主張せられ、スペイン人の手によりニューメキシコ New-Mexico カリフォルニア California アリゾナ Arizona の三州に移植されたり、之れ恐らくは歐洲種葡萄の同國に入りたる嚆矢なる可し、千六百十九年には佛國人の移住するものありて彼等は同時に同國種を持參し、之れをヴァージニア州 Virginia に植付けたり、千七百十年には獨逸國ライン地方より輸入したる事あり、其後相次いで歐洲各國人の移民と共に各種果樹の苗木を移入するものあり、斯くて未だ數年ならずして、住民の存する處又葡萄樹の栽培を見ざる無きに至れり。

米國にては古くより同國特有の野生種ありたるも土民の顧る處ならず、自然に放任されたるが故に需實作物としての價值極めて少きものなりしが、歐洲人の移住と共に大に著目せらるゝに至り淘汰改良の結果、優良なる數種を得、更に歐洲種と交配して幾多の雜種を作出するに至れり。而して今日米國種として一般に認識されつゝある優良種は實に是等混成種に外ならざるなり、今や米國に於てはカリフォルニア州 California を以て葡萄栽培地の最たるものとし、南メキシコ灣より北は湖水地方に至る一帯の地、處として之を産せざる無きに至れり、其發達の顯著なりし事誠に驚嘆に價す可きもの有り。支那にありては漢の武帝(約二千餘年前)張騫大宛(土耳其斯坦の東部)の地に人を遣して携へ歸ら

しめ、之れを沃地に植ゑたりと、又曰く僧曇雲、貝丘の南葡萄谷に至り枯藤の大なるものを見て杖とし、還りて之れを樹てしに遂に活著成長して帷蓋の狀をなし累々たる結果を見るに至れりと、其後人文の進むに従ひ北清の地よく之れが栽培に適し、現時滿洲各地到る處として葡萄の良種を産し、乾果として又葡萄酒として逸品を産出しつゝあり、今日我が邦に於て栽培しつゝある、芝罘葡萄・牛仍葡萄・皇帝葡萄等と稱するは、即ち近年に至り支那より移入したるものに外ならず。

第二節 本邦に於ける來歴

我が邦に於ける葡萄栽培の來歴を知らんと欲せば先づ山梨縣に就て之を調査する必要あり、而して今之れを史乘により究ぬるに、甲斐國上岩崎村(今の祝村)の入合山に字「城の平」と稱する處ありて、往時より石尊宮を奉安せるが、其祭日には村内の人民悉く之れに參詣する習慣あり、偶々文治二年三月二十七日(約七百餘年前)恰も祭日なりしより里人の參詣するもの多かりしが、其時同村雨宮勘解由なるもの同地内に於て、普通に見る山葡萄とは著しく異りたる葡萄樹を發見し、之れを衆に示したるに衆皆な其異種なるを稱へ、之れを邑里に栽植せば恐らくは結果良好なるものあらんとて、即ち掘取り持ち歸りて字「城正寺」に植付け培養したりと云ふ。是れ實に山梨縣に於ける葡萄栽培の起原にして、里人は今尚ほ其葡萄樹發見の地を呼んで「取苗代」と稱しつゝあり。

爾後五箇年を経たる建久元年に至り、始めて三十餘房の結實を見れば、勘解由大に欣び登熟を待ちた

るに、八月下旬に至り悉く成熟し、紫色玉の如く甘美多漿、風味極めて良好なりしかば、里人之れより増殖を圖り、建久八年には既に十三株を數ふるに至りたり、此年征夷將軍源賴朝信州善光寺に參詣せしかば、熟果三籠を奉獻したり。

其後、武田信玄此國を領し甲府に城地を定むるに及び、天文十八年雨宮彌左衛門の祖先より葡萄果を獻贈したる處非常なる賞讃を得、特に賞譽狀を與へられたり。今、其全文を見るに次の如し。

賞

別而致奉公山葡萄依獻太刀一腰爲賞被宛行之由被仰出者也

天文十八年己酉十月三日

雨宮 織部 正 殿

長 阪 筑 後 守 奉之

其後慶長六年に至り徳川家康の檢地あり、此時の檢地帳には葡萄樹百六十四と記録す。從來祝村に限られたる葡萄樹は、此頃に至り始めて隣村勝沼村にも分植せらるゝに至る。爾後百餘年を経過したる正徳六年に至り、松平甲斐守再び檢地したる事あるが、其檢地帳によれば祝村に於て十五町三段九畝二十七步、勝沼村に於て五町四畝十六歩の葡萄園を有する事となり居れり、是れより祝・勝沼は山梨縣に

於ける葡萄産地として現れ遂に今日に及びたるものなり。

明和六年祝村の雨宮榮造、故ありて無籍とあり、流れて八代郡市川大門村に至り住す。同八年人を祝村に遣し葡萄苗數本を求めて之を移植す。是れ同村に於ける葡萄栽植の嚆矢なり、更に降て安永年間大門村より栽子を携へ、巨摩郡羽黒村及び山宮村に赴き、之れが栽培法を授け、更らに轉じて甲府長善寺の山畑に植ゑ、進んで山梨郡横根村に傳へたりと云ふ。

元和の頃、甲斐徳本と云ふ醫者あり、事物に精通せる人なりしと見え、同元年祝村に行き雨宮作左衛門の祖先某と謀り、棚造法を案出し且つ栽培上につき種々考案する處ありて大に面目を新にしたる由、後人其徳を傳へんと欲して寛文七年甲斐徳本の碑を雨宮作左衛門の葡萄畑中に建設したり、此碑今日尙ほ存すと雖も、破損斷折されて全面を見る事能はざるを遺憾とす。

甲州の葡萄は如斯くにして漸次名聲を高め、舊幕の頃は馬背により笹子小佛の嶮を越えて八王寺に出で江戸に捌きたるものなり。されど明治中年に至り病菌の犯す處となり一時大に衰微したるが、幸にして明治三十八年以來農商務省農事試験場に於て之れが豫防試験を行ひ、堀技師以下の盡力を得て適切なる豫防法を案出し、再び盛況に向ふ事を得たり、而も之れより曩明治初年勸業寮の當時より歐米の良種を入れて、在來種と共に栽培する處となり、栽培地積産額共に頓に増大するに至りたり。

山梨縣に次いで古來有名なるは大阪府下に於ける堅下葡萄なり、今、同地の來歴なりと云ふを聞くに、

嘉永四年安堵村中野喜平なるもの南河内郡道明寺村より一本の苗木を得て、之れを自邸井戸傍に栽植せしに、暫次にして美果を結び遂に澤田葡萄の名を博するに至れり、當時葡萄果は極めて珍貴なりしを以て市價意外に貴く、利益大なりしより漸次四圍に擴り各戸宅地利用として必らず之れを栽植するに至り、全村を始め隣村太平寺村にまで及ぼしたり。

然るに作付段別の増加に伴ひ病菌の犯す處となり、平地に於ては殆ど收穫無きに至り大に衰退せんとせし時、遇々硫黄華撒布の有効なるを知り茲に再び盛況に向ひ、明治二十二年には袋掛の有利なるを知り、益々好成績を示し、當時水田と云はず畑地と云はず、十數町歩の良田悉く變じて葡萄棚となり、毎年數十萬圓の産額あるに至りたるが、不幸にして再び黒斑病に侵害され、遂に水田低地ものは如何ともする事能ざるより、掘起して獨り山腹のもののみ僅に残存するの悲境に陥りたり、然るに明治四十年以降ポルドー液の有効なるを知り三たび盛況に進み、今日にては一村念く葡萄樹を以て覆れ、其栽植地積一百町歩に及び年額數十萬圓に達し、今や大阪附近に於ける一名物として世人の熟知する處となりたり。

京都市二條なる聚樂邸には所謂聚樂葡萄なるものあり、白赤二種を産す、而して之れが來歴に就き記するもの無きも、恐らくは豊太閤聚樂邸に住居せし當時、明國より贈りたるもの、遺物ならん、其品位樹態等より察するに、全く現今支那に於て有名なる葡萄と殆んど同一なるが如し。

現時歐米各國種の點々として各地に散在せる古木あり、而して是等は何れも勸業寮當時の遺物なる事

明かにして、葡萄が如何に自然に於て生長し易きものなるかを知るに足るべし。

明治十三年内務省は兵庫縣加古郡印南新村に葡萄園を開設して各種の栽培を試み、又葡萄酒醸造をも企圖したるが、其後幾何ならずして是れを廢止せり。

今や葡萄の特産地は全國に涉りて北は山形・青森に於て著名なる産地を得、福島・群馬・長野・新潟・山梨又各々相當の産額を有し、神奈川・静岡・愛知・大阪・奈良等は東海道に於て名を知られ、岡山・広島また中國に於ける葡萄産地たり、而も北は北海道に於て自生種甚だ多く、南臺灣に於て立派なる結實を見る。本邦葡萄栽培の前途夫れ洋々たりと云ひ得べけん。

第三章 性 態

第一節 分類學上の位置

葡萄は植物分類學上、葡萄科に屬するものにして、其位置を明記する時は次の如し。

顯花植物 PHANEROGAMAE

雙子葉植物 Dicotyledones

多瓣花區 Polypetalae

葡萄科 Ampelidées

葡萄科に属する植物に數種あり、即ち次の如し。

<i>Leea Sambacina</i> , Willd.	オホウドカツラ
<i>Vitis angustifolia</i> , Wall.	ミツバヅル
<i>Vitis cantoniensis</i> , Seem.	シマウドカツラ
<i>Vitis flexuosa</i> , Thunb.	サンカクヅル
<i>Vitis formosana</i> , Hemsl.	ドクブダウ
<i>Vitis heterophylla</i> , Thunb.	ノブダウ
<i>Vitis inconstans</i> , Miq.	ツタ、地錦
<i>Vitis Japonica</i> , Thunb.	ビンボフカツラ、烏蘇莓
<i>Vitis labrusca</i> , L. var. <i>Thunbergii</i> , Fr. et Sav.	ガネブ
<i>Vitis lanata</i> , Roxb.	
<i>Vitis repens</i> , W. et A.	ハヒカツラ
<i>Vitis umbellata</i> , Hemsl.	ミツバカツラ
<i>Vitis vinifera</i> , Z.	ブダウ

凡そ葡萄属の植物は何れも蔓性植物にして、一種の卷鬚を有し、自ら直立するの性なく、よく他物に

纏絡して其枝葉を繁茂するものなり。

歐洲葡萄と米國種葡萄とは、其性態上に於て全く異りたるものあるを以て、分類學者は之れを別個のものとして次の如くに分ち居れり。

Vitis Vinifera. (wine Grape) 歐洲種
Vitis Labrusca. (Fox Grape) 米國種

今、一般葡萄樹の性態を述ぶるに當り右兩種の特徴をも合せ記する所あるべし。

第二節 蔓 梢

葡萄の樹梢は所謂蔓梢 (Shoot) にして、中央に比較的大なる髓質を有し、明かに節を以て分たれ、各節より葉及び卷鬚を生ず。而して葉と卷鬚とは常に正反對の兩側に位置す。卷鬚の發育良好なるものは即ち果房にして、營養不良其他の事故ある時は一の果房を出さずして悉く卷鬚なる事故で珍らしからず、葉腋には一個若しくは數個の芽を有し、年内に伸長して二番蔓となるものと、其儘越冬して翌春に至り伸長するものとあり。生長するに従ひ堅牢なる樹質となるも、肥大充實すること極めて遅緩なるものにして、他の果樹類の如く大木となる事殆んどなし。

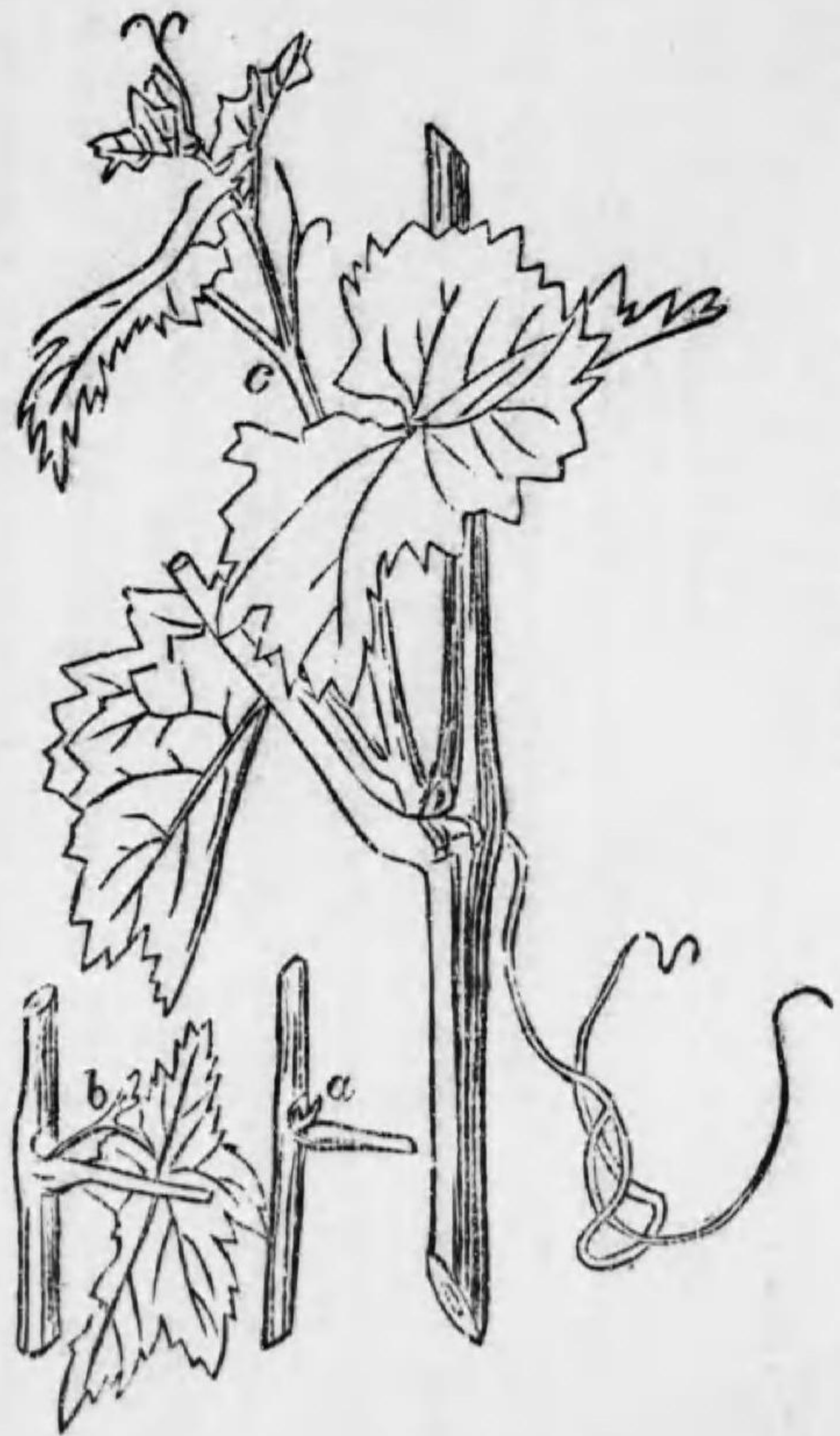
葡萄は通常、前年生枝上葉腋より、春期生長したる新蔓上に開花結實するものなるも、往々にして二三

年以上の古枝上より出でたるもの、又は二番蔓として初夏の候分岐したる蔓上に結實する事なきにあらず、然れども是等は何れも果房品質共に不良にして到底營利的價値を有せざるものと見て可なり。新蔓は之を分ちて二とす事を得。即ち一は其年内に於て開花結實するものにして、他は伸長するも絶対に結實せざるものなり。前者を「成り蔓」と稱し後者を「無駄蔓」と云ふ。成り蔓を分出せしむ可き母枝を種蔓(Cana)と稱し、種蔓を有する母枝を親蔓(Arme)と云ふ。故に普通の場合に於て種蔓は昨年生長したるものにして、親蔓は更に夫れ以前に發育したるものたらざる可からず。



右の如く葡萄樹の結果は常に新梢に限り、而して是等の結果蔓を出す可き種蔓が其前年生なる以上、樹齡を重ねるに従ひ益々老朽に達せる不用枝を多からしめ、

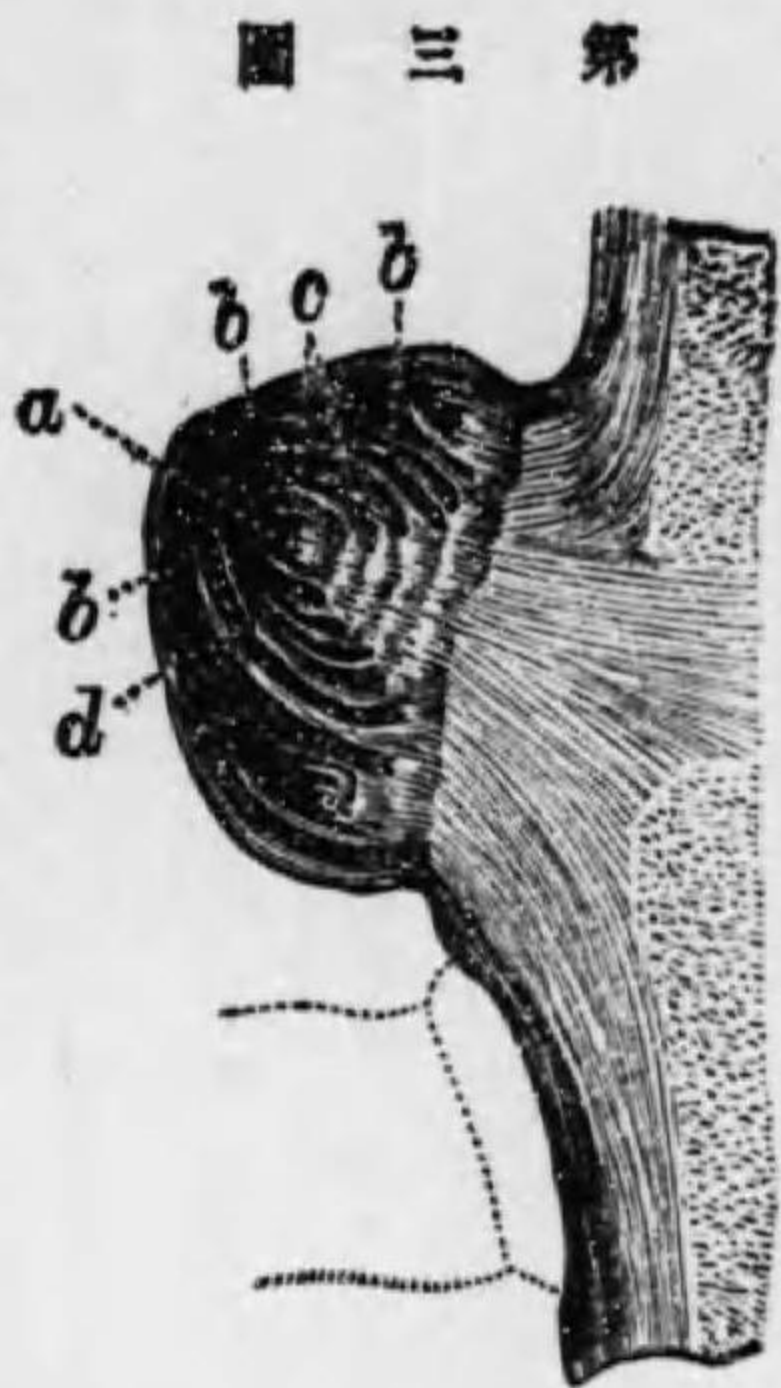
第二圖



- A 二番蔓の未だ伸張せざるもの
- B 少しく伸張せるもの
- C 伸張せるもの

樹梢の健康を害するのみならず、果房の品位を劣變せしむる事大なるものなるが故に、此點より見て枝蔓に於ける適度の剪定は最も必要のことにして、恐らくは葡萄栽培上最も忽緒に附す可からざる緊要問題たる可し。初め絨毛に包まれたる腋芽は伸長して新梢となる、此新梢につき檢するに、彼れが母枝に接せる三四節は非常に密接して通常一枚の葉と一個の腋芽を有するのみなり、而して三四葉以

上は節間稍々長く常態にして、葉と其葉腋に一個の腋芽を有するのみならず、葉の反對側に於て必ず果穂 (Flower Clusters) 又は卷鬚 (Tendrils) を有せり、而して葉は交番に出づるが故に、従つて果穂卷鬚の類も亦交番に枝の兩側に存せり、果穂と卷鬚とが同一物なる事は、兩者の間に中間物あるに見て明かなりと云はざる可からず、而して果穂は通常新蔓の第三節又は第四節より生じ、二乃至四節連續して之れを見得可しと雖も、種類により又樹株發育の如何によりては五六節に至らざれば之れを生ぜざるものなきにあらず、而して果穂の數は最も少きものに於て一枝上一穂なるも、多きものに至りては實に五六穂に達せるものあるを見る。一般に米國種は多くして歐洲種は少きが如し。即ち歐洲種にありては通常二穂に止り、第三及び第四節に於て之れを見るのみ。斯の如く葡萄は下半部の二三節に於てのみ結果するものなるが故に、新梢は其儘長く伸長して停止する處を知らず、而して果房に代ゆるに卷鬚を以てし、他物に纏絡して益々繁茂するものなり、然れども同一枝條に於て再び開花結實するが如き事は斷じて之れなし。新梢上に其生長期間に於て、明春伸長す可き芽と相並んで二番蔓を生ずるもの多し、新梢の先端を摘斷したる時に於て二番蔓の伸長益々甚し。二番蔓は往々にして結實する事あるも完全なる成熟を見る事困難なるのみならず、之れが伸長を姿にする時は腋芽の發育に關係する事大なるものなるが故に、特別なる取扱を必要とするものなり。



葡萄の腋芽と母枝の一部の縦断面

a 生長點
b 花 蕾
c 葉 蕾
d 卷 鬚

腋芽は年内に於て總ての機關を具有し、春暖を俟つて單に開綻し生長するのみなり、故に今年に於ける腋芽の完全なる充實を圖る事は最も必要にして、明年の結果量は此時既に其の大半をトし得可きものと云はざるべからず、而して種枝の發育餘りに大なるもの及び微弱に失するものは共に完全

なる腋芽を有する事能はざるものなるを以て、次年に於ける豊産を欲せば其年に於ける種枝の中庸なる發育を期せしむるを要す。

成り蔓の分布は葡萄の種類により同一なる事能はず、即ち豊産なるものありては種枝上に於ける第一節より腋芽の悉くが成り蔓となりて現はるゝものなるも、結果不良なるものに至りては第三節又は第四節以後のものにあらざれば結果枝となる事能はざるものあり。甲州種の如く發育旺盛なるものにして基部の腋芽が常に「無駄蔓」にして第三節以上のものにあざれば結果せざるは吾人の常に目撃する處なり。斯の如き習性の相違は種枝剪定の際最も注意せざる可からざる主要點なりとす。

肥料の配合よろしきを得ざりしか、又は東北地方の如く温度の充分ならざる所にありては、種蔓の發育完全ならざるが故に、斯の如き所にありては成り蔓は、常に種蔓の上半部に於て現れ、下部親蔓に接

する數芽は無駄蔓なる事あり、故に是等の地方にありては出來得る限り種蔓の充實を計ると同時に、又一方に於ては長梢剪定法によるにあらざれば遂に結果せしむる事能はざるものなり。

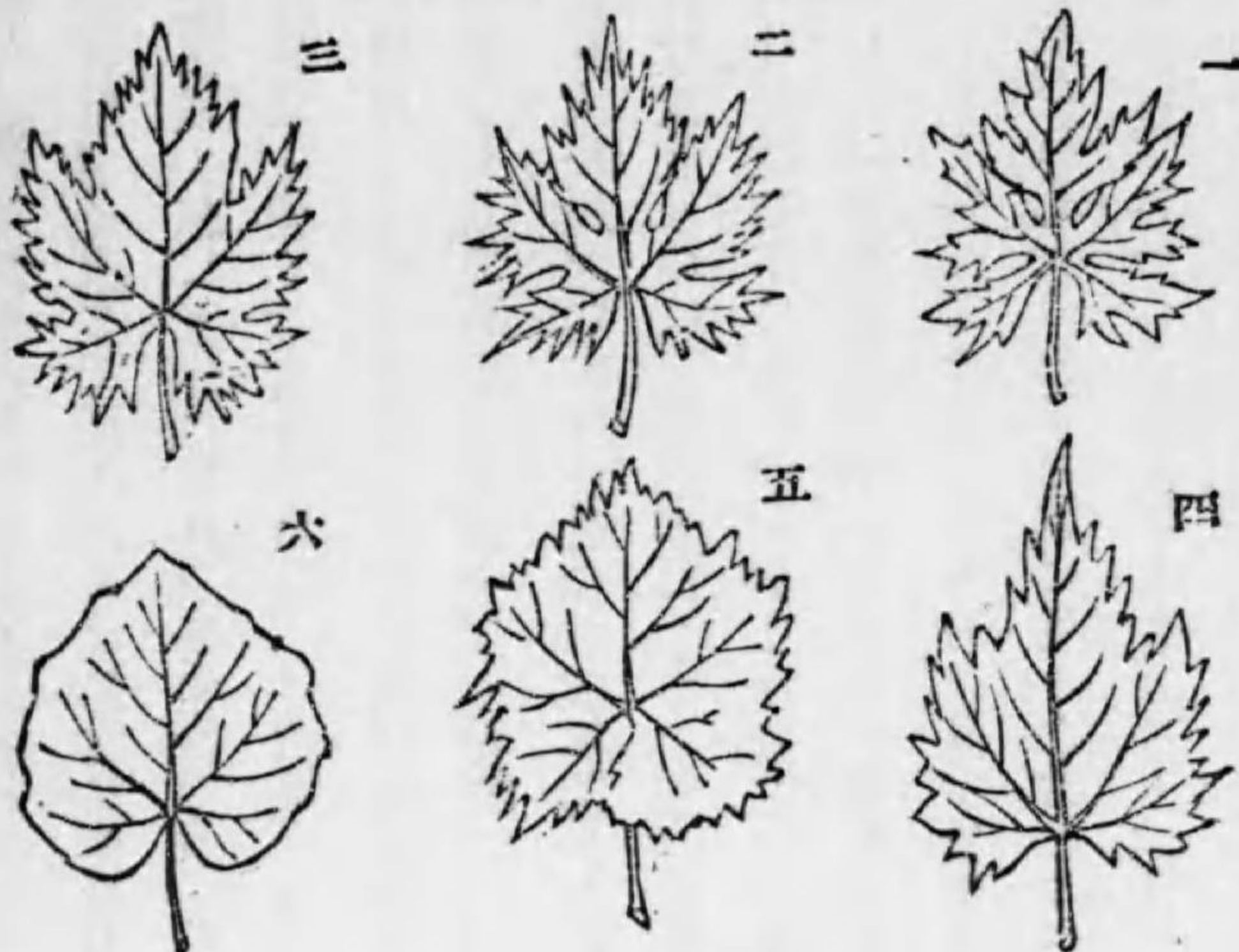
葡萄は又不定芽を生ずる事多きものにして、數年を経過したる古梢に於てもよく新芽の伸長するものあるを見る、されど是等は何れも發育枝にして結果枝たる事は殆んど是れ無し。又老熟したる枝幹の外皮は極めて剝離し易きものにして、毎年秋冬の候自然に剝離すと雖も更に人為を以て之を剝ぎ去るは必要の事なり。葡萄は不定根を出す事多きものにして地表に近き各節及び枝條の分岐せる處には常に數分より寸餘に伸長せる幾多の小根を認め得可し。

新梢の外皮は、概ね平滑なるものにして、品種により其色澤、長短、大小等種々あるが故に、常に注意して之を記憶し置く事必要なり。總じて米國種は節間長く節高くして外皮濃色を現し、發芽當時の軟弱なるものは多量の絨毛に包まれ居れり、之に反して歐洲種は絨毛少く、外皮は淡色にして節間非常に短きを常とす。而して幾多品種中には兩者の中間性を有するものあり、是等は一見して直に其交雜種なる事を知り得可し。

第三節 葉

枝幹が空中に繁茂するは葉をして、充分陽光を受けしめ、果實を結ばんが爲めにして、葉は實に陽光

第四圖 葉の形状



一、二、三は歐洲種に多き葉
四、五、六は米國種に多き葉

の力を借りて茲に炭素同化作用を營み、以て植物體構成の根本養液を製造する機能を掌るものなり。

故に葉の健全なる發育と繁茂は明に收穫の多量を意味するものなりと雖も、然も極端なる繁茂は遂に生長繁成に全力を傾注するが故に、結果作用をして不良ならしむる事なきにあらず、是れ栽培家が夏期剪定を實行する所以なりとす。葡萄の葉は長さ葉柄を以て枝蔓に接し、葉柄は葉身を支持して之れが位置を定め、常に成るべく多量の陽光を受けしめん事を圖りつゝあり。葉身は通常五裂し五條の主葉脈によりて分たれ、更らに幾多の葉脈を以て網狀に組織せらる。今葉身を其形状により分つ時は大要六種となる可し。

一、最も深き裂目を以て五片に分岐し、

各片の周邊鋸齒状をなせるもの。

- 二、裂目前者に次ぎて深く周邊は非常に鋭尖なる鋸齒状をなせるもの。
 - 三、裂目浅く僅に五片に岐れ周邊鋸齒状をなすもの。
 - 四、裂目最も浅く葉先非常に尖り、周邊に粗き鋸齒状を有するもの。
 - 五、裂目なくして周邊鈍鋸齒状を爲すもの。
 - 六、裂目なくして殆んど圓形をなし周邊亦た鋸齒状をなさざるもの。
- 葉身は又大小種々にして一般に米國種及び之れが雜種は太く、歐洲種は總じて小形なり。又、裂目深く鋸齒状鋭きものは大抵小葉にして、漸次裂目浅きもの程大葉なるが如き傾向あり。
- 歐洲種は葉面光澤に富み、葉裏に白絨毛を有せず、葉肉薄きを常とするも、米國種は之に反し葉肉厚く葉裏に多量の灰白色絨毛を密生す。葉色に就て見るに歐洲種は黄綠色にして鮮麗なるも、米國種は濃綠色にして幾分暗き感あらしむ。又、歐洲種の葉柄は一般に短くして黄色なるも、米國種にありては暗紅色を呈し太くして非常に長きを常とす。
- 右の如きは單に一二の例證に過ぎざるも、各品種に渡り詳細に之が研究をなさんか、遂には數千を以て數ふる葡萄品種も、單に一枚の葉によりて直に其何種なるかを識別し得る事敢て至難にあらざる可し。葡萄の葉は各節必ず一葉を有するものなり、而して其基部に於けるものは極めて小形にして、葉肉

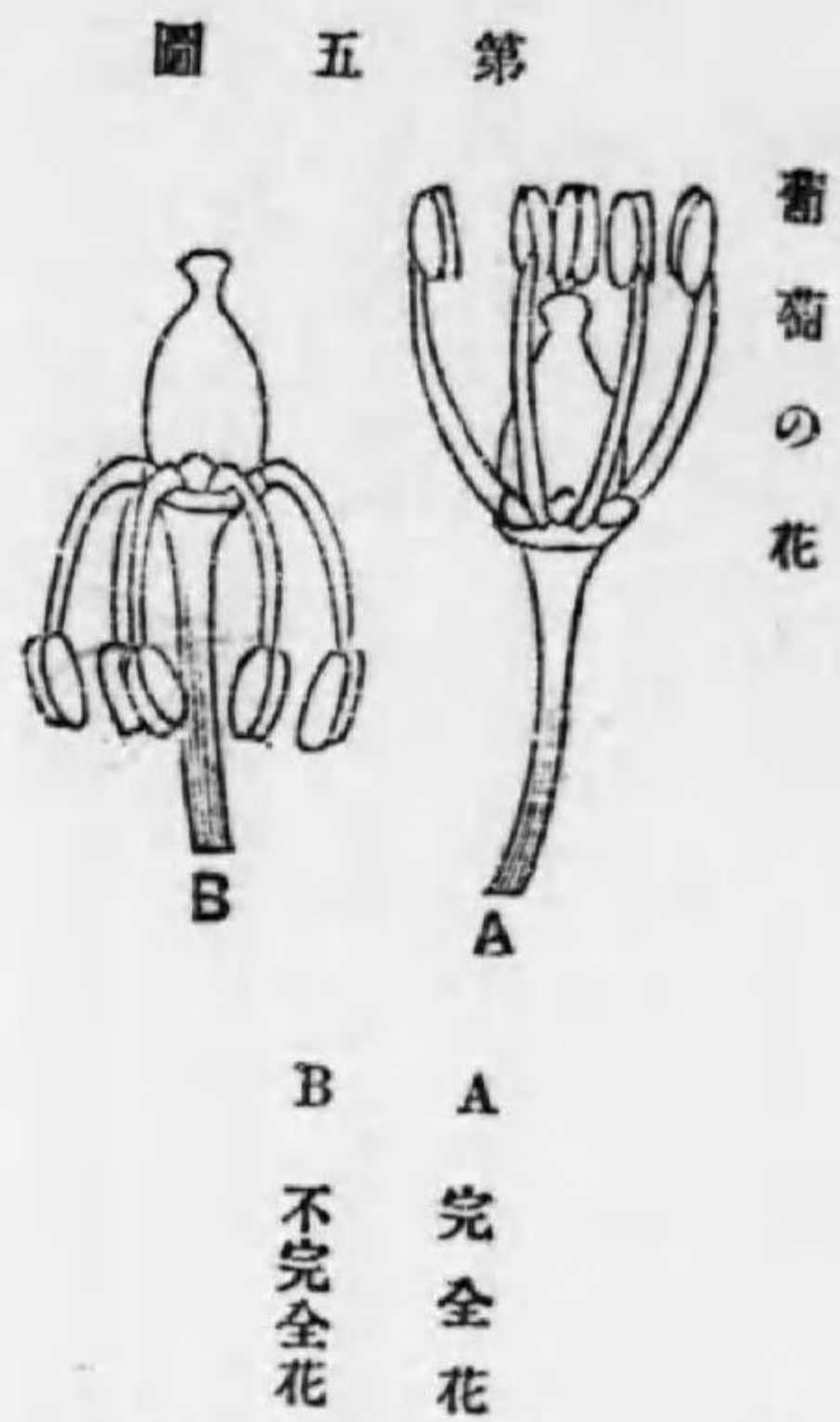
も亦た厚からず、漸次伸長して第五節以上に於けるものは即ち常態にして、標準となる可きものは當に第五六節に存するものなり。又、葉の枝上に於ける分布は曩に述べたるが如く交番にして、一葉毎に其位置を枝の左右に置くは奇異の感なき能はず。

葡萄の葉は其組織比較的強靱にして、各種の藥劑に對する抵抗力強く、ボルドー液の如きは殆んど如何なる場合に於て撒布するも、更に被害さるゝが如き事あるを見ず。是れ病害稍々激甚なる葡萄樹に取りては最も有利なるものと云はざる可からず。

第四節 花

花は生殖機關の根源にして、開花し受精して、懸て果實となり子實を構成するものなり、然れども栽培變種として果實は立派に生長するも、遂に種子を藏せざるもの無きにあらず。

果穂の枝上に於ける位置は曩に記述したる如くにして、一枝上少きは一二穂、而して多きものは實に四五穂に及ぶものなり。一穂上に於ける花の數は之れ又品種により非常なる相違ありて少きは數十、多きは數百に達するものなきにあらず、「ゼツシカ」「グリーンマウテン」等の如く花穂の長さ僅かに二三寸に過ぎざるものより、長大なる事數尺に達する「パレストアイン」種の如きに至るまで、等しく之れ一穂なりと雖も、其一穂上に於ける花數に至りては實に數十倍の相違なき能はず。



花穂上に於ける花の分布を見るに、縦貫せる一本の軸ありて之れより分岐したる支軸上に數個の花を集合結著するものなり。

葡萄の花は其構造極めて簡單なるものにして、長さ二三分に過ぎざる果梗上に稍々發達したる果托を有し、其上部に通常五本の雄蕊と一本の雌蕊を有するのみ、而して花瓣の如きは遂に之れを缺除す。花は蕾の當時花瓣に代ふる可き薄膜を以て覆はれ居るも、開花するに及びて是等の薄膜は下方より分離し五列しつゝ、脱落し、以て雌雄蕊を露出するものなり。

雌蕊は花の中央に位し、子房・花柱・柱頭の三部よりなり、子房は通常三室に分たれ各室に胚を藏するものなり。雌蕊は又雄蕊よりも短くして常に柱頭其下位にあるが故に、寒害・風害等を被る事少く結實容易なるが如し、雄蕊は其數五個にして花絲の先端には比較的大形なる葯を有し多量の黄白色なる花粉を藏す。花成熟するに及んで葯は開放され花粉を飛散するものなり。

葡萄は蟲媒花なるも美麗なる花冠又は萼片を有せざるが故に、之れに代りて昆蟲を誘ふ可く花托上雌蕊の基部に多量の果蜜を藏し、又一種の高き芳香を放つものなり、而して是等の芳香及び果蜜は其



に昆蟲の臭覺味覺を刺激して其集來を促さんが爲めに過ぎざるなり。

葡萄は又原産地の如何により土地を轉じたる時、結果し易きものと然らざるものとあり。「マスカット」族のものが中央亞細亞の原産なるの故を以て授粉上高温と乾燥とを必要とするが如きは即ち之れが適例なり、又總ての植物に於て見る處の現象として、結實上自花受精よりも他花受精の方果實の發育良好にして種實亦た健全なるものあり、斯の如き種類にありては一花中に於ける雌雄蕊は自ら其成熟期を異にし、以て他花の花粉を受けん事に努め居るものなり、然れども多數の葡萄中には極めて結實容易なるものありて、單に一本の栽植に過ぎざるも而も毎歳累々たる果實を結ぶものあり。之れをモルナール氏(Stephan Molnar)の説に見る時は、斯の如き結果容易なるものは何れも雄蕊直立せるが故に、開花に際し被膜の脱落する時に於て自花授粉行はれ確實なる受精を遂ぐるものなりと。

之れに反し結果し難き種類を見るに、雄蕊の花絲は直立せずして外方に彎曲垂下し、爲めに自花受粉

上器械的に障得を受くるものなり、エンゲルマン博士も亦た同様の意見を發表して曰く、自花受粉にて結果し得可きものは直立せる長き雄蕊を有する完全花 (Perfect Hermaphrodite) にして、花が成熟開花するに臨み、帽状の花被脱落すると同時に、雄蕊の花粉は自花の柱頭に附著して直に受精を遂ぐるものなり。「ブラックハンブルグ」「グローコルマン」「ロイヤルマスカデイン」種の如きは即ち是れなり。而して他の一は雌蕊よりも雄蕊の方短きものにして、開花と共に雄蕊は速に外部下方に彎曲するものなり、之れを不完全兩性花 (Imperfect Hermaphrodite) と稱し、人工受粉を行ふにあらざれば到底結實する事能はざるものなり、然れども是等の種類が全然自花受精の能力無きものにはあらずして、たゞ其花の構造上之れを行ふに障害あるが爲めなり、今之れに屬する主なる種類を列擧すれば次の如し。

アルンウイック、シードリンズ (Alnwick Seeding)
 ブラック、モロッコ (Black Morocco)
 チャウーチ (Chaouch)
 デイアマント、トラウズ (Diamant Traube)
 エルドラード (Eldorado)
 レディー (Lady)
 ブラック、イーグル (Black Eagle)
 ブライトン (Brighton)
 ユーメラン (Eumelan)
 マサウフソート (Massasoit)
 ウイルダー (Wilder)
 ロージャヤス、ナンバー、フアイン (Rogers No. 5)
 ゲルトナー (Gaertner)
 メリマック (Merriman)

レクア (Regua)

アミニア (Amema)

エセックス (Essex)

コンコード (Concord)

ダイヤモンド (Diamond)

ナイアガラ (Niagara)

ベリー (Barry)

ハーバート (Herbert)

サレム (Salem)

ウィンチエル、サータイータウ (Winchell 32)

アガワム (Agawam)

デラウェア (Delaware)

以上記述したるは普通種に於ける開花結實の現象なるが、幾多栽培品種中には果實の發育上必ずしも、受粉を必要とせざるものあり。而して是等は多く人爲淘汰の結果、栽培改良せられたるものなるも、亦時として偶發變異として出現する事無きにあらず、斯の如く受精せずして結實したる果實は如何なる場合と雖も決して種子を有せざるなり、故に之れを無核種 (Stemless Variety) と稱す。之れに屬するもの數種を記載すれば。

シードレス、サルタナ (Seedless Sulana)

トムソン、シードレス (Thompson's Seedless)

ブラック、モナッカ (Black Monukka)

コリンス (Corinth)

等にして、是等は何れも直立せる雄蕊を有し、一見完全花と異なる處なしとするも、葯内には全然花粉

を有せざるか又は之れを含有すと雖も其發育不充分にして發芽の能力なきもの多し。北米加州に於て乾葡萄となすには主として是等の無核種を採用しつゝあり、又是等は生食用としても品位優等なる可きも、他の有核種に比し幾分收量少きを缺點とす。

葡萄の開花は五月下旬より六月上旬の頃なるが故に、地方によりては恰も降雨頻繁なる時なり、而して軟弱なる花蕾は濕潤なる氣候下に於て各種の病害に侵さるるものなるが故に、栽培家たる者常に注意して病害防除に努めざる可からず。

第五節 果 實

果實は品種鑑定上、最も有力なるものにして、微細なる點に至るまで之れが特徴を研究し置く事は必ずしも徒勞の業にあるざる可し。

果實の幼少なる間は何れも幾分長圓形にして綠色なるも、漸次生長成熟するに従ひ固有の形狀と色澤とを出現するものなり。今、成熟したる葡萄の一果實を採りて之れを檢する時は、外面は指頭を以て容易に拭ひ去り得る白粉を以て覆はれ居れり、其下に薄くして強韌なる外皮あり、外皮は稍々透明なるものにして、其下部に存する色素組織の色澤を其儘外面に現すものなり。色素組織は果皮に屬す可きものにして、其下部に肉漿あり、通常三室よりなり各室一個の核子を藏す。核子の外圍に存する肉漿は

品種により非常に汁液に富み柔軟なるものと、又汁液乏しく肉質にして稍々硬きものごとあり、是等の肉漿は多く灰白色なり。

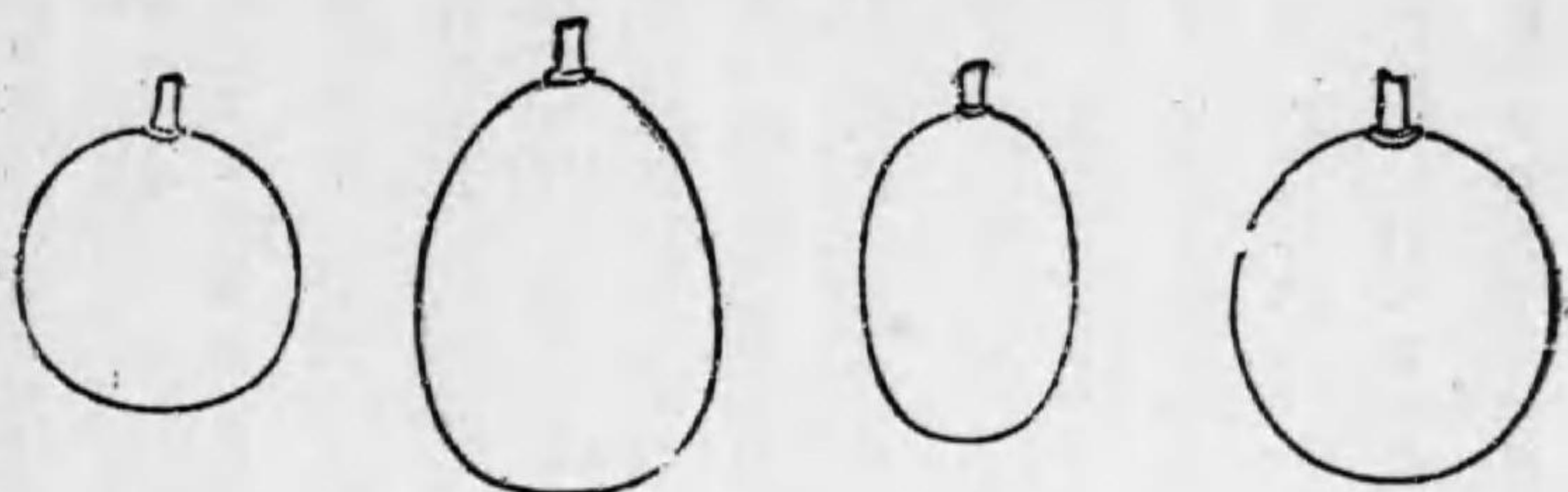
果實を研究するに當りては、如何なる點に注意す可きものなるか、今左に其大要を示す如し。

- 一、房穗の形狀 房穗には長さもの短きもの、岐肩あるもの等種々あり。
- 二、房穗の密度 一房穗を形成せる果粒に、密著せるものと粗著せるものごとあり。
- 三、果粒の大小 粒に大中小種々あり。
- 四、果粒の形狀 粒に圓形・橢圓形・卵圓形・扁圓形・腎臟形等あり。
- 五、果皮 果皮に白粉の濃密なるもの少きもの、又其色に白・綠・赤・紫・黒等種々あり。
- 六、果肉 色澤、硬軟、漿液の多少、香氣等に種々あり。
- 七、核子 核子の大小、色澤、形狀及び之れの有無。
- 八、品質 各用途に對する品質の上下。
- 九、熟期 果實成熟の早晚並に整合。
- 十、收量 收量の多少。

十一、病蟲害に對する抵抗力 種類により種々あり。

十二、果實の脱落性 成熟したる果實の容易に脱落するものと、何時までもよく固著せるものごとあり

第七圖 果粒の形状



形圓扁

形圓卵

形圓梨

形圓

右に記載せるが如き各種の點に留意する時は、大抵の品種に就き其特徴を觀破し得可きものなり、今二三の品種を拉し來つて之れが説明をなさんに、「バレストアイン」・「ジンフハンデル」の如きは最も長穂なるものにして、大なるものに至りては一穂の長さ實に三尺に達するものなきにあらず、而して「グリーン」・「マウンテン」・「ゼツシカ」の如きは最も短小穂なるものなり、又「ペルトラン」・「ハイランド」・「マスカットハンブルグ」等は何れも岐肩の著しく發達せるものにして「カタウバ」「アイヅス」等は殆んど岐肩を有せざるものなり。

房穂の密度に就て見るに「ハーベモンド」・「ヘルマン」・「カタウバ」等は粒密著せるものにして、「ハイランド」・「甲州種」の如きは粗なるもの云ひ得べし、而して餘りに密著せるものは、人工を以て其幾分を間引くにあらざれば善良なる成績を得る事能はざるものなり。

果粒の大小に就て見るに、「ジャツク」・「ルブラ」等は極めて小なるものにして、「ゼツシカ」・「グリーン」・「マウンテン」等は通常小粒に屬す可きものなり。而して「甲州種」・「ハイランド」・「グロー」・「コルマン」・「キャ

ンベルス、アーリット」等は大粒とす可し。

果粒の形状に就て見るに「ブライトン」・「キャンベルス、アーラー」等は正圓形をなし、「レデー、ワシントン」は幾分扁圓形なる可く、「パープル、ダマスカス」・「ゴールドデン、クキン」等は橢圓形をなし、「ムーアース、ダイアモンド」・「カタウバ」の如きは幾分卵圓形なるが如し。

果皮に白粉多きは米國種に屬するものにして「コンコード」・「カリフォルニア」等最も甚だしく「デラウエア」・「ブライトン」等は頗る美麗にして殆んど之れを有せず。又色澤より見る時は「フホスター、ホワイト、シードリング」・「トムソン、シードレス」等が殆んど白色に近く、「グリーン、マウンテン」・「ムアースダイアモンド」等は綠黄色をなし、「ゴールドデン、クキン」・「レデー、ワシントン」等は黄色を呈し、「デラウエア」・「ブライトン」は赤色をなし、「カタウバ」は赤褐色を現し、「ジンフハンデル」・「パープル、ダマスカス」等は紫色にして、「コンコード」・「キャンベルス、アーリー」等が濃黒色なる等實に千態萬様と云はざる可からず。

果肉の最も漿液に富み甘美なるは甲州葡萄なり、而して「ブラック、ハンブルグ」・「シャスラー、ローズ、フホンテンブロー」等又よく漿液に富み、濃厚なる甘味と爽快なる香味を有するものなり。「ミルス」の如きは肉質硬きものにして貯藏運搬に堪ふ。「カトウバ」・「コンコード」等は一種の臭氣を有するが故に、生食用として之れを嫌忌するもの無きにあらず。

數種の無核種を除く外、他の總ての種類は核子を有す。雖も、「ブライトン」「レデー、ワシントン」等は往々にして無核粒を生ずる事なきにあらず、「カタウバ」の如きは核子大なるものにして、「レデー、ワシントン」の如きは極めて小なるものあり。

品質の良否を以て云へば、生食用として「甲州種」・「ブラツク、ハンブルグ」・「マスカット、ハンブルグ」・「シヤスラー、フオンテンブロー」・「ゴールドデン、クキン」等は最も秀でたるものなる可く、「ハイランド」・「ブライトン」・「デラウエア」・「レデー、ワシントン」等又決して不可ならざるなり。又醸造用としてはビノー屬及びマスカット屬のもの優等なる可く、乾燥用としては「トムソン、シードンス」・「サルタナ、シードレス」等賞用せられつゝあり。之に反し「カタウバ」・「コンコード」等は品質上等と云ふ事能はざるなり。露地に於て成熟最も早きは「ゼツシカ」・「チャンピオン」・「スキート、ウオーター」等にして、最も遅きは「ハイランド」なり、而して此間幾多の品種は各相前後して成熟するものなり。

收量多きは「カタウバ」・「アデロンダック」・「コンコード」・「チンフハンデル」等にして、「ノルトン」・「リパリア」・「ルブラ」等は最も少きものなり、而して今日一般に栽培されつゝあるものは何れも比較的品質良好なるものにして收量も亦た多きものゝみなり。

病害に對する抵抗力の強弱は地方の風土により同一なる事能はざるものなるも、興津地方に於て「チャンピオン」・「レデーワシントン」等は最も炭疽病に犯され易く、「カタウバ」・「コンコード」等は極め

て健全なるものなり。而して他の多くの歐洲種中には、露地に於て之れを栽培する事不可能なるもの無きにあらず、是等は何れも病害の爲め生長、開花、結實共に極めて不良なるものなればなり。

果實の脱落性に就ては充分なる調査なきも、「レデー、ワシントン」種の如きは最も脱粒し易く、よく成熟したるものは殆んど悉く落下脱離す。而して斯の如きは商品として最も不適當なるが故に、少しく早目に採收するか、然らずんば自家用として栽培するに止めざる可からず。

右に記述したるは最も一般的のものにして、果實の大小、品質の上下、熟期の早晚等は肥料の配合分量及び之を施す可き時期により非常なる相違ある可く、又、環狀剝皮の如きも其時期に於てよろしきを得んか、成熟を促進せしめ果粒を大ならしめ、且つ甘味を増す事著しきものなり、斯の如く人爲を以て行ふ諸作因の外、尙ほ其年の氣候により左右せらるゝ事大なるものなり。

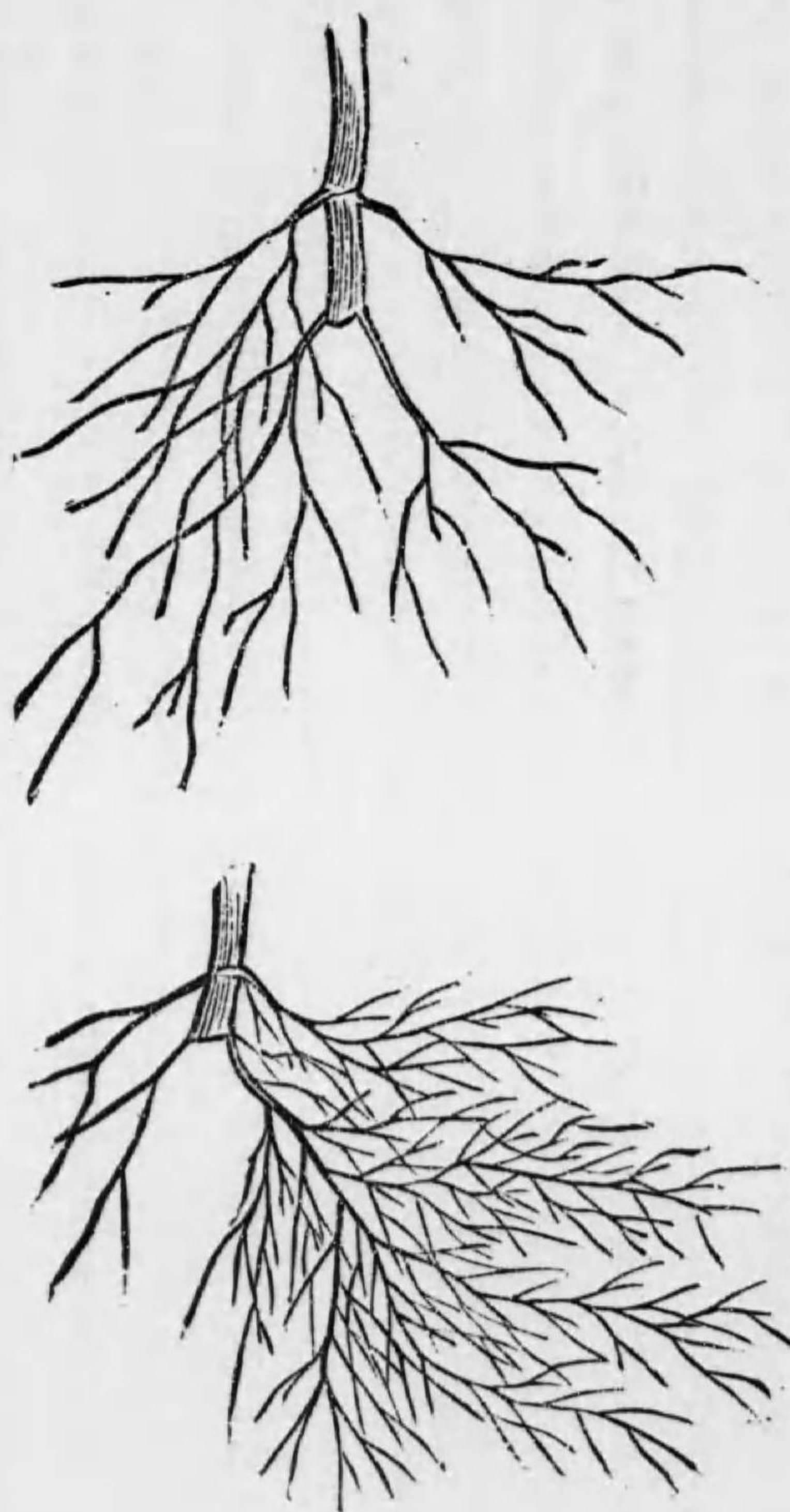
第五節 根 群

根群は地中に侵入して自己の樹體を支持し、同時に土中より水養液を吸収して之れを樹の全體に送り、葉の同化作用と相俟つて自體を養ふものなり、根は數本の主根より起り漸次分岐して數多の枝根を出し、遂に細根となり地中に瀰蔓するものにして、養料吸収の機能は主として根の先端に存する新細根に依て行はるゝものなり。

根は亦た其先端より炭酸・硝酸等の如き特殊の液汁を分泌して、地中の不可溶物質を分解したる後之れを吸収するの機能を有す。根が土中より養液を攝取するは主として滲透作用によるものなるが故に、土中の水溶液は常に植物體中の養液に比し稀釋なる事を要す。若し之れに反して土中の溶液濃厚なる時は逆滲透作用行はれ、樹體の發育を停止するのみならず、甚だしきに至つては遂に枯死するを免れず、之れが培養の任に當るもの、注意を要す可き點たらざる可からず。

葡萄の根は他の果樹類と異り一種多肉性のものにして、一見蘭類に於ける氣根の如き形態をなせるが普通なり、新鮮にして健全なる幼根は鮮黄色にして極めて柔軟なるものなり、根群は主として地表を蔓延し深く地中に侵入する所謂命根を出す事なし。根は又細根を分岐する事少くして遠く伸長するの性を有し極めて粗なるものなり、故に往々中耕・移植・施肥等の爲めに或る種の根群を切斷したる時意想外に其樹の發育を害するが如き事無しとせず、然れども又種類により非常に細根を分岐し毛状をなして繁茂するものあり、「キヤンペルス」、「アーリー」、「リバリア」、「ルスベストリス」等に見る處のものそれなり。根群が地中に蔓延するは恰も枝葉が氣中に繁茂すると同様同程度のものにして、實に微妙なる相關作用を有するものなり、故に根群の強健なる繁茂は即ち枝條の繁盛を促すものにして、懸て充分なる結實を齎す起因となる可きものなり。故に充分なる結實を得んと欲せば先づ其根本たる根群の健全なる發育を圖らざる可からざるなり。

第八圖 根の發育の狀態



分岐粗なるもの

分岐密なるもの

葡萄は極めて發根し易き植物にして、適當の時期に於て其枝條の一部を挿桿する時は、忽ちにして其切口及び節部より多數の新根を分出し茲に一個の獨立したる新株を得るものなり。而して既に生著せる樹株と雖も、多雨多濕なる氣候にありては地上空中に存せる數節より氣根を出すものあるを見る。新

の如く極めて發根容易なるは葡萄繁殖上最も重要視す可き件なりとす。根群の伸長は春季溫暖の候に於て始まり、春夏の生長期に於て最も甚だしく、秋冷となり漸く落葉するに到りて停止するものにして、翌春溫暖となり再生するまでの間に於ては全然生活作用を休止するにはあらざるも、殆んど伸長する事なきものなり。根群は又外界の諸作用により切斷せらるゝ時は、其切口より幾多の新根を分出するものにして、之れを自然に放任したるものと比較する時は、分布の状態著しく異なるものなり。而して根群の分岐と蔓延は即ち梢蔓を充實せしめ結實を促進するものにして、園藝家によりて實行せらるゝ移植・斷根等が往々にして必要な所以なりとす。

葡萄の根はフィロキセラと稱する一種の害虫の爲めに侵害せらるゝものにして、此蟲の害を被りたるものは細根の處々に一種の瘤状をなせる特別組織を形成するものなり、此瘤状物は即ちフィロキシセラの蟲癭にして、其組織中には多數の同幼蟲棲息す。被害の激甚なる根群に至りては此種の瘤状物非常に多く、當初は鮮黄色にして新根の外皮と異らざる著色なるも、漸次被害の度進むに従ひ黒褐色となり、遂に根部の大部分を枯死腐敗せしむるものなり。

然れどもフィロキセラ蟲は總ての葡萄樹を害するものにあらずして、或る種の品種に限り特に甚だしく、又中には全然本蟲の被害なきものもあるなり、「リパリア」・「ソロニス」・「ルベストリス」等に屬す

る種類は、何れも免疫性にして全然本蟲の被害なきものなり、此蟲の爲めに害されたる樹は漸次衰弱して充分な結實を見る事能はず、遂には枯死の状態に至る可きものなり、故に栽培家は一面に於て本蟲の防除に努力すると同時に、又一面に於ては被害少き品種を選択栽培し、或は全然免疫性なる種類を採りて砧木となし、接木法によりて苗木を養成する事も亦た極めて必要の事たらずんばある可からず。以上、葉・枝梢・花・果實・根群等に互り、葡萄樹の性質・特長等の大要を記述したるを以て、葡萄樹の如何なるものなるかは之れを了知するに難からざる可きを信ず、故に他の詳細なる事項は更に章を更めて記述する事となすべし。

第四章 品 種

第一節 分 類

葡萄の栽培品種は今日數百に及ぶも、之れが學術的分類は主として舊世界たる歐洲産に就てのみ行はれ、新世界たる米國種に關しては別に之れを分類するものありと雖も、統一的研究は極めて近年の事に屬す。而も今日我が國に於て栽培する品種の主なるものは、米國種又は其雜種なるが故に獨り歐洲種に就てのみ之れを研究するも、それは殆んど無意味のものご云はざるべからず。從來園藝學上より葡

葡萄を分類したるものは、主として果穂の大小・色澤・形状を基礎としたるも、其後に至り葉裏に於ける毛茸の有無、缺刻の多少を斟酌するに至れり。

歐洲種の分類は一八一〇年クリスト氏に始り、一八三八年フィンテルマン氏、一八四一年トルンマー氏、メッツゲル氏、一八七四年オーベルヒン氏、一八七五年ルカス氏等により、夫れ夫れ特徴ある發表を見、遂に今日に至りたるものなり。而して米國にては葡萄栽培、品種育成家として有名なるマンソン氏により、極めて綿密なる調査研究の上、植物分類學上の立脚點より、米國産葡萄並に米國にて栽培せるものにつき周到なる分類の發表せられたるものあり。

今参考の爲めマンソン氏によれる分類表を左に掲ぐべし。

葡萄屬 *Vitis*.

A 真正葡萄區 Section A. *Euvitis*.

一 大粒族 Group I. *Macrocarpae*.

A ラブラスシエー系 Series a. *Labruscae* Planchon.

- 1 ラブラスカ種 Species I. *Vitis Labrusca* Linn. (*V. taurina* Walt.; *V. palmata* Le Conte; *V. bracteata* Le conte.)
俗名 Fox Grape (Northern Muscadine; Swamp Grape.)

一般に米國葡萄と稱するもの大部分は此中に在り栽培品種として知られたる主なるものは

「チャンピオン」、「アイプス」、「アンバー」、「コンコード」、「ノートン」、「ハートマンキード」等なり

B コリアシエー系 Series b. *Coriaceae* Munson.

- 2 コリアシエー種 Species 2. *Vitis Coriacea* Shult. (*V. Shinnata* Don Mill.; *V. Labrusca* Linn. var. *typica ficifolia* Regel.)
俗名 Florida Grape (Leather-leaf Grape; Callosa Grape.)

- 3 カンズカニス種 Species 3. *Vitis candida* Engle. (*V. Mustagensis* Buckl.)
俗名 Mustang Grape.

- 4 ドアニアナ種 Species 4. *Vitis doaniana* Munson.
俗名 Don's Grape.

- 5 チャンピニ種 Species 5. *Vitis champini* Planchon.
俗名 Champin's Grape.

C エステキヅハニス系 Series C. *Aestivales* Planchon.

- 6a リンシクミー種 Species 6a. *Vitis Linsieuinii*; Buckley.

- 6b リンシクミーの變種 Species 6b. *Vitis Linsieuinii* var. *glauca* Munson (*V. Labrusca* Gray)

- V. Labrusca* var. *aestivalis* Regel.)
 俗名 Post Oak (Turkey Grape); Big Summer Grape. Sand Grape.)
 7 エロン種 Species 7. *Vitis bicolor* Le Cont. (*V. argentifolia* Munson.)
 俗名 Fall Grap (Blue Grape.)
 8 エステキヅハリヌ種 Species 8. *Vitis aestivalis* Michaux. (*V. vulpina* Poir.; *V. virginiana* Poir.)
 俗名 Pigeon Grape (Summer Grape.)
 9 シンブソニー種 Species 9. *Vitis Simpsoni* Munson.
 D ヅキニフエラ系 Series d. *Vinifera* Munson.
 10 ヅキニフエラ種 Species 10. *Vitis Vinifera* Linn.
 俗名 Wine Grape (European Grape.)

一般に歐洲葡萄を稱するは即ち此種にして、醸造用・生食用種中の主要なるものは本種を改良したるものなり、今其主なるものを記せば、「ブラック・ハンブルグ」・「フホスター」・「シードリング」・「マスカット」・「アレキサンドリア」・「グロー」・「コルマン」等なり、又支那種及び我が甲州葡萄の如きも此中に属す。

- II 小粒種 Group II Microcarpae.
 E シネラスセンテラス系 Series e. *Cinerascentes* Planch.
 11 ブランコイト種 Species 11. *Vitis Blancii* Munson (*V. Caribaea* Palm.)
 12 カリベア種 Species 12. *Vitis Caribaea* D. C.
 13a シネレア種 Species 13a. *Vitis cinerea* Engelm.
 13b シネレア種の變種 Species 13b. *Vitis cinerea* var. *Floridana* Munson. (*V. aestivalis* var. *canescens* Engelm.)
 俗名 Ashy Grape (Sweet Winter Grape.)
 14 ハランデキエリ種 Species 14. *Vitis Berlandieri* Planchon. (*V. monticola* Millard; *V. monticola* Engel.)
 俗名 Little Mountain Grape (Fall Grape; Winter Grape; Spanish Grape.)
 15 ヴーベキナ種 Species 15. *Vitis Baileana* Munson (*V. Virginiana* Munson.)
 俗名 Possum Grape.
 F コルデキソリア系 Series f. *Cordifoliae* Planch
 16a コルデキソリア種 Species 16a. *Vitis Cordifolia* Michaux.

- 16 コルデキフホリアの變種 Species 16b. *Vitis cordifolia* var. *Semiferrens* Munson. (*V. vulpina* Linn.; *V. vulpina* var. *cordifolia* Regel.)
 俗名 Winter Grape (Frost Grape); Sour Winter Grape.)
- 17 ルブラ種 Species 17. *Vitis rubra* Michaux. (*V. Palmata* Engelm.)
 俗名 Cat Bird Grape.
- 18 モンテキコン種 Species 18. *Vitis monticola* Buckley. (*V. rupestris* Gray; *V. vulpina*, Gray.; *V. Texana* Munson.; *V. Foexana* Planch.)
 俗名 Sugar Grape (Sweet Mountain Grape.)
- G オクシデンタリス系 Series g. *Occidentales* Munson.
- 19 カリフォルニカ種 Species 19. *Vitis Californica* Hook. (*V. Caribaea* Hook.)
 俗名 Northern California Grape.
- 20 ギルデキアナ種 Species 20. *Vitis Girardiana* Munson. (Southern California Grape.)
- 21 アリゾニカ種 Species 21. *Vitis Arizonica* Engelman.
- 22 トレネーゼ種 Species 22. *Vitis Treleasei* Munson
- H ブレコーセム系 Series h. *Precoeses* Munson.

- 23 ヴルピナ種 Species 23. *Vitis vulpina* Linn. (*V. riparia* Michaux; *V. odoratissima* Donn; *V. cordifolia* var. *riparia* Gray.; *V. vulpina* var. *riparia* Regel.)
 俗名 Riversida Grape (August Grape); Frost Grape.)
- 24 ロンギー種 Species 24. *Vitis Longii* Prince. (*V. Solonis* Hort.; *V. cordifolia* Solonis Latian.)
 俗名 Bush Grape (Sand Grape); Sugar Grape.; Woolly Riparia.)
- 25 ルベストリス種 Species 25. *Vitis rupestris* Scheele.
 俗名 Sand Beech (Sugar Grape.; July Grape.; Currant Grape.; Rock Grape.)
- 右ブレコーセム系に屬する三種は、フィロキセラ蟲に對し強耐性なるが故に砧木として常用せらるゝものなり、而して現今に在りては是等の雜種により更に強耐性なる幾多の品種を得たるのみならず、又強耐性にして而も優良なる果實を結實するもの數種を作出するに至れり、是等の品種は挿木法により容易に繁殖し得るものなるが故に、接木の繁雜なる手数を要せざるのみならず、接木法によりて受くる障害を除き得るものなり。今日歐洲にて Direct Bearer と稱するは、實に是等改良種の總稱なり。

B 擬葡萄區 Section B. *Pseudovitis* Munson (*Lenticellosis* Munson)

三 チリ、インプレセス族 Group III. Chiri Simplexes Munstn.

I マスカデキニア系 Series i. Muscatina Planch.

26 ロタンデキホリア種 Species 26. *Vitis rotundifolia* Michaux. (*V. vulpina* Gray; *V. vulpina* Ch. Pnan.)

俗名 Muscadine or Southern Fox Grape. (Bullace Grape; Bull Grape; Bullat Grape.)

27 マンソニアナ種 Species 27. *Vitis Munsoniana* Simms. (*V. rotundifolia* var. "Mustang" Chapman.)

俗名 Bird Grape. (Everbearing Grape.)

右表中10、11、12の三種を除けば、他は全部米國原産のものなり、現今世界に於て、生食用又は醸造用として廣く栽培せらるるものは「ヅキニフエラ」種及び「ラブラスカ」種の改良したるもの、若しくは兩種の交雜によりて作出したるものなり、彼の「アガワム」・「ブライトン」・「キャンベル」・「スージー」・「カトウバ」・「ハーバート」・「ナイアガラ」・「ダイアモンド」・「イサペラ」等は實に兩種の交雜によりて出來たるものなり。尙ほ今日米國種葡萄として栽培されつゝあるものの中には「エステグハリス」・「ウルピナ」・「ブルケニアナ」・「カンデキカンス」・「リンセクミ」・「ルベストリス」・「ロタンデキホリア」等の系統に屬するもの少なからず。

本邦に自生せる植物中葡萄屬の主なるものは左の五種とす。

サンカクヅル(ギヤウジヤノミズ) *Vitis flexuosa* Thunb.ケサンカクヅル *Vitis flexuosa* var. *rufo-tomentosa* Mak.ヤマブドウ *Vitis Coignetiae* Pulliat.エビヅル *Vitis Thunbergii* Sieb. et Zucc.アマエビヅル *Vitis saccharifera* Mak.

而して「甲州葡萄」・「堅下葡萄」・「聚樂葡萄」等は、何れも「ヅキニフエラ」種に屬するものなり。

第二節 品種選擇上の注意

今日全世界に存在する葡萄の品種は數百を以て數ふ可く、従つて各々其特徴を異にし、風土の如何、栽培の巧拙、用途等により、栽培す可き品種の選擇を異にせざるべからず、故に品種を説明するに先だち、茲に品種選擇上注意す可き二三の要項を記すべし。

一、風土の上より見たる品種の選擇 葡萄に適當なる風土に就ては其章下に於て詳述せる處なるが、一般に米國種及び其交雜種は、比較的廣き範圍に於て容易に成長結實す可く、其栽培容易なるものなるも、歐洲種に屬するものは、降雨少く氣候乾燥し、土地又石礫に富み、排水良好なる處にあらざれば好

成績を擧ぐる事能はざるなり。現今我が國に於て甲州葡萄其他歐洲種の比較的成績良好なる、山梨・山形・岡山・大阪等の産地が、何れも海岸を去る數里の山中にて、成長期間に於ける降雨少く、大氣の乾燥せる地方のみなるは、克く之れが消息を語るものと云はざる可からず。

二、地方人士の嗜好上より見たる品種の選擇 都會人士は一般に代價の高下に關らず品質良好なるものを欲するが故に、其附近に於て栽培するものは、主として品質良好なるものを選ぶべく、地方にありては成るべく安價ならん事を欲するが故に、品質よりも寧ろ收量の大きなるものを栽培せざる可からず、又葡萄の著色に對する嗜好も地方により異なるものにして、關西地方に於ては比較的黒葡萄を嗜好し、東京地方に於ては白葡萄を好むが如き傾向あるが如し。斯の如きは各地方に於ける小都市に於ても、亦た其傾向なき能はず、故に當業者は此點に注意し豫め品種を選擇する事肝要なり。

三、用途による品種の選擇 生食用としては果粒大にして色澤美麗、甘味多漿にして、一見人の味覺に快感を與ふ可きものを選ぶべく、醸造用にありては含糖分多く豊産にして且つ爽快なる香氣を有するものをよしとし、乾燥用種としては、今日無核種を賞用しつゝあり。本邦にありては未だ乾葡萄の製造意の如くならざるも、今後朝鮮及び滿洲に於ては此方面の研究大に必要な可きを信す。

四、自己の技倆より打算したる品種の選擇 栽培技術の幼稚なるものは成るべく栽培し易き品種を選ぶ可く、漸次研究と技術の上達するに従ひ品質良好なるものを選ぶがよし、而して熟達したる技術を有

し、地の利にしてよろしきを得んには優等なる歐洲種を選んで畢生の力を盡し之を栽培すべきなり。

五、園地の大小による品種の選擇 狭少の園地に於て極めて集約なる栽培をなすに於ては、幾分栽培困難なるも、品質良好にして高價に販賣し得らるゝものを選びすべし。之に反して大規模なる園地に在りては、成るべく栽培容易にして且つ豊産なるものを選びざるべからず。

右の外、都會の遠近、病蟲害の多少等より考察して、或は早生種を選ぶべく、或は品位上等のものを選ぶべく、或は輸送容易なるを選ぶ等、それ／＼充分なる考慮を必要とするものなれば、新に葡萄園を開設せんとするものは、豫め斯道専門家の意見を徴し、自己の技倆に反省して、よろしく品種選擇の標準を誤らざらん事を期せざるべからざるなり。

第三節 品種解説

數百數千を以て數へられつゝある品種の總てを、此處に詳細説明するは甚だ容易の業ならざるのみならず、一般栽培家の参考用としては寧ろ徒勞の事に屬す可ければ、本書に於ては最も普通にして、又最も有望なる數十種につき、之れが説明をなすに止めん。

一、アイヴス Ives. (L'brusca.)

のなり。

果穂中して圓筒形をなし粒粗著す。果粒は圓形にして中位、初め赤色なるも完熟して濃黒色となり、白粉を装ふ。皮は薄けれど剛く、成熟後長く樹上に置き雨に遭ふも果皮破裂する事なし。肉緊りて甘味に富むも奇臭あり、品質中位にして收量多し。生食醸造何れにも適す。九月上中旬成熟す。

樹は褐色にして節間稍々長く、葉は大き中又は小にして葉肉厚く薄き裂目を有し鋸齒尖らず、裏面に白き綿毛を多生す。樹は頗る強壯にして病害に犯さるゝ事なく、大栽培に適す。

二、アイオナ *Iona*. (*Labrusca*.)

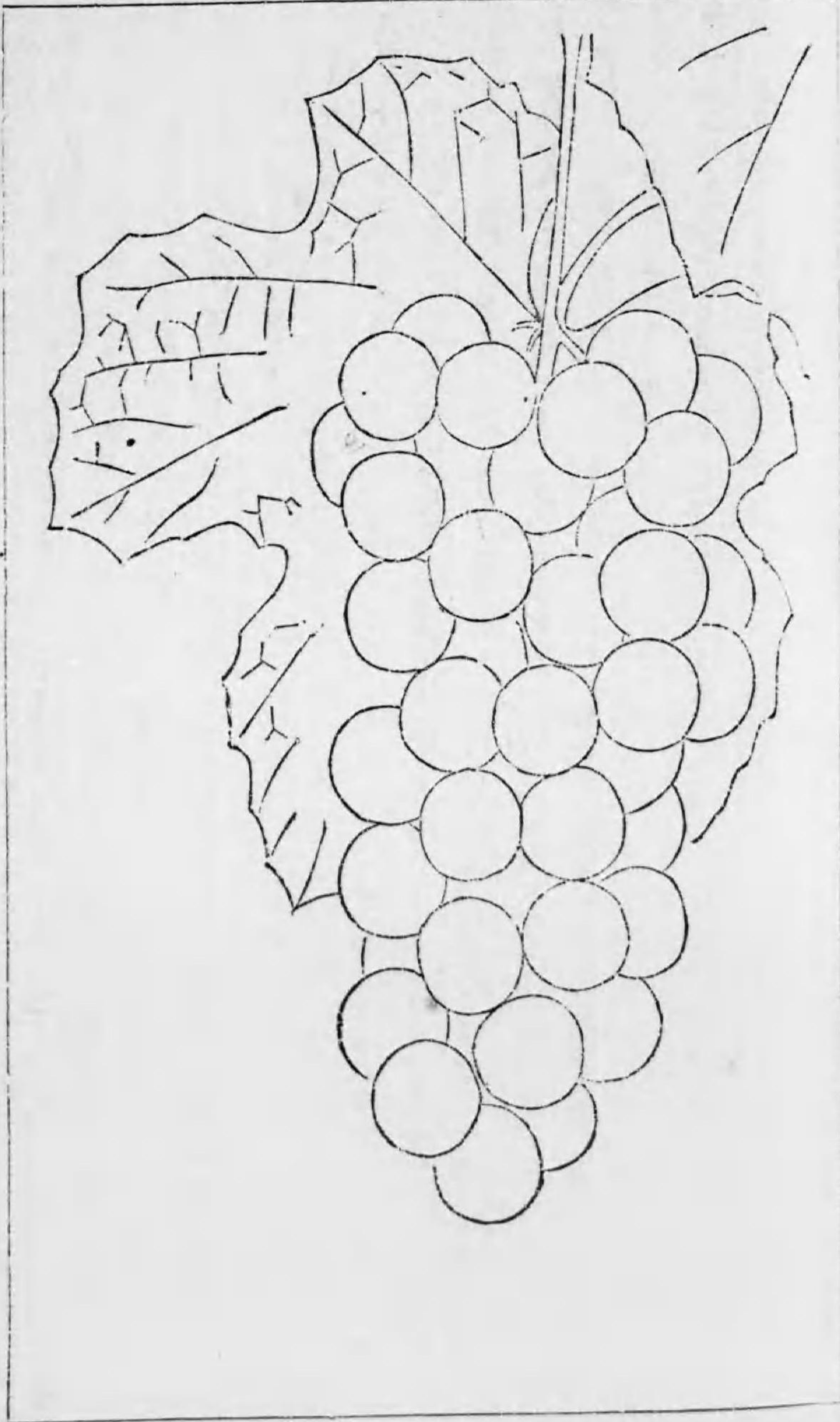
紐育州アイオナ、アイランドなるシー、ダヅリユー、グラランド氏により、ダイアナ種の實生として発見せられたるものなり。果穂中、粒亦中位にして稍々長し、熟して淡紅色となり白粉を装ひ、甲州葡萄の如き色澤を有す。皮薄く肉軟かにして甘味に富む。幾分奇臭を有するも生食用として品位上等なり、八月下旬より九月初旬に渡りて成熟す。

樹は淡褐色にして節間長く綿毛あり、葉は大にして厚く、薄き裂目を有す。裏面に綿毛多くして白色を呈す。樹勢強健なる方にあらず。

三、アジロンダツク *Adirondack*. (*Labrusca*.)

千八百五十二年紐育州エセックスなるポート、ヘンリー氏により発見せられたるものなり。イサペラ

第 九 圖 ア イ ヴ オ (約五分の四)



種の實生なりと云ふ。
 果穂圓筒形にて岐肩を有せず、果粒は中位圓形にして核子太し、熟して濃黒色となり白粉を装ふ。皮薄くして緊り甘味に富み酸味少く奇臭あり、「チャピオン」ハートフォード」種等の如く脱落せざる特點あり、醸造用として大栽培に適す。八月中下旬に成熟す。
 樹は褐色を呈し葉と共に白き綿毛を被り、頗る強健にして生長旺盛なり、葉は大にして厚く淺き裂目あり、病害に犯さるゝ事稀なり。

四、アール、オハイオ Early Ohio. (Lubrusca. x)

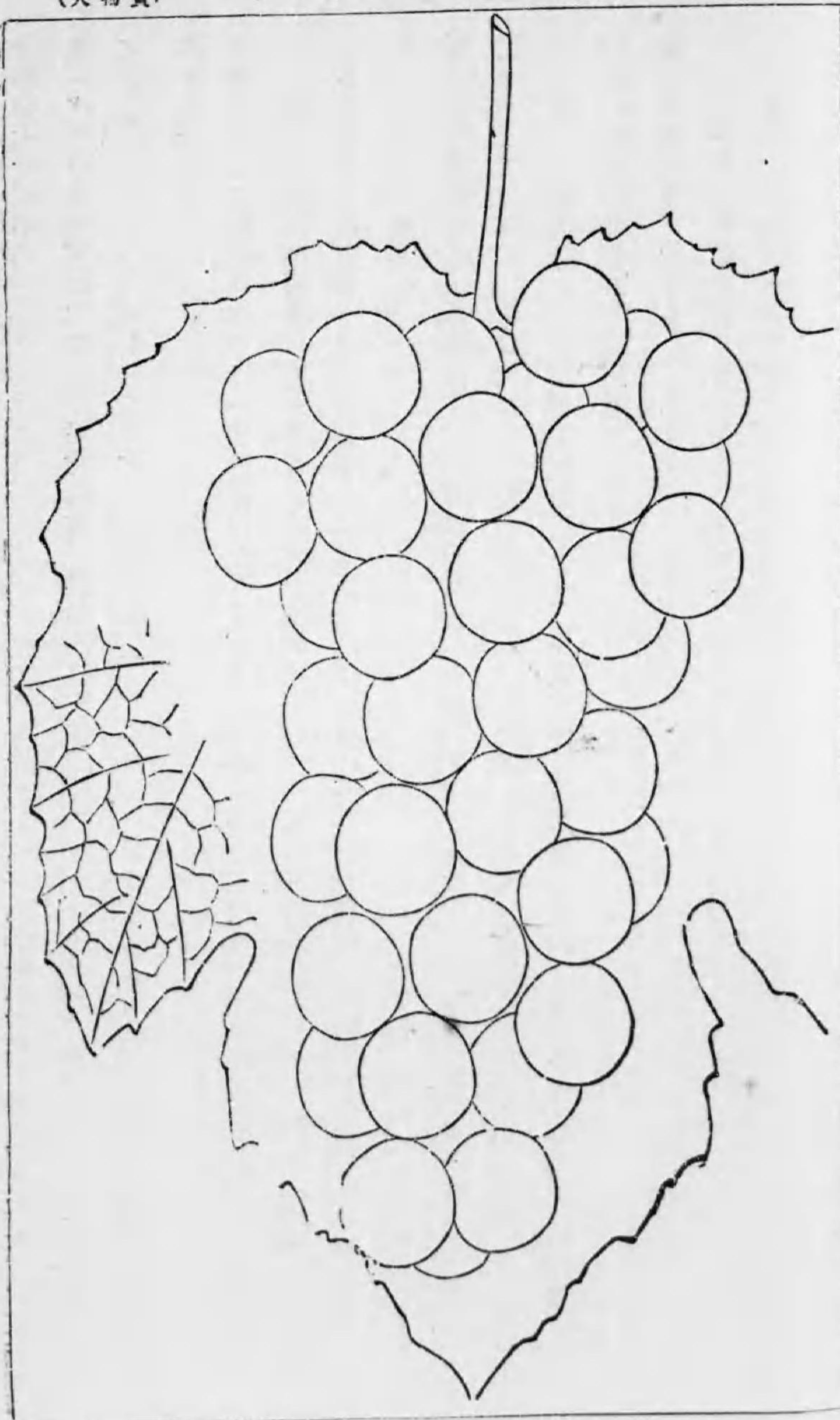
千八百八十二年オハイオ州ユークリッドなるアー、エ、ハント氏により發見せられたるものにして、「コンコード」と「デラウェア」の莖間に於て、自然雜種の結果出現したるものなり。果穂は大にして岐肩を有す。粒は圓形にして大さ中、熟して濃黒色となり白粉を装ふ。皮薄くして剛く肉緊りて甘味に富む。幾分奇臭あるも生食用としてよく、早熟種にして八月初旬採收する事を得。

樹は褐色にして節間短く綿毛多し、葉は中の大にして裂目なく裏面に多くの綿毛を有し白色なり。樹勢強健にして病害に犯さるゝ事少し。

五、アルンウィツク、シードリント Alnwick Seedling. (Lubrusca)

異名 Olive House Seedling; John Downie.

第 十 圖 クツダンロジア (大物實)



千八百七十六年アルンウイック、クライブ、ハウスに於けるベル氏に依り「クライ、ブハウス、シードリング」の名の下に、初めて果物協會に出品されたり、後アルンウイック、カストルに栽培され、爾來「アルンウイック、シードリング」と稱するに至れり、「ブラック、モロッコ」種と他の黒色種との雜種なりとせらる。

果穂大にして肩張り多くは一穂二體に分たる、花の雄蕊は外方に彎曲し、果粒密ならず、果梗は長くして強く、粒は卵圓形にして果梗との付目明かに區分せらる、濃紫黒色にして果皮厚く強靱青粉を裝ふ果肉緊りて周圍赤く核子は大きなり、完熟すれば甘味に富み、香氣高く爽快なり、「ブラック、モロッコ」に似たる點多し。

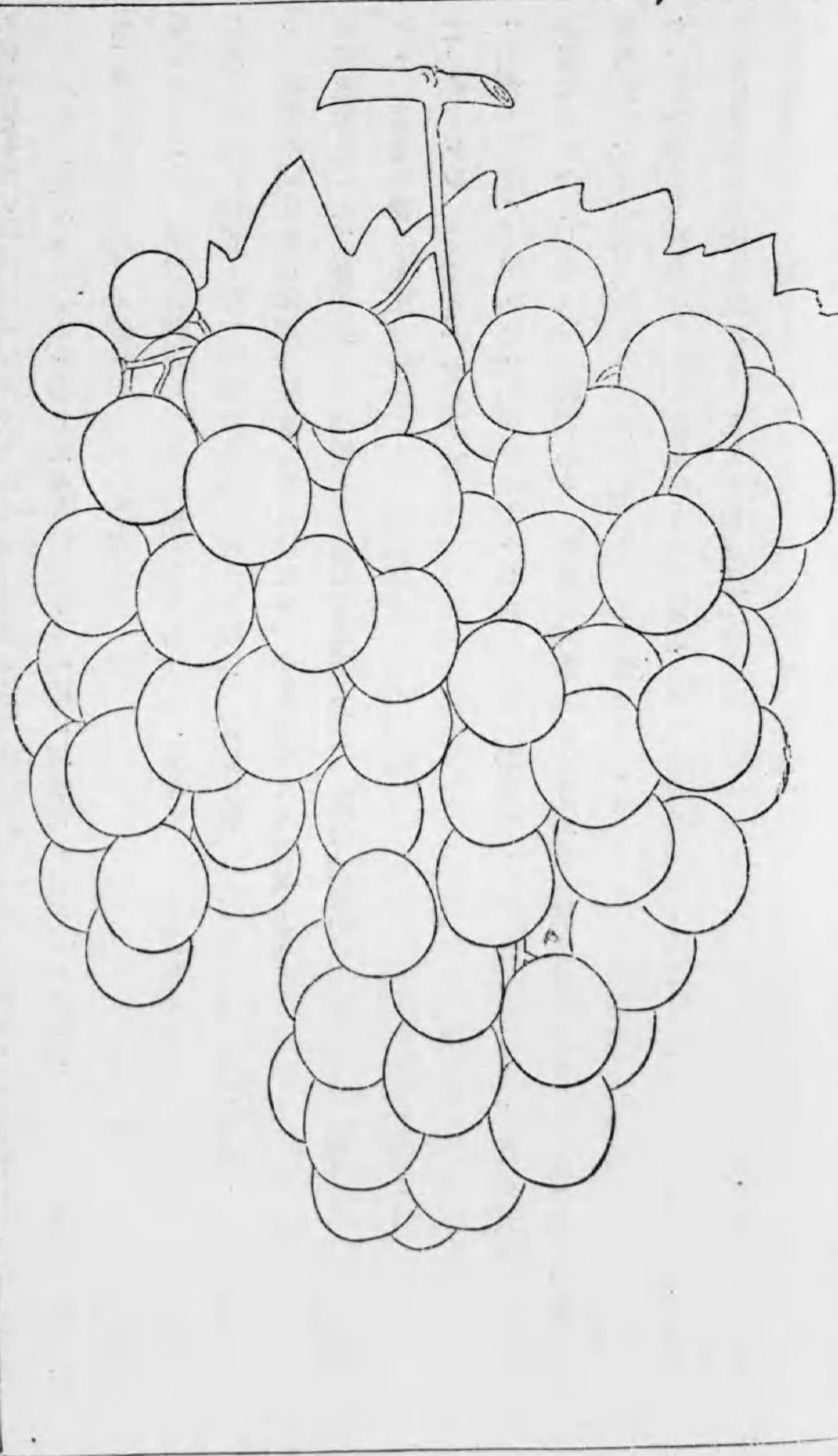
樹は甚だ強健にして節間長く、幼梢は平滑にして赤色を帯び、成熟したる枝梢は赤褐色にして硬く、芽は大にして尖れり、葉は大にして濃綠色をなし、鋸齒深く皺多し、黃變して落葉す。晩熟種にして甚だ豊産、外觀美麗にして市場用に適するも、品質は寧ろ第二位に屬す。雄蕊外曲し自花受粉困難なるが故に混植の必要あり、注意すべし。

六、イサベラ *Isabella* (*Labreca* x *Vinifera*?)

異名 *Paig's Isabella*; *Woodward*; *Christie's Improved Isabella*; *Payne's Early*; *Sanborton*.

千八百十六年南カロリナ州ドーチエスター附近に於て偶然實生により發生したるものにして、ブロー

第 十 一 圖 アウソクツ・シドーリグ (約三分二)



クレーなるイサペラ、ギブス夫人によりて北部に移され、ウイリアム、ブロンズ氏同夫人より得たるを以て、「イサペラ」と命名したるものなり。一般に純然たるラブラスカ族なりとするも、マンソン氏に據れば歐洲種との雜種なりとの事なり。

果穂は大き中、果粒は稍々大にして圓形なるも少しく長味あり、果皮は紫紅色にして厚く、果肉緊りて稍々奇臭あれども亦た歐洲種特有の佳香を交ふ。品質中位、核子大なり、甚だ豊産なる晩熟種にして、成熟不同なるは本種の缺點とする處なり、十月初旬より採收し得。

樹は淡褐色にして節間長し、樹梢・葉莖共に綿毛を被る。葉は淡綠色にして大きく、厚くして淺き裂目あり、葉裏は綿毛を装ひ白色なり、成長旺盛にして「コンコード」種と區別する事困難なり。

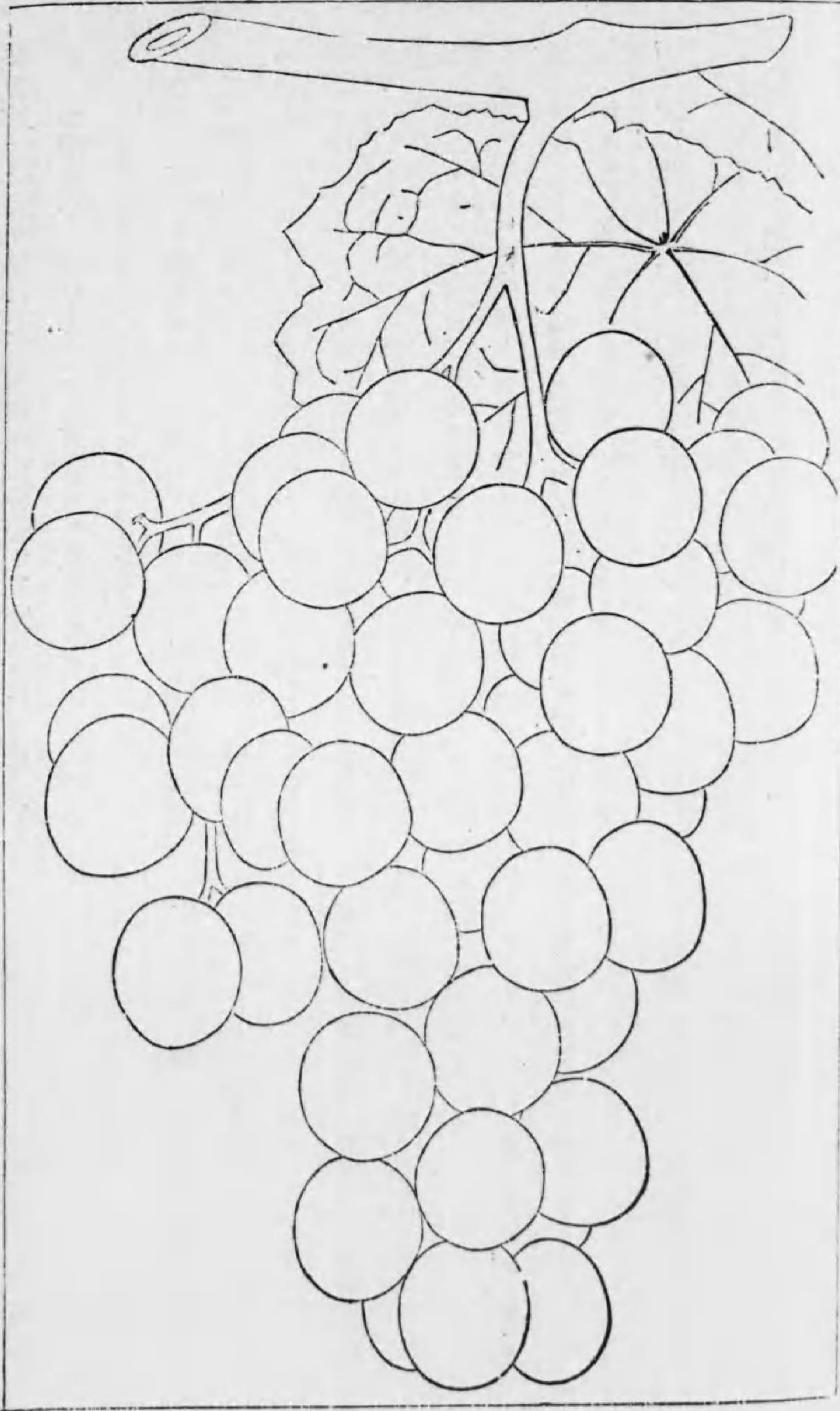
七、イートン (Eaton. (Tabraca.))

マサチューセッツ州コンコードのイートン氏により、培養せられたる「コンコード」種の實生なり。

果穂は頗る大にして大なる岐肩あり、果粒も亦最大にして圓く直徑八分に餘り、稍々密着す。熟して紫黒色となり白粉を装ふ。皮薄く肉軟かにして液多し、「コンコード」に似たる奇臭あるも甚だしからず、品質稍々上、豊産なるも成熟期に及んで降雨ある時は果皮破裂すること「コンコード」種よりも甚だしきは本種の最大缺點とす。九月下旬成熟す。

樹は暗褐色にして節長く「コンコード」種に類似す。葉は大にして厚く裏面に綿毛ありて白色なり、樹

ラ ペ サ イ 圖 二 十 第 (四の分五約)



勢強健、發育旺盛にして乾燥地に栽培する時は成績良好なり。

八、カタウバ *Catawba*, (*Labrusca* x *vinifera*.)

異名 *Red Muncy*, *Catawba Toky*; *Cingleton*;

千八百一年、米國北カロリナ州カタウバ河に近き林中に於て、マーレー氏に據り發見せられしものにして、千八百十六年メリーランドに移植せられ、千八百二十三年コロンビアの苗木商ジョン、アドラム氏が「トローケー」なる名の下に發表したる古き著名の品種なり。

果穂は中の小にして果粒は稍々大少しく卵圓形にして密著す。成熟すれば暗赤色となる、果皮厚く肉柔にして甘味に富むも奇臭強きを缺點とす。生食醸造何れにも適す。頗る豊産にして八月下旬成熟し、長く樹上に置くも脱粒又は果皮破裂するが如き事決して無きは本種の特徴なり。

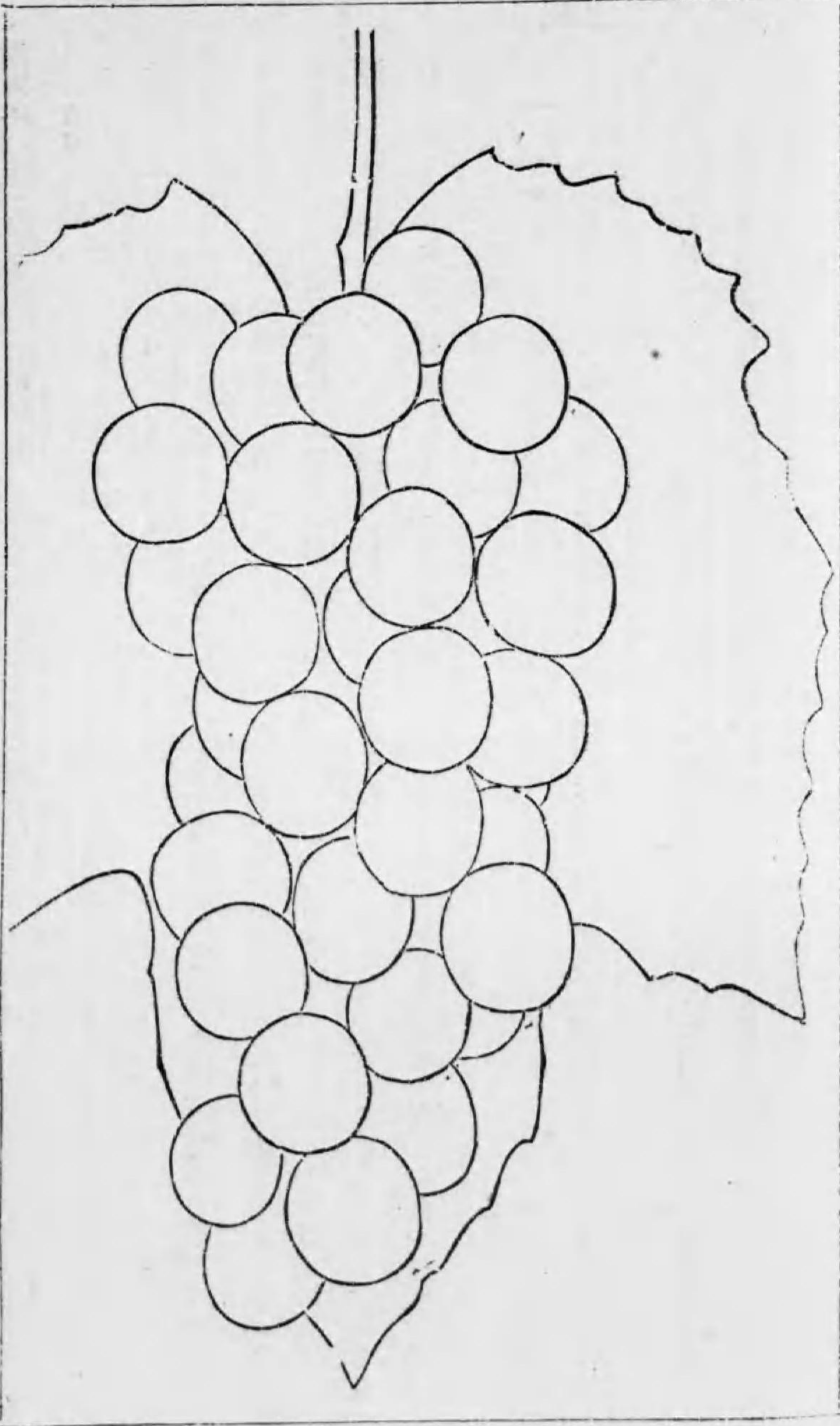
樹は褐色にして節間稍々長く、葉は大にして餘り深かゝらざる裂目により正しく三片に分たる。樹勢頗る強健にして生長迅速、病害に犯さるゝ事無きが故に、暖地に於て大栽培をなすに適す。

九、カステラ *Castella*. (*Vinifera*.)

葡萄牙の原産にして、樹勢・果實共に「ジンフ・ハンデル」に類するも、品質・收量共に本種の優れるを見る。

一〇、キャンベルス・マーリー *Campbell's Early* (*Labrusca* x *Vinifera*.)

第 三 十 三 圖 カ タ ウ バ (大物貨)



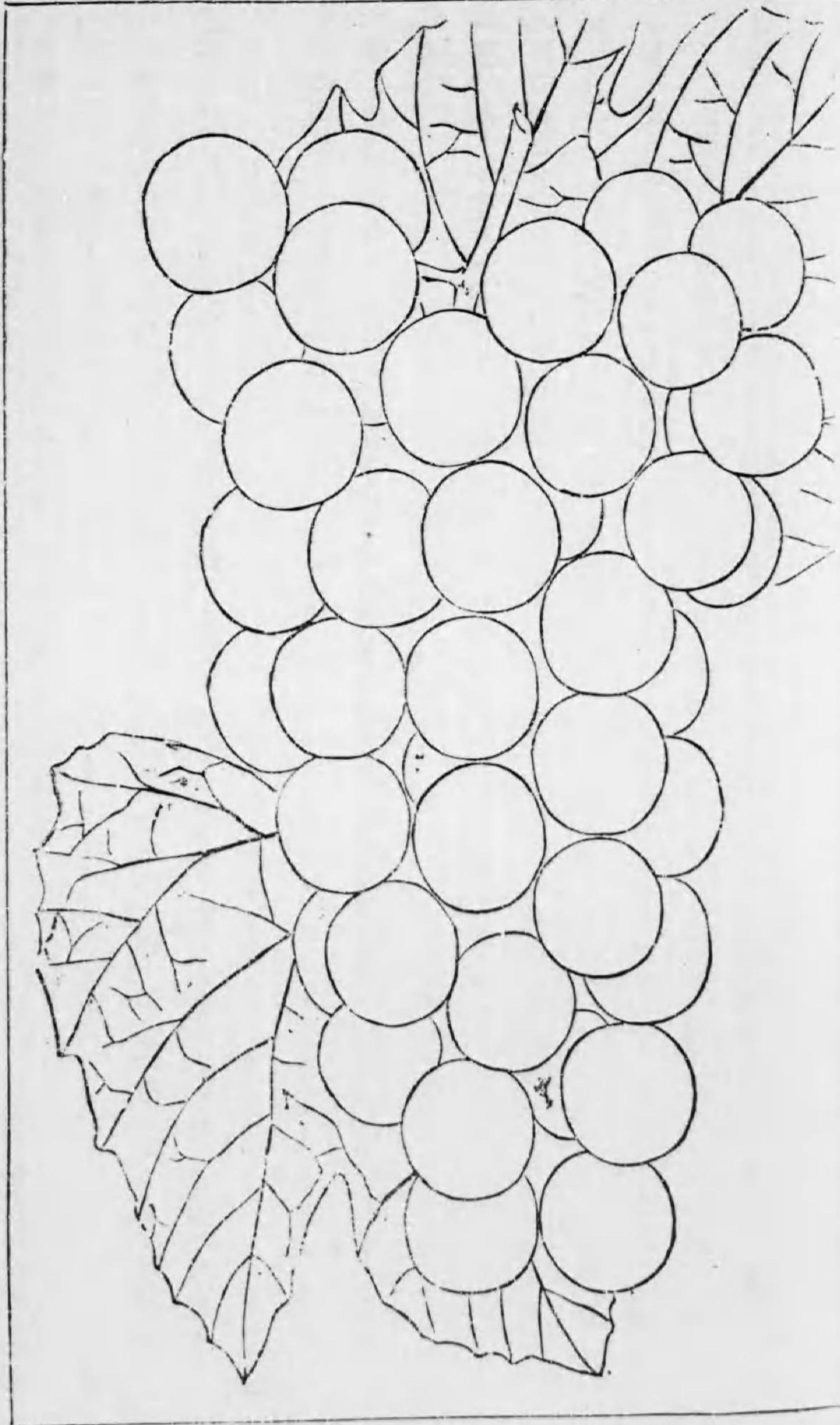
米國オハイオ州デラウェアなるジョージ、ダヴリユ、カンベル氏が、「ハートフホード」¹、「コンコード」²。「ムアース、アーリー」及び「マスカット、ハンブルグ」等を交雜して得たる新種にして、千八百九十四年始めて發表されたるものなり。

果穂大にして岐肩あり、果粒最大にして圓形稍々密著す。果皮濃黒色にして厚剛、白粉を装ふ。肉質緊り頗る甘美にして酸味少し、僅に「コンコード」の如き奇臭あるも品質上等なり、早熟種にして八月中旬成熟す。永く樹上に置ても降雨の爲に外皮破裂し又は脱粒する事なく、生食用として遠地の輸送に適す。樹は褐色にして少しく綿毛を被る。葉莖は淡紅色にして綿毛あり、葉は大にして厚く、深き裂目を以て三片に分たれ、各片に淺き純鋸齒狀の缺刻あり、葉裏には多くの綿毛を被り白色を呈す、樹勢強健にして大栽培に適す。

一、カナダ Canada. (Liparia. x)
 アーノルド氏が「クリントン」³と「ブラック、セント、ベートル」種との交配によりて作出したるものなり。

果穂中にして「ムアース、アーリー」種より稍々大なり、果粒は之れよりも稍々小なり、熟果は黒色にして白粉を装ふ。果皮薄く肉軟かにして品質上等、豊産にして九月上旬熟す。
 樹は褐色にして堅く、節間長くして綿毛あり、接續的卷鬚を有す。葉は大にして厚く、裂目なく殆ん

（二の分三約） ーリーア・スルペンテ 圖 四 十 第



ど圓形にして先端尖り、裏面に綿毛多く白色を呈す。成長旺盛なり。

①ニ、ガヴハナー、ロツス Governor Rose. (Labrusca. x)

マンソン氏の發見せる「トライアンフ」種の雜種なり。果穗大果粒も亦大にして稍々粗著す。幾分橢圓形なり、熟して白黄色となる。果皮厚剛、肉質軟かにして少しく緊り奇臭あるも強からず、品質上等にして歐洲種の如し、生食用として歡迎せらる。九月上旬に成熟す。

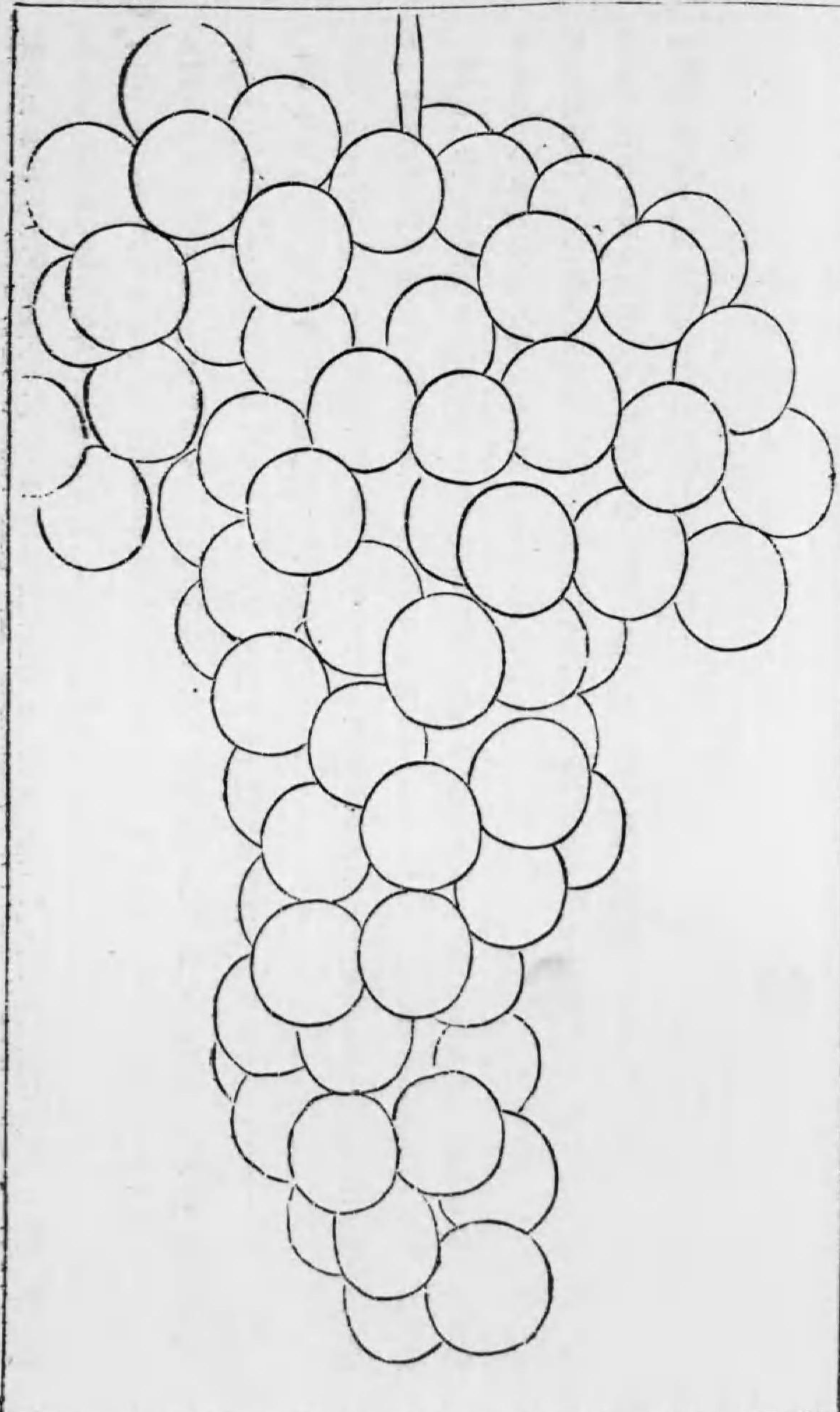
樹は暗褐色にして節間短く滑かなり。間絶的卷鬚あり、葉莖は青色にして僅に綿毛あり、葉は小にして薄く淺き裂目あり、周邊鋸齒状をなす。樹勢强健、成長旺盛にして豊産なれば、市場用として大栽培に適す。

②三、カールマン Carman. (Lirioemii x Labrusca x Vinifera.)

本種の發見者たるマンソン氏は、「ブレミア」と「トライアンフ」種との雜種なりと云へり。然れども又「ポストオーク」と「ハーベモンド」の雜種ならんとの説もあり。

果穗は頗る大、時として二百枚以上に達する事あり、大なる岐肩を有し粒密著す。果粒は大き中、圓形にして成熟すれば濃黑色を呈し、厚く白粉を装ひ美麗なり、果皮は稍々厚剛、肉質緊り甘味に富む。多少奇臭あるも「コンコード」に比し品質遙に優る。核子は肉と離れ易く、米國種中品位上等の部類に屬す。九月上中旬成熟するも永く樹上に置きて外皮破裂し又は脱粒する事なし、生食醸造何れにも可なり。

第 十 五 圖 カ ル マ ン (約三分二)



樹は赤褐色にして節間稍々長し、葉莖は淡紅色にして梢條と共に綿毛あり、葉は大にして厚く淺き裂目あり。裏面に綿毛を被る。樹勢強健、生長旺盛なり。

③ 一四、グリーン・マウンテン (Green Mountain. (Labrusca. x Vinifera x Bourguigniana.))

米國ヴェルモント州グリーン、マウンテンに於てポール氏の發見せる偶然雜種にして、コンネクチカット州ニュー、カナンなるステフエン、ホイット氏により擴布されたるものなり、マンソン氏によれば「ナイヤガラ」と「デラウエア」種の雜種ならんと云へり。

果穂は中又は小にして紡錘形をなし、果粒小にして圓形なるも少しく卵形を呈す。熟して綠白色となり、果皮稍々厚く果肉は柔軟多漿、甘味に富み酸味少く、品質上等なり、最早熟種にして八月上旬採收に適し、微に奇臭あるも生食用として品質良好なり。收量差までに多からざるも、最早生なるが故に價格高く、營利的栽培種として收益大なるものなり。

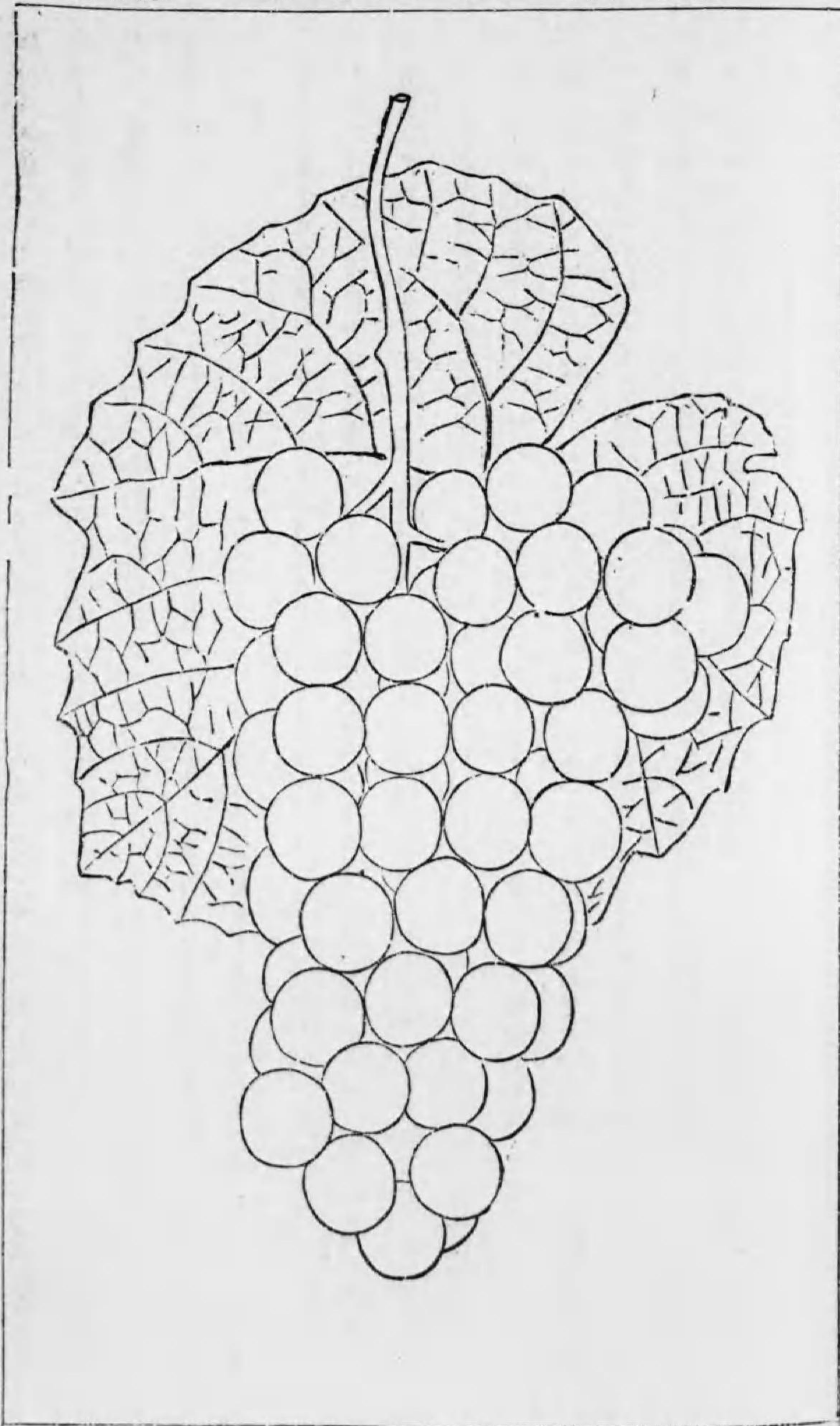
樹は淡褐色にして細く節間稍々長し、葉は稍々大にして裂目無けれども、稀に淺く裂けたるものあり、葉裏に綿毛を被り白色なり、樹勢強健、病害に犯さるゝ事なし。大栽培に適す。

一五、グロー・ローマン (Gros Colman. (Vinifera.))

異名 Gros Colmar; Gros Colmar; Dode'ahi.

千八百六十一年佛國アンジエーなる、レ、ロイ氏の手によりリパースに送られたるが、英國に於ける

第 十 六 圖 一 第 一 種 ン テ ン ウ マ ・ ソ ー リ グ (大 物 質)



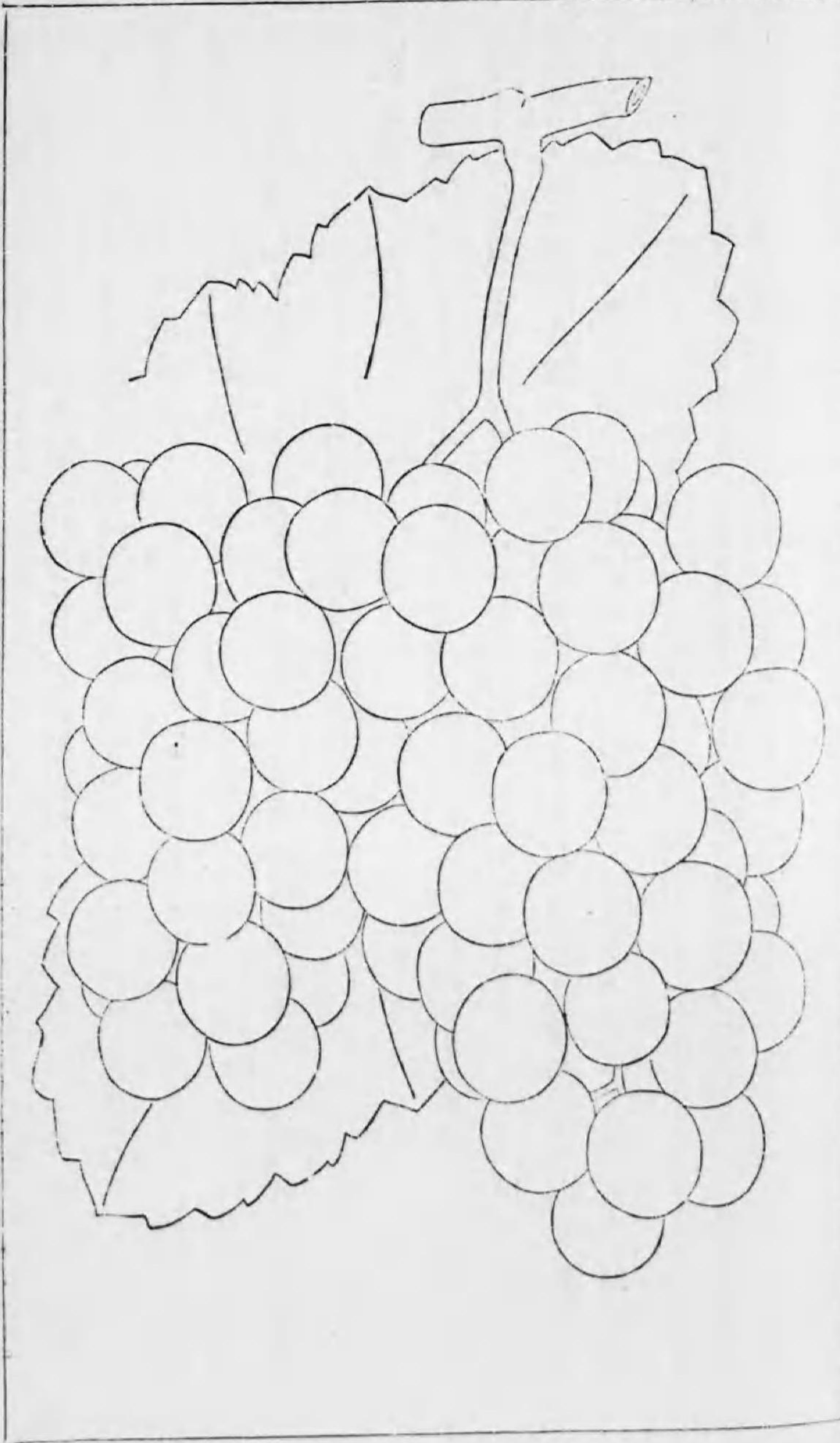
最初の記録なり、爾來屢々アスコットなるスタンディツシエ氏によりて、南ケンシントンに出品せられ、其壯美なる外觀が大に世人の注意を引きたり。其後數年を経てダブリユール、トーマス氏が市場用として推擧するに至りてより、廣く栽培分布せり。

本種の名稱「グロー、コールマン」は千八百六十年佛國レロイの目錄に記載せられ、千八百七十八年十二月發行ジョーナル、オブ、ホーチカルチュアリーに次の如き記載あり。

千八百五十八年發行アンノネーのズヤクエルメートル、ボンネフホントの目錄には「グロー、コルマー」として、又千八百五十二年發行ド、バペーの目錄には「グロー、コールマン」として記載せられたり。

獨逸のドクトル、ホツグ氏に據れば、獨逸にては一般に永年間「グロー、コルナー」(Gros Kolner)として知られたり、而して佛國の「グロー、コールマン」・「ゴールマン」・「コルマー」等は此の訛なり、ホルベス氏は本種は「ドドレラビ」と呼ばるゝコーカサスの原産なりと報告せり。ホルベス氏により輸入せる「ドドレラビ」種は、千八百九十一年シスウイックに於て結實せり、其產品は果物協會に於て「グロー、コールマン」と同種と目されたり、故に「ドドレラビ」は本種の最古にして、又最も正しき名稱なり。ハンガリーに於ては長く Okoszm として、又獨逸にては Ocksenauge として知られたり。ホルベス氏によれば、前記ホツグ氏の説の如く Colman は Colner の訛にして、此の Colner は果粒の華美なる果粉を暗示せる語 Kohnle より來れるものなりと云ふ。

第 七 十 圖 グ ・ コ ル マ ン ー ー マ ル ン (約 三 分 一)



果穂は大にして中には四百八十粒に達するものあり、短くして幅廣く、常に大なる岐肩ありて肩張れり、果梗は長くして甚だ強し。果粒は甚だ大にして圓形直徑一寸に達するものあり、果皮厚く強靱にしてよく手指を以て之れを剝離し得。完熟すれば眞黒色となり、果肉は硬くして粗なり、香氣少く品質優良と云ひ難きも、完熟したるものは甘味に富み、晩熟種にして久しき貯藏に堪へ、硝子室に於て抑制栽培となすに缺くべからざる品種なり。

樹は生長旺盛にして強健なり、白褐色にして節間短く、葉莖・葉裏共に綿毛あり、葉は大にして幅廣く淺き裂目あるものあり、早秋銹色となり暗褐色に變ず。

一六、甲州 (Vinifera)

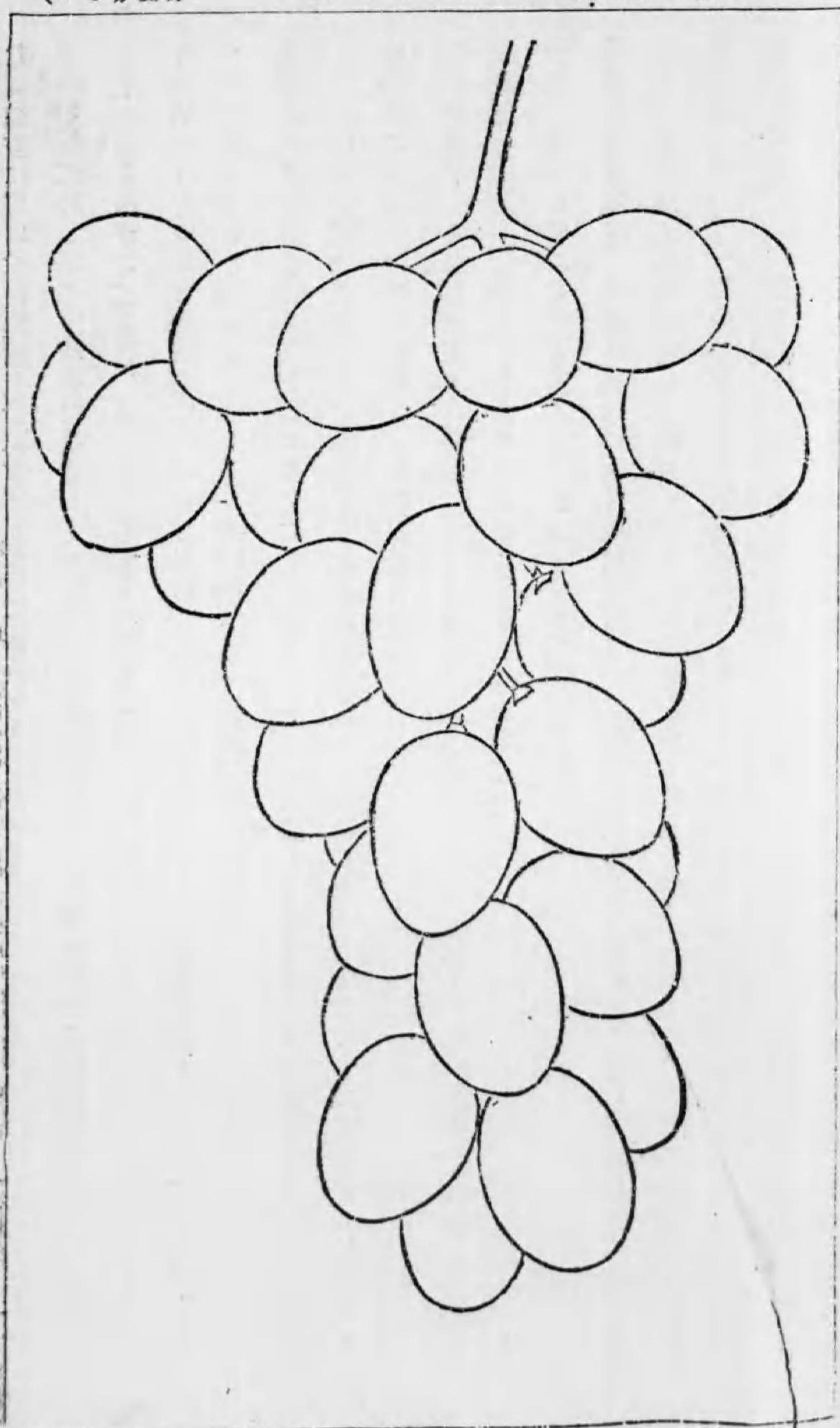
我が山梨縣東八代郡祝村大字上岩崎に於て發見したるものにして、歐洲種と其系統を一にす。

果穂大にして岐肩を有し到圓錐形をなすものと岐肩なく長橢圓形をなすものとあり、果粒大にして橢圓形をなし稍々疎著す。成熟したるものは鮮紫紅色にして白粉を裝ひ、半透明にして頗る美麗なり。

果皮厚剛にして長く樹上に置ても破裂する事なし。肉軟かにして漿液多く核子と離れ易し、頗る甘味に富み生食として最もよし。晩熟種にして十月中旬に到り登熟す。

樹は赤褐色にして滑かく節間長し、卷鬚は間絶性にして甚だ不規則なり、葉莖は長くして赤褐色之れ又平滑なり、葉は大にして淺き裂目あり、表裏共に平滑なり、樹性强健にしてよく生長するも、多濕

第 十 八 圖 ゴ ー ル デ ン ク ン (約 五 分 の 四)



なる地方にては、白澁病・炭疽病等の爲めに害さるゝ事大なり。

近時甲州三尺と稱し房穂甚だ長大にして淡紅色なる逸品あり、品質甲州の上位に在り。

レ一七、ゴールデン、クヰン Golden Queen (Vinifera.)

千八百七十八年英國園藝會にて公認せられたるものにして、バーゾン氏が「フハージナント、ドレセツプ」種と交配したる「アッカント」種の實生より發見したるものなり。

果穂は大き中、長くして先端に到るに従ひ細く、果粒は大にして粗著す。長卵圓形なり、熟して黄色となり白粉を裝ひ美麗なり、果皮厚く果肉は柔軟にして甘味に富み、優品として推稱するに足る。

晩熟種にして十月中旬成熟す。温室栽培によし。

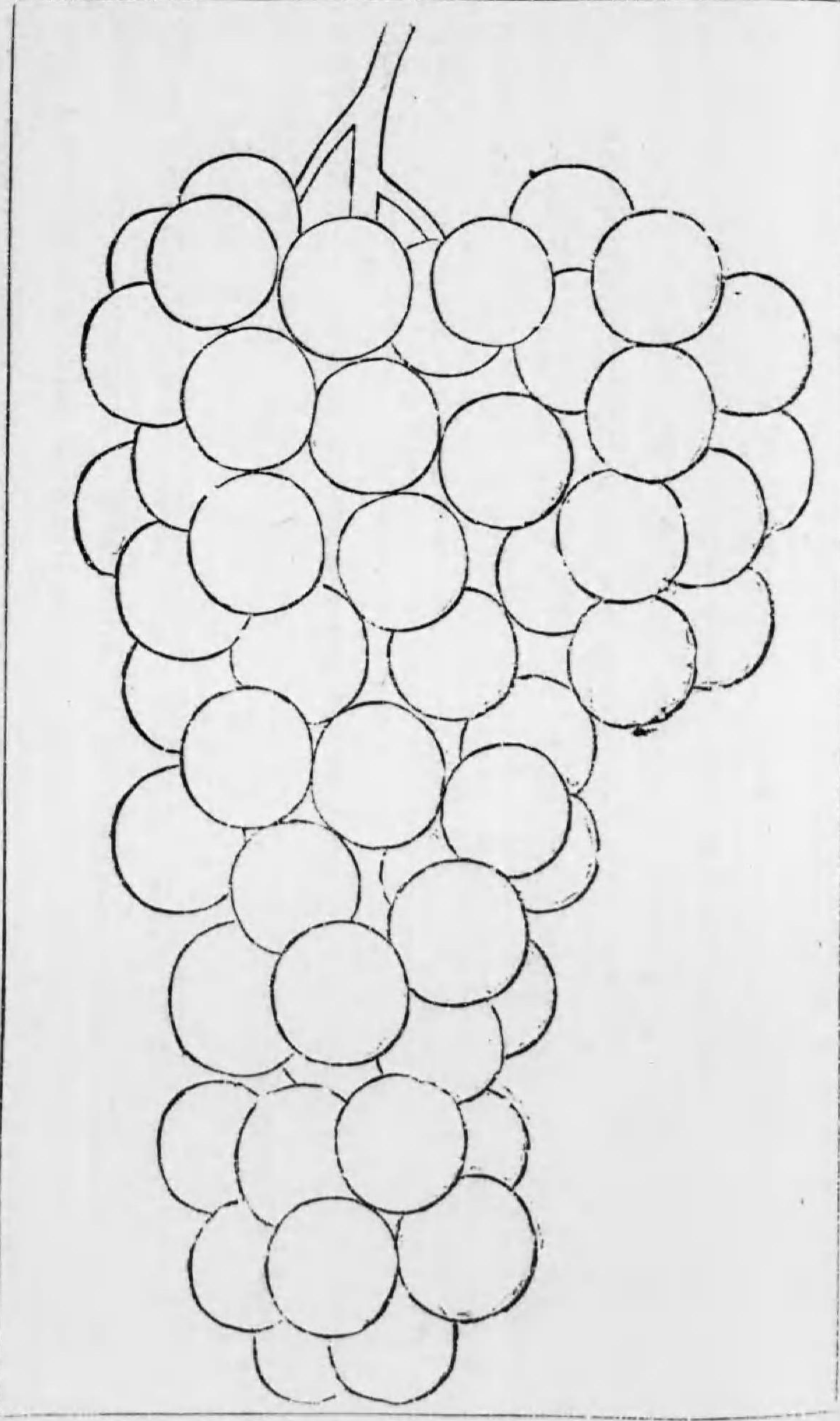
樹は淡黄色にして節間長く、強健にしてよく仰長す。葉は大にして廣く、深き鋸齒を有し、晩秋まで濃綠色を保持す。少しく注意せば露地にて栽培し得。

レ一八、ゴールデン、シヤスラ Golden Chasselas. (Vinifera.)

佛國の原産なり。果穂は巨大にして岐肩を有す。果粒は中位にして疎著す。熟して濃黄色となり美麗なり、果皮厚く肉軟かにして極めて甘味に富み酸味少し。永く樹上に置く時は自然に萎凋して皺縮し乾葡萄となる。一種の佳香を有し品質極めて上等なり。八月中下旬の頃成熟す。

樹は白褐色にして節間短く、葉莖には絨毛多し、葉は大にして裂目あり、裏面に綿毛を被る。樹勢強

第 十 九 圖 コ ン コ ー ド (約 五 分 の 四)



健なるも降雨多き時は病害に犯さるゝものなり。

⑥ 一九、ゴールデン、チャンピオン Golden Champion. (Vitifera.)

果穂は大にして又大なる岐肩あり。果粒頗る大にして稍々楕圓形なり、登熟すれば白黄色となり美觀を呈す。果皮は稍々厚く肉質緊りて甘味に富み、生食用として有望なるものなり。最晩熟種にして十月下旬に至り成熟す。

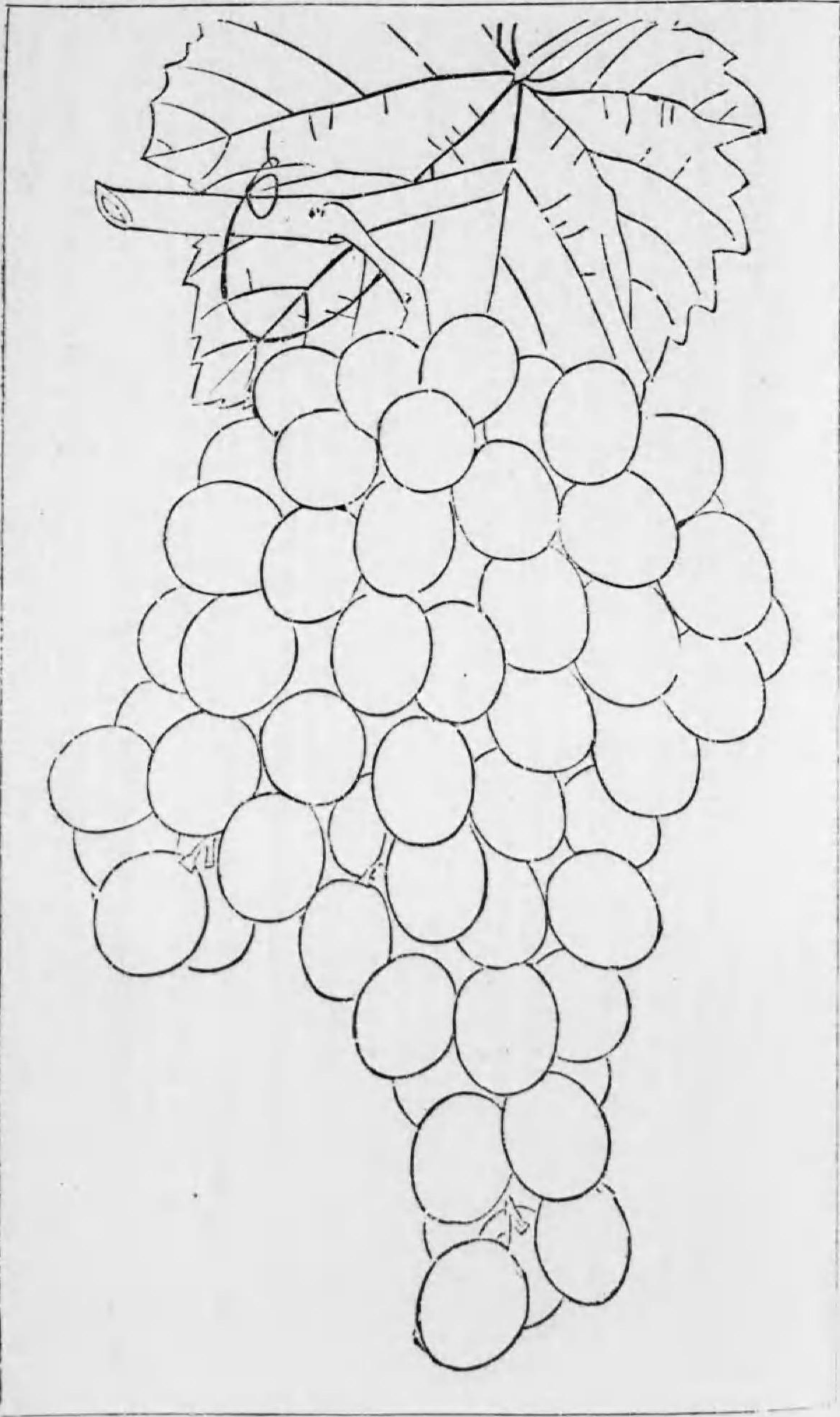
樹は白褐色にして節間短く滑かなり、葉莖は青くして平滑、葉は稍々小にして薄く裂目あり、周圍に尖鋭なる小鋸齒あり、葉裏は平滑にして幾分光澤あり、樹勢強健にして生長迅速なり。

二〇、FANEIT Concord. (Labrusca.)

米國マサチューセツツ州コンコードなるエフライム、ダブリュー、ブルル氏の發見せるものにして、千八百四十五年野生葡萄の種子を播下して得たる第二世代中の最優良なるものなり、其後千八百五十二年ポストン市に於て開催したる、マサチューセツツ園藝共進會に於て始めて公表されたり。爾來ツッキー山脈の東部地方に於て著しき速力を以て擴布されたるなり。

果穂は中の大にして岐肩あり、果粒は稍々大にして圓形、熟して濃紫黒色となり、白粉を裝ひ美觀を呈す。果皮薄く果肉は柔軟多漿にして甚だ甘味に富むも亦奇臭強く良品と云ひ難し、一穂中の果粒一様に成熟せず、又成熟期に降雨ある時は果皮裂開し、粒脱落するもの多し。九月上中旬頃成熟す。

（四の分五約） 一ノボヤシ 圖十二第



樹は赤褐色にして節間長く、葉は裂目殆んどなく、裏面に厚く綿毛を被り、白き中に稍々赤味を帯ぶ。樹勢強健、成長迅速にしてフキロキセラの侵害に抵抗する力強きが故に、砧木用として賞用せらる。本種は頗る豊産にして、果粒には汁液多く甘味なるが故に醸造又は果汁搾取用として栽培せらる。

二二、シャールボノー Charbonneau (Vitifera)

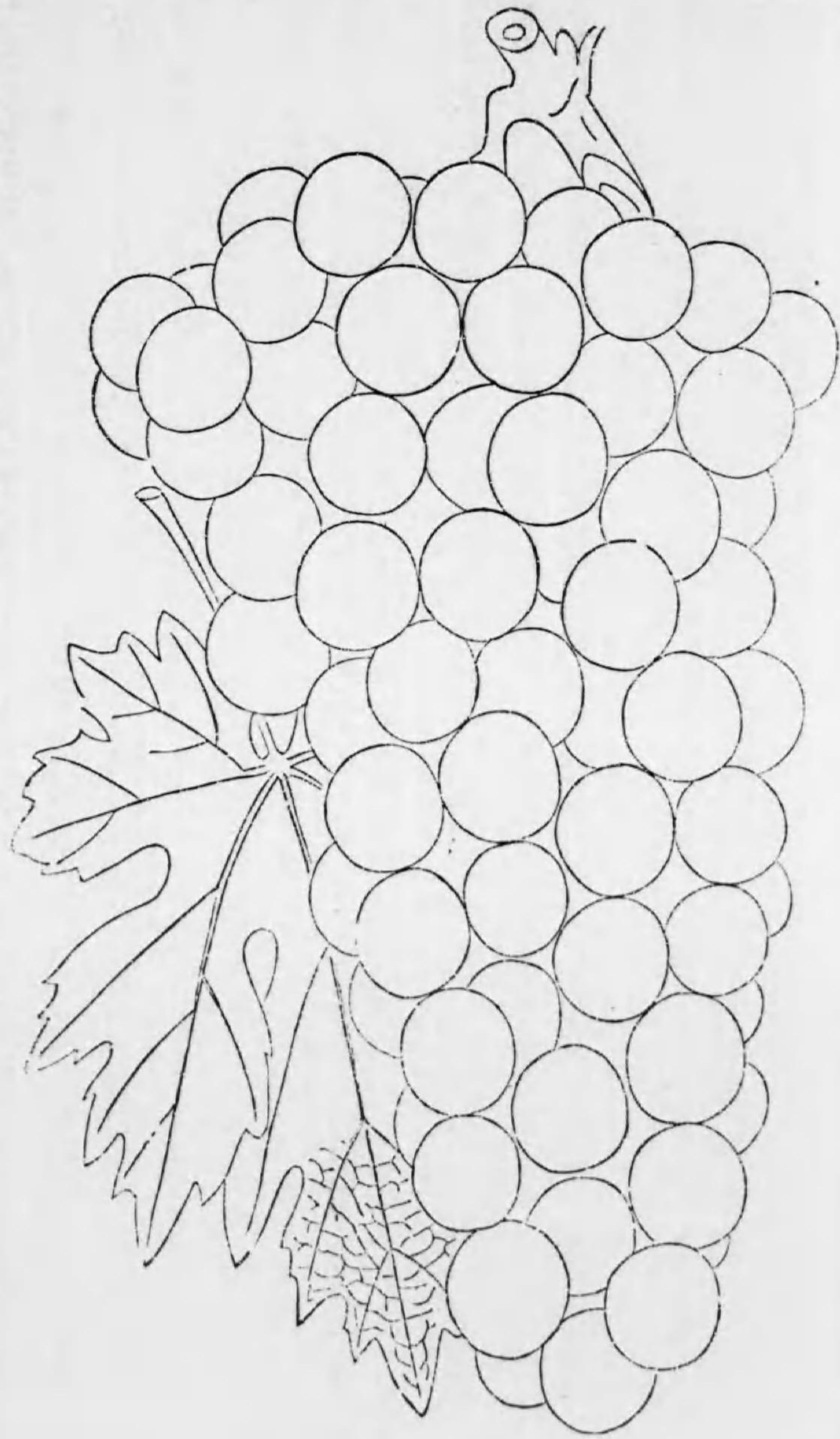
佛國の原産なり。果穂は中の大にして大なる岐肩あり、果粒は大きさ中、均一にして稍々橢圓形なり。熟して濃色となり、白粉を装ひ甚だ美麗なり。果粒は稍々密著し果梗短し。果皮厚く肉質軟にして甘味に富み、酸味少く品質上等なり、生食に適し又赤酒の醸造に用ひらる。收量多からず、九月上中旬成熟す。樹は帯赤褐色にして節間稍々短し。葉は稍々圓くして厚く、時に裂目あるものあるも極めて淺し、周邊鋸齒状をなす。

二三、シャスラド、フオンテンブロー Chasselas De Fontainebleau (Vitifera.)

歐洲の原産なり。果穂中にして果粒中の大、圓形にして黄青白色なり。果皮薄くして軟かなり。肉質柔軟にして漿液に富み、酸味少く甘味に富む。品質上等、收量稍々多く、生食・醸造及び乾燥用としてよし、早熟種にして八月中下旬熟す。有望種なり。

樹は赤褐色又は淡褐色にして微細なる黒點あり、葉莖と共に平滑なり、葉は大きさ中位にして薄く裂目あり、裏面に絨毛あり、樹勢強健なり。

第 二 十 一 圖 ヲ フ ン ジ ハ デ ン ル (約 五 分 の 三)





二三、シャスラー、ローズ、フォンテンブロー Chasselas Rose Fontainebleau. (Vitifera.)

佛國の原産なり。果穂は大きさ中、果粒又中にして圓く、熟して鮮紅色となり、甚だ美麗なり。甘味強く頗る美味なるを以て生食用として賞味せらる、又乾燥用に適す。九月中旬成熟す。

樹は淡褐色にして節間短かく滑かなり、葉莖は僅に絨毛あり、葉は大きさ中位にして深き裂目あり。葉裏には僅に絨毛を有す。樹勢稍々強健なり。

二四、ジエツシカ Jessica. (Labrusca. x)

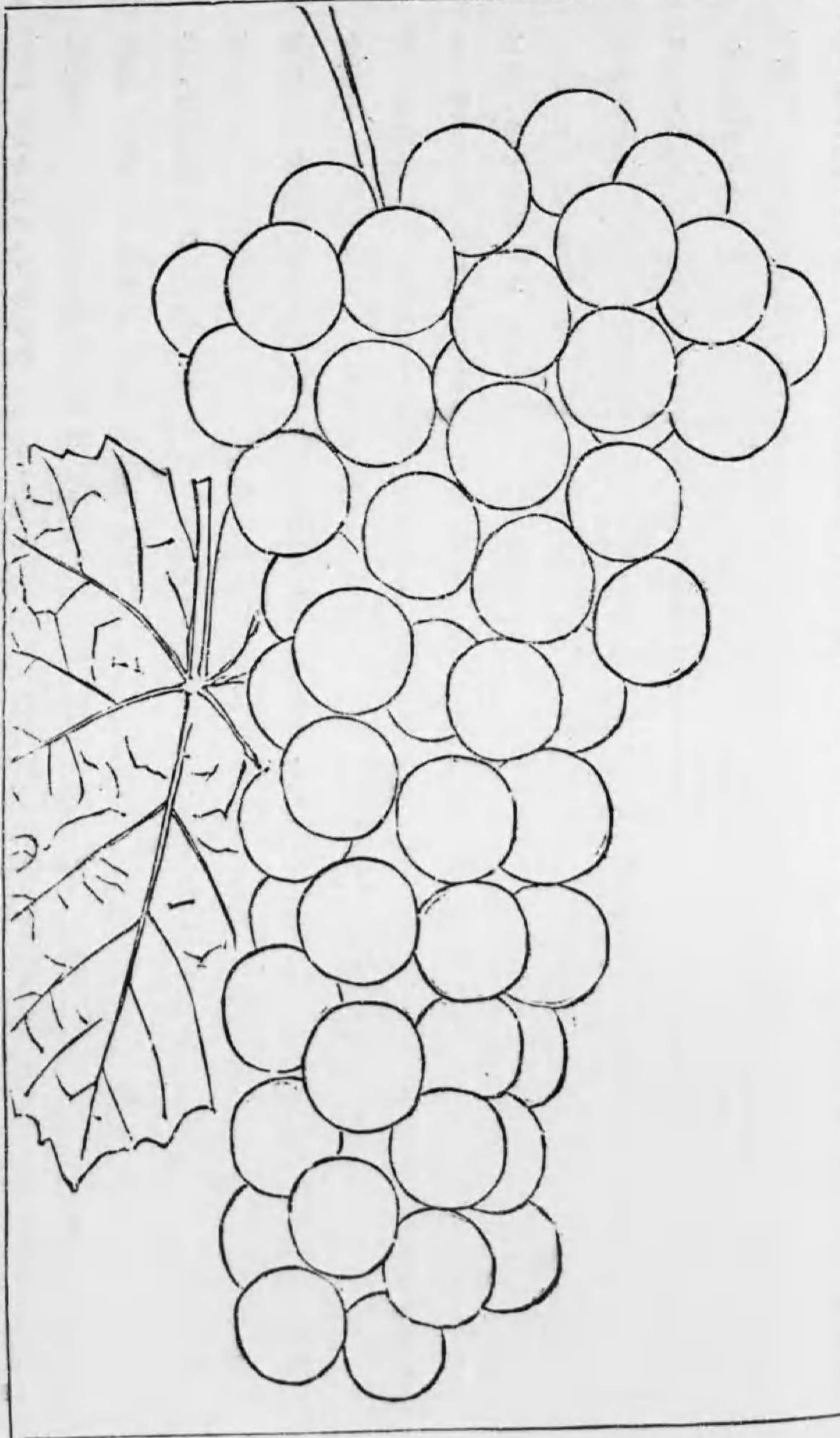
米國オントリオ州セント、カセリンなるデキ、ダブリュー、ペードル氏に依り發見擴布せられたるものにして、比較的新しい品種なり。

果穂は小にして圓筒形をなし、發育良好なるものには小岐肩あり、果粒小にして圓く、甚だ僅に橢圓形を呈す。熟して黄白色となり、果皮薄く肉緊り、漿液多くして甘味に富む。米國種に普通なる奇臭を有せず、最早熟種にして八月上旬登熟す。「グリーン、マウンテン」に極似す。暖地にて栽培し高價に販賣し得らるゝを以て利益あり。

樹は褐色にして節間短く、枝條は細くして成長旺盛ならざるも、強健にして病害に犯さるゝ事無し、葉は大きさ中、肉厚くして淺き裂目あるものとあり。鋸齒尖銳ならず。

二五、スキート、ウオーター (Sweet water. (Vitifera.))

第 二 十 二 圖 キス トー オウ ター (大 物 實)



「ジャスウー、ド、フォンテンブロー」と極めてよく酷似す。マンソン氏は異名同種なりとせり。たとひ異種なりとするも、栽培上の價值に至りては全く同一なり。

二六、ジンフハンデル Zinfandel. (Vitifera.)

本種の原産地に就ては二説あり、一は佛國と云ひ他はハンガリーなりと云ふ。

果穂は大にして圓筒形をなし、果粒も亦大にして甚だ密著す。完熟して紫黒色となり、白粉を装ひ壯觀なり、果梗は太くして短し。果皮は厚からず、肉質柔軟にして漿液多く、甘味なるも亦多少の酸味を有す。八月下旬より九月上旬に渡りて成熟し、生食・醸造何れにも用ひらる。

樹は淡褐色にして節間短く少しく絨毛あり。葉は大形にして深き裂目により五分せらる。鋸齒鋭尖なり、樹勢強健、生長旺盛、豊産なるも、熟期に及んで病害に犯さるゝ事あり。

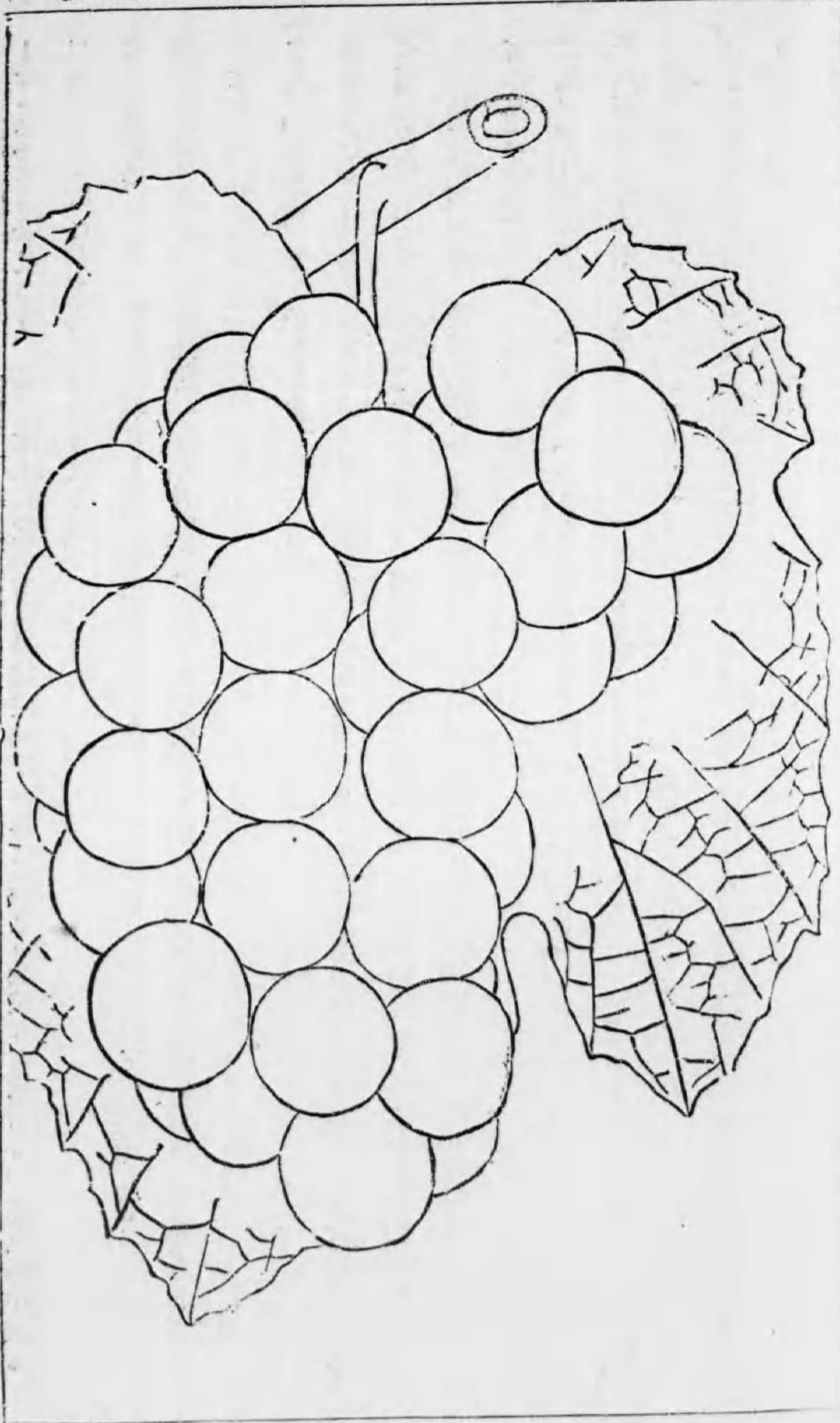
二七、チャンピオン Champion (Labrusca)

異名 Early Champion; Tainan's Seedling; Tachenfield.

千八百七十三年時の大統領ウキルダ氏、誰か「チャンピオン」を知れるもの無きやとの間に對し、ウエシー博士は此葡萄は非常に早熟なる新種類にして、培養容易なるものなりと答へたりと云ふ、有名なる種類なり。

果穂中、果粒も大さ中にして圓く、熟して濃黒色となり、白粉を装ふ。皮薄く肉軟にして「ハイトフホ

第 三 十 二 圖 チ ヤ ン ピ ン オ ン (大 物 質)



ードに似たる奇臭あり、長く樹上に置く時は果皮破裂する事は無きも脱粒する事あり、黑色種中最も早熟なるものにして八月初旬採收し得。

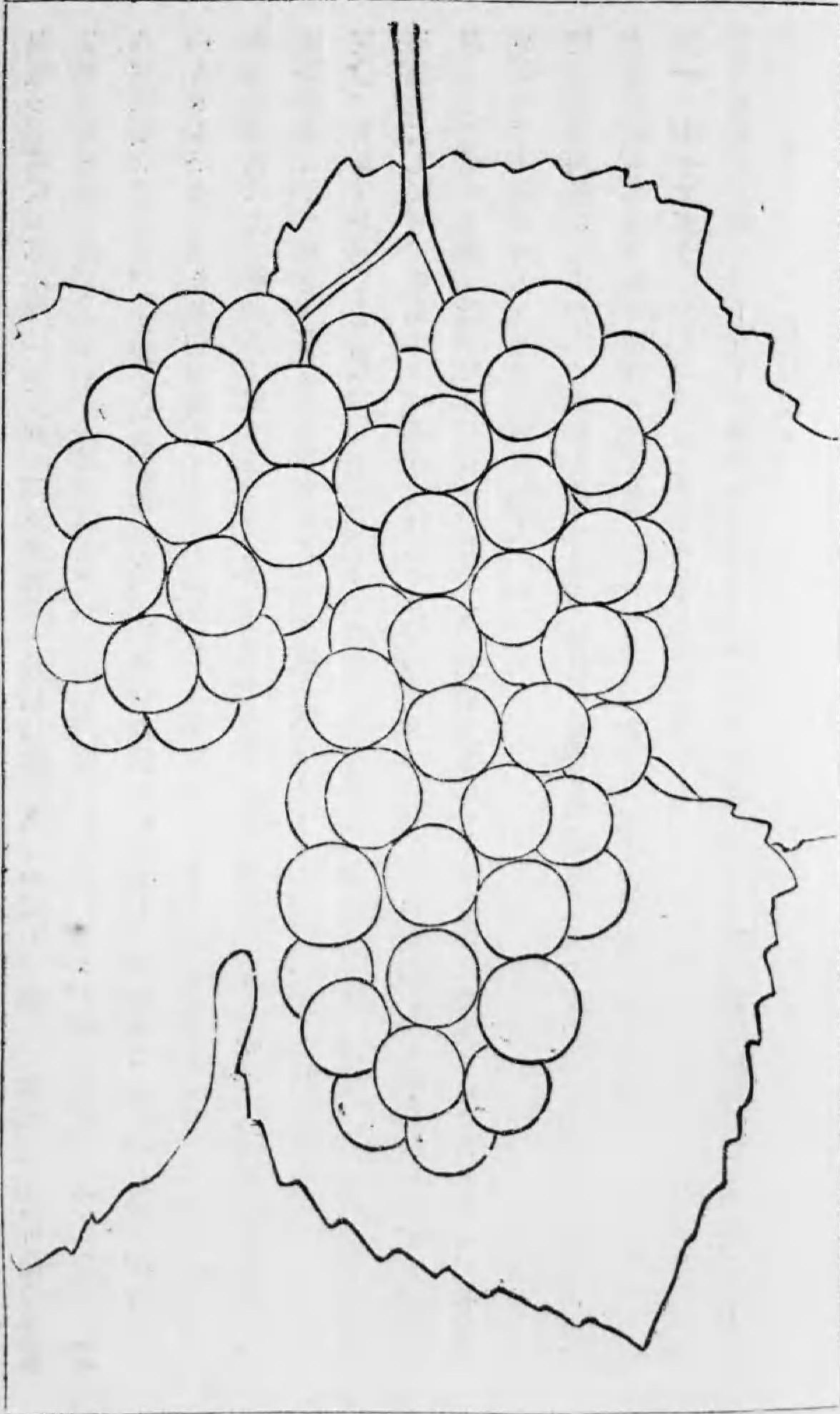
樹は淡褐色にして、葉莖と共に多量の綿毛を有す。葉は大にして厚く、裂目なく裏面に多くの綿毛を被り白色を呈す。樹勢強健にして病害に抵抗する力強き方なるも、時に炭疽病の爲めに莖葉を害する事あり、豊産にして大栽培に適す。

二八、紫雲霜、ツードンシオン (Vinifera)

支那種にして滿洲・直隸及び山東に分布す。樹性强健にして枝條は褪赤褐色をなし、節間長し。果穂は頗る大にして平均百四五十粒に及ぶ、肩張り粒稍々密著す。果粒は大にして圓若くは稍々長圓なり、果皮は稍々厚く淡紫黑色にして、灰白色の稍々厚き果粉を裝ふ。果肉稍々緊り漿液多く、甘味に富み品質上等なり、九月下旬成熟す。

二九、デラウエア Delaware. (Bourguigniana x Labrusca x Vinifera.)

千八百五十年の頃、英國ニュー・ジエルシー州フレンチタオンなるポール、エイチ、プロヴオスト氏の園に於て發見されたるものにして、千八百五十五年オハイオ州デラウエアなるエー、トムソン氏により公にせられ、其後十年同地なるシー、ダブリュー、カンペン氏に據り、一般に廣められたるものなり。



果穂小、果粒も亦小形にして圓く稍々密著す。岐肩は大にして分離し、熟して鮮紅色となり頗る美麗なり、山梨縣に於て「イタツア」又は早生甲州と稱し、盛んに栽培しつゝあり、果皮稍々厚く漿液に富み甘味強し、奇臭殆んど無く品質優等なり。生食・醸造何れにも適し、有望種として今日最も流行しつゝあるものなり。九月初旬登熟す。

樹は暗褐色にして節間長く細き方なり、葉は大き中、淺き裂目を以て三片に分たる、裏面に綿毛あり。樹勢強健にして病害に犯さるゝ事殆んどなく、成育良好なり。

三〇、トムソン、シードレス Thompson Seedless. (Vinifera.)

果穂大にして長く岐肩あり、果粒は極めて小、粒粗著す。熟して白黄色となり僅に白粉を装ふ。果皮薄くして柔かく肉又軟かなり、核子を有せず、品質上等にして生食並に乾燥用によろしきも、收量多からず。八月下旬より九月上旬成熟す。

樹は淡赤褐色にして少しく白粉を帶ぶ。葉莖は僅に絨毛を被る、葉は大き中の大にして淺き裂目あり。裏面に絨毛あり。樹勢強健にして生長旺盛なるも、病害に犯され枯死するもの多し。

三一、ナイアガラ Niagara. (Labrusca. x)

千八百七十二年ニューヨーク州ロックポートなるホーグ及びクラークに於て發見したる「コンコード」ど「キャツサデキ」どの雜種なり。

果穂大、果粒は中にして稍々長し、熟して綠黄色となり白粉を装ひ壯觀なり。一穂の重量百匁以上に達するもの珍しからず、果皮厚く肉軟かにして少しく緊り、「ハーバート」に似たる奇臭あり、品位極上等にはあらざるも、生食用としてよく、又白葡萄酒の原料に供すべし。長く樹上に置き風雨に會ふも脱粒する事なし、九月中下旬に成熟す。

樹は白褐色にして節間長く綿毛あり、葉莖は赤くして長し、葉は大にして厚く、裏面に綿毛を被りて白し、樹勢強健、生長旺盛にして大栽培に適す。

三二、牛奶 ニュウナイ (Vinifera)

支那種にして外觀・品質共に優良なるものなり、牛奶とは牛乳の事にて本種が白色種なる爲め斯く名命したるものなるべし。樹性中、枝條淡褐色にて節間稍々長し、豊産ならず、果穂は頗る大にして平均百二三十匁に達す。特に大穂なるものは三百匁に及ぶもの珍しからず、肩張らずして垂るゝ方なり。粒付き粗なり、果粒は長橢圓形にして大、往々一粒十匁に近きものあり、果皮厚く淡黄白又は帶綠淡黄白色をなし、微に白色の果粉を被る、果肉緊り多漿にして甘味強し、品質極上、九月中旬に熟す。

三三、ハイブリット、フラン Hybrid Franc. (Rupestris. x Vinifera)

佛國フラン氏の改良作出したるものにして、「カベルネー、ソウキニオン」種と「リュベストリス」の雜種なり。

果穂は中の大、果粒は圓形なり、熟して濃黒色となり白粉を裝ふ。果皮薄くして剛く、果肉は軟かにして最も甘味に富み、奇臭無く品質優良なり、生食に供する外、上等赤酒の原料として良好なり。九月中下旬成熟す。

樹は白褐色にして滑に、節間短くして白粉を被ふ。葉莖は青くして平滑、葉は小にして厚く裂目あり樹勢強健、成長迅速なり、根は堅硬にしてフキロキセラの侵害に抵抗する力強きを以て強耐砒木として賞用せらる。

三四、バンナー Banner. (Labrusca. x)

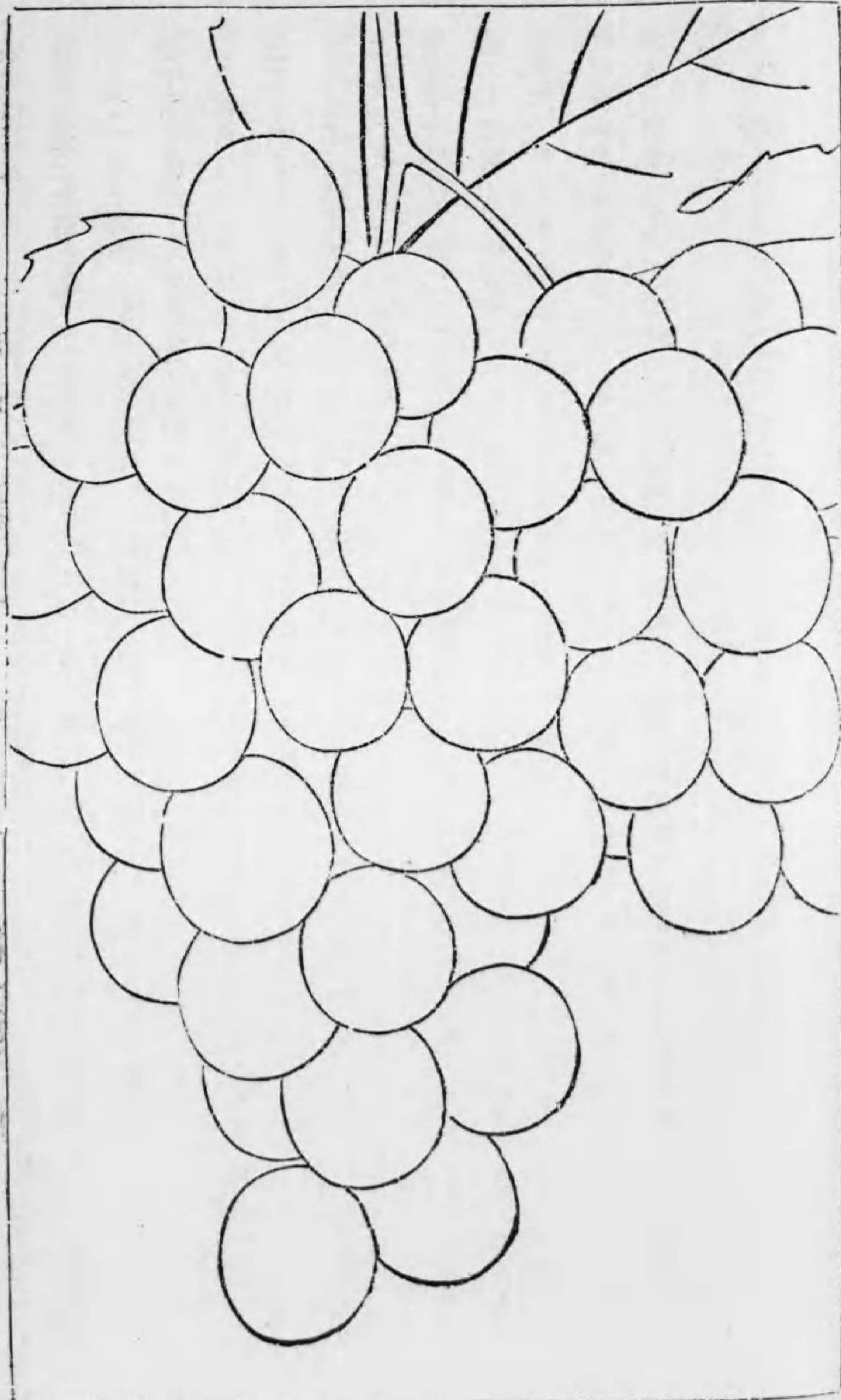
樹は強健にしてよく繁茂し病害に犯さるゝ事少し、枝蔓は濃紫紅色を呈し節間長し、葉は大にして缺刻多からず。裏面に柔毛あり。

果實は中粒大房にして甚だ豊産、「デラウエア」に似て少しく濃色なり、品質上等頗る甘味に富み、少しく奇臭あるも、食卓用として優等なるのみならず、又白酒醸造用としてよし、八月下旬より採收し得。果皮薄く、遠地輸送に堪へざるも市場用として高評なり。

三五、ハイランド Highland. (Labrusca. x Vinifera.)

米國ニューヨーク州ニユベルグなるジエームス、エイチ、リツケット氏により、「コンコード」と「ジューラ、マスカット」との交雜により作出されたるものなり。

第 五 十 二 圖 ハ イ ラ ン ド (三の分二)



果穂は巨大にして丈短く大なる岐肩あり、果粒も亦甚だ大にして圓形をなす。熟して濃黒色となり白粉を裝ひ壯觀を呈す。果皮薄く肉軟かにして汁液多し、微に奇臭あれども品質上等なり、最晩熟種にして十月下旬漸く登熟す。寒地にては溫度不足の爲め著色せざる事あり、又暖地にても年により一穂中充分成熟する事能はざるものを生ず。

樹は褐色にして節間長からず、葉は大にして厚く、深き裂目あり、裏面に綿毛を有し、成長旺盛なり。
三六、ハートフホード、プロリフキツク Hartford Prolife. (Labrusca.)

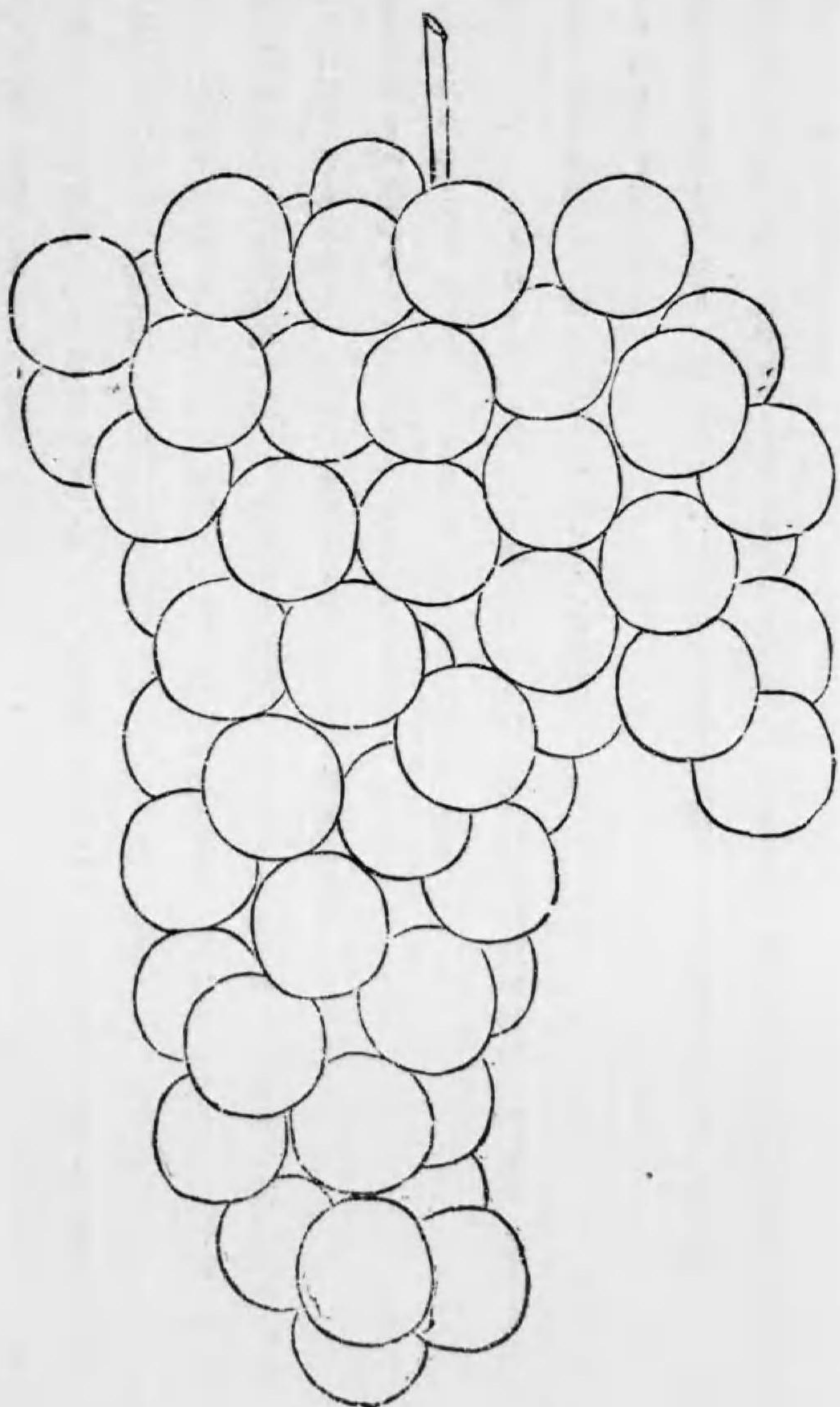
千八百五十年頃米國コンネクチカッツト州ハートフホードなるスチール氏により、「イサペラ」の實生を改良して作出したるものなりと云ふ。

果穂中、果粒も亦た大さ中にして圓く、疎密適度なり、熟して濃黒色となり厚く白粉を裝ふ。果皮は薄くして剛く、肉質軟かにして酸味少く甘味に富む、少しく奇臭あり。八月中旬成熟し頗る豊産なり生食用としてよく又醸造用として大栽培に適す。

樹は淡褐又は赤褐色にして綿毛多く節間長からず、葉莖は淡紅色にして綿毛あり。葉は大にして厚く深き裂目を有す。裏面に多量の綿毛を被り白色をなす、樹勢頗る強健にして病害に犯さるゝ事殆んどなし。

三七、ハーバート Herbert, (Labrusca x Vinifera.)

第 六 十 二 圖 ハートホード・フロキフ (大物實)





米國マサチューセツツ州に於て、野生の「ラブラスカ」屬なる「マンモース、セーヂ」が「ブラックハンブ
 ルグ」種の花粉を受けて出來たる雜種にして、ロージャース氏により發見されたるものなり。
 果穂大にして岐肩あり、果粒は甚だ大にして圓形なるも少しく長味あり、熟して紫黒色となり、白粉
 を装ひ美麗なり、果皮厚く果肉は柔軟多漿にして甘味に富み酸味なし、爽快なる香氣を有し品質優良
 なり。八月下旬より九月上旬頃成熟し、長く樹上に放置するも脱粒する事なし、收量は中位なり。
 樹は淡褐色にして節間稍々長く枝條は細き方なり、葉は大にして厚く、極めて淺き二個の裂目を以て
 三片に分たるものあり、裏面には少しく綿毛あり、樹勢強健なり。

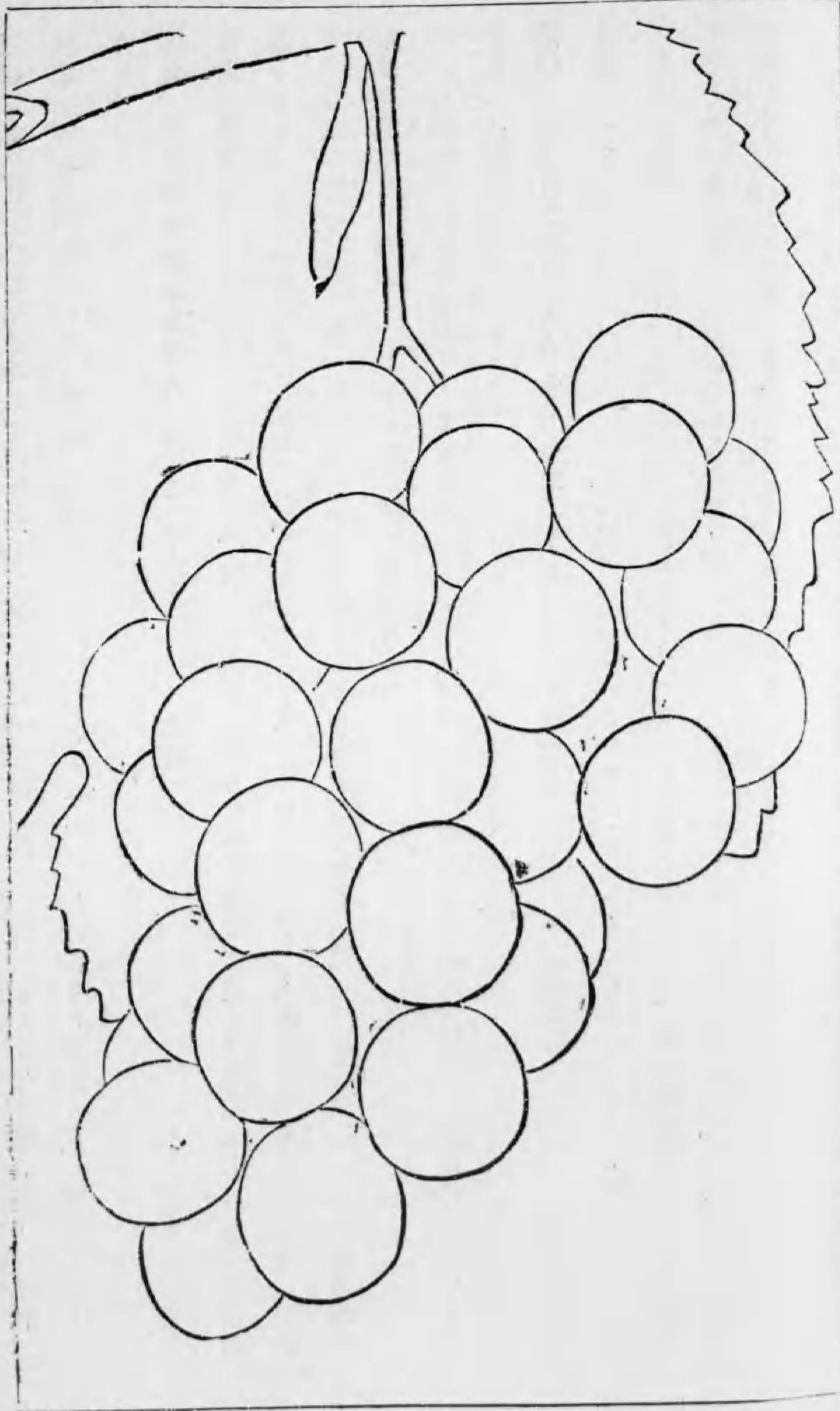
三八、ハーベメント Herbemont. (Aestivalis.)

異名 Warren; Herbemont's Madeira, Warranton; Neil Grape

初めニコハス、ハーベメント氏により發見せられたる時、彼れは亞米利加の野生種とせしも、其後千八
 百三十四年佛國より輸入したるものとして發表せり、されど又ジョルジャ州ワレーン郡に於て野生せ
 るものありと云ふ。

果穂大にして岐肩あり、果粒は小にして稍々密著し、圓形にして紫黒色なり。果皮厚剛にして肉質軟
 かなり、甘味に富み奇臭無く品位上等なるを以て、生食の外、醇良なる赤酒の原料に供せらる。十月
 初中旬に成熟し豊産なり。

第 七 十 二 圖 ハ ー ベ ー ム (三の分二)



樹は赤褐色にして白粉を被る。節間長し、葉は大にして厚く剛し、深くして大なる裂目あり、裏面に絨毛を密布し、更に白粉を装ふ。樹勢強健にして「フキロキセラ」に抵抗する力強く克く繁茂するものなり。

三九、パープル、ダマスカス Purple Damascus. (Vinifera.)

歐洲の原産なり。果穂大、岐肩を有し、肩張り先端に至るに従ひ漸次に尖る。果粒は大にして長卵圓形をなし、粗密中位なり、完熟すれば黒紫色となり、白粉を装ひ頗る美麗なり。果皮厚く肉よく緊り、甘味に富み品質上等、生食用として尊重せらる。九月下旬の頃成熟し、豊産種なるも白澁其他の病害に犯さるゝ事あり、硝子室内に於て栽培せらる。

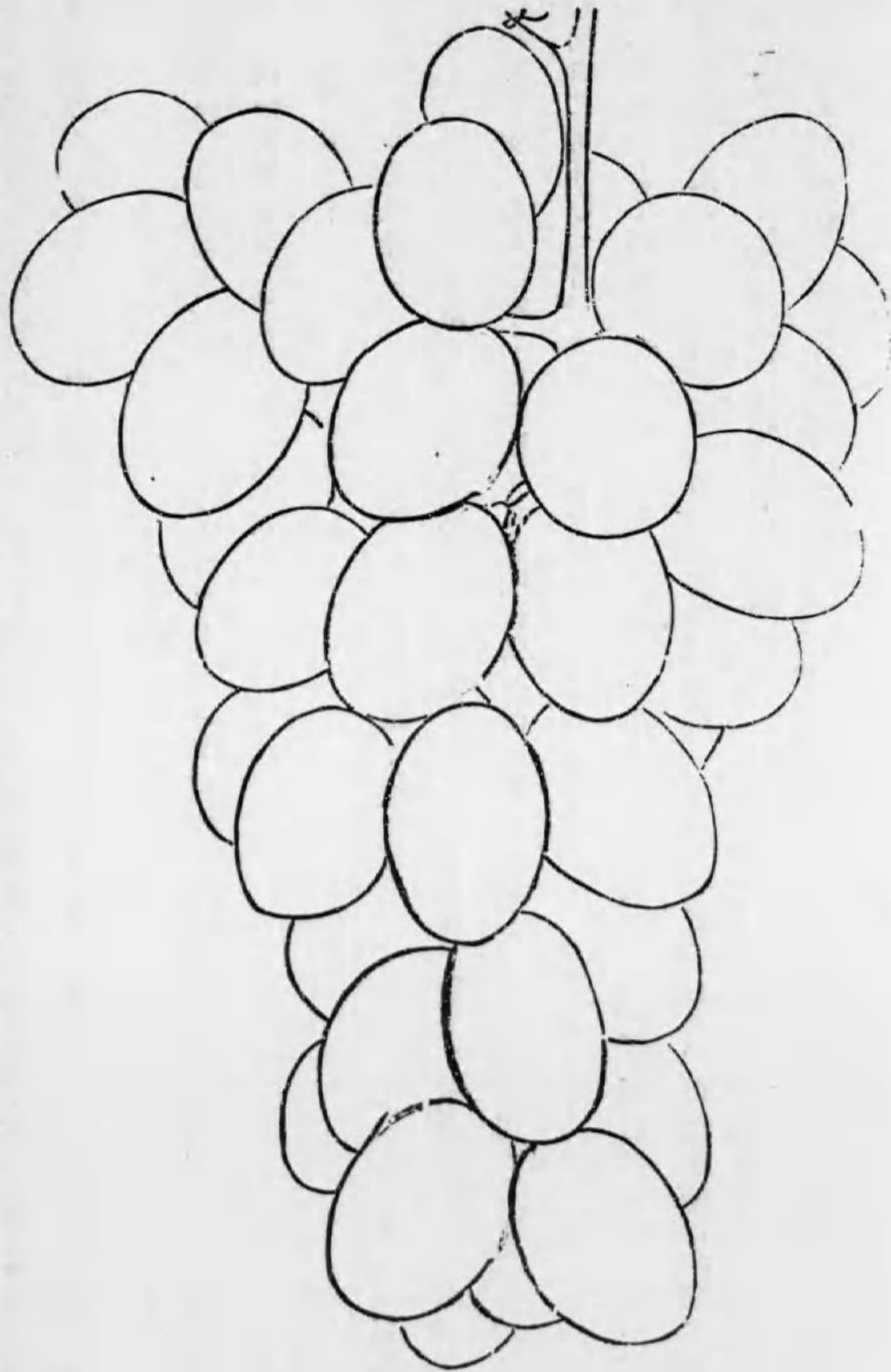
樹は白褐色にして節間短く、葉莖は滑かなり、葉は大にして淺き裂目あり、周邊の鋸齒は尖鋭なり。葉裏には僅に絨毛を有す。

四〇、バツ克蘭ド、スキート、ウォーター Buckland Sweet water. (Vinifera.)

英國レイゲートに近きバツ克蘭ドに於て、實生により作出したるものにして、核子は歐大陸より來りたるものなりと言ふ。ドーキングの苗木商アイベリー氏其他の手に渡りて漸次擴布せり、千八百六十年アイベリー氏により公にせられたり。

果穂は中の大にして七十夕以上二百夕に達す。幅廣く丈短き方にて粒密著す。果粒は圓形にして中又

スカスマタルプーバ 圖八十二第 (大物實)



は大なり。完熟して帯橙黄色となり、果皮薄くして殆んど透明なり、肉質柔軟、多漿にして爽快なる甘味と芳香とを有す。八月中旬乃至下旬成熟し生食用としてよろしきものなり。硝子室内に栽培せらる。

樹は黄褐色にして節間長からず。葉は「ブラック、ハンブルグ」に酷似し、暗黄色となりて落葉す。

四一、パレスタイン *Palestine (Vitifera)*.

異名 *Syrian.*

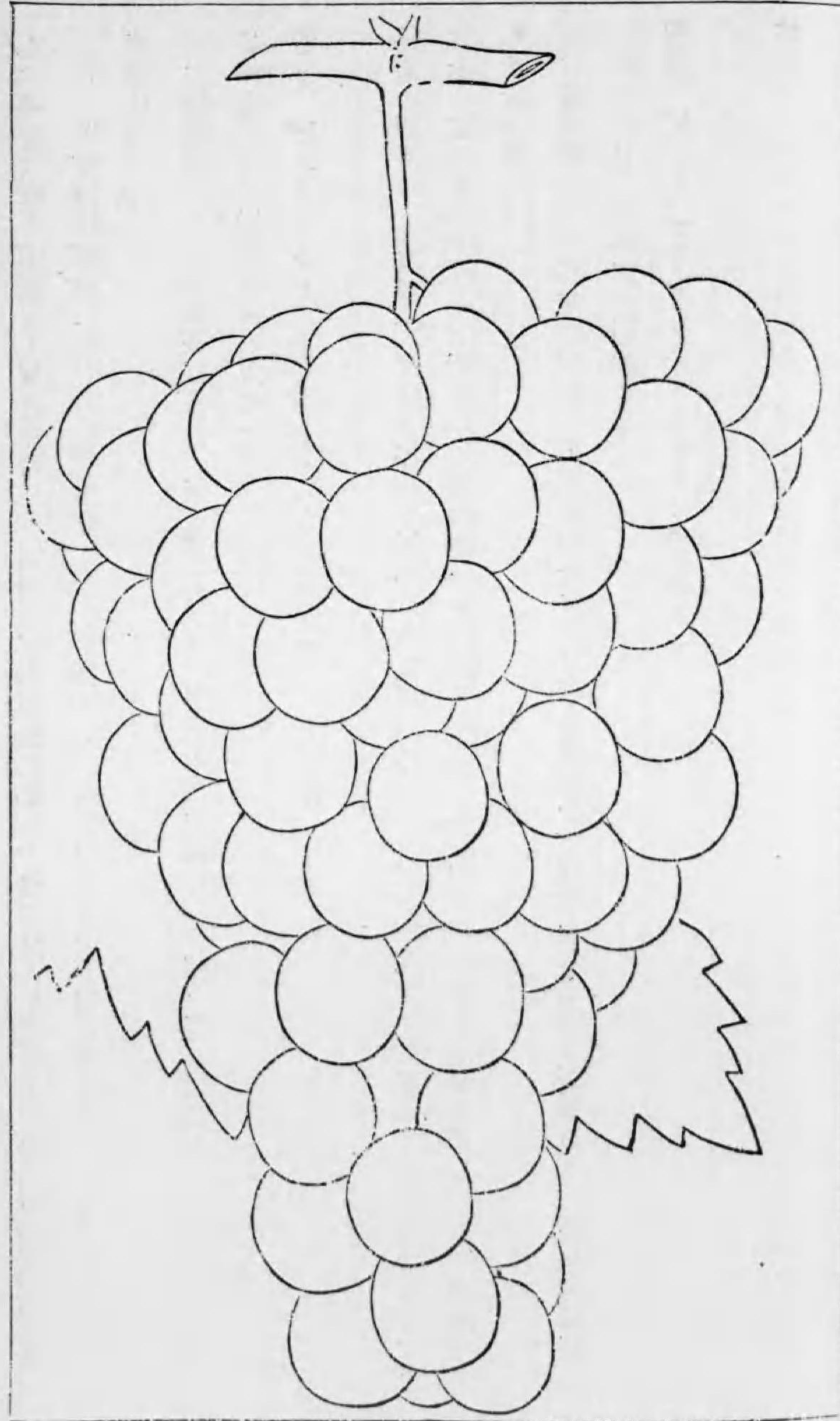
パレスタインの原産なり。果穂は巨大にして長大なる岐肩を有し、長さ二尺に達し重量二貫匁に及ぶものあり、俗に三尺葡萄と云ふ。果粒は中、楕圓形にして疎著す。熟して琥珀色となり白粉を装ひ、誠に壯麗なり、果皮は厚く肉質緊りて甘味に富み酸味殆んど無し、生食觀賞用としてよく、又乾燥、醸造何れにも用ひらる。九月下旬より成熟す。

樹は赤褐色にして節間長からず、葉莖には絨毛密生す。葉は大にして深き裂目により五分され、周囲の鋸齒は稍々尖れり、裏面に絨毛あり、樹勢強健にしてよく生長するも、白澁其他の病害に犯され易し、硝子室内栽培にあらざれば優品を産し難し。

四二、ピノー、グリ *Pinot Gris (Vitifera)*.

佛國の原産なり。果穂小にして岐肩あり、果粒も亦小にして楕圓形をなし密著す。果梗は太くして短

一ターオウ・トーキス・ドンラクツバ 圖九十二第 (二の分三約)



し、果皮は厚く美麗なる鼠色をなし、完熟せば赤褐色となる。肉は緊りて漿液多く頗る甘味なり、醇良なる葡萄酒の醸造に供せらる。生食としても亦よし、八月中旬乃至下旬に成熟す。豊産なりと云ふ事能はず。

樹は淡褐色にして節間甚だ短し、葉莖滑かなり、葉は大き中位にして稍々深き裂目あり、裏面には僅に綿毛あり、樹勢強健の方なり。

四三、ピノー、ノアール Pinot Noir. (Vinifera.)

異名 Noisien. Clos de Vougeot.

佛國の原産なり。果穂小、果粒も亦小、圓形にして濃黒色をなし稍々密著す。果皮厚く肉質柔かなり、甘味に富み芳香を有し、醇良なる酒の醸造に賞用せらる。八月中下旬に熟し品質良好なるも、豊産なりと云ひ難し。

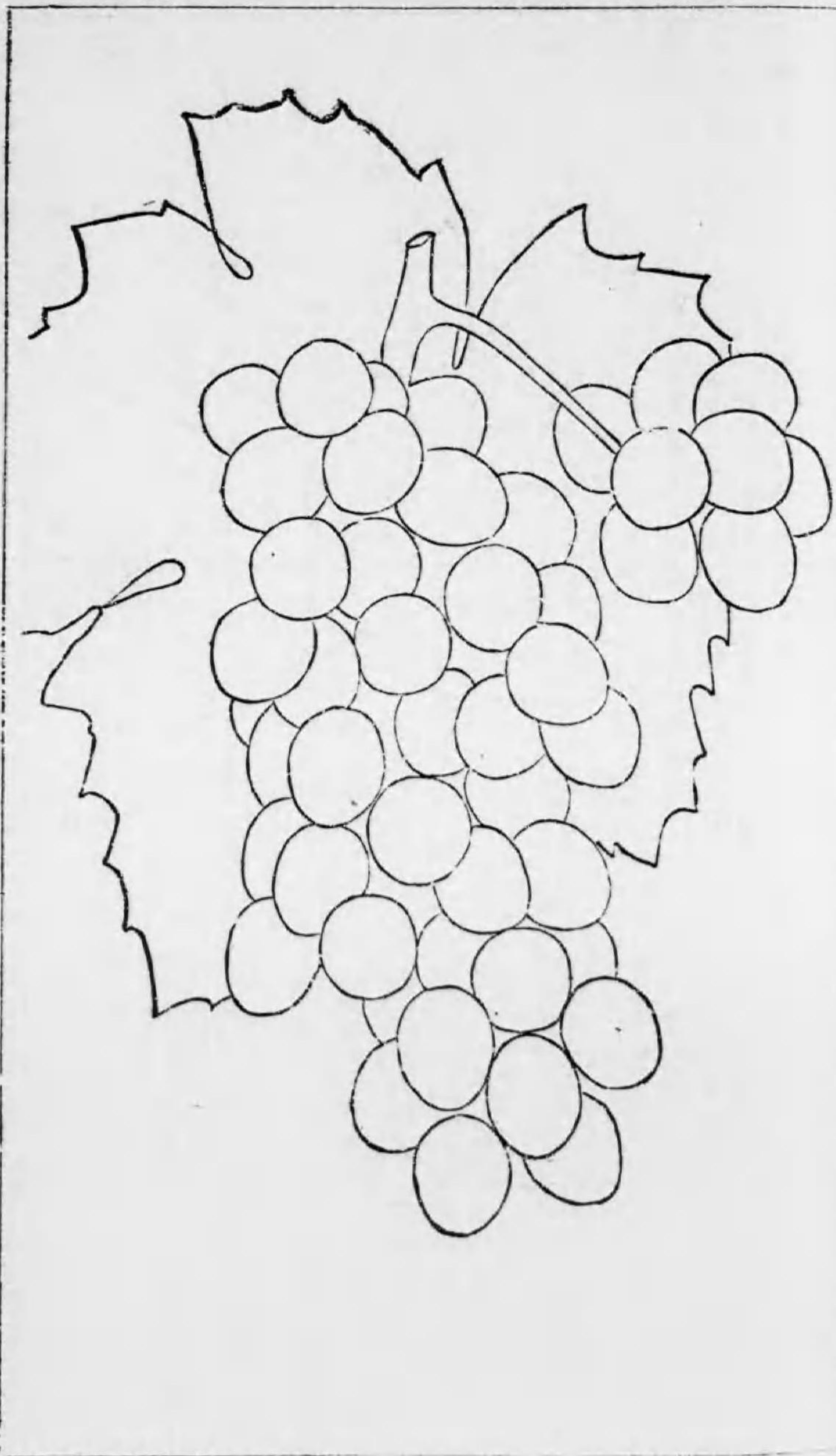
樹は淡褐色にして節間甚だ短く葉莖は平滑なり、葉は大き中、圓形をなし浅き裂目あり、裏面には僅に絨毛あり、樹勢稍々強健なり。

四四、ピノー、ブラン Pinot Blanc. (Vinifera.)

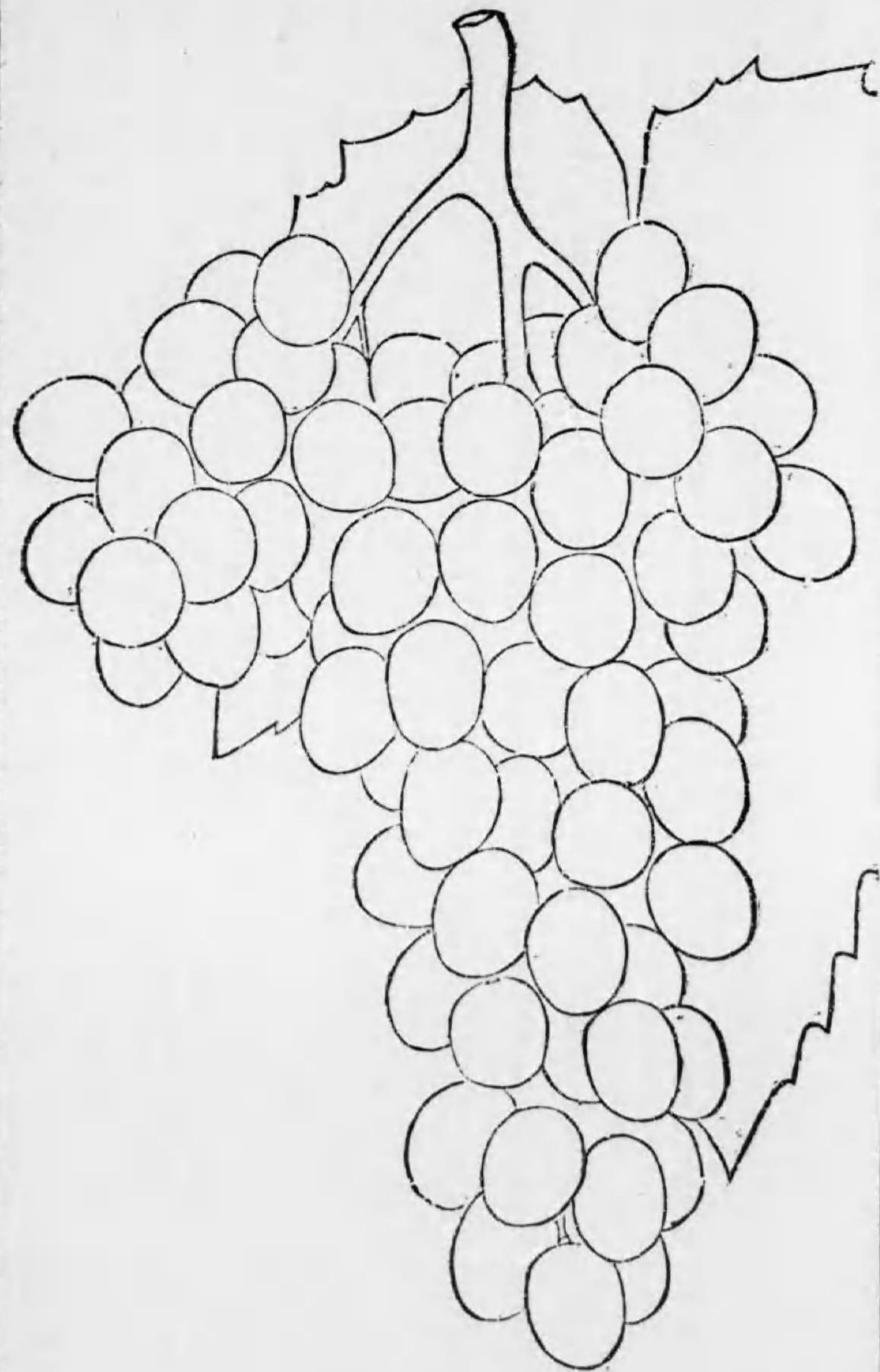
異名 Chardnay

佛國シャンパニユ州の原産なり。果穂は中、果粒も中位にして稍々橢圓形なり、果梗は長からざるも

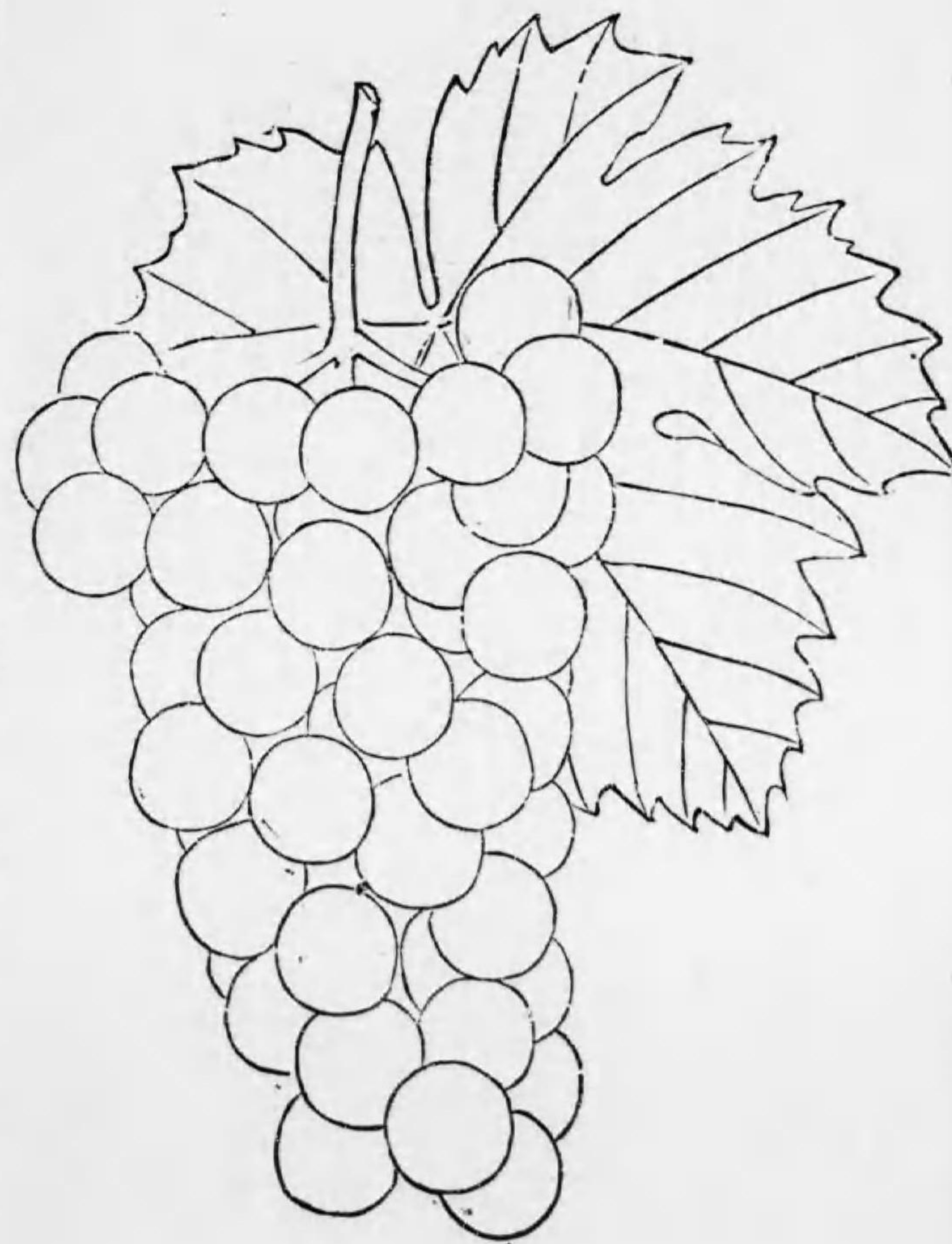
第三十三圖 ビノグラ 一 (約分五の四)



(大物實) ソラブーノビ 圖二十三第



(大物實) ーアノーノビ 圖一十三第



太し。ビノイ屬中には房粒共に大なる方なり、熟して黄白色となり果皮厚し、果肉は軟かにして頗る甘味に富み酸味を有せず、醇良なる白葡萄酒の原料として賞用せらる。八月下旬に熟し前二種よりも收量多し、有望種と認む。

樹は白褐色にして節間稍々長く、葉は前二種よりも幾分大にして稍々長く先端尖る、餘り深からざる裂目あり、樹勢強健、成長佳良にして栽培容易の方なり。

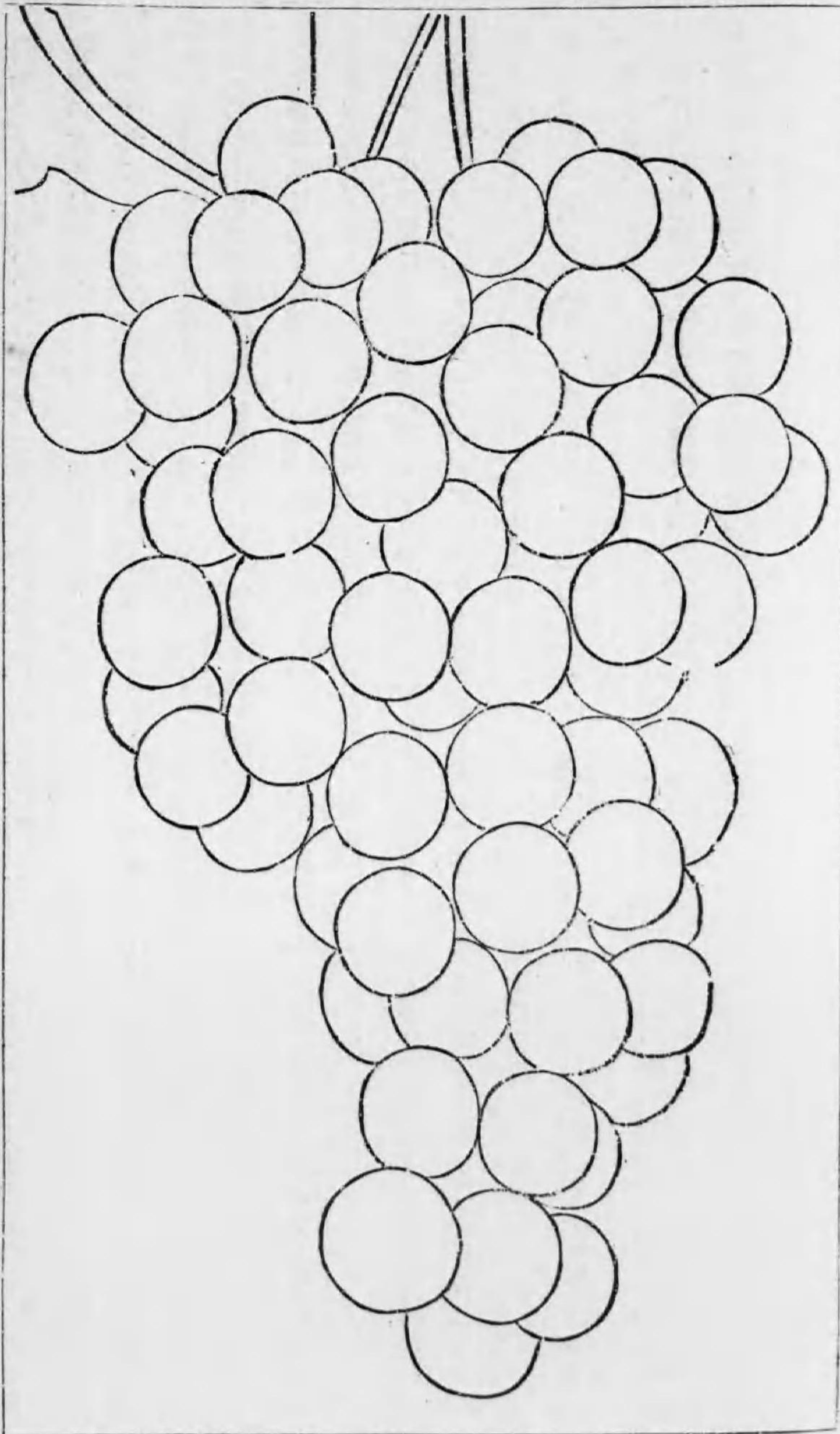
四五、ブライトン (Brighton. (Lahurasca x Vinifera.)

米國ニューヨーク州チエスターに於てジャコブ、ムーア氏が「コンコード」と「ダイアナ」と「ブラックハンプルグ」との雜種により作出したるものなり。

果穂中の大にして肩張る、果粒は圓形にして中又は大、果梗は長くして硬からず、熟して暗赤色となり紫色を帯びたる白粉を装ひ頗る美觀を呈す。果皮薄く肉軟かにして漿液多く、甘味に富み酸味殆んどなく爽快なる香氣あり、八月下旬より九月上旬に熟し、豊産にて有望種となすに足る、だ、本種は自花授粉困難なるものなれば混植するを要す。

樹は淡褐色にして節間稍々短き方なり、接續的卷鬚あり、葉は大にして裂目なく、時として甚だ僅かの裂目を有することあり、樹勢強健にしてよく成長するも、時に白澁病の爲め害さるゝ事あり、注意するを要す。

第 三 十 三 圖 プ ラ イ ト ン (三の分二)



四六、ブラック、ハンブルグ Black Hamburg. (Vinifera).

獨逸の原産なるべし、一説には埃太利なりとも云ふ。

果穂は大にして且つ大なる岐肩あり、果粒も大にして圓く完熟したるものは黒色となり、白粉を裝ひ且つ光澤あり、果皮薄く肉稍々緊り、漿液多く甘味に富む。品質極めて上等、生食用として大に賞揚せらる。九月中下旬成熟し頗る豊産なり、今日硝子室栽培に於ては、本種實に其大部分を占む。

樹は灰褐色にして節間長からず、葉は大にして厚く殆んど裂目なし。裏面には僅に絨毛を有す。樹勢強健、成長旺盛なるも、降雨多き年には病害に犯さるる事あり。

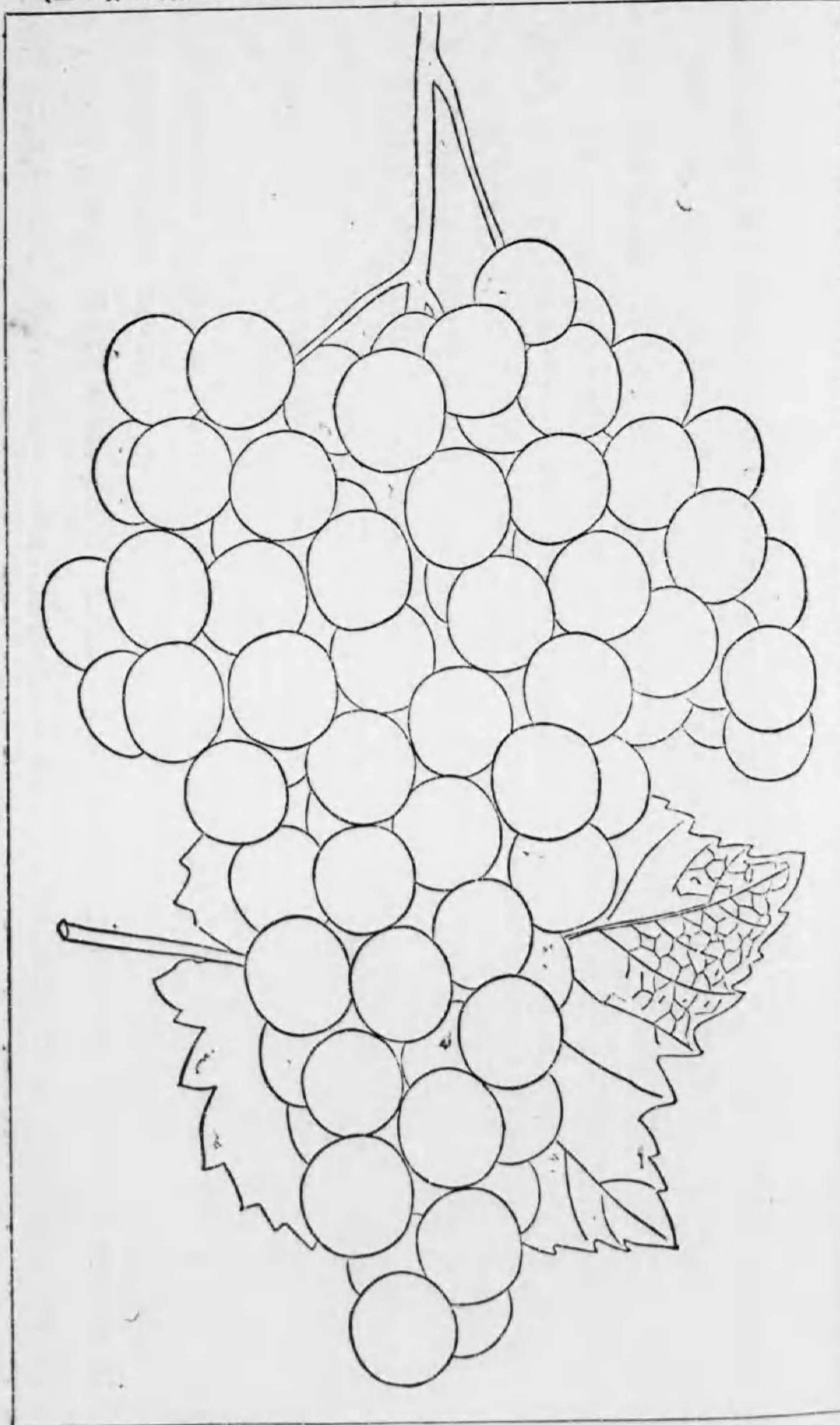
トーマス氏の説によれば、普通に「ブラック、ハンブルグ」と稱するもの、中に三種あり、而して其第一は即ち普通の「ブラック、ハンブルグ」にして、樹の老熟するに従ひ、果穂果粒共に小となるも香氣及び甘味を増す。第二は「フランケンタール、ハンブルグ」にして果穂果粒共に大にして且つ特にブルーム多し。第三は「ミル、ヒル、ハンブルグ」にして大さは前者に等しきも「ブルーム」少く、葉の垂下するを特徴とす。

支那にて「黒罕坡」と呼ぶは本種なり。

四七、ブラツク、マスカテラ Black Muscatelo. (Vinifera.)

歐洲の原産なり。果穂は中にして肩張り、果粒も大さ中、稍々橢圓形にして、果梗短く密著す。熟し

第 三 十 四 圖 グルブンバ・クツラブ (約五分の三)



て紫黑色となる、皮厚く肉緊りて甘味に富む。「マスカット」の如き佳香を有し、品質上等にして生食に適す。又赤色葡萄酒醸造の原料として賞揚せらる、八月下旬より九月上旬に熟し収量中位なり、硝子室栽培に供用せらる。

樹は淡褐色にして節間短く、葉は中位にして淺き二個の裂目あり、僅に綿毛を被り、成長力は普通なり。

四八、ブラック、バーガンチキー Black Burgundy. (Vinifera.)

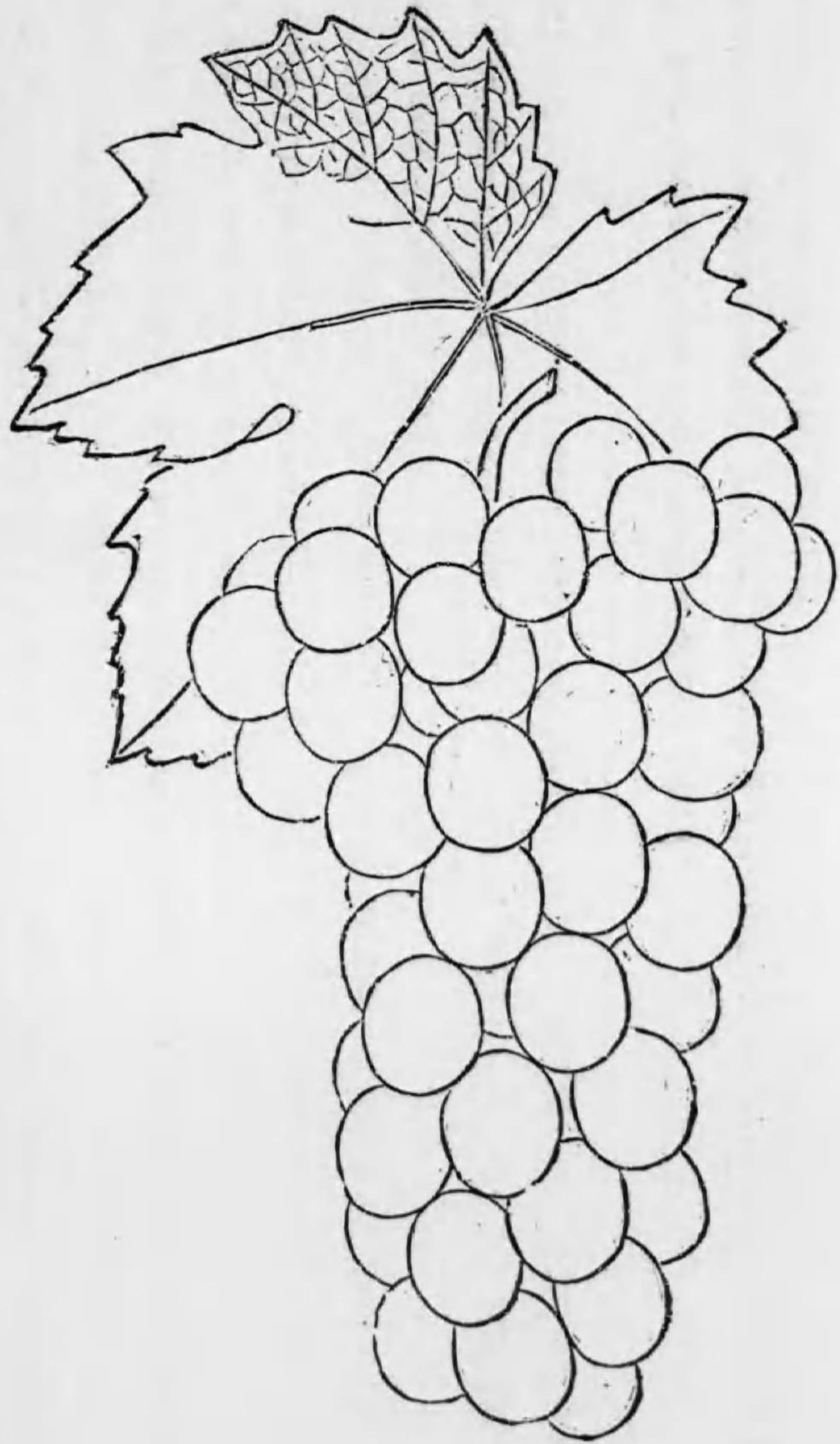
佛國の原産なり。果穂小、果粒又小にして圓形密著す。熟して紫黑色となり、果皮薄く肉軟かにして甘味に富む。品質上等、最上の赤酒醸造に適す。八月下旬成熟す。

樹は淡褐色にして節間稍々短く、葉莖は赤くして絨毛を有す。葉は大き中位にして稍々薄く、裂目を有せず先端尖る、周邊に鋸齒を有し裏面に絨毛あり、樹勢強健ならず、収量又中位なり。

四九、ブラック、アリカント Black Alicante. (Vinifera.)

異名 Alicante; Black Ribon; Black Portugal; Brackst; Peters; Black Spanish; Black Tokay; Merdishts Alicante.

本種の原産地に就ては信す可き説なし。「スバニツシュ」の名の下にスペインより英國に輸入したるもの數種あり、其中の一種なるべきかと云ふ。又ドクトル、ホッグ氏は其の著フルート、マニユアルに於て、佛國南部の葡萄園にて「エスバイン、ノアー」の名の下に屢々見たりとの説をなすも、パロン氏は之を否定せり。



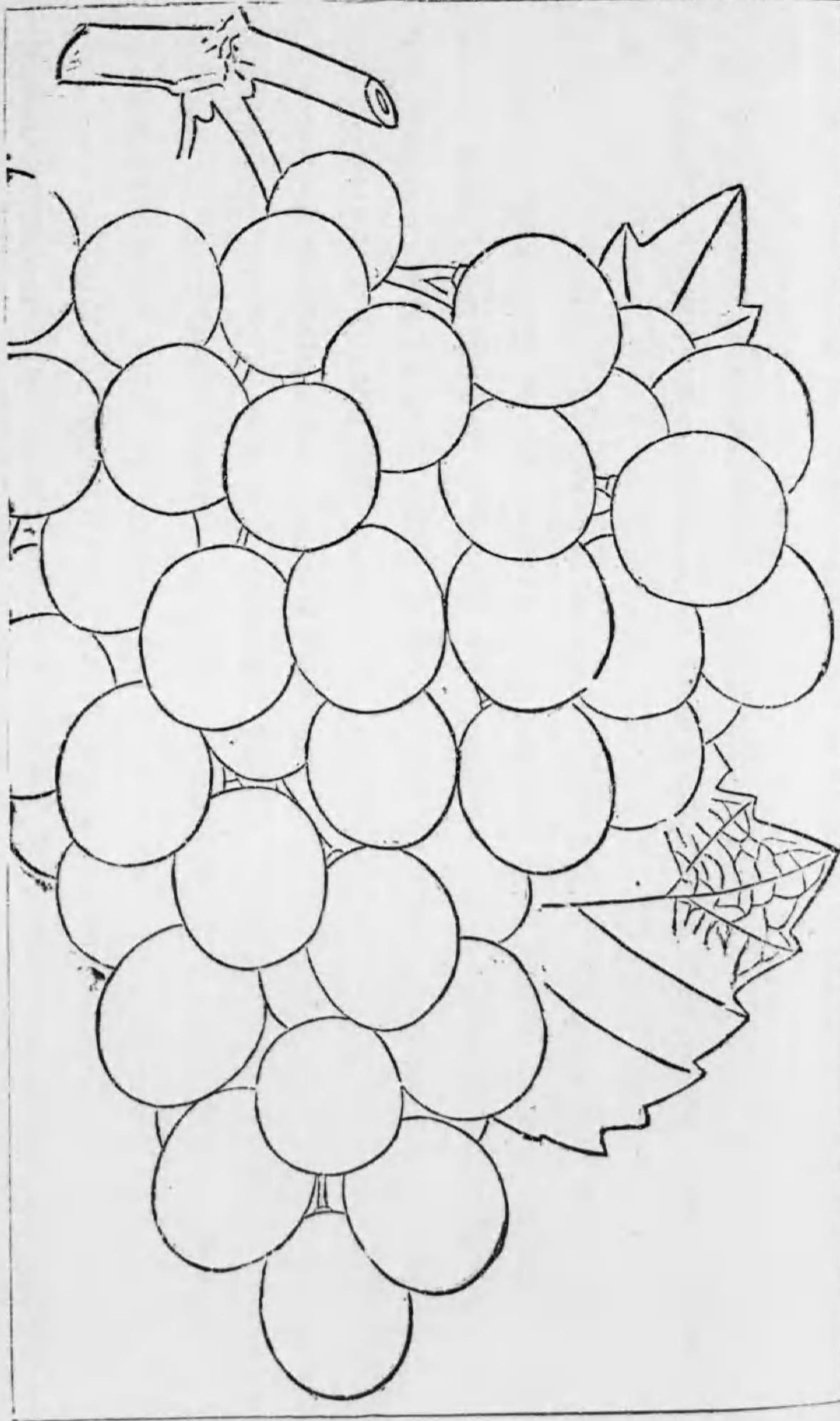
果穂は巨大にして平均二百五十粒以上、時として七百粒に達する事あり、著しく肩張り壯美なる觀あり、又時として不規則に肩下り特殊の形狀をなすものあり、果粒密著にて他種よりも早く間引きするを要す。果梗は甚だ短くして太く、果粒は大にして正しき卵圓形をなす。熟して濃黒色となり厚く青粉を裝ふ。果粒の附著部稍々疣狀をなし、果梗短大なり、果皮は厚くして強く、果肉は外皮に密著し赤味を帯び寧ろ柔軟なり、完熟後永く樹上に置く時は、輕快にして優秀なる香氣を生ず。樹勢強健にして成長旺盛なり、幼梢は厚く絨毛を以て被れ白色を呈す。成熟したる枝も絨毛を被る、特に芽の周圍に多し。葉は甚だ大にして厚く軟かなり、裏面に絨毛多く白色を呈す。晩秋まで克く綠色を保ち、黄變又は赤變して落葉す。

五〇 プリンズ、オブ、ウエルス Prince of Wales. (Vinifera.)

ミセス、プリンスが「ブラック、マスカテラ」種より分離したるものにして、千九百〇八年九月英國園藝會に於て、初めて第一流の葡萄として公認したるものなり。

果穂大にして長く、果梗強大なり、果粒は正卵形にして甚だ大なり、熟して濃紫色を呈し、厚く灰色

トシカリア・クツラブ 圖六十三第 (一の分二約)



粉を装ひ、壯觀なり。果梗太く、果皮は薄くして軟かなり。果肉は柔かにして香氣甚だ高く、純粹なる「マスカット」の香氣あり、晩熟種にして出品用又は貯藏用としてよし。其方法よろしきを得ば新鮮なる状態の下に五月まで保存し得。

樹は強健にして生長旺盛且つ豊産なり、葉は大形にして屋根硝子に接する部分日焼を生じ易し、硝子室栽培期として缺く可からざる良種なり。栽培上特に注意すべき點は、他花の受粉を完全ならしむること、成果種に充分の温度を與へざるべからざる事なり。

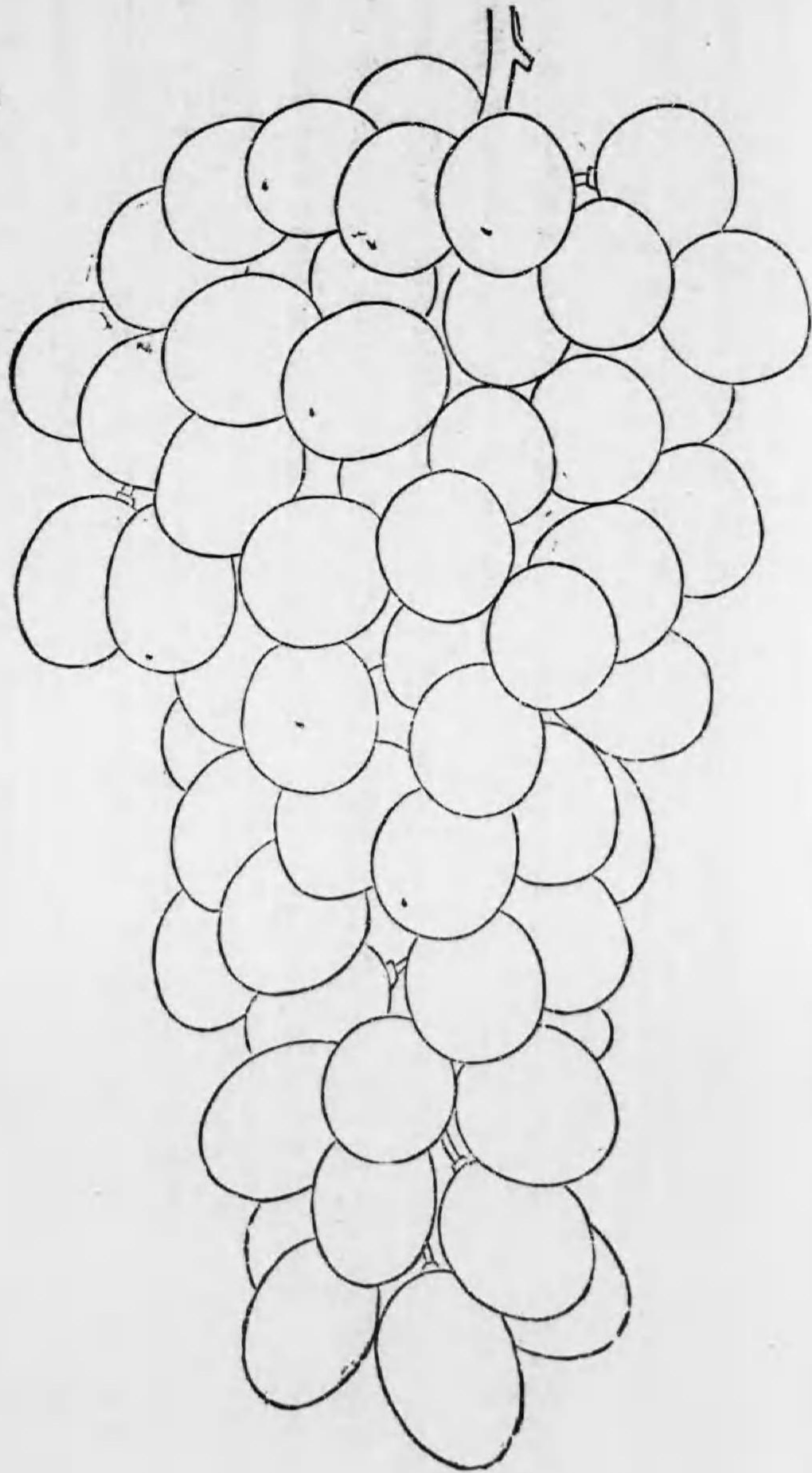
五二、ブレコース、マラングル *Precoce Maringre. (Vinifera)*

歐洲の原産なり。果穂は中にして肩張り、下方に行くに従ひ漸次細まる。果粒は稍々小にして橢圓形をなして密著す。果梗は長大なり、果皮は薄けれども緊りあり、熟して黄金色となり、白粉を装ひ頗る美麗なり。果肉は柔軟にして漿液を以て充たさる。甘味甚だ強く、酸味なく品質頗る上等なり、早生種にして八月上旬より成熟するものなり。生食用の外に醇良なる白色酒醸造の原料に供せらる。

樹は白褐色にして節間甚だ短し、白粉を被る。葉は大ならずして薄く、往々淺き裂目あるものあるも、一般に之れを缺ぐ、周邊に鋸齒状を存す。樹勢強健と云ひ難し。

五三、ベーン *Beacon (Lineouri x Laburasca)*

（二の分三約） スルエウ・ブオ・スソリブ 圖七十三第



千八百八十六年南部テキサス州に於て、マンソン氏の發見せる品種にして、原産地にては生中位なるも、北部テキサスにては成長佳良、ミソリー州にては頗る強健なりと云ふ。

果穂は甚だ大にして圓筒狀をなし、又屢々大なる岐肩を有す。果粒は大にして圓形、稍々密著す。熟して濃黒色となり、甚だ厚く白粉を裝ひ壯觀なり、果皮は薄くして硬く果肉は柔軟にして漿液多し。コンコードに似たる奇臭あるも、味爽快にして品位上等なり、核子は果肉と分離し易し。九月上旬成熟す。

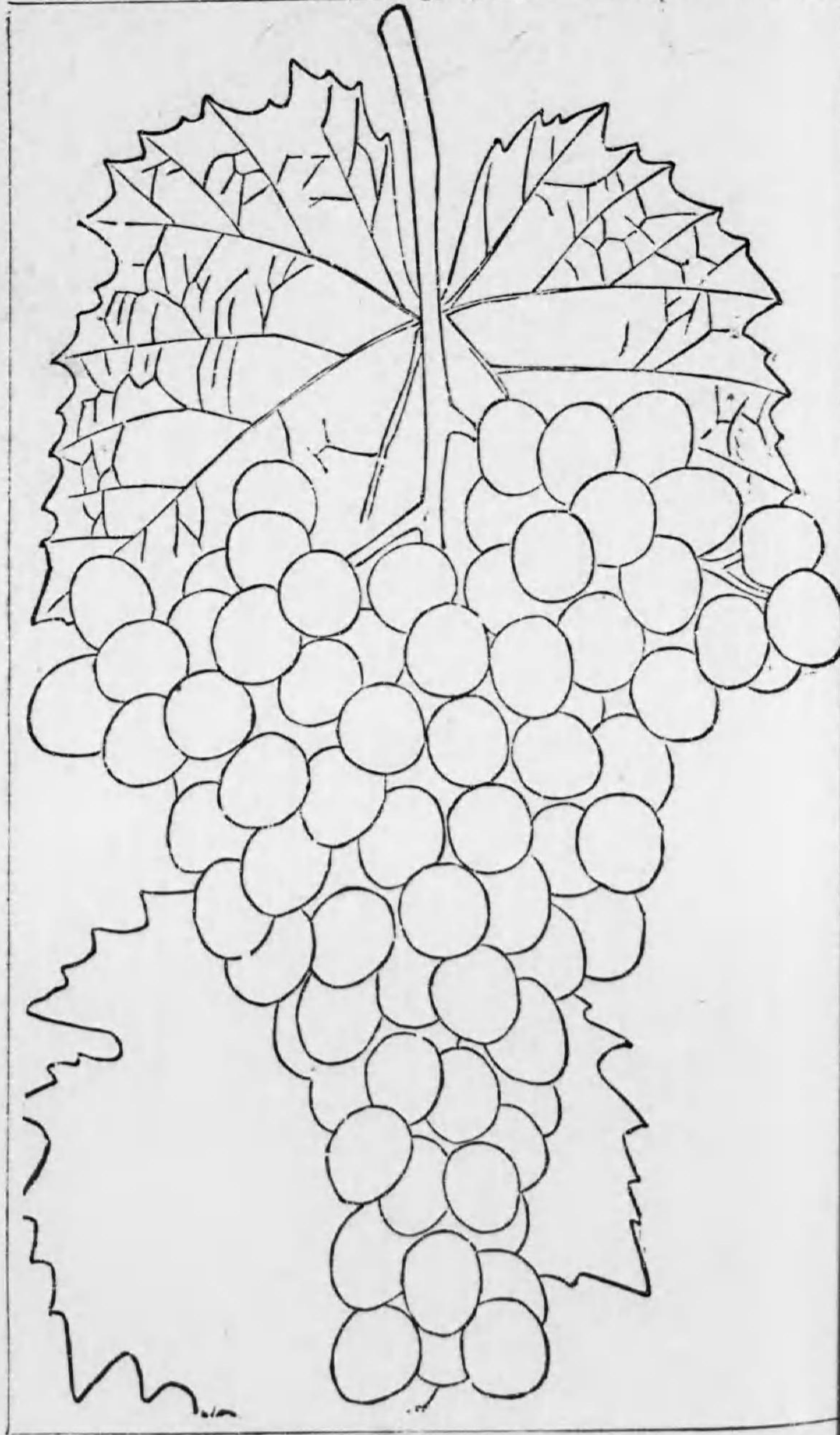
樹は暗褐色にして少しく白粉を被り、節間稍々長くして太からず、間絶的卷鬚あり、葉莖は淡紅色にして僅に綿毛あり、葉は大にして殆んど裂目なし、裏面には僅に綿毛あり、又白粉を裝ひ一見他種と其趣きを異にす。樹勢強健、豊産にして、大栽培に適す。

五三、ベリーー Bailey. (Linceum. x)

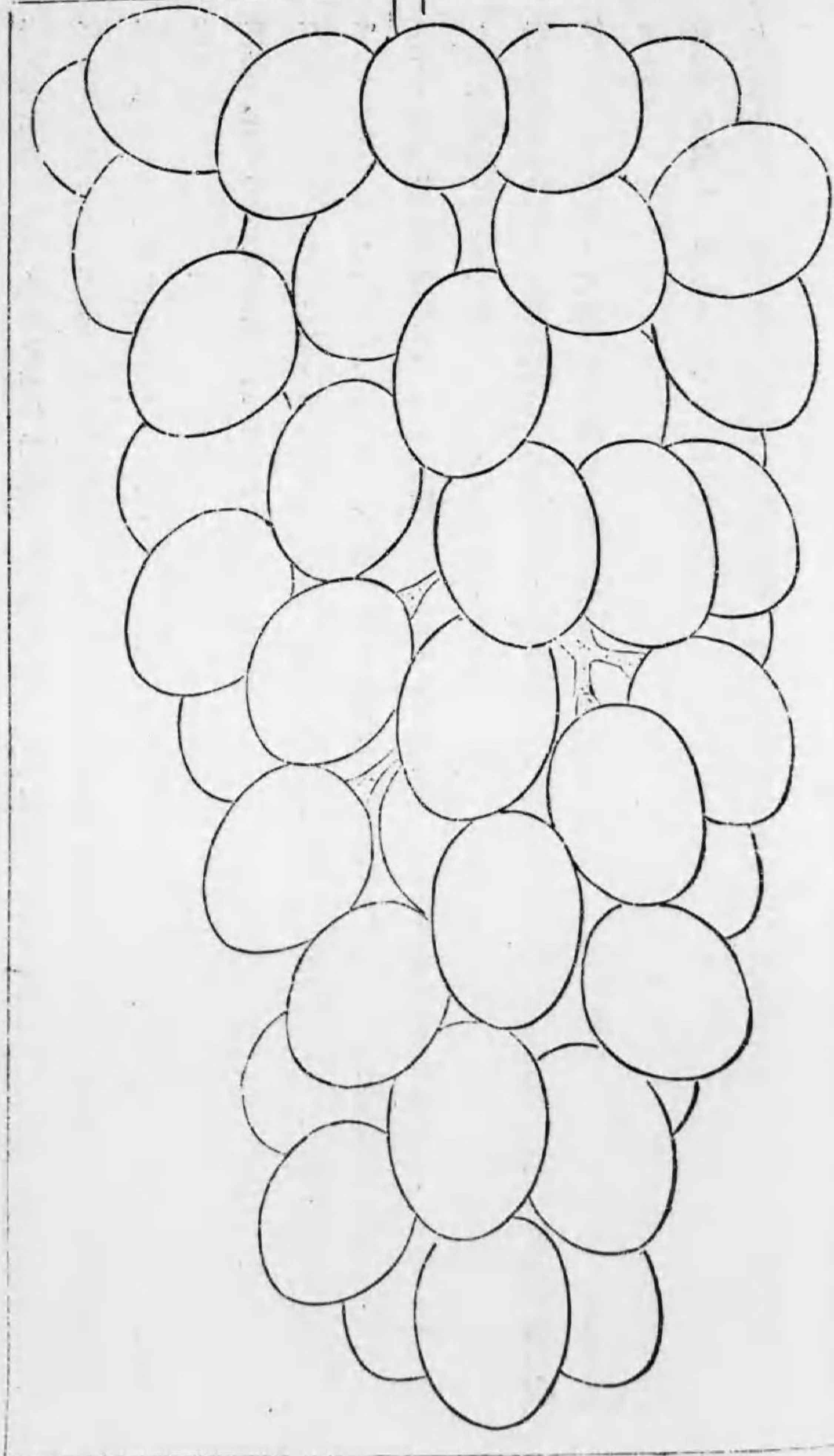
千八百八十九年マンソン氏の發見したるものにして、「ビッグ、ベリーー」と「トライアンフ」との雜種なり。

果穂は甚だ大にして「ベリーコン」に劣らず、岐肩あるも大ならず、略ぼ圓筒狀をなす。果粒は圓形にして大なり、熟して濃黒色となり白粉を裝ふ。果皮厚くして肉緊り頗る甘味に富み、殆んど奇臭なく品質上等なり。生食の外、赤酒の醸造に用ひて佳なり、八月下旬より九月上旬に渡りて成熟す。

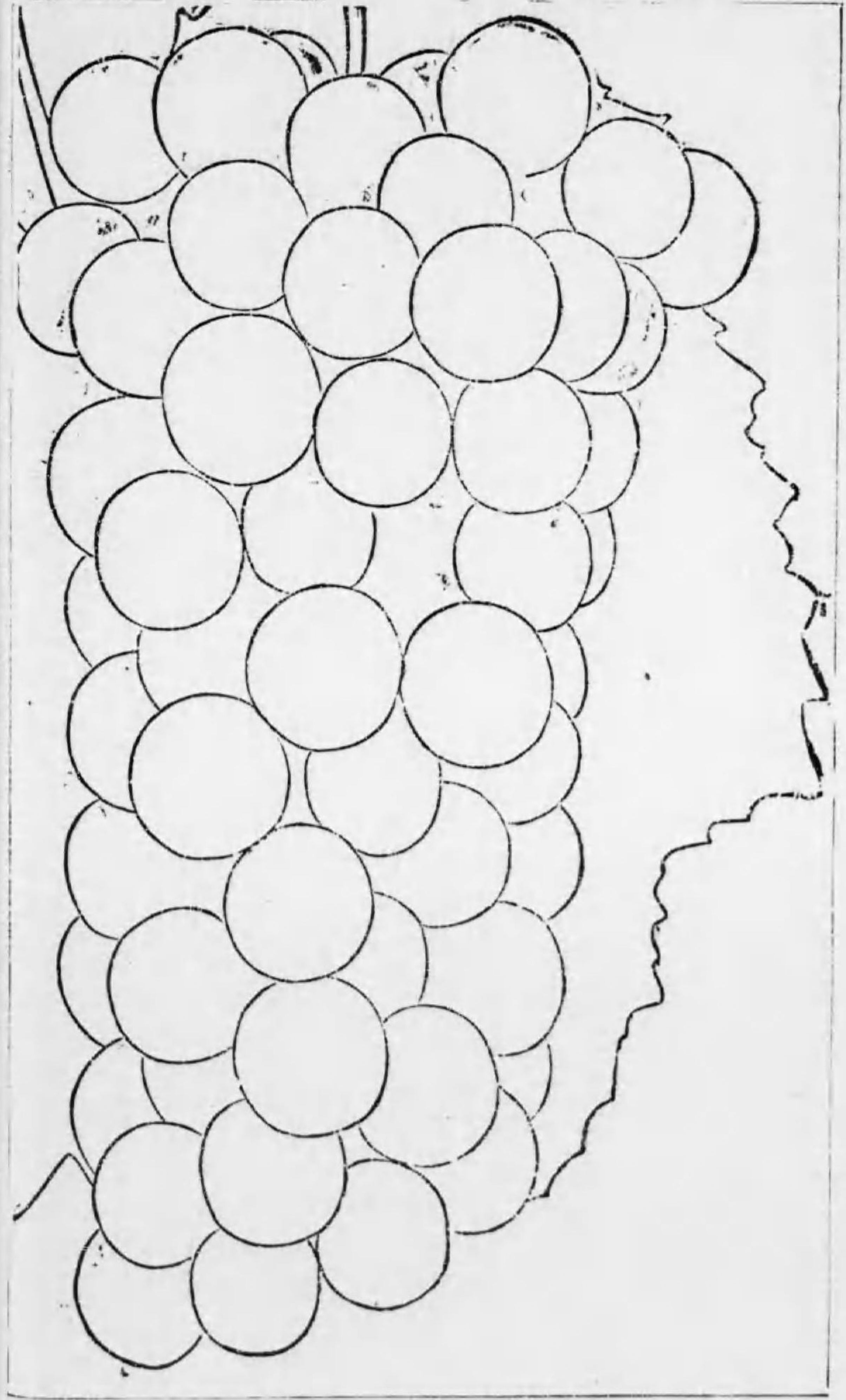
第 三 十 八 圖 ルグンラマ・スーコレブ (約五分の四)



ガラム・トイフホ 圖十四第 (四の分五約)



シコーベ 圖九十三第 (大物實)



樹は赤褐色にして綿毛を帯び節間長し、葉莖赤くして綿毛あり、葉は大にして厚く概ね裂目を有せざるも、又時として淺く廣き裂目あるものなきにあらず、葉裏には少しく綿毛あり、樹勢強健、生長旺盛にして病害に犯さるゝことなく、マンソン氏の作出種中「ペーコン」と共に大栽培に適するものなり。

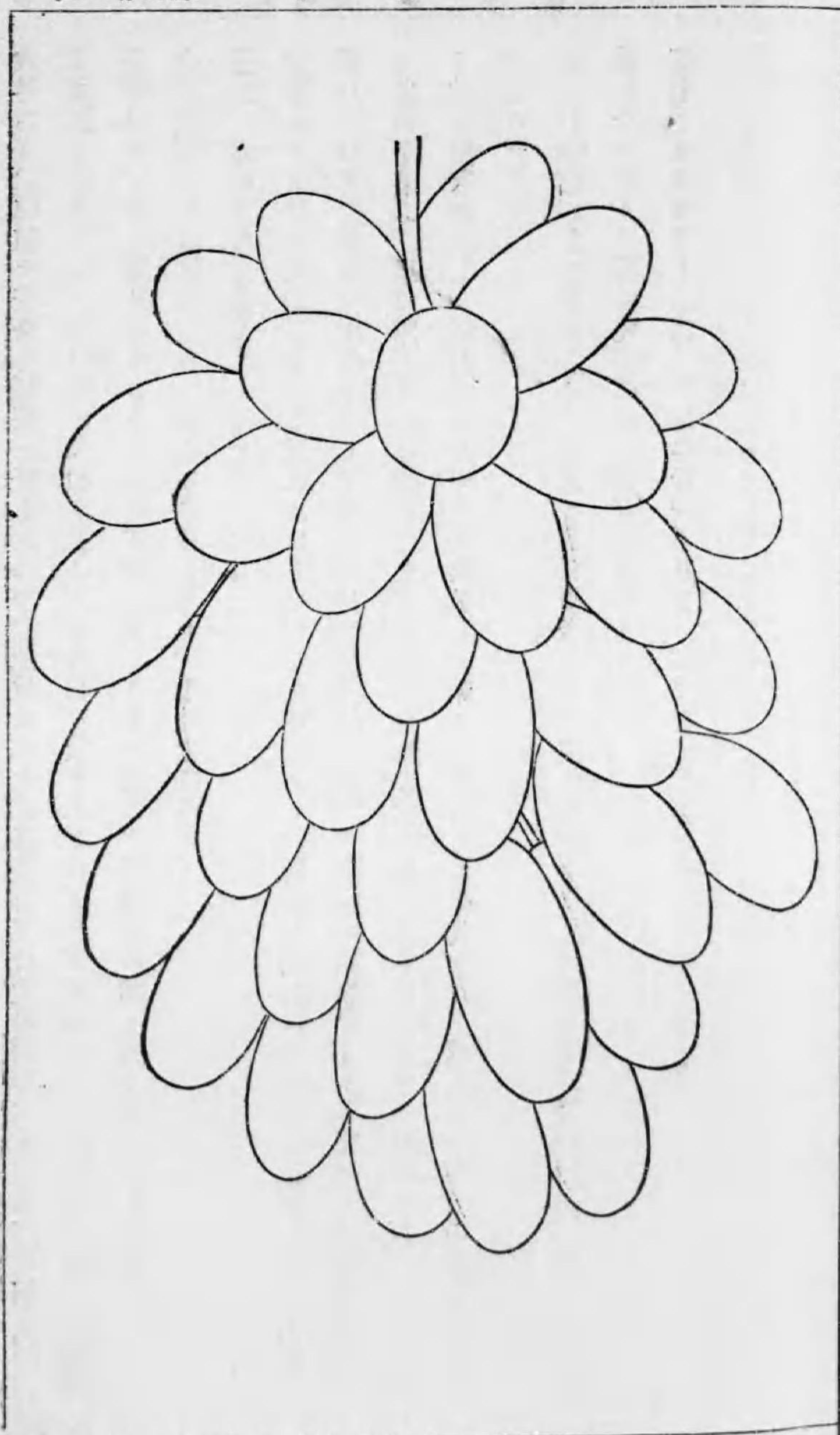
五四、ホワイト、マラガ White Malaga. (Vinifera.)

西班牙の原産なり。果穂は甚だ大にして概ね岐肩を有し肩張れり、果粒は大にして卵形をなし「マラガ、マスカタラ」、「ゴールデン、クキン」等に比し短大なり、果穂も短大にして粒は幾分密著の方なり、果皮は厚く熟して白黄色となり美麗なり、果肉は緊り甘味に富み酸味少く、「マスカット」の佳香を有し、生食用として賞味せらる。九月下旬より十月に渡りて成熟す。

樹は帯赤褐色にして節間短く、葉莖は殆んど滑かなり、葉は稍々大にして肉薄く、稍々深き四個の裂目を有し、鋸齒は尖鋭なり。樹勢は頗る強健にしてよく生育し、病害に犯さるゝこと極めて少なく豊産なり。

五五、紅鶏心、ホンチーヅン (Vinifera.)

本種は處により紫牛奶とも云ふ。其果形鶏の心臓に酷似せるが故に此名あり、支那種にして山東直隸滿洲等に於て栽培せらる。樹性强健にして枝條は赤褐色をなし節間稍々長し、果穂は稍々大にして百々



内外あり、粒稍々密著し肩張り著しからず、顆粒大にして長圓形又は尖橢圓形なり、果皮は稍々厚く帶紫淡赤色をなし、灰白色の果粉を装ふ。果肉稍々緊り漿液に富み甘酸適度、九月上旬登熟し、品質上等なり、餘り豊産ならざるに長き貯藏に堪へざるが故に、龍眼種の如く廣く栽培せられず。南滿地方にて栽培せらるゝ、鶏心は本種と異り、果粒紫紅色なり。

五六、ボルドウ、ノアール *Bordeaux Noir. (Vitifera.)*

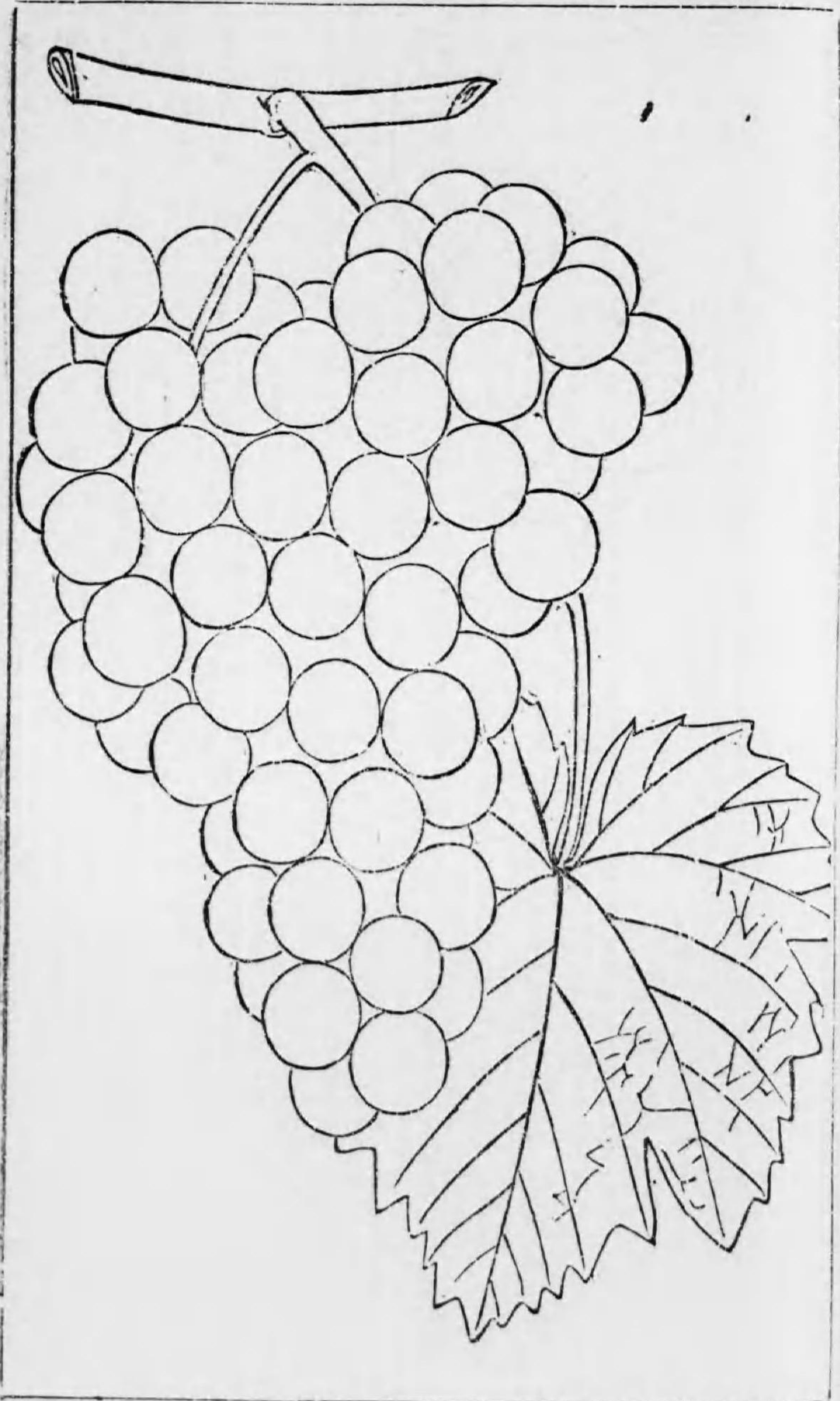
佛國ボルドウの原産なり。果穂は小にして大なる岐肩あり、肩張り先端に至るに従ひ細くなりて倒三角形をなす。果粒は中の小にして少しく長味を帯び密著す。果皮は紫黑色なるも完熟して濃黒色となり白粉を装ふ。果皮厚く果肉は軟かにして多漿、甘味非常に強く品質佳良なり。果柄は短くして、青く枝の附著部太し。九月上旬乃至中旬成熟し、稍々豊産にして生食の外、醇良なる赤酒の醸造に賞用せらる。

樹は白褐色にして節間短く、葉莖と共に平滑なり、葉は大き中にして稍々厚く裂目殆んど無し、表裏共に滑かなり、樹勢強健にして成育良好なり。

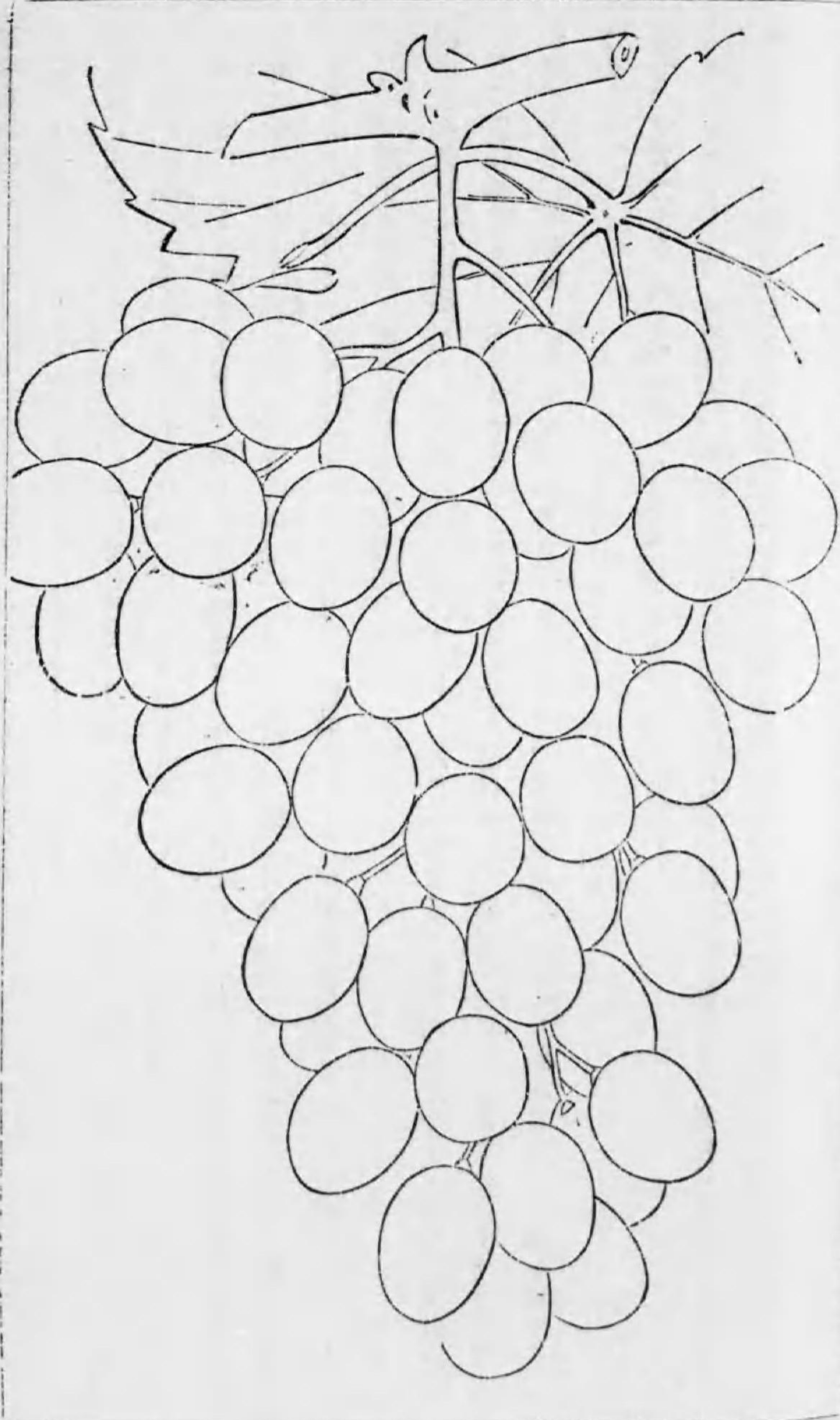
五七、マスカット、オフ、アレキサンドリア *Muscats of Alexandria. (Vitifera.)*

異名 *Archerfield; Early Muscat; Charles worth Tokay; Cabas a la Reine; Muscat Escholata.; Bovo d Muscat; Lunel Muscat; Muscat Romain.; Paise Muscat; Tottenham Park Muscat; Tynninghame Muscat.*

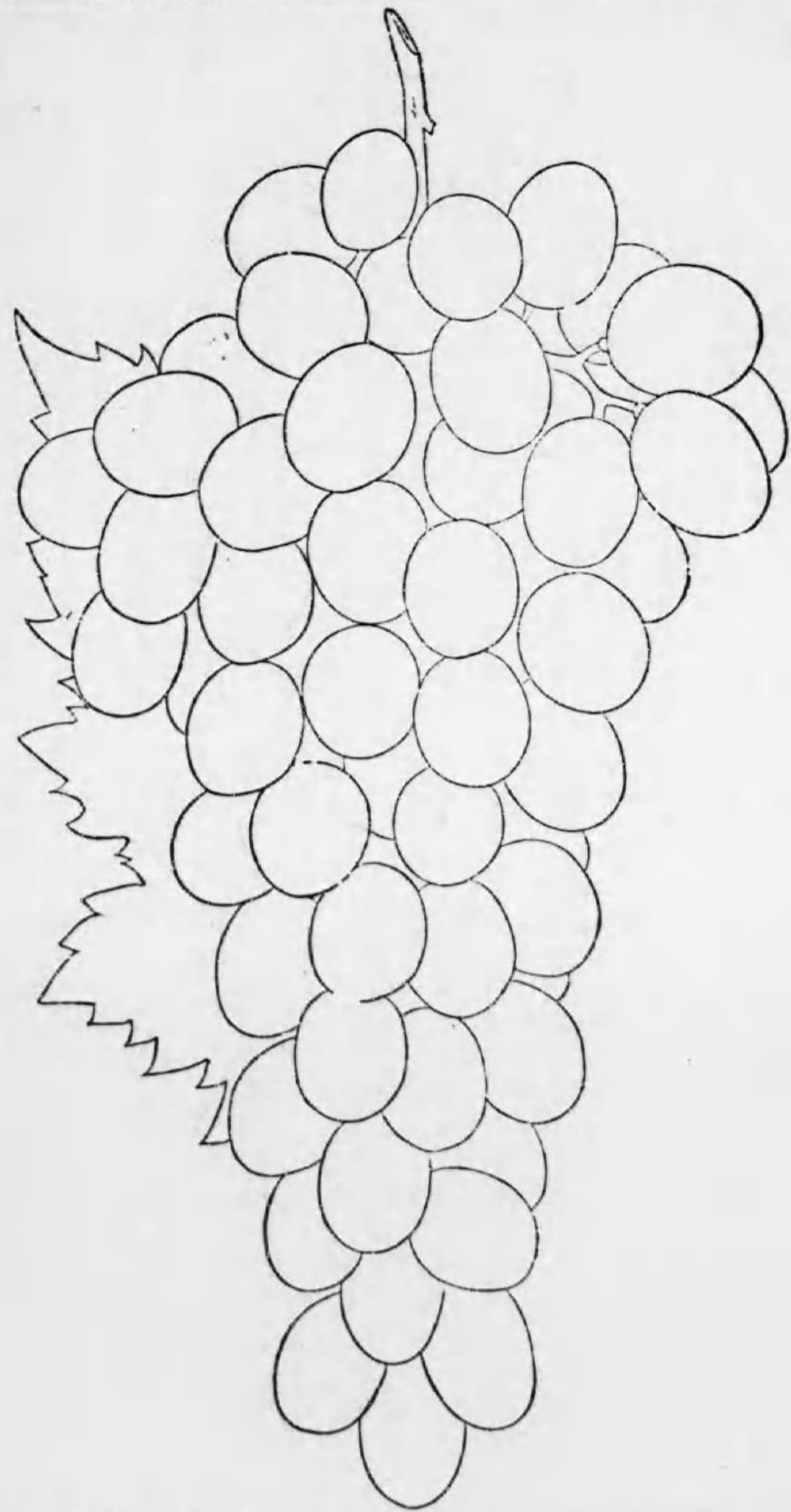
第 四 十 二 圖 ボ ル ド ウ ノ ア (約五分の三)



(五の分五約) グルブツカスマ 圖四十四第



(一の分二約) アリドンサキレア・ブオ・ツカスマ 圖三十四第



亞弗利加州アレキサンドリアの原産なり、最も古き而して最も優良なるもの、一にして、英國の南部に於ては一般に「チカールス、ウオース、トーカー」として知らる。

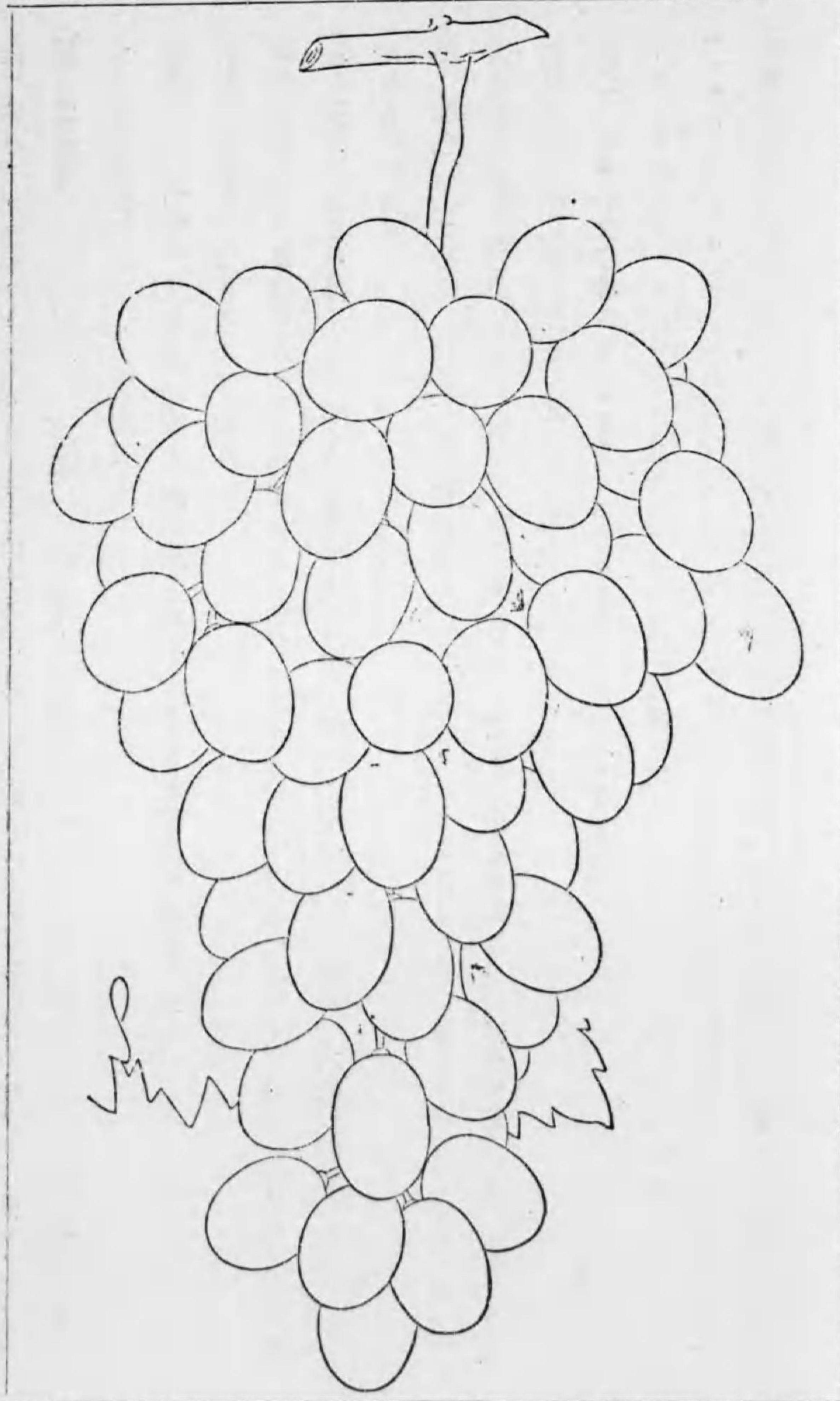
果穂は巨大にして長さ一尺乃至一尺一寸に達す。先端に進むに従ひ漸次に細く、屢々甚だしく肩の張りたるものあり、重量二百五十匁以上四百八十匁位を普通とし、時に七百匁以上なるものあり、果粒は甚だ大にして長卵形をなし、熟して帶黃綠色より漸次琥珀色となり、陽光面に肉桂色の刷目を現し壯麗を極む、果皮は稍々厚く肉質は緻密にしてよく緊り、頗る甘味に富み、又「マスカット」特有の強き芳香あり、小形なる果粒には往々核を有せず、晩熟種にして十月初旬成熟す。歐洲種中品質第一位にして、硝子室栽培に缺くべからざるものなり。

樹は淡褐色にして節間短く、微細なる小黑點あるも殆んど平滑なり、間絶的卷鬚あり、葉莖は淡紅色にして僅に絨毛あり、葉は大きさ中にして稍々厚く淺き裂目あり、周邊に尖銳なる鋸齒を有す。葉裏には絨毛あり、樹勢弱く各種の病害に犯さるものにして、本種の栽培には最も熟達したる伎倆を要するものなり。

五七、マスカット、ハンブルグ Muscat Hamburg. (Vinifera.)

英國の原産ならん。果穂は大、果粒も亦大にして卵形をなす。粒は甚だ疎著す。果皮は美麗なる赤紫色なるも、完熟するに至れば紫黒色となり、白粉を裝ひ壯觀を極む。果皮は厚からず肉質緊り頗る甘

（一の分二約） トーコ・ドルキフスレドマ 圖五十四第



味に富み、「マスカット」の強き佳香を有し、生食用として最上のものなり、九月中下旬に熟す。樹は淡褐色にして節間短く、葉莖には絨毛多し、葉は大きさ中にして薄く裂目深し、裏面に絨毛を密生す。樹勢強健にしてよく生育す。

満洲にて「玫瑰香」又は「梅桂香」と稱し廣く栽培し優品を産す。收量亦た多し。

五九、マタロ *Mataro*. (*Vinifera*)

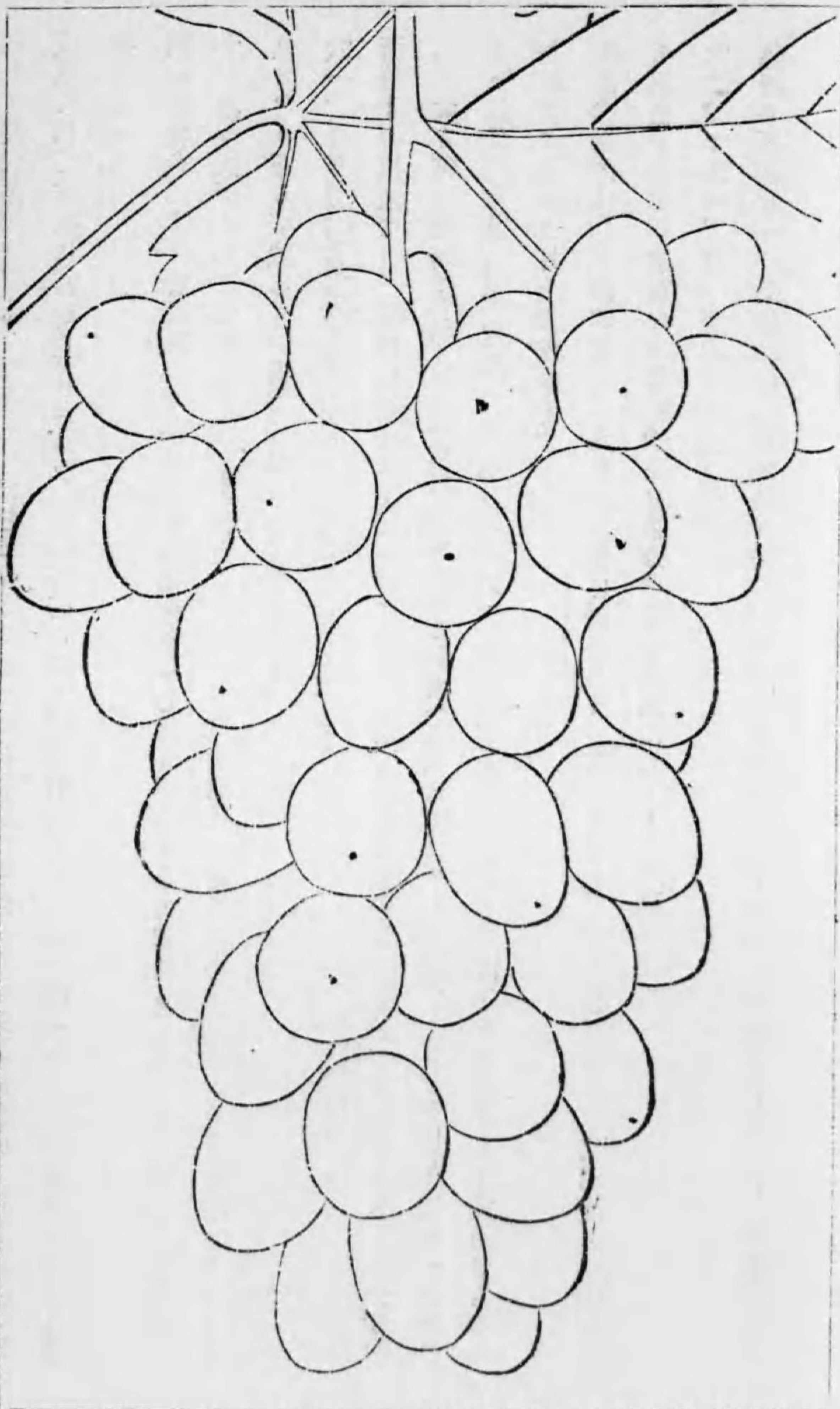
歐洲の産なり。果穂は大にして岐肩あり、顆粒は稍々大にして密著の方なり、熟して濃黒色となり白粉を装ふ。果皮は厚くして硬く、肉質緊り、品質上等にて生食に供する外、赤酒の醸造に用ひらる。九月上旬成熟す。

樹は褐色にして少しく白粉を帯び節間短し、葉は稍々大にして厚く、深き裂目を有す。裏面には僅に絨毛あり、晩秋落葉に先だち、葉は一齊に紅色となるが故に頗る美觀なり。樹勢強健、成長旺盛にして、氣候不順の年と雖も病害に犯さるゝ事少し。

六〇、マドレスフィールド、コート *Madresfield Court*. (*Vinifera*)

マドレスフィールド、コートに於てコックス氏が作出したる、「マスカット、オブ、アレキサンドリア」と「ブラック、モロッコ」との雜種にして、千八百六十八年英國園藝會に於て證認せられたるものなり。果穂は甚だ大にして長く、一穂よく五百匁に達するものあり、肩は斜に垂れつゝ張れり、果粒甚だ大

ラテカスマ・ガラマ 圖六十四第 (三の分五約)



にして長楕圓形をなし、完熟して濃色となり、厚く白粉を装ひ壯觀なり。果皮は強韌、肉質緊り、帯綠色にして甘味に富む。「マスカット」の芳香を有し、品質は葡萄中第一流なり、硝子室栽培として賞揚せらる。

樹は白褐色にして節間短し、芽は尖りて褐色をなし薄き綿毛を以て被はる、葉は犬の中にして厚からず、稍々圓形にして先端尖り深き裂目あるものあり、葉梢及び葉脈は赤味を帯ぶ。落葉期に及んで紫色となり頗る美麗なり、樹勢強健にして豊産なり。

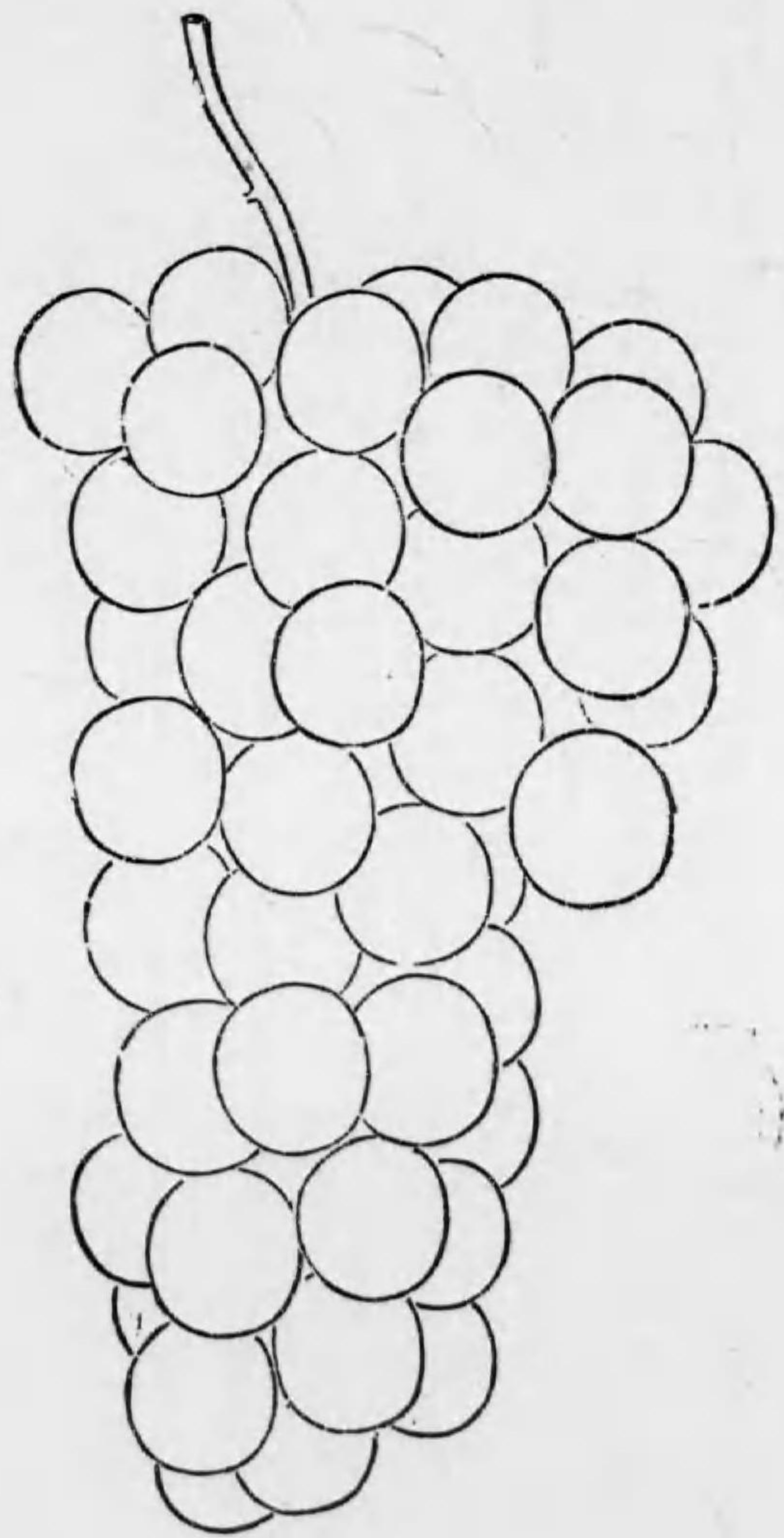
⑥ 六二、マラガ、マスカテラ Malaga Muscatella (Vitifera.)

西班牙の原産なり。果穂は巨大にして「ホワイト、マラガ」種に類似す。果粒は長楕圓形にして先端少しく尖り稍々密著す。熟して黄金色となり頗る壯觀なり、果皮薄く肉質緊りて甘味に富み、「マスカット」の芳香を有す。生食用として「マスカット」種中第一位のものなり、硝子室栽培として賞揚せらる、九月下旬より十月上旬成熟す。

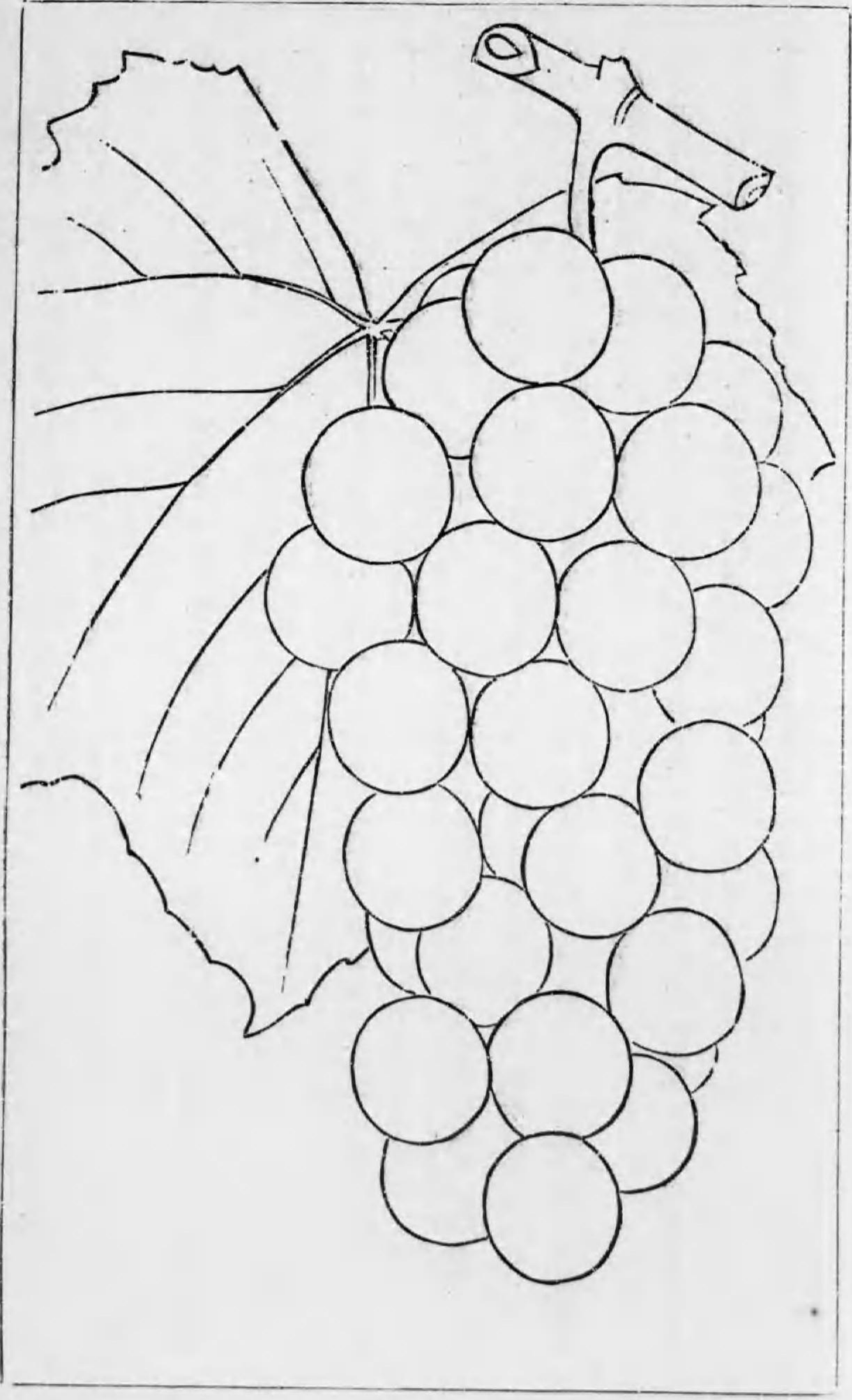
樹は赤褐色にして節間短く、葉莖には僅に絨毛あり、葉は大にして深き裂目あり、又周邊には尖銳なる鋸齒を有す。裏面には僅に絨毛を帯ぶ、樹勢強健にしてよく生長す。

六二、マルベツク Malbec (Vitifera.)

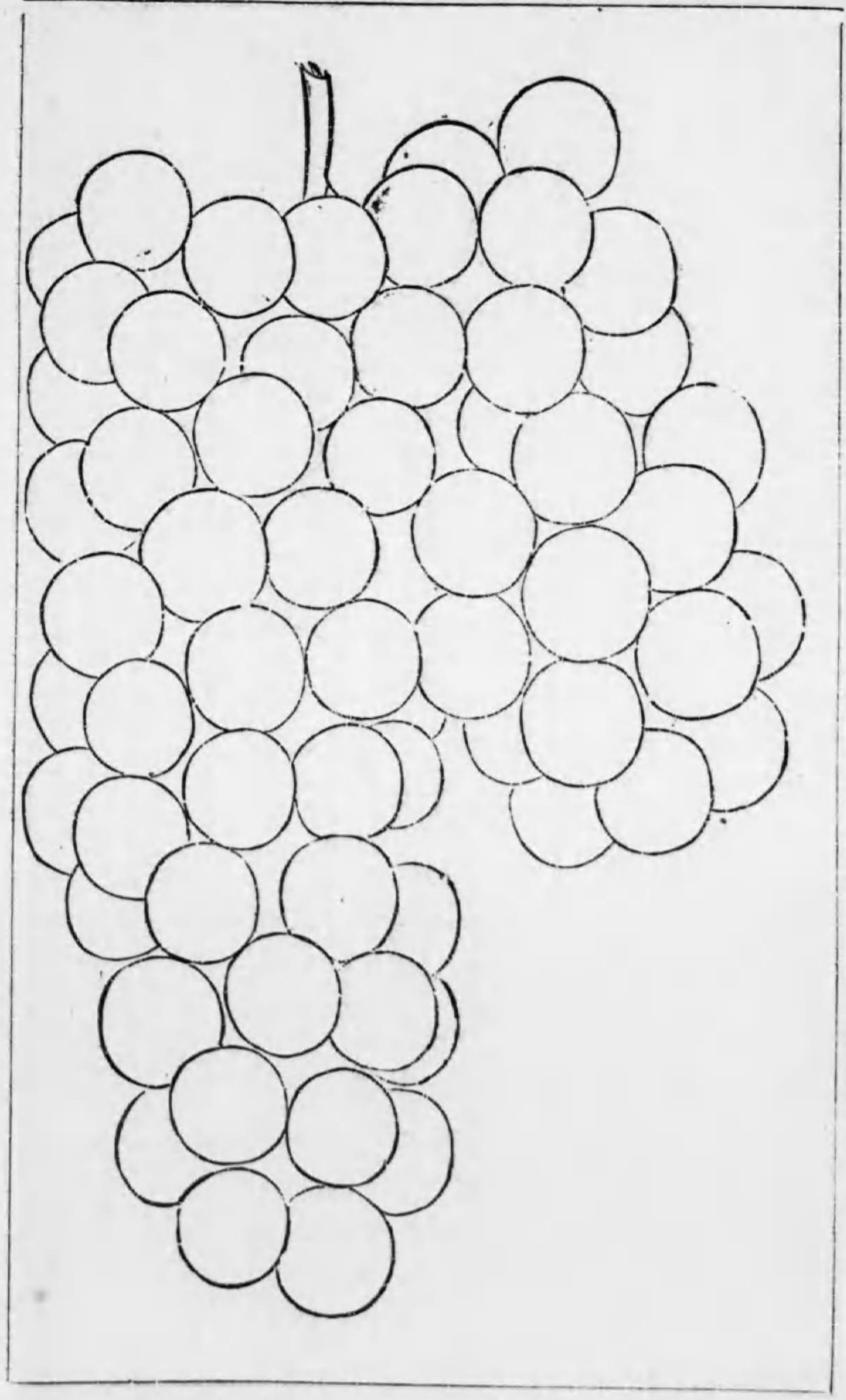
佛國の原産なり。果穂は中にして稍々長く、果粒又た中位にして少しく長味を有す。粒は密著ならざ



(大物實) ーラーア.スアーム 圖九十四第



(四の分五約) スルミ 圖八十四第



るも亦た疎に失せず、果梗は細し、熟して濃黒色となり白粉を装ふ、果皮は厚く、果肉は軟かにして甘味に富み品質は頗る上等なり。生食に供するの外、高尚なる赤酒の醸造に用ひらる。九月上旬より成熟す。

樹は淡褐色にして節間短く、葉莖と共に平滑なり、葉は大きさ中、裏面には僅に絨毛を有す。樹勢強健にして生長良好なり。

六三、ミルス Mills. (Labrusca x)

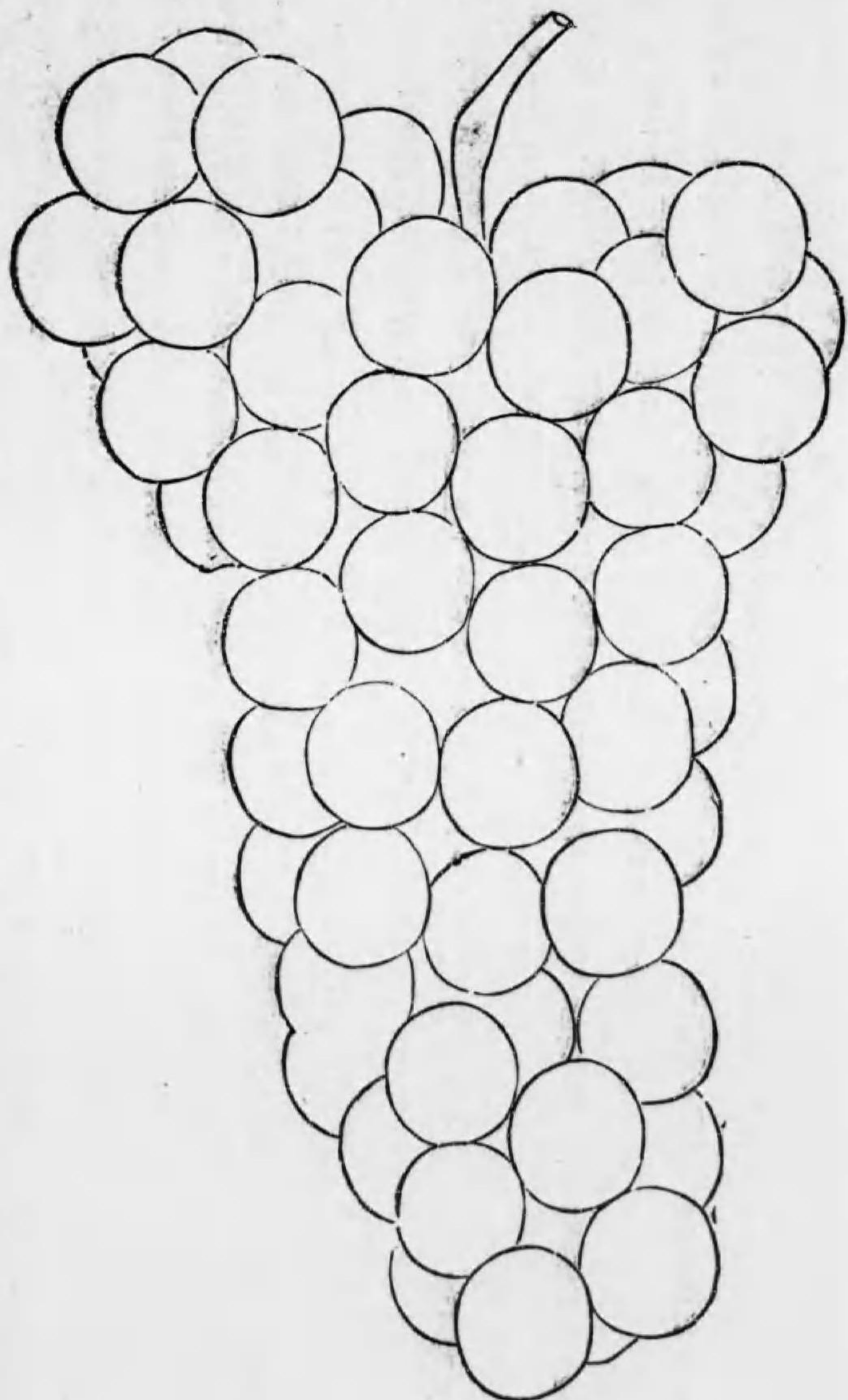
米國オントリオ州ハミルトンなるウキリアム、エイチ、ミルス氏が「マスカット、ハムブルグ」と「クレグエリング」種との雜種により作出したるものなり。

果穂は中又は大にして大なる岐肩あり、果粒は中の大にして圓形をなし稍々密著す。熟して紫黒色となり白粉を装ひ頗る壯麗なり、果皮は厚くして剛く、果肉は緊りて甘味に富み、酸味殆んどなし、「マスカット」の佳香あり。米國種中品質上等なるものなり、果皮厚硬なるが故、長き貯藏に堪へ、又遠地に輸送して損傷する事なし、九月中旬成熟し、豊産にして大栽培に適す。

樹は褐色にして節間短く少しく絨毛あり、葉莖は淡紅色なり、葉は大きさ中、肉厚くして四個の裂目あり、裏面には絨毛ありて白色を呈す。樹勢強健にして成長旺盛なり。

六四、ムーアース、アロー Moore's Early. (Labrusca.)

（四の分五約） ドンモヤイダス・アーム 圖十五第



千八百七十二年米國マサチューセツ州コンコードなるムーア氏の發見せるものにして、「コンコード」種の實生なり。果穂は中にして長楕圓形なり、果粒は大にして圓形よく密著す。熟して濃黒色となり白粉を裝ふ。果皮厚く肉質緊りて甘味に富み、奇臭あれども「コンコード」の如く甚だしからず、早熟種にして八月中旬より採收し得、寒地に於て殊に成績良好なり。

樹は褐色にして節間長く質堅し、接續的卷鬚を有す。葉は大にして厚く殆んど圓形にして先端尖り裂目なし、其面に多量の綿毛を有し白色を呈す。樹勢頗る強健にして生長旺盛、病害に犯さるゝ事殆んどなし。

六五、ムーアース、ダイヤモンド Moors Diamond. (Labrusca X)

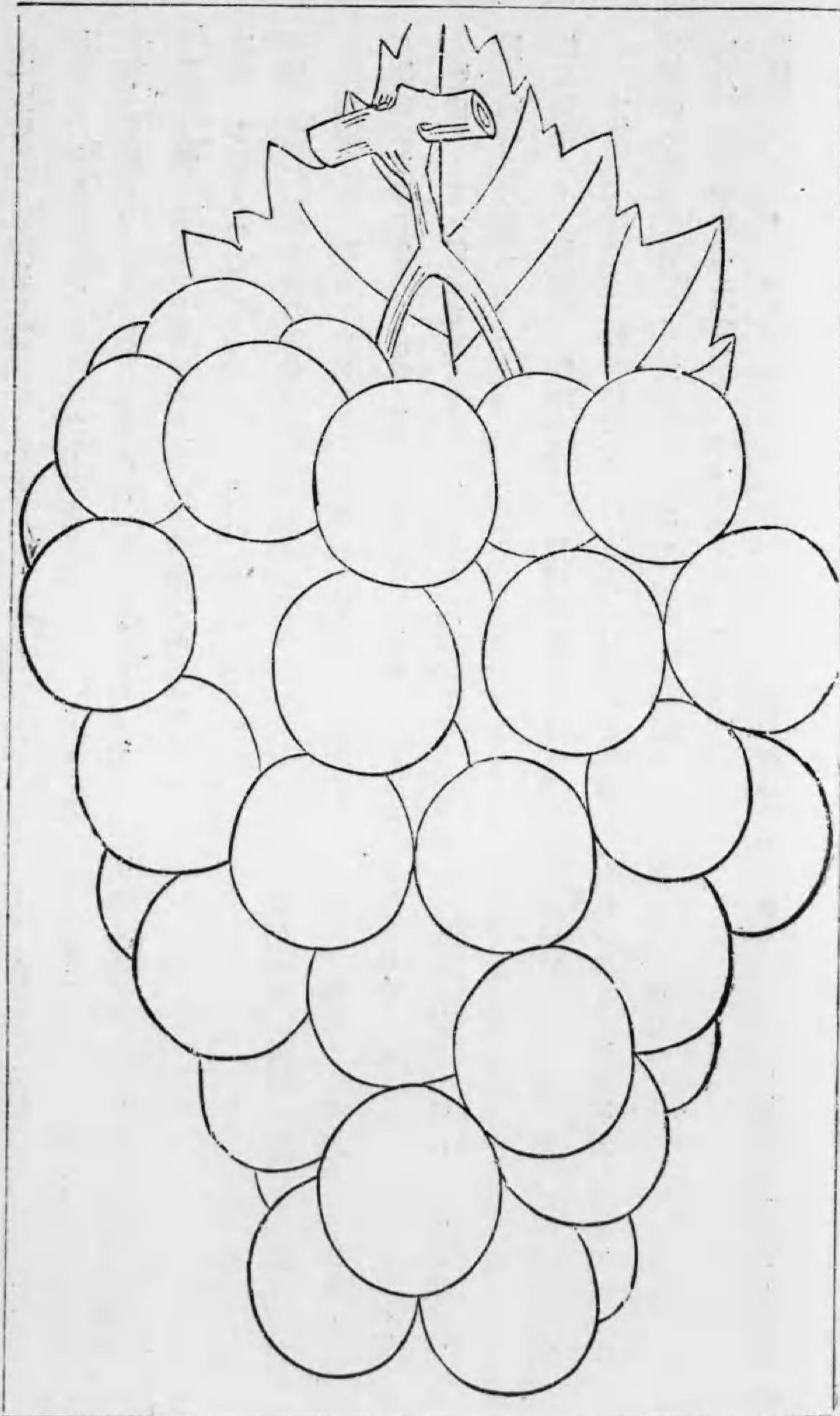
千八百七十三年米國ニューヨーク州アツチカなるジャコブ、ムーア氏が、同州ブライトンに於て發見したる「コンコード」と「アイオナ」の雜種なり。

果穂は中にして肩張り、果粒は稍々大にして圓形をなし密著す。熟して白黄色となり果皮薄し、果肉は軟かにして甘味に富み僅に奇臭あり、八月中旬成熟し、生食用としてよし。

樹は褐色にして節間短く、間絶的卷鬚あり、葉莖と共に綿毛を有す。葉は略々圓形にして裂目なく、裏面には綿毛あり、樹勢強健、豊産にして營利的栽培に適す。

六六、玫瑰香、メイクイシヤン (Vitifera)

第 十 五 圖 トツコスア・ルヤ-ロ (大物實)



北京市場にて玫瑰香と稱するものにて、一般に稱せらるゝものとは別物なり。其果穂の形状等牛奶に酷似す。果穂頗る大にして平均百四五十粒に及ぶ、肩僅に張り粒付き稍々粗なり、果粒は中の大にして多少腎臓形をなす。果皮は紫黒色なり、果肉は稍々軟にして紫色の漿液あり、甘味に富み漿液多きも風味上等と云ふべからず、九月中下旬熟し品質中等なり。

六七、レデー、ワシントン、Lady Washington. (Laburaca x)

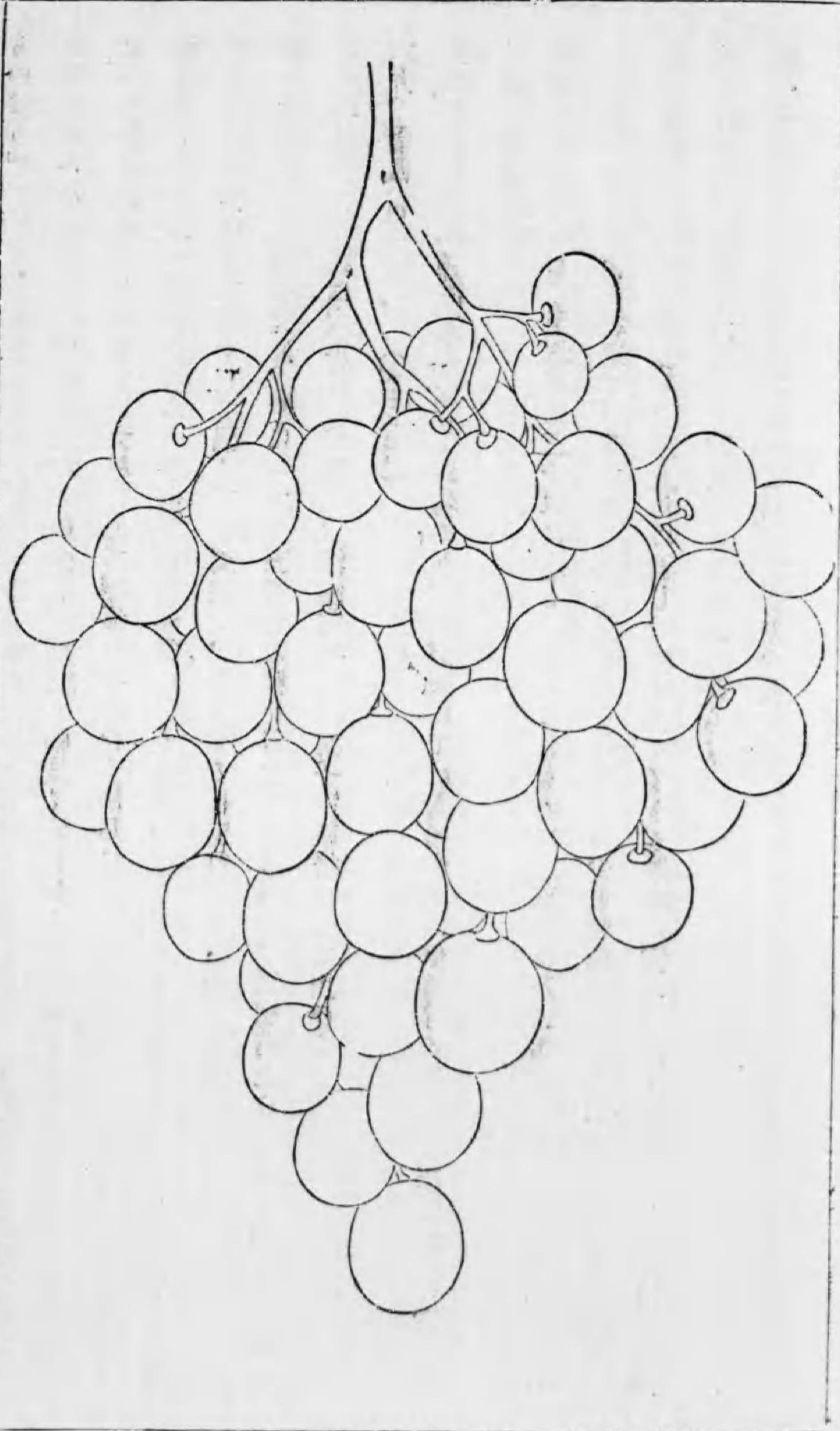
果穂は大にして又大なる岐肩あり、肩張り先端尖りたる一種の形状を有す。果粒は中にして圓く又少しく扁圓なり、熟して白黄色となり薄粉を装ひ、半透明的にして頗る美麗なり、果皮薄く肉軟かにして漿液と甘味に富み、品位上等、生食として賞揚せらるゝ外、白酒の醸造に用ひらる。九月上旬成熟し豊産にして一様に成熟するも、本種の一大缺點とする處は熟して脱粒し易きが故に、遠隔の地に輸送し能はざる點なり。

樹は褐色にして節間短く綿毛を被り、間絶的卷鬚を有す。葉莖は淡紅色にして長く綿毛あり、葉は大にして厚く、深くして廣き裂目あり、裏面には綿毛を密布して白色を呈す。樹勢強健なるも時として炭疽病の爲めに害さるゝ事あり、又挿木法により發根せしむる事稍々困難なり。

六八、ローヤル、アスコット Royal Ascot. (Vinifera.)

英國アスコットに於てジョン、スタンディッシュ氏の作出したる雜種にして、英國園藝會の推賞せる

龍 眼 圖 二 十 五 第 (一の分二約)



ものなり。

果穂は寧ろ小にして六十粒以上のもの少し、肩張り幅廣く丈短し。果粒は甚だ密著なるが故に他種よりも早く間引するを要す。大粒にして卵形を帯びたる圓形にして果梗は短し、果皮甚だ厚く熟して紫黒色となり厚く果粉を裝ふ。著色する事非常に早く黒色となりてより完熟するまでには相當の日子を要す。果肉は甚だ硬くして強く舌を刺戟す、完熟するに至れば李の如き香氣を生ず。

樹は強健にして頗る豊産、時に一枝上三乃至四穂を着生する事あり、又副梢上に果穂を生ずるは本種の一特色なり、葉は大形にして圓く、深鋸齒あり、硝子室栽培として用ひらる。

六九、龍眼、ロンエン (Vinfiera)

支那種にて虎眼・猫眼・圓心等の別名あり。我が國にては善光寺又は信濃等と稱し、長野縣下に於て古くより栽培す。

果穂は頗る大にして平均百二三十粒に達し。其大なるものは三百粒に及ぶ事珍しからず、顆粒又大にして圓形をなし稍々密著す。果皮厚く帶紫淡赤色をなす。多少透明的にして灰白色の稍々厚き果粉を以て覆はる。九月下旬より十月上旬に熟し、酸味稍々多きも漿液に富み、長く貯藏する事を得。滿洲地方にありては翌年六月まで貯藏するもの珍しからず。

樹は強健にして、枝條赤褐色をなし、節間稍々長し。

第四節 營利的栽培品種

前節に於て有望種と目す可きもの數十種につき之れが解説を試みたるも、こは極めて一般的のものにして、部分的に之れを觀察する時は、自ら其處に選擇採用す可き品種の限定せらるゝものあるを見る可し。而して今日我が國に於て最も廣く栽培されつゝあるは「カタウバ」なり、本種は品質上等ならざるも、樹勢強健にしてよく各種の風土に堪へ、病害に犯さるゝ事少く、殆んど自然の状態に於てよく結實するものなるが故なり、又近時品質良好にして比較的樹勢強健、收量多きの故を以て、「デラウエア」の栽植せらるるもの多きを見る。或は山梨縣に於ける甲州葡萄、山形縣に於ける歐洲種、岡山縣に於ける「カンベルス、アーリー」の如く、地方的色彩により特色あるものなきにあらざれば、各當業者は其地方の風土、人情、交通の便否等に鑑み、自ら栽培する品種を選擇する事勿論なるも、原則として餘りに多種類を混植する事は經營上大なる不利を來すものなるべければ、多くとも五種類を超す可からざるものと信ず。茲に初心者爲めに五段階の葡萄園を開設するとして、如何なる品種を選ぶ可きか、其數例を記す可し。

一、降雨少く土質良好にして都會に近き處。

一、シヤスラ、ド、フホンテンブロー

一段歩 二、ブレコース、マラングル

一段歩

ブラツク、ハンブルグ又はマスカット、
レデーワシントン

二段歩

甲州又は甲州三尺

三段歩

ゴールデン、クキン

一段歩

二、風土良好なるも都會に遠き處。

一、デラウエア

二段歩

二、ブラツク、ハンブルグ

二段歩

ペーコン

二段歩

グロー、コールマン

一段歩

ミルス

一段歩

甲州又は甲州三尺

二段歩

三、風土幾分不適なるも消費地近き處。

一、カンベルス、アーリー

二段歩

二、グリーン、マウンテン

一段歩

パンナー又はムアース、ダイアモンド

二段歩

デラウエア又はパンナー

二段歩

レデー、ワシントン

一段歩

ペーコン

二段歩

右は何れも生果の儘販賣する露地栽培に於けるものにして、硝子室栽培のものに對しては、項を更めて別に記す可く、又醸造用にありては、滿洲朝鮮・山梨・岡山・長野等の如く風土の良好なる地にありては、「ジンフハンデル」、「ビノー、グラー」、「ビノー、ノアト」、「ビノー、プラン」、「ブラツク、パトガンヂキ」、「ホルドゥノアー」、「マルベツク」、「マタロ」の類を栽培す可く、幾分降雨多く、病害の慮ある地方には、「カタウバ」、「アデロンダツク」、「バートランド」、「ハートフホード」、「デラウエア」、「ペーコン」の如きものを栽培するがよろしからん。

第五章 氣候

第一節 氣 溫

葡萄は氣溫の支配を受くること比較的少きものにして、南は臺灣より北は北海道の一部に至る迄、よく生育結果しつゝあるを見る。然れども臺灣に在りては種類に依り生長旺盛にして、結果作用充分ならざるものと同時に、又北海道にありては往々冬期酷寒の候枯死するものなきに非ず。

北海道に於ける札幌は冬季極寒の時、零下二十五度に下降する事あるも、尙「ブレコトス、マラングル」種の栽培せらるゝものあるを見、青森は「ブラツク、ハンブルグ」の生産地として知らるゝ處なるが、冬季は零下十九度に下降する事あり。是等の實績よりして之れが耐寒力の一斑を知る事を得べし。

又、高温なる地方としては米國サクラメント、フレズノ等に於て最高攝氏二十五度餘、佛國モンペリエに於ては二十四度、伊太利ソンドリオの二十六度、希臘のカネアに於て二十七度五分、埃及のアレキサンドリアに於ける三十六度餘、我が臺北に於ける三十二度等の地に於て相當の成績を挙げつゝあるものを見れば、此間の消息を知るに難からざるべし。

葡萄は攝氏十度に相遇して發育を開始し、二千六百九十四度の積算溫度によりて成熟するものなりと

せらる。而して成長期間に於ける平均温度を十三度以上とし、成熟期中に於て十八度を降らざる事を要するものにして、其最も適良なるものは成長期間中に於て十八度以上、成熟時に於て二十四度以上の平均温度を必要とするものなり。

満洲熊岳城以南及び朝鮮に於ては近時葡萄を栽培するもの増加せんとしつつあり、同地方に於ては冬期零下二十度以下に降下する事あるが故に、我が北海道と等しく特殊の作業をなすにあらざれば充分なる成績を擧ぐる事能はざる可し、而して寒氣に處する唯一の方法は、冬期間其樹梢の全部を深く地中に埋没し置くにあり。

總じて米國種は寒氣に抵抗する力強く、之れに反し歐洲種は往々にして枝梢を枯死せしむるが如き事無きにあらず。故に寒氣激烈なる處にありては、勉めて耐寒性强き品種を選んで栽培する事肝要なり。葡萄は亦た例へ生育結果すと雖も、寒冷なる地方に於て積算温度充分ならざる時は、固有の品性を現す事能はざるものなり。是れ寒地に於て生産せられたるものが往々にして甘味乏しく酸味強き所以なりとす。又氣温低き處にありては果實の成熟を遅延せしむる事大なるものにして、晩熟種の或るものが我が東北地方に於て往々完熟に至らざる事あるを見る、是等は栽培の當初に當り、宜しく栽培家の留意と研究とを必要とする事項なりとす。

今左に本邦葡萄産地に於ける氣温の一般を表示して参考の資に供せん。

地名	最高	最低	平均温度
廣島	一九・四	九・六	一四・六
岡山	一九・三	九・三	一四・四
神戶	一九・四	一〇・六	一五・〇
大阪	一九・一	一〇・五	一四・八
沼津	二〇・四	一〇・五	一五・一
甲府	一七・七	五・八	一三・二
水戸	一七・九	七・三	一二・六
長野	一六・三	五・五	一〇・九
松本	一五・五	四・〇	一〇・一
新潟	一五・八	八・四	一二・五
宇都宮	一七・九	六・三	一二・二
山形	一五・三	五・一	一〇・六
青森	一二・九	四・五	九・一
札幌	一〇・七	〇・七	六・九
京城	三一・六	一〇・一	一二・七
旅順	三八・四	一七・五	一〇・五

尙ほ参考の爲め海外數箇國につき調査する時は即ち次の如し。

國名	地名	最高	最低	平均温度
佛	パリ	一八・三	二・〇	一〇・三
蘭	リオン	二一・二	二・四	一一・五
	ホルド	二〇・六	五・六	一二・八
	モンペリエ	二四・三	五・六	一四・四
	マルセイユ	二二・一	六・四	一四・三
西	ネツツア	二三・九	八・四	一五・七
伊	ソンドリオ	二六・二	二・二	九・九
	チュリン	二三・二	〇・二	一一・〇
	ツェノア	二四・六	七・八	一五・九
	フロレンス	二五・一	五・〇	一四・六
	ローマ	二四・八	六・七	一五・三
	ネーブルス	二四・三	八・二	一五・九
利	パレルモ	二五・四	一一・〇	一七・九

西班 牙		葡 萄		澳 洲		亞 非 利 加		希 臘		露 國									
バルセロナ	リスボン	マラガ	オリボルト	アソルス	マンハイム	ストットガ	コトアレン	ストラスア	ルグ	アラガ	クレムス	ワキナ	セントミケ	トルエント	アレツスア	ルグ	アラガ	アラウセン	アラウセン
二六・〇	二一・七	二六・七	二一・三	二二・〇	二〇・〇	二〇・〇	二〇・〇	二〇・二	二〇・二	一九・六	二〇・〇	二〇・五	二二・三	二四・四	二一・六	二二・三	二二・三	二〇・三	二〇・三
八・九	一〇・三	一〇・三	一一・二	一〇・一	一〇・一	一〇・一	一〇・一	一〇・一	一〇・一	一・五	一・三	一・七	〇・二	〇・二	〇・八	〇・五	〇・五	〇・六	〇・六
一六・九	一五・六	一九・八	一六・五	一七・二	一〇・五	九・六	九・六	一〇・六	一〇・二	九・三	一〇・三	九・七	一一・六	一一・九	一〇・〇	一一・〇	一一・二	八・九	八・九
セバ	トル	ボ	チ	リス	ア	セン	ス	コ	パ	トル	ス	ア	レ	キ	サ	ン	ツ	シ	ン
二一・九	二四・三	二六・九	二六・七	二六・七	二六・六	二六・六	二六・三	二五・〇	二六・四	二二・七	二〇・六	二二・七	二二・七	二二・七	二二・七	二二・七	二五・四	二五・四	二五・四
一・四	〇・五	一・四	八・二	八・二	八・二	八・二	八・二	一〇・二	九・四	一〇・二	一〇・二	一〇・二	一〇・二	一〇・二	一〇・二	一〇・二	八・〇	八・〇	八・〇
一〇・四	一四・〇	一八・五	一八・七	一八・七	一九・九	一七・八	一七・八	一八・一	一八・一	一八・一	一八・一	一八・一	一八・一	一八・一	一八・一	一八・一	一五・六	一五・六	一五・六

以上海外各地に於ける葡萄酒産地は又一面に於て葡萄酒の醸造地なるが、今、気温と酒質との關係に就

て見る時は大約左表の如し。

最高温度	最低温度	平均温度
一八・五—一九・〇	四・〇	九・〇
二〇・〇—二四・〇	〇・五—一六・〇	一〇・〇—一三・〇
一四・〇	八・〇	一五・〇—二一・〇
二八・〇	一八・〇	二二・〇

右表により我が國各地の気温を酌量する時は、臺灣・琉球・大島・小笠原島等は正に最高限度にして、九州・四國及び山陽・近畿・東海各道の海岸地方は何れも最強酒の産出地に位置し、其他は概して最良酒の産出圈内にあり。青森に至りては漸く最低限度に達し、北海道以北及び朝鮮の中部以北、滿洲は正に最低限度以下に在るなり。斯の如く單に気温の方面より見る時は、我が國土の大部分は葡萄栽培地として、歐米の夫れに比して決して遜色なきを知るに難からざる可し。

第二節 濕 量

前節に於て我が國の気温が葡萄栽培上決して不可ならざる事を記述したるも、然も實際に於ける成績

如何を見る時は、未だ俄に之れが眞疑を決するに惑はざる可らず、而して之れが原因那邊に在るかを研究するに及んで、吾人は雨量並に濕氣が、如何に重大なる關係にあるかを、思はずんばあるべからず。

溫暖多濕なる氣候の下に於て果樹はよく生長發育すると雖も、開花結實作用極めて不充分不確實なるは吾人の屢々目撃する處なり。之に反し例へ高温なりと雖も、雨量少く、大氣乾燥する時は樹梢よく充實し、結實極めて良好なるものなり。葡萄はまた新枝葉軟弱なるものなるが故に、往々にして各種の病害に侵害せらるゝものなり。生長期間に於ける雨量は此の點に於て最も重大なる關係を有するものなり。即ち發芽より開花結實期に於て屢々降雨ある時は、如何に周到なる注意を以て栽培管理するも到底健全なる發育と善良なる結果を望む事能はざると同時に、年により大氣乾燥し降雨少き場合に於ては少しの注意をも拂はれざるに、猶ほよく絶大の好成績を現はす事無きにあらず。

降雨多く大氣濕潤なる地方に於て生産したる果實は、たごへ成熟するに至るも固有の芳香を缺除せるが故に、生食用として品質を落すのみならず、葡萄酒の原料として良酒の醸造に不適當なるや論勿し。

總じて歐洲種は濕度に支配せらるゝ事大なるものにして、濕潤なる氣候の處に於ては獨り良果を産出し得ざるのみならず、其極端なるものに至りては遂に生育結果する事能はざるに至るものなり、「パレ

スタイン」・「ゴールドデン、クキン」・「パープル、ダマスカス」等が開花するも遂に好結果を得る事能はざるは、其原因主として濕氣の多量と降雨の頻繁とに歸するものなり。之れに反し米國種は濕氣に對する抵抗力稍々強きものにして、栽培上幾分の注意を拂ふに於ては、殆んど何れの地と雖も相當の成績を穫得するに、さまでの困難なきが如し。

我が國に於ける葡萄の特産地たる山梨縣・長野縣・山形縣等は山間の高地にして海岸を去る遠隔の地なるが故に、常に大氣乾燥し、加ふるに降雨少きが爲め、葡萄樹の生育良好にして病蟲の被害少し。土質其他の點に於て必らずしも天恵の地と云ふ事能はざるも、獨り濕量少きが故に歐洲種葡萄の栽培に適し、今日天下に其名を得るに至りたるなり。

大氣の乾燥が品質に及ぼす影響夫れ斯の如し、而して一年中何れの時に於て最も乾燥を欲するやと云ふに、開花期と成熟期是れなり、開花期中に於て屢々降雨ある時は受胎作用充分なる事能はざると、軟弱なる花蕾は往々にして病蟲の侵害する處となるが故に、例へ結實するに至るも完全なる果房を形成する事能はざるものなり。又成熟期に於て降雨屢々なる時は、外面に附著せる果粉を洗去し色澤を損し固有の芳香を失ひ、甘味を減じ、外皮を厚化し、加ふるに品種によりては外皮破裂して腐敗を初むるが如き事あり、其損害一つにして足らざるなり。今本邦數箇所に於ける雨量並に晴曇日數を表示してこれが一斑を示さん。

新 潟	松 本		長 野		水 戸		甲 府	
	曇天	快晴	曇天	快晴	曇天	快晴	曇天	快晴
173.0	11.1	48.0	7.8	4.0	6.0	2.0	4.0	4.0
110.5	7.6	29.7	7.4	3.0	4.8	4.0	9.2	3.5
104.7	14.1	84.1	10.2	5.0	2.6	4.0	5.4	8.6
141.0	15.6	105.8	22.6	2.6	0.0	3.0	3.0	9.3
71.3	16.4	28.9	13.0	1.6	1.8	0.8	1.2	1.0
133.8	19.2	157.3	16.8	1.6	1.8	0.8	1.0	1.5
138.4	22.4	170.5	19.8	0.0	2.0	0.4	0.3	3.0
158.9	23.8	210.5	22.2	0.8	3.0	0.4	0.3	2.9
104.1	25.8	133.5	25.0	1.0	1.8	1.2	0.8	1.5
210.5	28.8	220.8	24.2	2.4	7.0	3.2	2.8	2.0
110.2	9.4	51.1	7.6	4.6	7.6	1.0	9.4	5.0
344.8	9.2	54.8	10.4	3.6	6.2	3.4	2.6	8.2
192.9	17.0	110.0	14.5	3.6	6.2	3.4	2.6	2.9

沼 津	大 阪		神 戶		岡 山		廣 島		地名
	曇天	快晴	曇天	快晴	曇天	快晴	曇天	快晴	
82.3	4.0	52.1	6.6	3.8	7.6	5.6	8.0	47.2	一月
48.2	5.0	32.5	4.4	2.0	5.6	3.4	7.0	39.0	二月
172.5	6.0	218.8	11.8	4.0	2.8	2.6	8.7	33.5	三月
166.1	11.3	147.3	13.6	2.6	1.4	3.0	1.6	23.0	四月
210.4	12.0	156.9	15.4	2.2	1.8	4.0	1.0	17.9	五月
220.1	18.0	250.4	17.8	0.6	1.8	1.8	1.0	12.7	六月
244.4	7.5	277.4	19.4	0.4	1.4	0.8	8.3	98.2	七月
188.7	6.7	110.4	11.2	2.6	2.0	4.4	6.3	95.2	八月
172.2	13.0	233.0	22.4	1.4	1.4	2.0	3.4	109.4	九月
189.0	7.7	132.2	13.0	3.8	2.6	4.8	1.0	49.9	十月
91.9	6.6	54.6	5.4	6.4	6.6	7.2	7.5	76.8	十一月
110.4	7.5	83.2	5.6	4.4	6.2	7.0	1.2	80.1	十二月
247.7	6.5	154.0	5.6	4.4	6.2	7.0	1.2	117.8	年

以上表示したるものは何れも單に降雨量によれるものなるも、實際に於ては降雨量多き處に在りても比較的降雨日數少く、常に大氣乾燥せる處あると同時に、又一方に於ては降雨量は少きも曇天日數多く且つ大氣濕潤なるが如き處無きにあらず。故に右に示したのが如き一篇の數字表を以て之れが全般を了解せんとするは甚だ困難なる可しと雖も、然れども亦た一箇の參考とするには難からざる可し。我が表日本に於ける海岸地方は潮流の關係上、大氣常に濕潤なるが故に、葡萄の如き往々にして病蟲の被害甚だしく、兎角に好成绩を得る事困難なり。甲信地方の如きは海岸を去る事遠き山中にして、而も海潮との間に高山重疊せるが故に潮流の影響無く、又降雨量も餘りに多からざるを以て葡萄栽培の適地たる要素を具備せるものと云はざるべからず。

國	合衆	西班牙	利
サク ラ メ ン ト	シ ン シ ン ナ ツ チ セ ン ト ル イ	リ ス ボ ン オ ー ポ ル ト	パ レ ル モ
1	1	1	1
八〇二・〇	一一八九・〇 一〇七〇・〇	六八八・〇 一三八三・〇	五六一・〇
一四八・〇	三〇五・六 三一一・四	一三三三・二 三五九・六	一三六三
一四八・〇	三四八・四 三五七・四	二三四 八四・三	三〇・九
一六六・九	二二二・五	一五六・九 四七四・四	一七・四五

第六章 土 地

第一節 土 質

合衆國園藝試驗場に於けるウイリアム、サンダース氏曰く、「葡萄は氣候にして適應せんか、肥培管理に缺點あるも、亦た極めて瘠薄なる土壤に於ても常に良成績を挙げ得可きものなれども、之れに反して不良なる氣候の下にありては、如何に好適の土壤を得て肥培管理に盡すと雖も、到底充分なる收穫を得る事能はざるものなり」と、夫れ氣候のものたる斯の如く至大の關係を有するものなり。然りと雖も植物には自ら馴化性なるものありて、久しく同一氣候の下に栽培せらるる時、若しくは他の異りたる氣候の下に於て數回實生繁殖されたるものは、遂に其地の風土に適應し、相當の成績を齎し得るものとなるものなり。是れ將來育種家並に園藝家に於て最も深き留意と研究を必要とする所なる可し。

葡萄栽培上氣候に次ぎ、豫め研究し置かざる可からざる事項は土地の適否なるも、之を氣候に比較する時は其の關係極めて少きものにして、凡そ如何なる土質と雖も、氣候にして適當ならんか、相當の成績を擧ぐるに何んの困難をも感ぜざるものなり、然りと雖もこは一般普通の場合に於けるものにして、善

良なる果實を得、又優等なる葡萄酒を醸造せんには自ら適地無き能はず。葡萄樹の健全なる發育と良好なる結果を得んと欲せば、高燥にして砂質を混する事稍々多量なる壤土地を以て第一となす。稜角性砂礫を混する事多き土地に於ては、フキロキセラの被害殆んど無きが故に、自ら生育結果共に極めて良好なり。

我が國に於ける葡萄栽培地中、山梨縣なる祝勝沼地方は花崗岩の崩壊によりて成れる砂質壤土又は砂質土なり、又近年新に栽植されつゝある甲府市附近に於ても主として砂質土の處なるが如し。茨城縣牛久なる神谷葡萄園は輕鬆土、弘前市なる藤田葡萄園は砂質壤土にして幾多の小石礫を混じ居れり、兵庫・岡山・廣島の諸縣に於ける葡萄栽培地亦た砂礫を混する壤土又は粘質土なり、有名なる新潟縣岩之原川上氏葡萄園は壤質土にして大小の石礫を混じ居れり。沖積層に屬する肥沃なる土地に於ては、樹梢よく伸長し收量多きも、果實の品質上等なる事能はず。

果實の品質及び葡萄酒の品位は、また土中に含有する化學成分により著しき相違あるものにして、人為を以て補給する肥料と相俟つて至大の關係を有するものなり。今、海外先進地に於ける調査の一斑を記して參考の資に供せん。

(佛蘭西) 有名なるコートドール葡萄園につきドヴエルネット、ジモット氏は調査の結果六種に分ち居れり。

- 一、マランウーテリツク、硅酸及び酸化鐵に富むもの。
- 二、マルンブランシユ、炭酸石灰、粘土及び加里鹽類に富むもの。
- 三、カルケールマガネシアン、炭酸マガネシヤ百分の八を含有するもの。
- 四、アリユヰイオン、粘土及び酸化鐵に富むもの。
- 五、アリユヰイオンアルゲローズ、粘土に富むもの。
- 六、アリユヰイオンサブロンノーズテルシエール、珪砂に等しきもの。

加里鹽類の多量を有する土壤は最も葡萄樹の成長に適するものなるが、右表中一、四及び五に於ては何れも此加里鹽類の多量を含有し居れり。一、二の土質に結果したる果實を以て醸造したる葡萄酒は最も佳香に富む。是れアルカリ及び酸化鐵を含有するが爲めなり、而して五及び六にありては普通葡萄酒の原料たるガメー種の栽培に適するものにして、特に異りたる良性ある無し。

コートドールに於て第一等の赤葡萄酒の産地たるローマネーコンチー及び第一等の白葡萄酒産地たるモンラシエールの土壤につき、其化學的成分の調査したるものを見る時は即ち次の如し。

所含成分名	所含成分名		所含成分名	
	ローマネーコンチー	モンラシエー	ローマネーコンチー	モンラシエー
酸 化 鐵	七・三九二%	九・三四九%	〇・二五七%	〇・三二二%
礫 土	三・四七六%	三・六七二%	七・九三四%	一・七五二%
			炭 酸 石 灰	

苦 土	〇・九八七	〇・八二一	有 機 物	二・七八五	二二〇三四
可溶性珪酸	〇・八七一	〇・五六七	亞爾加里鹽	一・〇三四	〇・九七三
			不 溶 解 物	七五・二六四	八〇・五一一

右表の如く各種の無機成分を含有する事多きも、之に反し有機物の所含量殆んど無きが故に、穀類の如きは断じて栽培し能はざるが如き處なり。

又ポルドーの葡萄産地は第三紀層又は沖積層よりなれるものにして、之れを地方により大別して説明すれば、バリユーはガロンヌ河及びドルドニユー河に沿へる肥沃にして耕土深く、濕潤にして暗黒色なる沖積層なり。斯かる土地に於ては收量は甚だ大なるも品質は善良なる事能はず。コートーは丘陵地にして第三紀層地あり、又砂及び石灰質なるあり、或は泥土及び泥灰に富むあり、されど概言すれば粘土質なり、而して品質は酸化鐵に富み、暗黒色を呈する土地に於て善良なり。プラトーは稍々精良なる泥土にして暗色ならず、グラウは第三紀層地にして鐵分多く暗色なる砂礫を混す。

アルマニヤツクは善良なる葡萄酒の産地なるが、其土壤は左表の如き組織成分よりなるものにして實に模範的のもの云はれつゝあり。

單純なる石英礫	六三・〇%	礫 土	七・五%
砂	二八・三	石 灰	〇・四
純粹なる珪酸	六・二	酸 化 鐵	〇・八
有 機 質	一・三		

〔獨逸〕 ラインガウの一部は結晶性粘土にして多少石灰分を含める陶土多し。而して他の一部分は輕き灰泥石及び石灰粘土等の第三紀層なり。ヨハニスベルヒは赤色にして石灰質を含有せざる礫石なり。又ホツハハイムは砂陶土及び灰泥石層よりなり、カイセンハイム及びリユーデスハイムは海砂と鐵分多き礫石なり。ベルグストラーゼは第三紀層にして石灰質粘土なり。フランクは貝殼的石灰及び種々の混合せる砂地なり。陶土の多量を含有する處は暖地にして、降雨少き時は最良の適地として良品を産すと雖も、降雨多き年に於ては他の輕鬆土に及ばざる事多し。

ウイースバーデンの綠礫石よりなれる良地は、窒素〇、一四%。燐〇、三四%。加里〇、三六%を含有し、水分の吸収力は三七、九%にして、表土には直徑三耗以上の石礫を混する事三九%、底土は三二%なり。

〔奧匈國〕 總じて石灰質片麻岩又は花崗岩よりなる良質の土壤なり。トリエント附近なるマデルノ葡萄園は玄武岩系の土壤にして其組成中には燐酸一、二%。加里三、〇%を含有す。又ローヴェット附近なるイゼラの葡萄園は同じく玄武岩系にして燐酸〇、九—一、四%。加里鹽類二、九—三、五%を有し、其主成分としては酸化鐵及び礫土二二、〇—三三、〇%。石灰八、〇—一七、〇%。苦土〇、四—〇、五%。不溶解殘滓〇、〇—四〇、〇%等を計上し居れり。又トローケー葡萄園は玄武岩を混せる砂質土にして、暗黒色なり。

次に海外数ヶ國に於ける葡萄園の土壤につき、化學分析の結果得たる所含成分を表示す可し。

國名	地 名	加里鹽類	炭酸石灰	苦 土	酸化鐵	礬	土 磷	酸	可溶性	有機物	鹽酸に不 溶解の殘	
佛	ホルネー	—	二二、九〇%	四、〇〇%	一二、七〇%	五、九〇%	—	—	—	—	二八、九〇%	
	ボンマール	—	二二、〇〇	八、〇〇	算礬土に合	一五、三〇	—	—	—	—	三三、二〇	
	ボ	—	算苦土に合	九、六〇	同上	一五、一〇	—	—	—	—	三三、二〇	
	モンランシエ	—	一、七〇	〇、八三	九、三三	三、六七	—	—	—	—	八〇、五一	
	ローマネーコンチ	—	〇、九七	〇、九六	九、三三	三、四八	—	—	—	—	七二、二六	
	シヤンベルタン	—	〇、九三	二、一三	〇、九九	二、〇六	—	—	—	—	八九、〇〇	
	マ	—	〇、九八	二、八八	一、四〇	〇、八八	—	—	—	—	五九、三六	
	マスカードフロンチ	—	〇、九八	二、八八	一、四〇	〇、八八	—	—	—	—	五九、三六	
	ニア	—	〇、九七	二、八五	一、〇〇	一、四九	—	—	—	—	四六、八一	
	シヤトールゴ	—	一、二九	〇、八九	〇、二六	三、三二	—	—	—	—	八五、四三	
西	シヤトールイケム	—	〇、八三	〇、四三	二、八五	四、六七	—	—	—	—	八五、四三	
	獨	ヨハニスベルヒ	—	二、七〇	〇、八六	〇、四三	八、三〇	—	—	—	—	六五、四六
		同	—	六、三〇	七、五七	一、六二	一四、六三	—	—	—	—	六七、九六
		ダイアスハイム	—	〇、三三	—	〇、三三	三、三三	—	—	—	—	九四、〇〇
		フオルス	—	一、五三	〇、五三	〇、三二	三、四七	—	—	—	—	八四、六一
		カイセルスツール	—	一、七〇	四、一〇	四、五〇	一〇、七一	〇、四〇	—	—	—	四〇、一〇

上來述べ來りたる處を以て我が國の土質と對照する時は、自ら適地を需むるに據る可き處あるを信ず。即ち九州に於ける安山岩・花崗岩・古生層等に屬する砂質壤土、四國に於ける花崗岩・白堊系・古生層中、國より近畿、濃尾に涉りたる花崗岩・古生層、東海道に於ける安山岩・古生層、甲信地方に於ける古生層・花崗岩等は何れも葡萄栽培の適地として認識する事を得可し。

朝鮮及び滿洲は亦た大部分花崗岩・古生層・安山岩等より成り、有機質物を含有する事少きが故に、葡萄栽培の適地たる處に存在す。

葡萄は亦た種類により其適地に幾分の相違あるものなり。總じて歐洲種は輕鬆なる乾燥土にあらざれば善良なる成績を擧ぐる事困難なるも、米國種は之に反して肥沃なる濕潤地に於ても、相當の成績を現

國名	地 名	加里鹽類	炭酸石灰	苦 土	酸化鐵	礬	土 磷	酸	可溶性	有機物	鹽酸に不 溶解の殘
逸	同	—	九、二〇	一四、六〇	八、二〇	一七、七〇	—	—	—	—	四八、二〇
	同	—	〇、三三	一七、五三	〇、八四	六、八八	—	—	—	—	五四、四三
國 匈 埃	タルフェル河泥土	—	五、六八	〇、九六	一、七六	八、一七	—	—	—	—	七四、一〇
	同 砂 地	—	六、一六	〇、八四	一、二七	七、九六	—	—	—	—	八〇、一〇
國 衆 合	加州アナハイム	—	一、一一	一、四〇	一、九二	七、五三	〇、七二	—	—	—	六九、八四
	南 部 加 州	—	〇、九六	一、三四	一、一一	八、八七	〇、〇六	—	—	—	六九、五三

すものなり。

又、同一樹種と雖も砧木を異にするに従ひ、土壤の及ぼす影響に差異なき能はず、即ち歐洲種と雖も「リパリア」種を砧木として接木したるものは、湿润にして表土深き地面に於て成績良好なる可く、又「ソロニスロブスタ」種 (Solonis Robusta) を砧木としたるものは、河岸の低地に於ても相當の成績を挙げ得可きものなり。とは云へ絶對的適地に生育結果したるものに比し、品質劣等なるは争ふ可からざる事實なり。

第二節 地 勢

前節に於いて述べたるが如く、葡萄は高燥なる處に於いて良果を産するものなるが故に、成る可く傾斜地又は丘上に栽植するを要す。平坦にして沖積層よりなる土地は、一般に湿润にして有機物を混在すること多きものなるが故に樹梢の生長旺盛なるも、之れに反して果實の品質を下劣ならしむるものなり。

有名なる佛國の葡萄産地コートドールはサントネーよりジデヨンに達する丘陵にして、平地より高さ事十五乃至八十メートルの丘側なる傾斜地に於て、最良のものを産出しつゝあり。

山梨縣・長野縣・山形縣及び大阪府に於ける葡萄産地に就て見るも、傾斜地に於て常に成績良好なり。

殊に大阪府下堅下地方の如き當初平地に栽植したるものは、須臾にして病害の犯す處となり、一時廢園するのやむなきに至りたるを見るに非ずや。

葡萄は何れに面せる傾斜地をよしとするやと云ふに、多くの場合に於いて東南に面せる處最もよく、西北面は餘り良好ならざるが如し。殊に開花期中に於ける西北風は最も嫌ふ處にして、往々大害を被る事あるものなり。又東北・北海道の如き寒地に於ては出來得る限り日照時間多く、且つ温度高き南面の地を選んで植付く可し。場合によりては北側に墻壁を設け以て温度の上昇を圖る時は、其効果甚だ大なるものなり。

佛國に於ける葡萄の特産地が多く河邊に存するは一考を要する問題なり、即ちライン河岸の如き又ポルドー河岸に於ける傾斜地の如き是れなり。是等は一面に於ては土質との關係あらんも、亦た他面に於ては地勢上霜害を被る事少きの得點あり。總じて低濕地又は平坦地にして、空氣の流通充分ならざる地方に在りては、冬期中結霜する事多く、殊に晩霜の被害を被る事大なり。之に反し高燥なる處又は山腹傾斜の地は空氣の動搖甚だしきが故に、たとひ氣温下降すと雖も殆んど結霜せざるものなり。我國に於ける長野縣松本平の晩霜は有名なるものなるが、少しく位置を轉じて山腹地に至れば殆んどかかる事無きを見る。故に葡萄の如く早春より發芽し始むるものは、務めて晩霜無き地を選んで栽植せざる可からず。

高原又は山腹の地と雖も往々にして、湧出水の爲め意外に濕潤なる土地無きにあらず、若し斯くの如き所に葡萄園を開設せんと欲する時は、豫め排水法を行ひ充分に乾燥するを俟ちて、初めて定植せざる可からず。傾斜地に於ける排水法は極めて容易にして、多數の勞力又は資金を要するが如きことなし。

土壤の理學的性質を改良するには、獨り排水法に止まらず、他より各種の土砂石礫の類を客入する事必要なり。されど此種の事業は大面積に於て實行する事困難なるが故に、未だ一般に勵行せしめ得可き良法なりと云ふ事能はず。土地の化學的性質は栽培家の施す肥料によりて、或る程度まで之れを改良する事を得可し。

葡萄樹は亦た強酸性土壤に於て其成育最も不良なるものなるが故に、石灰・木灰の類を施用して土地の中和を圖り、常に中性又は幾分鹽基性たらしむる事肝要なり。

要するに葡萄の適地は自己の栽培する品種により、又栽培の目的が食用果實を得ると、葡萄酒醸造の原料を得んとするにより、大なる相違ある可きものなるも、現今に於ける我が國の需要状態より見る時は、未だ品位の高下を論せず單に收量の多きを以て利ありとせるが如き實狀なるが故に、土壤選擇の如き差迄でに大なる問題ならずとするも、將來何時までも今日の狀況を以て推移する事能はざるは明かなる事實にして、從つて適者生存の淘汰により、風土の善良なる處に位置せるものは榮え、然らざ

るものは遂に滅び行くものと知らざる可からず、今後新に栽植せんとするものは、此點に向つて充分なる注意を拂ふの必要あらん。若し夫れ土地の理化學的性質改良の方法等に至りては章を更めて詳述する處ある可し。

第七章 繁殖

第一節 砧 木

葡萄樹の繁殖は極めて容易なるものにして、現今主として採用せらるるものは、挿木並に壓條の法なり。然れども品質優等なる歐洲種 (*Vitis Vinifera*) は樹勢弱くして充分なる生長を見る事能はざる地方なきにあらず。又フィロキセラ蟲 (*Phylloxera Vastatrix*) の侵害並に萎黃病 (*Chlorosis*) に對する抵抗力無き歐洲種は、特に強健なる米國種に接木するにあらずんば、決して好結果を奏し得可きものにあらざるなり。斯かる點よりして佛國並に米國加州に於ける葡萄栽培地に於ては、種々研究の結果、雜種及び人為淘汰法を行ひ、以て發育旺盛にして全然免疫性なる幾多の品種を作出したるなり、而して現今佛國並に米國に於て賞用されつゝあるものゝみにても四十種を下らざる可し。

今、米國に於てフィロキセラ蟲に對する、各種の抵抗力を試験し數字を以て現されたるものを見るに

凡そ次表の如し。

ピアラ (Viala)	二〇
ピチス、ロツテンデイフホリア (Vitis Rotundifolia)	一九
ピチス、リウベストリス (V. Rupprechtii)	一八
ピチス、リバリア (V. Riparia)	一八
ピチス、ベルランデキエリ (V. Berlandieri)	一七
ピチス、エステイヴハリス (V. Aestivalis)	一六
ピチス、ラブラスカ (V. Labrusca)	五
ピチス、カリフォルカ (V. Californica)	四
ピチス、ヴィニフェラ (V. Vinifera)	〇

上表中十六以上のものは其儘栽培して不可なきものなるも、夫れ以下のものは接木法によるにあらざれば、好結果を得る事能はざるものと知る可し。

現今米國並に佛國に於て賞用されつゝある砧木中、其の主なるものにつき之れが適地を示せば次の如し。

(一) 濕潤にして表土深く且つ肥沃なる土壤に適する免疫性砧木

◎リバリア (Riparia) 本種は免疫性砧木中最も有力なるもの、一つにして、フィロキセラ蟲に對し全然免疫性ならずと雖も、接穂との接着極めて容易にして、表土深き沖積層の濕潤なる地に於て頗るよく結果せしむるの性あり。然れども根は主として地表に蔓延し、深く地中に侵入する事無きが故に、乾燥地に於ては其成績頗る不良なり。又過乾の年に於ては往々枯死するもの無きにあらず。

◎ア、グランデ、フォイーユ (A grandes feuilles) 本種も「リバリア」種に屬するものにして、同じく卑濕なる沖積地に於て成績良好なり、樹勢強健にして生長旺盛、枝葉に光澤あるを常とす。

◎グロアー(ド)、モンペリエ (Gloire de Montpellier) 「リバリア」種の一變種にして、免疫性砧木中最も優良なるもの、一なり、沖積層にて表土深く、肥沃にして濕潤なる土地は其の最も好む處なり、斯の如き土地にありては根群の發育最も活潑にして生長迅速なり、故に他の「リバリア」種の不適當なる處にも相當の成績を擧げ得可きものなり、然れども軟質石灰岩の多量を含有する處には適當せざるものにして、往々萎黃病に罹る事あり。

◎ソロニス (Solonis) 本種は「リバリア、リウベストリス」及び「カンデイカンス」の雜種なるが如く信せらる。枝葉大にして生長強盛なり、土質を選ぶ事少きも表土深く地下水高き濕潤地に於て成績良好なり。又、海岸の潮水浸入するが如き處にて、他種の砧木にては到底生育する事能はざるが如き處、又は沼澤過濕の地に於ても、よく生育するは本種の特性なり。

(二) 毎年洪水氾濫するが如き低地に適するもの。

◎ ソロニス (Solonis)

◎ ソロニス、ロプスタ (Solonis Robusta) 本種は佛國に於て創出されたるものにして、「ソロニス」と「リパリア」の雜種なり。生長極めて旺盛にして根の發育亦「ソロニス」を凌駕す。總ての土壤に適し全然免疫性なり。

◎ ソロニスとオセロの雜種 (Solonis x Othello) 樹性頗る強健にして枝條長大なる生長をなすが故に軟弱なる品種と雖も、本種に接木する時は著しく其樹勢を増すものなり。低濕地にして土壤中石灰又はアルカリに富む處に於て成績誠に良好なり。

(三) 瘠薄なる濕地に適するもの。

◎ ソロニスとリパリア千六百十六號の雜種 (Solonis x Riparia No. 1616) 樹勢強健にして粘質又は石灰質の土壤に適當せり。

◎ ソロニス、ロプスタ (Solonis Robusta)

◎ ソロニス (Solonis)

◎ アラモンとルベストリス、ガンザン一號の雜種 (Aramon x R. Ganzin No. 1) 生長力強盛にして石灰質粘土の稍々濕潤なる地を好み乾燥地を忌む、フキロキセラに對する抵抗力最も強し。

◎ モルグドルとリュベストリス千二百一號の雜種 (Morvedra x R. No. 1202) 前者に似て石灰質濕潤地を好み乾燥地を忌む。

◎ ベルランデイエリとリパリア四百二十號の A との雜種 (Berlandier x R. No. 420 A) 表土深き低地に適し、又春期濕潤にして夏秋の候乾燥する地方に適當すと云ふ。故に我國に於ける普通の氣候に最も適當したるものと云ふ可し。

◎ ハイブリッド、フラン (Hybrid Franc) 本種は「カベルネ、ソーヴィニヨン」と「リュベストリス」の雜種にして、獨り免疫性粘木として適良なるのみならず、其果實も品質良好なり、從來製出されたる米國種と歐洲種の間を生じたる雜種中、最も優等なるものなりと云ふ。

(四) 乾燥なる礫質土壤に適するもの。

◎ リュベストリス、マーティン (R. Martin)

◎ リュベストリス、セントジョージ (R. St. George) 本種は恐らく「モンテイコラ」と「リュベストリス」の雜種によりて造られたるものなる可し、枝葉の繁茂旺盛にして何れの土地にも能く生育す、就中輕鬆にして礫質に富み、乾燥する土壤に適し深根なり、米國加州及び佛國に於て普通に用ひらるるものなり。

◎ アラモンとリュベストリス、ガンザン二號の雜種 (Aramon x R. Ganzin No. 2) 乾燥なる砂地

に於てよく、濕潤地を忌む。

◎リュベストリス、メタリカ (R. Metlica) 樹勢強健にして生長旺盛なり、乾燥にして瘠薄なる礫質土に於て成績良好なり、葉の色澤鉛の如し。

◎ルベストリス、ミッション (R. Mission)

◎ペルランデイエリとリュベストリス三百一號 A の雜種 (Barlandieri x R. No. 301 A) 根群太くして深層に侵入するが故に、砂礫質の乾燥地に於て成績良好なり。

◎ハイブリッド、フラン (Hybrid Franc)

◎モンテイコラとリュベストリスの雜種 (Monticola x R.)

◎シャンピニー (Champini) 本種は「リュベストリス」と「カンデキカンス」の雜種にして、特に後者の性質を享くる事多し。

◎リバリアとルベストリス、マーティン三千三百九號の雜種 (R. x R. Martin No. 3309) 粘質にても礫質にても乾燥地に適當す。

(五) 重粘緻密なる土壤に適應するもの。

◎アラモンとリュベストリス、ガンザン二號の雜種 (Aramon x R. Ganzin No. 2)

◎ブーリスクーとリュベストリス六百一號の雜種 (Bourisquon x R. No. 601) 樹勢強健、豊産にして

品質又上等なるが故に、需實用として栽培するも可なり。

◎モルヴドルとリュベストリス千二百二號の雜種 (Morvedre. x R. No. 1202)

尙ほ近年米國加州農事試験場に於て試験の結果、優良なりとして使用されつゝあるものは、左記の如し。

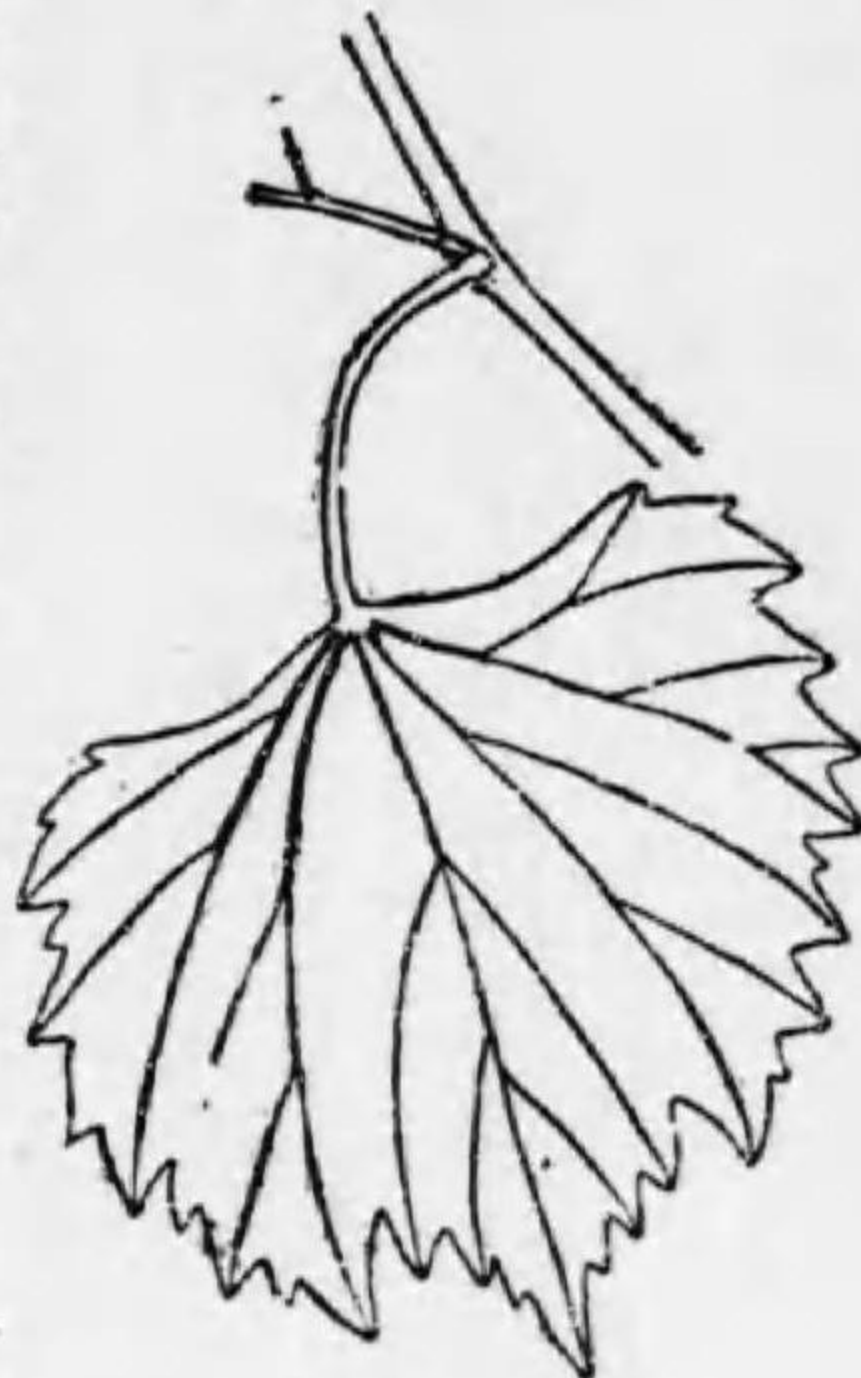
第一節 砧	
乾燥地	Riparia R. 3309
濕地	” ” 3305
深き砂質壤土	” ” st. George.
浅き壤土	” ” 420 A or 157”
堅硬なる乾燥土	Aramon R. No. 1—202.
濕潤にして表土深き處	” ” Gloire.
岩石地	” ” lenoir.

次に興津園藝試験場に於て比較的最近輸入したるものの中、成績良好なりと目すべきもの數種につき、解説する時は次の如し。

1. Riparia Rupestris St. George.

幹及び蔓は稍々肥大し赤褐色を帯び、灰褐の條斑を現し表皮粗にして剝離し難し、節間は短くして一

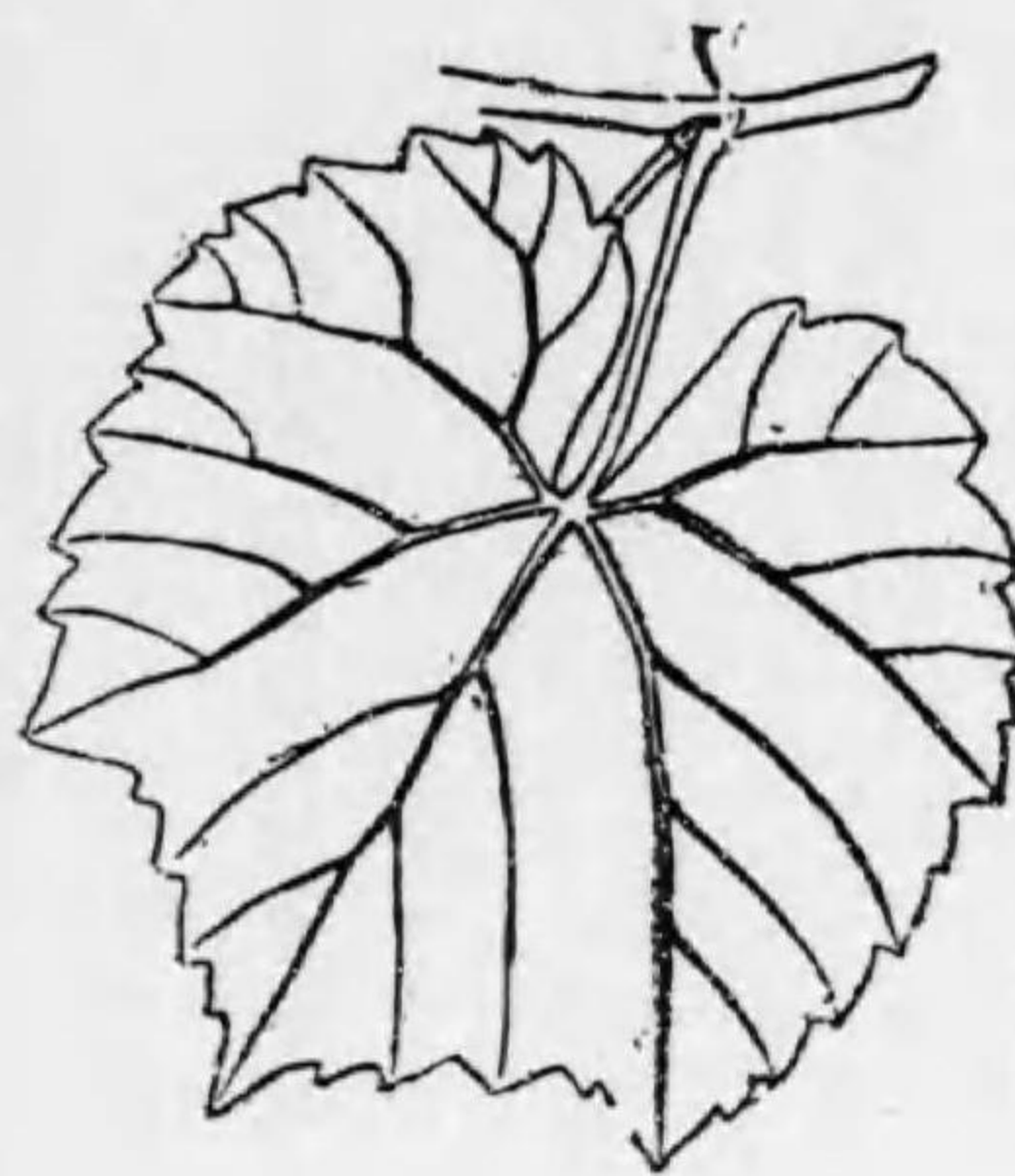
第三十五圖



リユベストリス、セントジョーシ

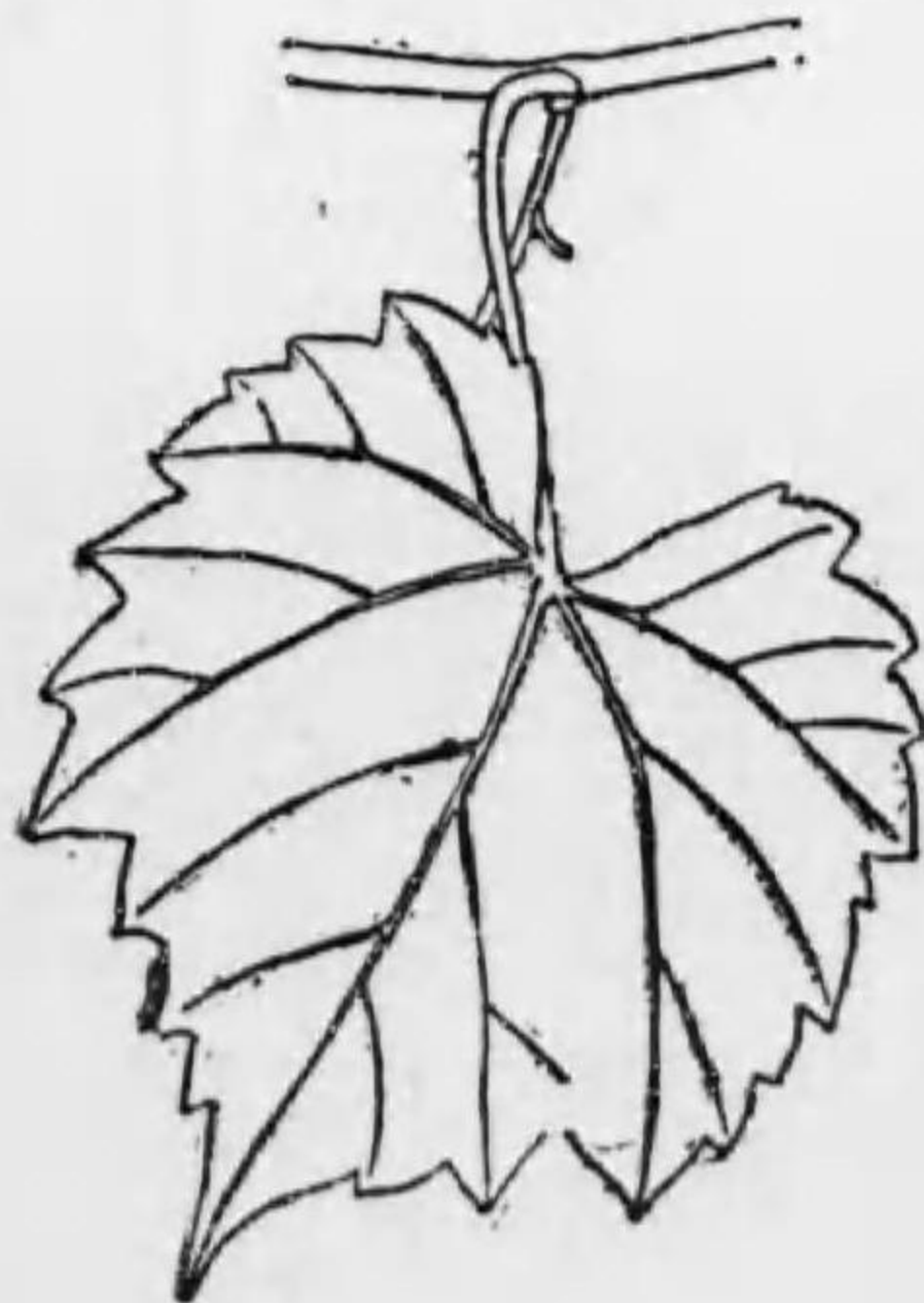
リパリア、リユベストリス三三〇六號一

第四十五圖



第五十五圖

アリパリア、リトスベリ三三〇九號一

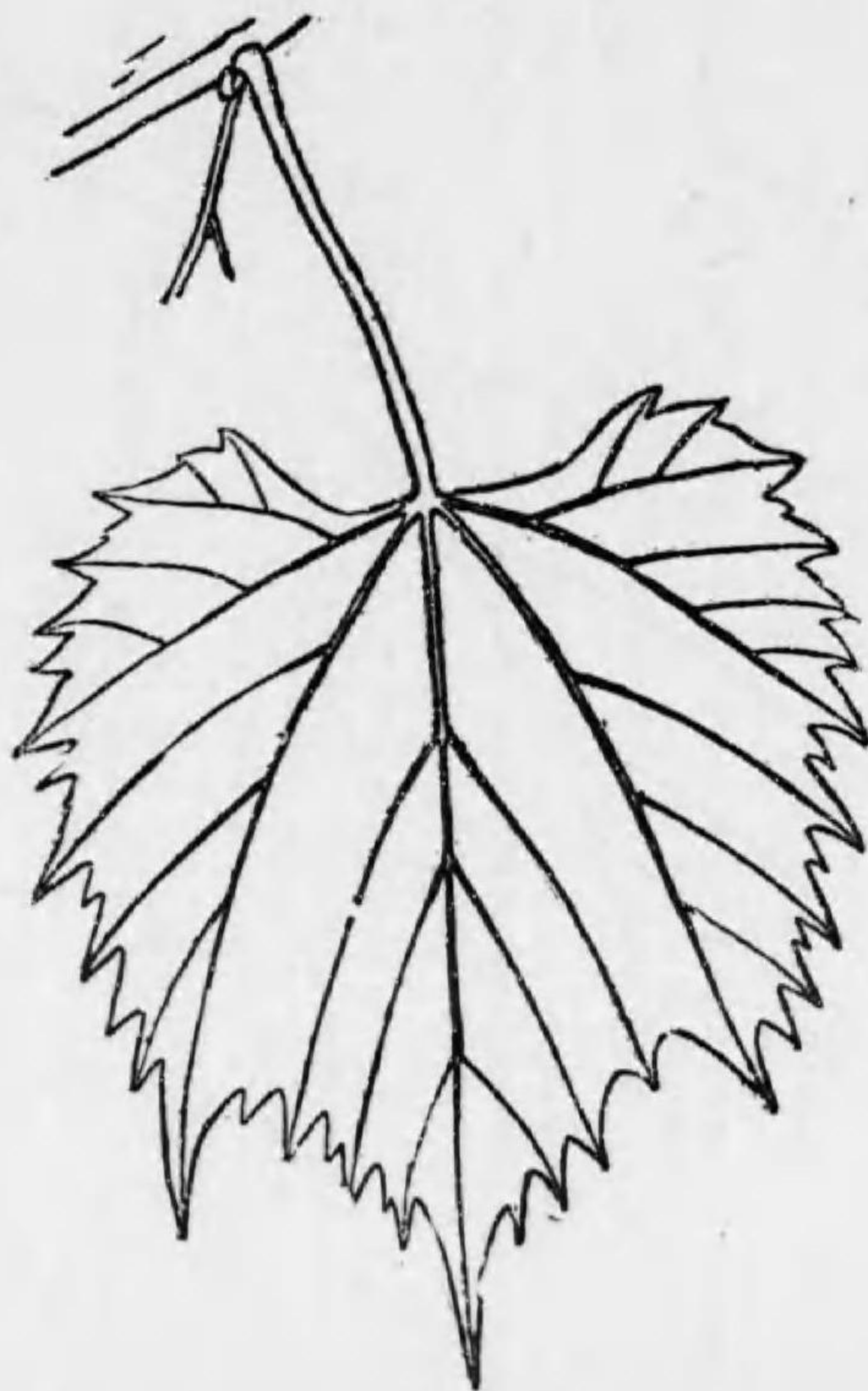


寸乃至一寸三分位、葉は小にして肩部殆んど水平なり、葉柄長からず彎形をなし附着の角度廣し。乾燥したる地表深き土壤にして高温なる地帯に適す。發根容易にして深根性、適地には免疫性粘木中最も生育旺盛なるもなり。下層重粘土にして濕潤なる處にては根の生育不良なり。

二、Riparia x Rupestris 3306

幹部は赤褐色にして節間短く、一寸五分内外なり、

第六十五圖



ツロニス、リパリア一六一六號一

枝梢は繊細にして幼梢及び葉柄に白き短白軟毛を密生す。直立性に乏しく纏絡す。葉は大きさ中、正形にして圓形に近し、葉脈は多少多角形に分岐す。根群少く濕地に適す。

三、Riparia x Rupestris 3309

幹部は赤褐色にして節間一寸乃至一寸五分、外皮剝離し難し、幼梢に白毛なし、枝

梢は屈曲緩にして繊細纏絡性なり、葉は小形にして稍々前者に類す。根群稍々多く發育良好、乾燥地に適す。樹は男性にして結實せず。

四、Solonis x Riparia 1616

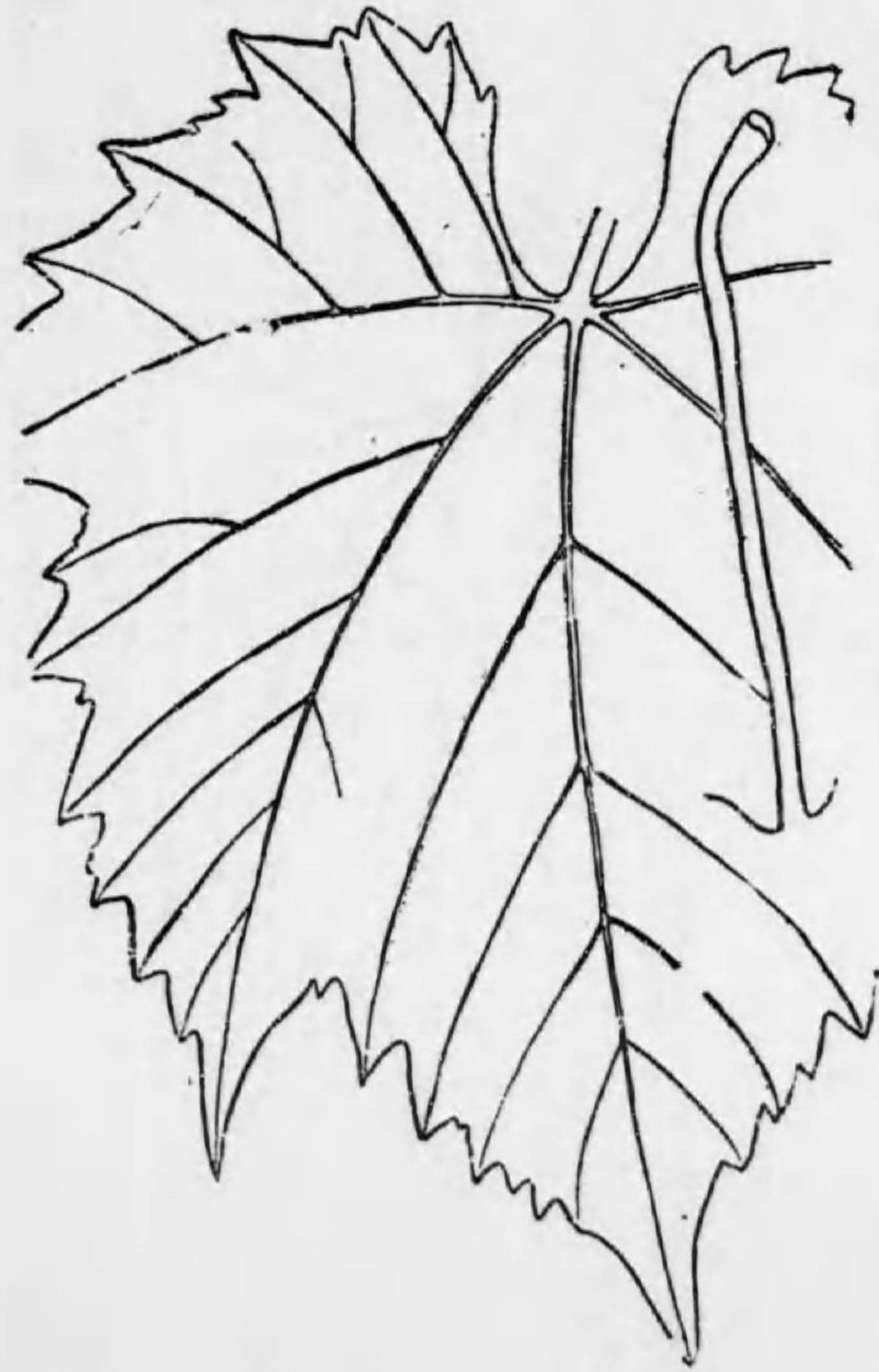
枝幹は肥大強壯にして暗褐色なり、外皮剝離し易く、節間長くして二寸五分乃至三寸に及ぶ。葉は稍

大にして葉邊鋸齒状をなし切目稍々深し、葉柄は長くして彎曲す。發根容易にして生育佳良、他種と接木して接着容易なり、特に砂質の濕潤地に適す。樹は女性にて黑色小粒の實を多産す。

五、Riparia Gloire de Montpellier.

リパリア、グロアール、ド、モンペリエール

圖七十五第



枝幹は濃褐色にして赤味を帯び宜く肥大す。節間甚だ長く三寸五分乃至五寸に及ぶ。可成りに屈曲す。葉は頗る大にして長さ幅共に殆んど同長なり、葉柄又大にして頗る長く屢々四寸以上五寸に及ぶものあり。

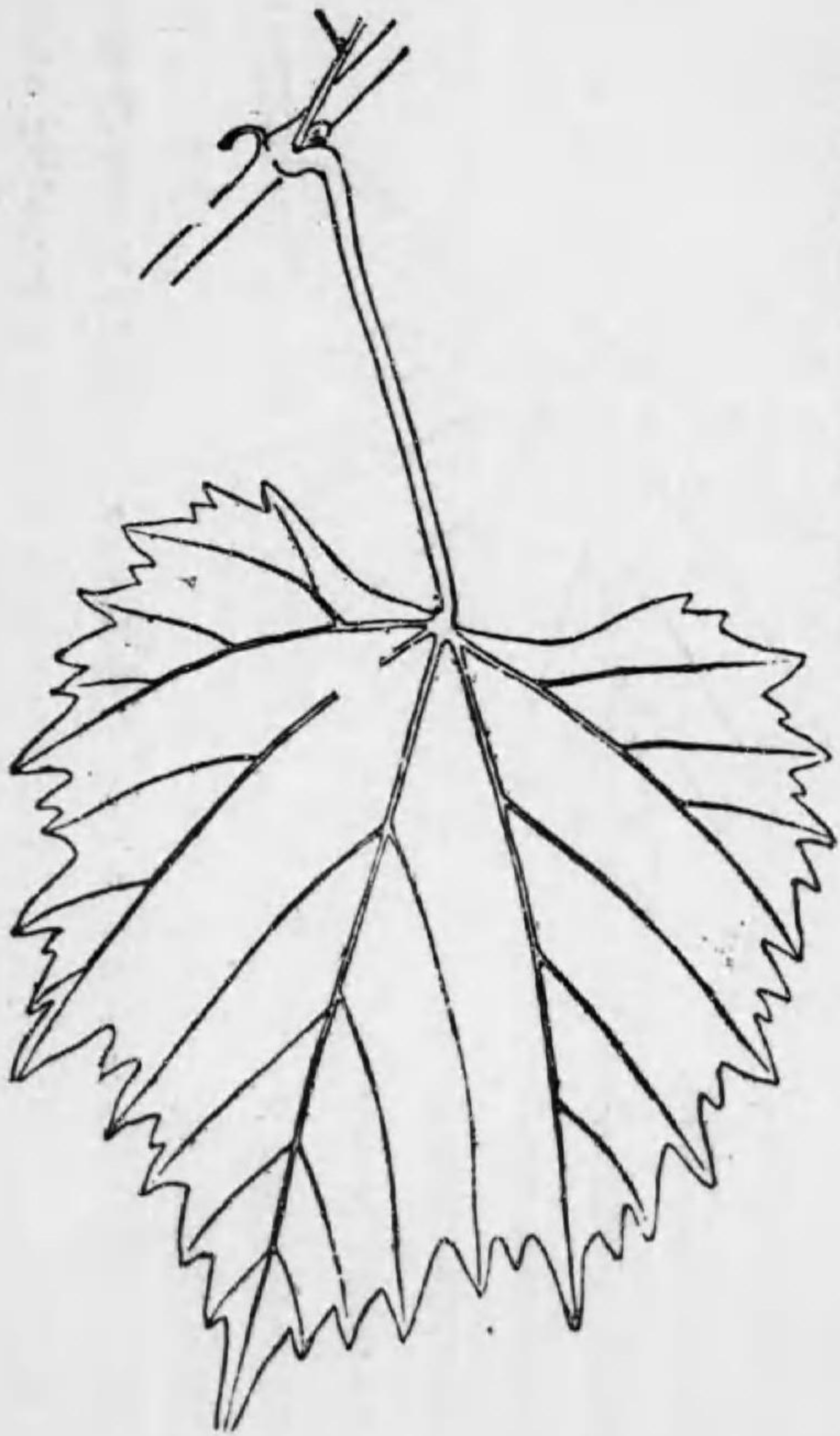
免疫性砧木中最も強健なるものにて伸長力頗る強く、挿木して發根容易、細根多く接着又良好なり。殊に本種に接木したるものは豊産にして粒大甘味に富み且つ幾分早熟となる、樹は男性なり。

六、Riparia Rupestris Cordifolia

枝幹は濃褐色にして發育良好、節間二寸乃至三寸五分、外皮よく剝離す。葉は稍々大にして鋸齒尖し、

リパリア、リュネペストリス、コーティフホリアール

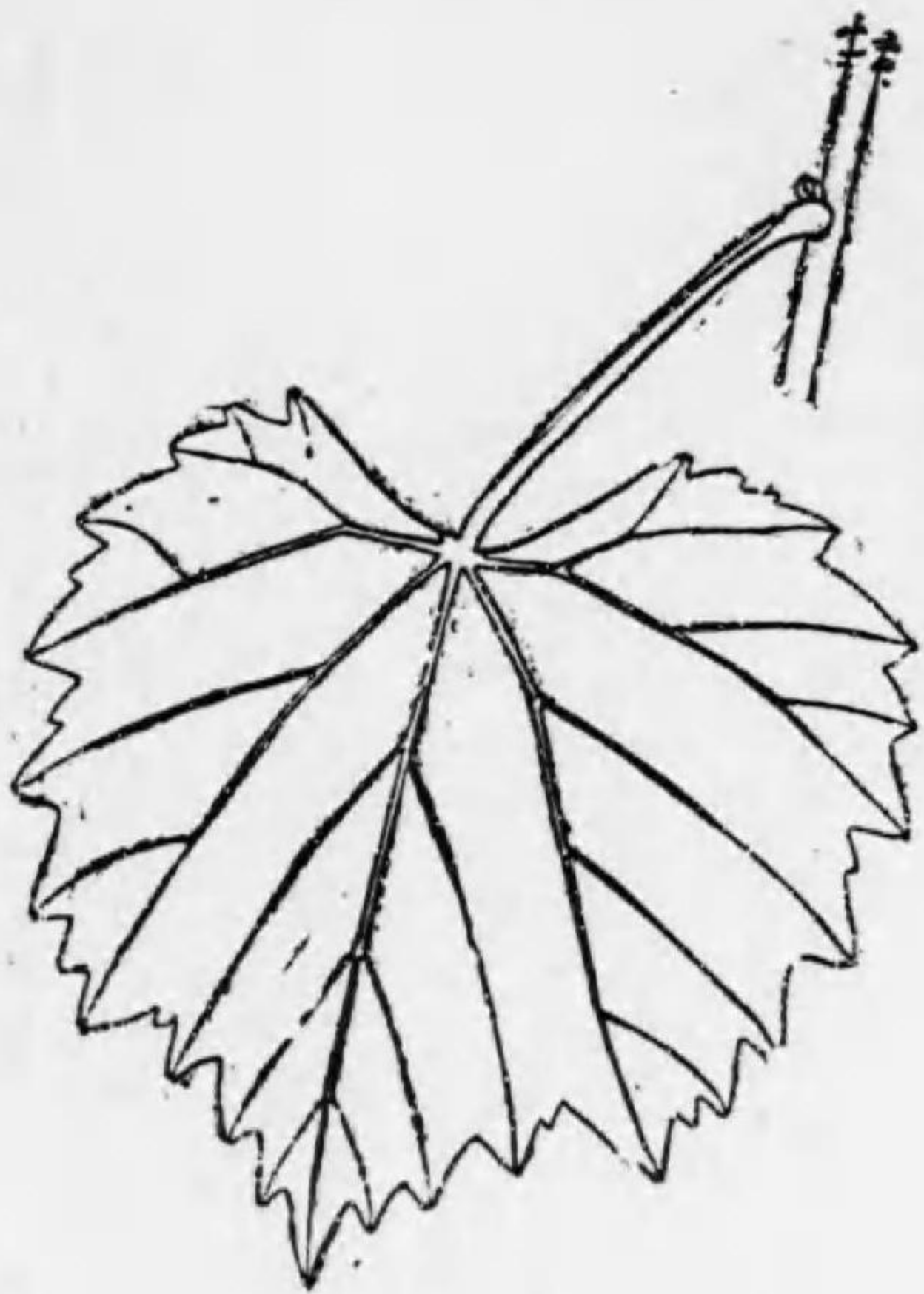
圖八十五第



挿木して發根容易何れの地にもよく生長す。接着亦良好なり、殊に雨後乾固して龜裂を生ずるが如き重粘土地にても發育するが故に、セントジョージ砧木の不適なる處に代用して最も良好なり。

十七、Arnon Rupestrif.

枝幹は赤褐色にして生育旺盛なり、葉は中にして「ルベストリス」に近似す。挿木して發根容易、緻密にして濕潤なる處に適す。接木して癒合稍々困難なるも一度癒合すれば生育旺盛にして且つ豊産なり。本種の特徴とする處は土質堅固にして他種の生育困難なる處に於て發育するにあり。



第九十五号圖

綠色なり、挿木して發根容易接着又よし。本種を砧木とせしものは豊産にして、よく成熟するも、寒地にありては生長過度の爲め遂に成熟せざる事あり。

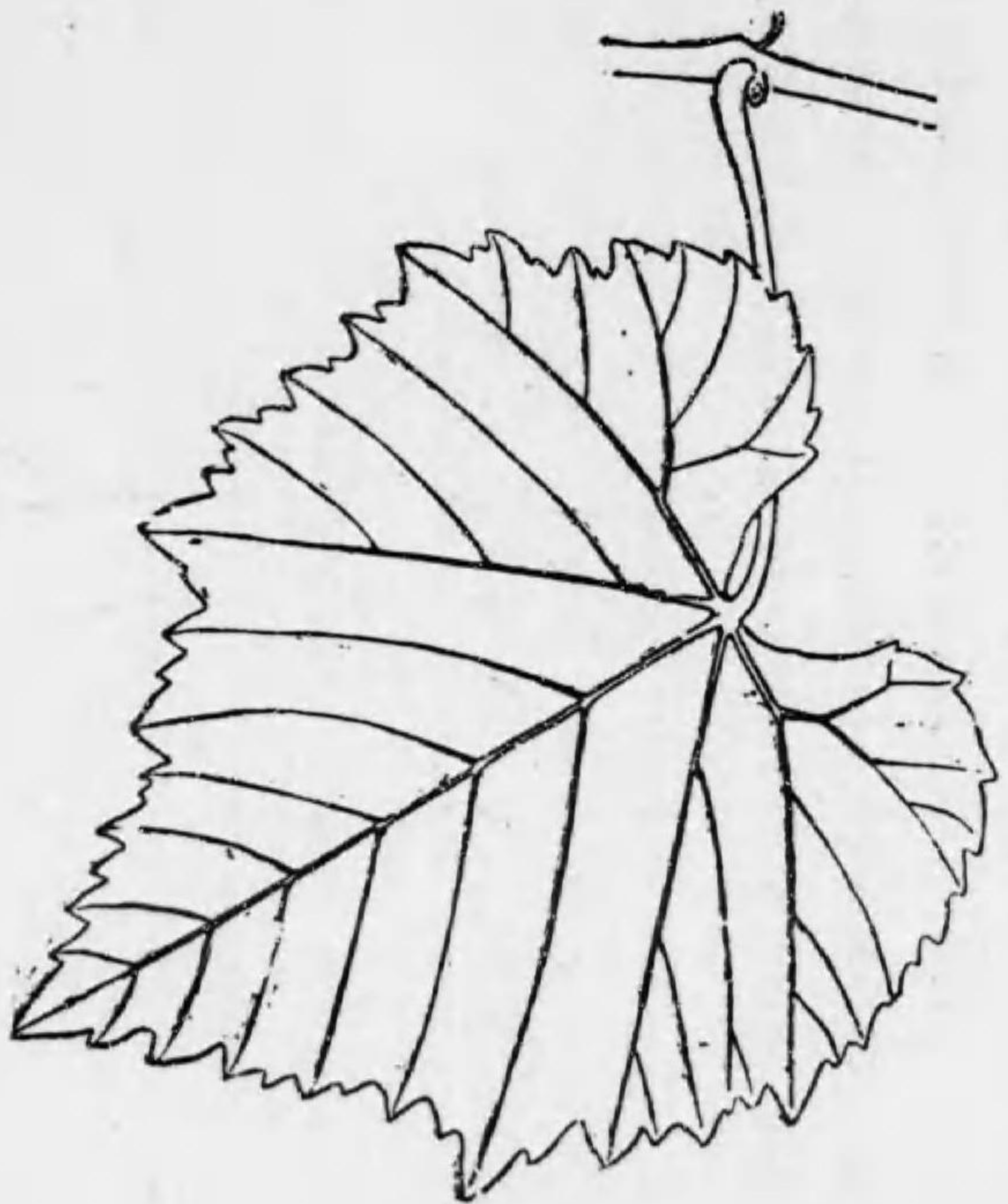
九、Viala,

枝幹は濃暗褐色にして外皮よく剝離す。節間は稍々短く一寸五分乃至二寸なり。發育旺盛にて枝梢は

八、Riparia Perlandieri 157.

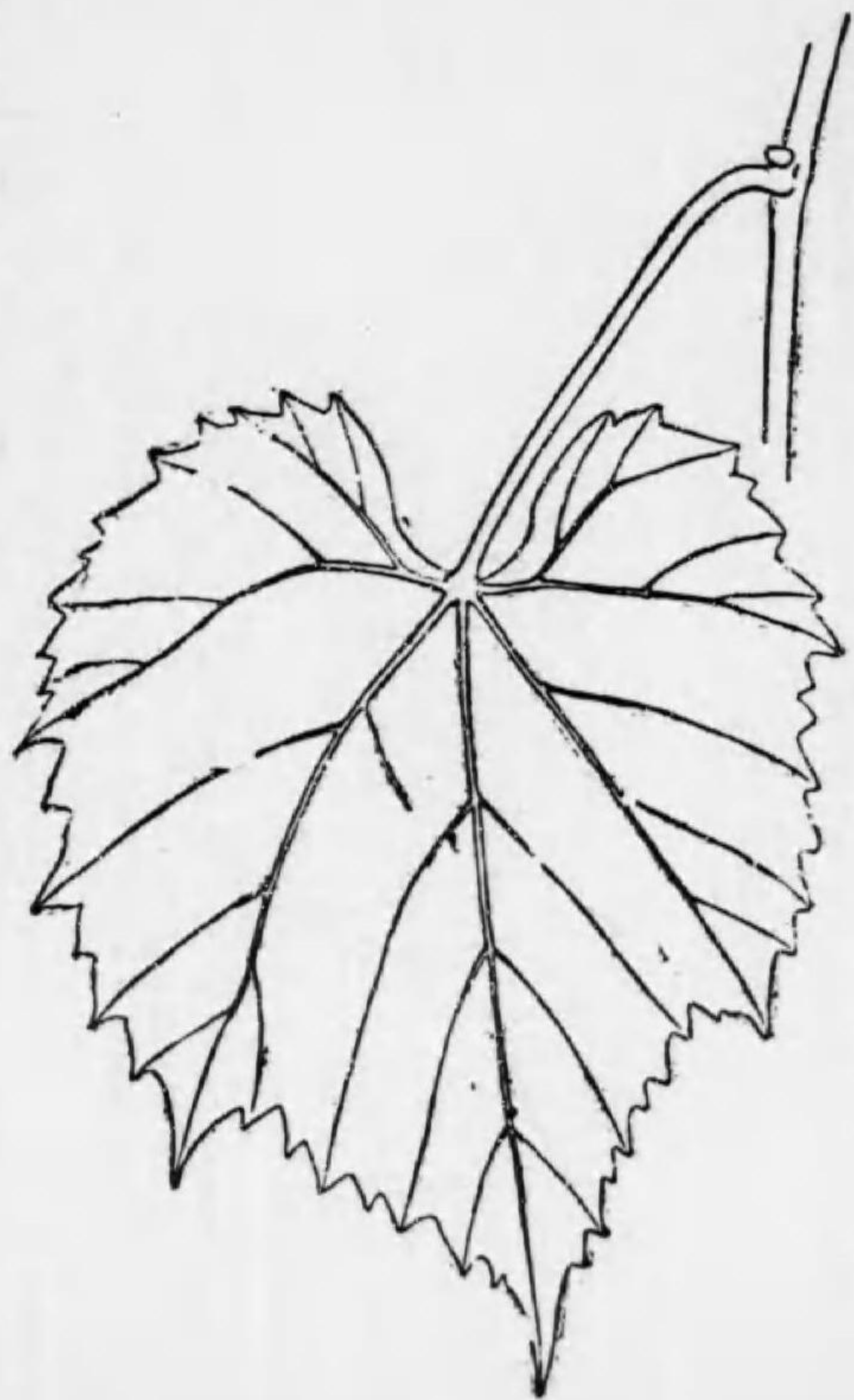
枝幹は淡褐色にして生育旺盛、節間三寸乃至四寸に達す。外皮剝離困難なり。葉は大にして正形なり、葉柄長く彎曲せず

リパリア、ベルランデイエリ一五七ノ一一



第十六号圖

稍々大、葉は大にして稍々正形なり、免疫性砧木としては古き部に屬し、願るもの少きも、乾燥する砂地に於て甲州葡萄を栽培するものは此砧木によりて好成績を得つゝあり。
以上列挙したる如く免疫性砧木としては數多の品種ありて各々其特徴を異にするものなるも、我が國に於て成績良好なりと思はるゝものはベルランデイエリ。リパリア。リパリア、ソロニス一六一六號等なるを以て

第 一 十 六 圖 ラ ア イ グ $\frac{1}{2}$ 

自己所有園の風土竝に栽植
品種に鑑み、適宜選擇を誤
らざらん事に注意すべし。

第二節 挿木法

葡萄は果樹類中最も發根し
易きものなるが故に、多く
の場合に於て挿木法により
繁殖せらる。従つて現今我
が國各地に於て販賣しつゝ

ある苗木を見るに、大抵此方法により繁殖したるものなり、實際に於て強健なる米國種及び鉢栽培と
して數年間溫室内に培養し、樹の老衰に至らざる以前に於て、新苗と交代せしむるが如きもの
にありては、此方法により繁殖するを以て最も實用的なりと信ず。

挿木を行ふに當り最も注意せざる可からざる事は、挿木の選擇是れなり。凡そ何れの果樹に論無く同一
品種と雖も其母體を異にするに従ひ、品質竝に結果力に大差あるは栽培家の常に認識せる處なり、故

に挿木は自己栽培の母樹中最も品質良好にして、結果力旺盛且つ強健なるものを選ばざる可からず、
蓋し植物は無性繁殖に於て母體の良質を其儘遺傳し得るものなればなり。然れども蔓梢は又芽の變化
と稱する一現象ありて、假令同一母體より採收したるものと雖も、其の總ての梢蔓が悉く同一性質の
ものにあらずる事を記憶せざる可からず。故に挿木採收に當りては須く良母體の良性質を最も多く供
有するものを選ぶ事に注意せざる可からず。然らば如何なる注意を以て之れを選択せば自己の此目的
を達するに近きものなるか、今之れを左に述べん。

一、梢蔓の發生せる場所に注意する事。挿木は必らず樹の上部に於て、既に結果しつゝある枝より採
る事を要す。母樹の莖部即ち本幹の土際より、分出したる徒長枝の如きものは、決して良性のもの
にあらず。

二、梢枝の形狀に注意する事。梢枝は大小何れに失するも不可なり、健全なる發育をどげたるもの
にして、梢質よく充實し、節間長きに失せず又短きに偏せず、よく其品種の特徴を具備せるものたら
ざる可からず、而して梢枝の斷面は成る可く圓形なるをよしとし、稜形・橢圓形等に失するものは
共に不可なり。

三、梢枝の蓄積養分に注意する事。よく充實したる健全なる梢枝は蓄積養分濃厚なるものなり、之れ
を檢せんには桶又はバケツの如き器物中に水を入れ、其中に適度の沃度を加へたる後ち、採收したる

挿梢を束ねて挿入し置き、數分の後取り出して其の断面を検す可し、此時断面の藍色に變色する事多きもの程優良なりと見て差支なし、何となれば蓄積養分を代表す可きものは澱粉にして、此澱粉の含量多きもの程變色する事大なればなり。

以上挿梢を得る上に於ての注意は接木を行ふに當り、採穂の選擇に於ても亦極めて必要の事なるが故に、決して等閑に附せざる様なきざるべからず。

挿穂は云ふまでもなく本年伸長したる新梢より採收せざるべからず、之れを晩秋より冬期に渡りて剪取し、數十本を束ねて一把となし、適濕を保有せる砂土又は箱中に砂を入れ之れに適度の水濕を與へて其中に埋め置くべし。斯くて春期溫暖なるを俟ちて取り出し、基部より三乃至五六芽を附し七八寸より一尺の長さに切斷す可し。此の際切は必らず二芽の中間に於てし、他の一芽に接近して切るが如き事は不可なり、何んとなれば切口に接近せる一芽は往々枯死することあればなり。又一梢枝中餘りに先端なる充實不充實なる處は之れを去り、成るべく健實なる處のみを以て之れに充つべし。斯くて出來上りたる挿梢は十數本宛束ねて、其約三分の一が水中に没する程度となし、十五日乃至一ヶ月間安置したる後挿床に移すべし。斯の如く水中に浸漬する所以のものは挿木後、發根頗る容易なるの利あるが爲めなり。

挿木床は豫め作成し置くを要す。即ち常に適當の水濕を保有し得る處にして、土壤膨軟肥沃なるを要

す、若し斯の如き理想的の場處なき時は、畑土を五分目位の篩にて通し、其中に充分腐熟したる堆肥の多量を混じ、更に粘質に失する處にありては三分の一内外の細砂を混入し、一尺位の高さに床土を造らざるべからず、畦幅は通常二尺にして、其中央に深さ六七寸の溝を穿ち、溝中へ挿梢を並列する事二寸乃至三寸距離とす。而して地表に一二芽を出すを程度として、成るべく直立せしめ、双侧より細土を覆うて之れを埋没す可し。挿木を行ふの時期は暖地にありては二月下旬より三月上旬に亘る可く、寒地にありては四月下旬より五月上旬に及んで行ふを宜しとす可し。

挿梢後、灌水又は日覆等を行ふの必要なく、只だ其儘となし置く時は、雖て發芽伸長するものなり。而して發芽に際しては往々一節より二三枝を出す事を以て、長さ數寸に達したる時、最も強健なるもの一本を残し、他は基部より切り去るべし。斯くて一畦毎に垣根を造り、新蔓をして之れによらしむ可く、又時々除草中耕を行ひ、發育状態の如何によりては一二回、水肥を施し、又餘りに乾燥する年によりては、時々灌水するをよしとす。

新芽の僅に伸長したる時雨期に入り、爲に炭疽病の被害を被り新梢の枯死するが如き事あるが故に二三回ボルドー液を撒布し以て病害を未然に防ぐ事肝要なり。杆挿の一方法として挿梢を採取する時挿木と稱し、新梢の下端に一二寸の長さに古梢を附するものあり、是れ發根を容易ならしめ、其面積大なるが故に旺盛なる苗木を得るの利ありと雖も、斯くては多數の挿梢を得る事困難なるのみならず、手

数を要する事大なるが故に近時此法を採用するもの殆んど無きが如し。又貴重なるものにして挿梢數少き時成るべく多數の苗木を得んが爲め特に一芽挿と稱する方法を行ふものあり。而して此種の作業は主として温室培養のものに向つて行はつれ、あるが如し。之を行はんに先づ挿木せんとする梢枝



穂



挿芽一

ざる様、温室内の繁殖室か又は温床中に並列し、白く塗りたる硝子障子の類を以て覆ひ置く可し。斯くして灌水を怠らざる時は懸て發芽し同時に發根するが故に、覆を去り日光に晒し、新梢の強健な

を取り、芽を中心にして下方を六分とし、上方即ち芽の附着せる方を一寸五分位の長さに両面とも斜に切斷し、然る後ち芽の下方なる上面の外皮を凡そ五六分の長さに削るべし、斯の如くにして造り得たる芽は、之を鉢に挿入するを普通とす。鉢は通常温室内に於て繁殖用に使用する素焼物にして、直径三寸深さ三寸五分位のものにて可なり、鉢の下底には少許の小石を敷き、其上に肥土を入れる事外縁より七八分の處までとし、此の肥土の上に水平に芽を上方に向け、鉢の中央に梢蔓を置く可し、而して其芽の見えざるを度とし、細砂を以て之を覆ふものとす。斯くして挿込みの手續を終りたる時は、如露を以て充分に灌水し、強き光線を受けしめ

る發育を圖るべし。一芽挿にありては大部分、其年内に伸長する事僅に數寸に過ぎざるも、植替施肥灌水に怠らざる時は、三尺以上となり直に栽子として使用する事を得るも、弱小なるものに至りては、更に一年間他の鉢に移植培養するか、或は苗床に植込み養成するを普通とす。挿木法を行ふに當り、豫め一考し置くの必要ある事は、自己の挿木せんとする種類が、果して發根し安きものなりや否やと云ふにあり、而して發根し易きものは即ち挿木法により繁殖せしむべく、然らざるものは他の方法によらざるべからず。故に今参考の爲め之を表示すべし。

種族名	發根の程度	種族名	發根の程度
リバリア	一〇	ラヴラスカ×ヅキニフエラ	五
リエベストリス	一〇	ラヴラスカ×	四
ソロニス	一〇	ヅキニフエラ	四
ラヴラスカ	九	ヅキニフエラ×	三
チャンピニー	八	リンセクミー×	二
リバリア×	七	エスチヴアリス×	二
リエベストリス×	七	エスチヴアリス	一
ソロニス×	六	リンセクミー	一

右表中、數字の大なるもの程發根容易なるものにして、一〇とあるは百本中五十本乃至七八十本以上完全に發根するものにして、一とあるは百本中僅に二三本より多くも五六本に過ぎざるものなり、又種

族名の下にXを附しあるものは雜種なる事を示せるものなり。

第三節 壓條法

此法は繁殖の一方法として舊來行はれつつあるものにして、豫め水平に誘引したる母枝上の各節より一本の新枝を出さしめ、落葉後より翌春發芽前までの間に於て之を行ふものなり。即ち先づ各新枝の中間に於て少しづつ切目を附し、然る後母枝を壓下して地平面に達せしめ、其上部に約四五寸の覆土をなすにあり。此際地表は豫め耕耨し充分腐熟したる厩堆肥の多量を混和し置き、其上に母枝を水平に誘致して、普通畑土を覆ひ置けば即ち可なり、此際母枝餘りに強剛にして容易に壓下する事能はざる時は、其基部に於て又木又は石礫の類を以て壓し置くをよしとす。

斯の如くにして春暖を俟つ時は、應て發芽すると同時に地下に於ては各節より發根するが故に、發芽數寸に至るを俟ちて母枝の基部に於て其の三分の二位を切斷し、以て母株の根部より送達する營養を少からしめ、新根の發育を促し、各枝の獨立を計るべし。

而して爾後に於ける肥培管理を挿木法と同様に行ふ時は秋末に至り立派なる苗木となるが故に、此の際掘り起して個々別々に各節間に於いて切斷し、茲に獨立したる數個の健全なる苗木を得るものなり。

り。
 善良なる母體より此方法によりて繁殖せんと欲せば、初め二本の主枝を出し、之れを地上一尺内外の處に於て水平に誘引し、各枝より七八本の新枝を出さしめ、最基部の一枝は明年の母枝たらしめんが爲め、其儘五六尺の長さに剪除して他の方面に水平の位置を保たしめ、而して第二枝以下は何れも四五寸の長さに於て剪定し之れを前記の如く地中に埋没するものなり。

壓條法の得點とも稱す可きものは、稍々發根し難き種類にして、挿木法に於ては容易に優良なる苗木を得る事能はざるものも、此方法による時は安全に善良なる苗木を養成し得るにあるも、而も此方法は之れを挿木法に比較する時は其手續幾分面倒なると、且つ一時に多數の苗木を得る事能はざるが故に、現今に於ては餘りに廣く用ひられざるものゝ如し。

又普通の株造法に於て一株より四本乃至六本の新枝を出さしめ、充分生長せしめたるものを、其年の冬より翌春にかけて母樹の四周に折り曲げ、三四寸宛地中に埋め、其先端を上向せしめ置く方法あり。而して是等各枝の基部母株に近き處よりは、更に一枝を出さしめ其儘生長せしめ置き、翌年の繁殖用に供するものなり。此場合に於ても夏期新芽の伸長數寸に至りたる時、母株に近き豫備枝の下方一二節の處に於て約三分の二の切傷を附せしめ、以て新根の發育を促す事肝要なり。

更に壓條法の一法にして特に壓幹法と稱し、佛國に於ける葡萄酒の産地たる、シャンパン、ブルゴ

ンヌ等に於て廣く用ひらるゝ方法あり、而して此方法は一面に於ては確に繁殖の一方法なるべしと雖も、同地方に於ける主なる目的は、老木更新並に品種改良の最良手段として舉行せらるゝものなり、故に此方法は十四五年生の老衰樹に於て行はるゝ場合多しと雖も、又時としては漸く結實し始めたる、三四年生の若樹に於て行はるゝ事無きに非ず。

壓幹法を行はんに先づ母樹に接して深さ一尺乃至一尺三寸、幅一尺五寸位の溝を穿ち、其中に本幹を横臥せしめ、夫れより二本の強勢なる枝條を相反せる二方に誘致し、一尺三四寸の距離に埋め、枝條の梢端を直上せしめ、地表に三芽を残して其先端を剪去し置くにあり。而して此際埋没したる場所は地表よりも七八寸位凹陷せしめ置き、秋末となり落葉するに至れば其部に堆厩肥を置き、他の表土を以て覆ひ置くべし。斯の如くせば新植物の發根竝に發育をして善良ならしめ得るものなり。此方法を施行する適期は三月乃至四月なるも、仕事の都合上、落葉より發芽に至る間に於て、殆んど何時行ふも差支なきものなり。

今、如何なる場合に於て此方法を行ふ可きものなるか、又本法によりて栽培家の受くる利益の主なる點を列擧すれば次の如し。

一、樹勢弱き種類に行うて利益あり。ビノ一屬の如く樹勢強健ならざるものは、普通の風土に在りては十年内外にして著しく衰退し、結果力を減じ且つ其品質を下劣ならしむるものなるが故に、此方

法により樹勢を恢復せしめ、收量を増し品位を上進せしむるものなり。

二、樹態の不要部を少くし、以て手入れを容易ならしむることを得。株造法により數年間剪定培養されたるものは結果、母枝の基部に於て幾多の剪定痕を有し、且つ漸次に其部が本幹と遠ざかり行くものなれば、時に壓幹法を行ひ主幹を更新して枝梢間に於ける不要部を一掃すること必要なり。

三、良品質のものを普及せしめ得。當初栽植に當り善良なる苗木を選んで之を栽植したりと雖も、結實するを俟ちて其品質を調査する時は、必ずしも一定なる事能はず、即ち中には理想的の良種あると同時に又往々にして結果力微弱なるもの、又は品質良好ならざるもの無きにあらず。故に斯の如き場合に於ては漸次不良なるものを掘り去り、而して其跡に優良なるものを此方法により繁殖せしむるものとす。斯の如くにして數年間注意する時は、遂に全園をして理想的の良種たらしむる事を得べし。

四、苗木代を節約し得。當初開園と同時に多數の苗木を購入し、之を栽植する事は各種の事情よりして之を許さざる事あるべし。斯の如き場合に於ては初め全量の半數又は三分の一を植付け置き、三年目に至り壓幹法により、繁殖して所定の株數に達せしむる事を得べし。故に此場合には單に二本に止めず一時に三四本を壓條する事無きにあらず。

第四節 接木法

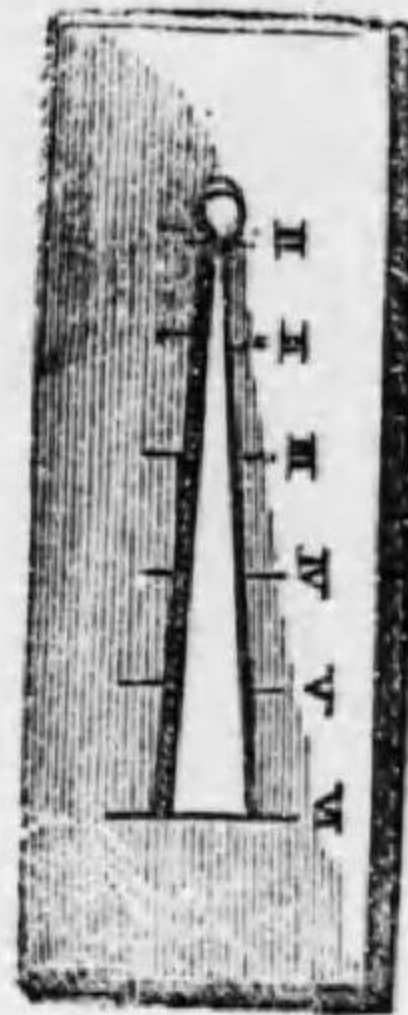
葡萄樹の繁殖上、接木法は最近に至り、之れを研究し又實行するものあるに至りたりと雖も、而も未だ一般に普及せる方法なりと云ふ事能はず。されど砧木の條下に於て記述したるが如く、或る特種の砧木に接木する時は、以て自己栽植の土地に適合せしむる事を得可く、又フキロキセラ蟲の如きものを安全に防止し得るが如き、其利益決して少々にあらざるなり。故に最近に至りては特に接木法により之れが繁殖を計るもの無きにあらず、而も將來に於ける優良種の栽培家は、必ずや接木苗を採用するに非ざれば、所定の好成績を得る事困難なりと信ず。今、接木法により受くる處の主なる利點を列擧すれば次の如し。

- 一、適地を大ならしむ。品種の如何に關せず、砧木の性質にして其風土に適するものを選ばんには、以て甲乙事情を異にせる土地に於ても、同一種を栽培して相當の好成績を擧げ得可きものなり。
- 二、樹勢を強健ならしめ得。栽培す可き品種が比較的軟弱なるものにありても、之れを強健なる砧木に接木する時は、以て幾分其樹勢を強健ならしめ得べし。
- 三、フキロキセラ蟲を防ぎ得。歐洲種葡萄の大部分は、何れもフキロキセラ蟲の被害甚だしきものなるも、之れを免疫性砧木に接木する時は以て本蟲の被害を免れ得べし。

四、一時に多數を繁殖し得。接木法にありては一芽乃至二芽を以て一本の新植物を養成し得るが故に、一時に多數の苗木を造る事を得べし。

五、品種の改良を容易に行ひ得。一度栽植して相當の大きさに成長したるものにして、其品質不良なる場合に於て根本的に之れを改植する時は、二三年間結果せしむる事能はざるも、接木法により一定の高さに於て改新する時は、次年に於て直に結實せしむる事を得可し。

砧木及び接穂の大き測定器



第六十三圖

ならしめんが爲めに、鋭利なる小刀、剪定鋏及び結縛用材料として打藁又はラフヒヤを備へ置かざるべからず。砧木は先づ二三節を附し約七八寸の長さに切斷すべし、而して之れを切り取るには下方は節に接せしむ可く、而して上方は節を去る事一寸五分乃至二寸とす。

斯の如く切り取りたるものは之を大き測定器に嵌入し、以て其大きを四五の階級に區分するを要す。葡萄は又節部より隠芽の發生する力大なるものなるが故、各節共芽の部分は充分に削り去り、接木後砧木より發芽するが如き事無き様充分注意し置く事肝要なり。

接穂は曾て挿木の條下に於て、記述したるが如き注意を以て選擇したる後ち、砧木と同様なる大き測定